茨城県教育財団文化財調査報告第337集

長井戸遺跡群

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平 成 23 年 3 月

国土交通省北首都国道事務所
財 団 法 人 茨 城 県 教 育 財 団

茨城県教育財団文化財調査報告第337集

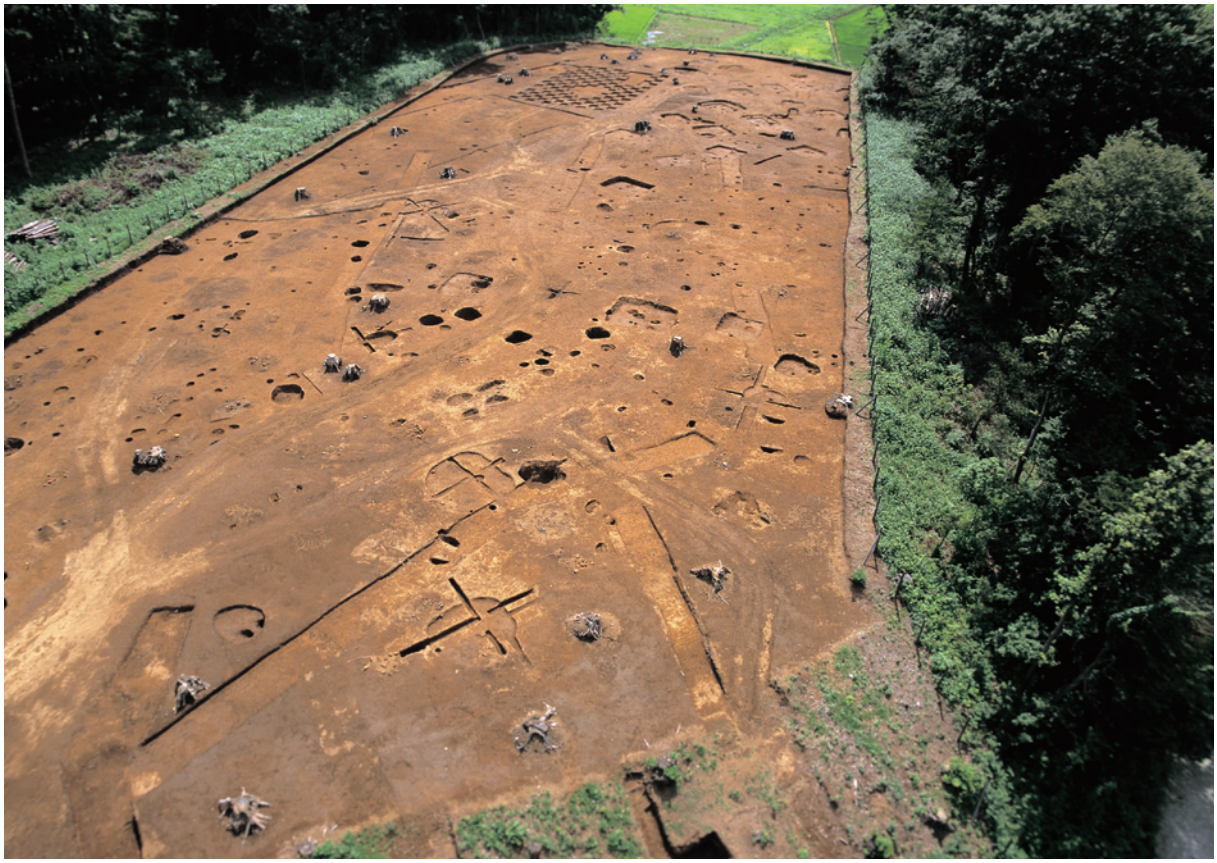
長井戸遺跡群

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平 成 23 年 3 月

国土交通省北首都国道事務所
財 団 法 人 茨 城 県 教 育 財 団

遺跡遠景（西から）



遺跡全景（東から）

序

茨城県では，県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために，高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに，広域的な交通ネットワークの整備を進めております。その一環として整備される首都圏中央連絡自動車道は，首都高中央環状線などと一体となって，首都圏の骨格となる３環状９放射の道路ネットワークを形成し，東京都心部への交通の適切な分散導入を図り，首都圏全体の道路交通の円滑化，首都圏の機能の再編成を図る上で極めて重要な役割を果たすものです。

しかしながら，この事業地内には埋蔵文化財包蔵地である長井戸遺跡群が所在することから，これを記録保存の方法により保護する必要があるため，当財団が国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所から同遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託を受け，平成21年１月から同年３月までと，平成21年６月から同年７月までの５か月間にわたってこれを実施しました。

本書は，その調査の成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより，郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして，教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが，発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで，委託者であります国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し，厚く御礼申し上げますとともに，茨城県教育委員会，境町教育委員会をはじめ，関係各位からいただいた御指導，御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成23年3月

財団法人茨城県教育財団
理事長　稲葉節生

例　　言

1　本書は，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所の委託により，財団法人茨城県教育財団が平成20・21年度に発掘調査を実施した，茨城県猿島郡境町大字長井戸1469番地の３ほかに所在する長井戸（ながいど）遺跡群の発掘調査報告書である。

2　発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調　査　　平成21年１月１日～３月31日
　　平成21年６月１日～７月31日
整　理　　平成21年10月１日～平成22年３月31日
　　平成22年７月１日～７月31日

3　発掘調査は，調査課長池田晃一のもと，以下の者が担当した。

平成20年度
　首席調査員兼班長　三谷　正
　主任調査員　　櫻井完介
　調査員　　鹿島直樹
平成21年度
　首席調査員兼班長　成島一也
　主任調査員　　齋藤和浩
　調査員　　江原美奈子

4　整理及び本書の執筆・編集は，平成21年度に整理課長村上和彦のもと，調査員鹿島直樹が担当した。本書の校正は，平成22年度に整理課長樫村宣行のもと，調査員前島直人が担当した。

凡　　例

1　地区設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を原点とし，X＝＋13,940m，Y＝－3,540mの交点を基準点（A１a1）とした。なお，この原点は，世界測地系による基準点である。

調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西・南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へA，B，C…，西から東へ１，２，３…とし，「Ａ１区」「Ｂ２区」のように呼称した。さらに小調査区は，北から南へa，b，c…ｊ，西から東へ　1，2，3…0と小文字を付し，名称は，大調査区の名称を冠して「Ａ１a1区」，「Ｂ２b2区」のように呼称した。

2　実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は，次のとおりである。

遺構　FP－炉穴　PG－ピット群　SD－溝跡　SE－井戸跡　SI－住居跡　SK－土坑

遺物　DP－土製品　TP－拓本記録土器　Q－石器・石製品

土層　K－撹乱

3　土層観察と遺物における色調の判定には，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄著　日本色研事業株式会社）を使用した。

4　遺構・遺物実測図の掲載方法については，次のとおりである。

(1) 遺構全体図は400分の１，遺構実測図は原則として60分の１の縮尺で掲載した。

(2) 遺物実測図は，原則として３分の１の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は，次のとおりである。

□　焼土範囲・赤彩　　□　炉・繊維土器断面

□　炭化材

●土器　　○土製品　　□石器・石製品　　-—-—-—-　硬化面

5　遺物観察表・遺構一覧表の表記については，次のとおりである。

(1) 遺物番号は通し番号とし，挿図，観察表，写真図版に記した番号と同一とした。

(2) 計測値の（　）内の数値は現存値を，［　］内の数値は推定値を示した。計測値の単位は，m，cm，g で示した。大きさにより異なる場合もあり，それらについては個々に単位を表示した。

(3) 備考欄は，土器の残存率，写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6　竪穴住居跡の主軸は，炉を通る軸線とし，主軸方向は，その他の遺構の長軸（径）方向と共に，座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した（例　N－10°－E）。

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
概　要……1
第１章　調査経緯……3
　第１節　調査に至る経緯……3
　第２節　調査経過……3
第２章　位置と環境……4
　第１節　地理的環境……4
　第２節　歴史的環境……4
第３章　調査の成果……10
　第１節　調査の概要……10
　第２節　基本層序……10
　第３節　遺構と遺物……11
　　１　縄文時代の遺構と遺物……11
　　(1) 竪穴住居跡……11
　　(2) 炉穴……29
　　(3) 炉跡……32
　　(4) 土坑　……34
　　２　弥生時代の遺構と遺物……48
　　竪穴住居跡……48
　　３　古墳時代の遺構と遺物……83
　　土坑……83
　　４　その他の遺構と遺物……84
　　(1) 井戸跡……84
　　(2) 土坑……85
　　(3) 溝跡……91
　　(4) ピット群……92
　　(5) 遺構外出土遺物……100
　第４節　まとめ……109
　写真図版　PL1～PL28
　抄　録

長井戸遺跡群の概要

遺跡の位置と調査の目的

長井戸遺跡群は，境町の南西部，旧長井戸沼東岸の標高約 16 mの台地上に位置しています。遺跡の西側に広がる水田地帯は，縄文時代には東京湾の奥入り江，江戸時代までは長井戸沼と呼ばれる水域でありました。今回の調査は圏央道建設に伴うもので，茨城県教育財団が，平成 21 年 1 月～ 3 月と 6 ・ 7 月の 5 か月間で 6388㎡の面積を調査しました。

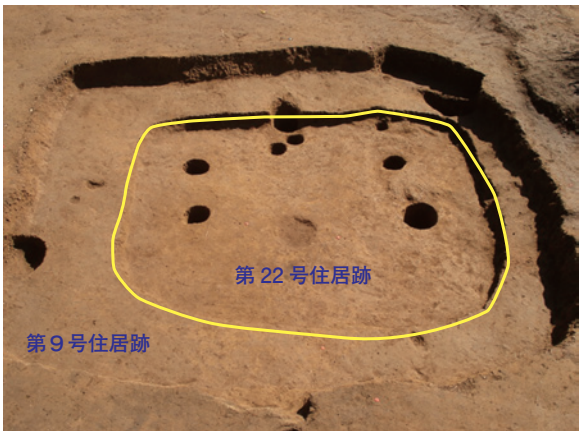
調査の内容

調査によって，縄文時代早期（約 8000 年前）と前期（約 6000 年前）の竪穴住居跡 12 軒，炉穴 7 基，弥生時代後期（約 2000 年前）の竪穴住居跡 24 軒を確認しました。一昨年度には，旧長井戸沼対岸に位置する縄文時代後･晩期（約 3500 ～ 2300 年前）の本田遺跡の調査が行われており，旧長井戸沼周辺の縄文時代の様相が徐々に明らかになってきています。

遺跡全景（東上空から）

ー長井戸遺跡群の遺構や遺物ー

弥生時代の第 24 号住居跡では多くの炭化材が出土しました。



弥生時代の第９・22 号住居跡では，小さい住居が拡張された様子がわかります。

弥生時代の第 28 号住居跡では，炉があった部分は赤く焼けています。

縄文時代の深鉢（左上）と弥生時代の紡錘車（右上）です。紡錘車は糸を撚（よ）る時のはずみ車です。

調査の成果

調査の結果，長井戸遺跡群は，縄文時代及び弥生時代の複合遺跡であることが分かりました。縄文時代においては，早期と前期に集落が舌状台地（ぜつじょうだいち）の先端に展開し，炉穴などを用いながら生活していたことが分かりました。炉穴とは，薫製を行う施設，煮炊きを行う施設，土器を焼く施設などと考えられています。弥生時代においては後期の集落跡が確認されました。住居跡からは炭化材や焼土が多く確認でき，土地を移動する際に住んでいた住居に火をかけて出て行ったことが分かりました。また，出土した住居跡の中には拡張した痕跡が確認できるものもありました。これまで県西地区では弥生時代後期の集落跡の調査例は少なく，今回の調査では住居跡が 24 軒と比較的多いことなどから当地域における貴重な資料となるでしょう。

第1章　調　査　経　緯

第1節　調査に至る経緯

平成17年12月8日，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から，茨城県教育委員会教育長あてに，一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けて茨城県教育委員会は，平成18年1月11日に現地踏査を，平成19年1月30, 31日，平成20年1月10日に試掘調査を実施し，遺跡の所在を確認した。平成20年1月24日，茨城県教育委員会教育長から国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに，事業地内に長井戸遺跡群が所在すること及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成20年2月8日，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から，茨城県教育委員会教育長あてに，文化財保護法第94条の規定に基づき，土木工事等のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は，現状保存が困難であることから，記録保存のための発掘調査が必要であると判断し，平成20年2月18日，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに，工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成20年2月20日，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から，茨城県教育委員会教育長あてに，一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書が提出された。平成20年2月21日，茨城県教育委員会教育長は，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長あてに，長井戸遺跡群について発掘調査の範囲及び面積等について回答し，併せて埋蔵文化財の調査機関として，財団法人茨城県教育財団を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は，国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け，平成21年1月1日から平成21年3月31日まで，長井戸遺跡群の発掘調査を実施することとなった。その後，調査の過程で，当初の予想より遺構数が増加したため，平成21年6月1日から7月31日まで調査期間を追加して調査を実施した。

第2節　調　査　経　過

調査は，平成21年1月1日から平成21年3月31日，6月1日から7月31日まで実施した。その概要を表で記載する。

期間 ＼ 工程	平成21年									
	1	月	2	月	3	月	6	月	7	月
調査準備 表土除去 遺構確認	■						■			
遺構調査		■	■	■	■			■	■	
遺物洗浄 注記 写真整理		■	■	■	■			■	■	
補足調査 撤収						■				■

第2章　位 置 と 環 境

第1節　地 理 的 環 境

長井戸遺跡群は，茨城県猿島郡境町長井戸 1469 番地の3ほかに所在している。

境町は茨城県の南西部に位置し，北は古河市，東は坂東市とそれぞれ境を接し，北西から南東にかけて利根川が流れ込み，対岸に五霞町が位置している。地形は，洪積台地である標高 16 ～ 24 mの猿島台地と，利根川沿岸低地からなっている。町域の猿島台地は，西方を岩井低地に，東方を飯沼川低地に挟まれ，現利根川の河道氾濫原に位置する太日川低地により，北方の古河台地と分断された，東西約 38 ｋm，南北約 12 ｋmの台地である。台地面は北から南，東から西方向に緩やかに傾斜している。主な河川は利根川支流である宮戸川・鵠戸（くぐいど）川などがあり，これらにより境町内は北部，西部，中央部，東部と 4 つの小台地に分断されている[1)]。これを旧長井戸沼周辺に当てはめると，沼西岸が西部台地，沼北部が北部台地，沼東岸が中央台地となる。

当地域の地質は新生代第四期洪積世古東京湾時代に堆積した海生の砂層である成田層を基盤とし，その上に竜ヶ崎層と呼ばれる斜交層理の顕著な砂礫層，さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層，厚さ 2.0 ～ 3.0 mの関東ローム層が連続して堆積し，最上部は腐植土層となっている。

当遺跡群は，利根川支流の旧長井戸沼（現宮戸川）東岸の標高 16 mの台地上に広がっている。遺跡群の範囲は南北 1.1km，東西 0.75km あり，遺跡群の中央部には長井戸城跡とされる香取神社が所在している。調査区域は遺跡群の南西部であり，北部から東部に向かって小さな谷津が入り込んでいる。調査前の現況は山林・雑種地である。

第2節　歴 史 的 環 境

当遺跡の所在する境町域では，旧石器時代から近世までの 53 か所の遺跡が『茨城県遺跡地図』[2)] に登載されている。ここでは周辺に分布している遺跡を中心に概要を記述する。

旧石器時代の遺跡は，境町域からは未確認であるが，岩井町・古河市（旧総和町）などから後期旧石器時代に属する遺跡・遺物が確認されているため，今後確認される可能性がある。宮戸川上・中流域では，おおよそ 14 か所の遺跡が確認され，すべて後期旧石器時代の遺物を出土している。旧総和町に所在する宮戸川東岸の行屋西（ぎょうやにし）遺跡においては，後期旧石器時代に属する石器未成品などが多く出土したことから，当時の人々がこの地で石器つくりの仕上げや補修を行ったと考えられている。また，下流へ2km下った西岸台地上の権現久保（ごんげんくぼ）遺跡からは，切出形ナイフ形石器や細石刃などが2か所から表面採集されている。ほかにも，香取西（かとりにし）遺跡，磯之木（いそのき）遺跡，釈迦才仏（しゃかさいぶつ）遺跡，原（はら）遺跡などからも石器が表面採集されていることから，当時，旧長井戸沼周辺において，石器を用いた人々が生活を営んでいた痕跡を見て取ることができる。

縄文時代の遺跡は，境町域で 32 か所が登載されており，旧長井戸沼周辺でもおおよそ5か所が存在している。境町域には縄文時代早期から晩期にかけての遺跡が確認されている。最も海水面が上昇した前期の縄文海進時には，町域台地縁辺部には海水が浸入していたことが遺跡や貝塚の分布から想定される。時代別に概観してみると，早期の遺跡は主に西部台地に分布し，遺物のみが確認されている状態である。前期の遺跡は西部台地に4遺跡，中央台地に9遺跡，東部台地に3遺跡所在している。特に，西部台地の西側，現利根川の低地を望む台地の斜面

から低地に立地する南坪遺跡〈19〉からは，３軒の住居跡が確認され，中葉（黒浜期）の土器が出土している[4)]。中央台地に立地する下小橋遺跡〈７〉は，下水道工事に伴う調査が行われ，前期の集落および地点貝塚が確認された。東部台地にも当期の遺物が出土する遺跡は存在しているが，詳細は不明である。旧総和町には当財団が昭和57年から60年度にかけて一般国道４号線改築工事に伴う調査が行われたことにより，南坪A遺跡〈20〉，南坪B遺跡〈21〉，南坪C遺跡〈22〉，高野遺跡〈23〉，西坪A遺跡〈24〉，西坪B遺跡〈25〉などの遺跡の詳細が明らかになっている。これらの遺跡では，遺構の検出は少なかったが，黒浜期に比定された縄文土器片が多く見つかっている。中期は遺跡数が少なくなるが，集落は大形化する傾向にある。また，貝塚の貝もヤマトシジミやアサリなどの淡水の貝が主体となることから，海退現象が徐々に進行していたようである。遺跡としては中央台地に青木遺跡，大歩遺跡群などがある。青木遺跡は谷を中心とした擂り鉢状の斜面部と，上部の平坦面に住居跡や地点貝塚を配置した大規模集落である。集落は前期黒浜期ころから営まれはじめ，当期に貝塚や多くの祭祀遺物などが出土し，ピークを迎えることとなる。東部台地には下砂井遺跡群，穴辺遺跡群などがあるが，未発掘である。後期の遺跡数は増加しているが，中期に比べ集落は分散して小形化する傾向がある。西部台地は本田遺跡〈17〉などがある。本田遺跡は平成19年度に当財団による調査が行われ，後･晩期を中心とした大規模集落であることが明らかとなり，当時の集落構造を考える上での好資料となった。北部台地には田ノ台遺跡が位置し，中央台地には南長井戸遺跡〈12〉，かわい山遺跡〈11〉，金岡遺跡群，染谷香取神社貝塚，染谷遺跡，青木遺跡，百戸遺跡群，宿遺跡，元屋敷遺跡などがある。晩期の遺跡は中央台地に百戸遺跡群，青木遺跡がある。青木遺跡は中期を経て後・晩期にも集落が継続し，遺跡南側の台地縁辺部からは石鏃の未成品が多数出土し，黒曜石を用いた石鏃生産が行われていたと推測されている。

弥生時代の遺跡は境町域で２か所，旧長井戸沼周辺でも１か所と非常に数が少ないのが現状である。周辺地域でも，旧三和町域に７か所，旧総和町域に７か所，古河市域に１か所，猿島町域に１か所とやはり少ない。これらはそのほとんどが後期に属するものであり，古河市のラントウ裏遺跡と旧総和町域の古内遺跡の２か所から中期の遺物が確認されている。北部台地の南東部に位置する志鳥遺跡〈５〉の南部から後期の装飾壺の体部片が表面採集で確認されている。また，東部台地の中ノ芝遺跡からは個人墓地の改修工事の際，偶然にも完形の弥生土器の壺が出土した。後期の二軒屋式に属するものと考えられ，後の調査により，住居跡の可能性がある遺構と，二軒屋式土器の破片が確認された。以上の状況から，当地域の弥生時代の様相は未だ不明瞭な状況にある。

古墳時代の遺跡は境町域で31か所，古墳・古墳群が６か所登載されている。弥生時代に比べると集落の規模も大きくなっている。このことは沼周辺においても言えることで，30か所以上の遺跡と10か所ほどの古墳・古墳群が分布している。前期の様相としては，北部に稲尾遺跡〈４〉，志鳥遺跡，中央部に長井戸遺跡群，末広遺跡〈10〉，かわい山遺跡，金岡遺跡群，青木遺跡，若林遺跡群，宿遺跡などが確認されている。特に，志鳥遺跡においては，前期前半の元屋敷系の高坏を模倣した在地の土器が出土していることから，他地域との交流が行われていた可能性を示し，この地域の中心的役割を担っていたとされている。中･後期においては，遺跡数が減少する傾向にある。中期の遺跡は，西部台地で南坪遺跡，北部台地で田ノ台遺跡，志鳥遺跡，中央台地で青木遺跡が確認され，後期の遺跡は北部台地で田ノ台遺跡，稲尾遺跡，志鳥遺跡，中央台地で猿山遺跡群，東部台地で福原遺跡が確認されている。これらの遺跡の中では南坪遺跡が発掘調査され，中期に比定される５軒の竪穴住居跡が確認されている。また，利根川東岸の低位段丘に立地している清水遺跡は，当財団によって平成18年に調査が行われ，中期と後期の住居跡が２軒確認されている。２軒の住居跡は，焼失住居で，炭化材の精密な観察から上屋構造の復元を試みている。古墳・古墳群は，西部台地に横塚古墳群，塚崎古墳〈14〉，北部台地に稲尾古墳群，中央台地に小金井古墳群〈６〉，桜山古墳群〈８〉，山神町古墳群〈９〉ほか５か所，東部台地からも大照院遺跡群内から

埴輪の破片が見つかっている。古墳・古墳群の多くは後世の開拓などにより湮滅を受けていることが多く，その詳細は明らかではないが，小金井古墳群の1号墳のように，保存状態が良好なものも存在する。これらの古墳・古墳群の時期は，桜山古墳群が前期に築造が開始された可能性があり，ほかは中期から後期にかけて築造されたと考えられている。

奈良・平安時代の遺跡は，境町町域では10か所が登載され，旧長井戸沼周辺では25か所ほど確認されている。当地域は律令期には下総国猿嶋郡色益郷に属していたと考えられている。この時期の町域の遺跡は，そのほとんどが表面採集によるもので，発掘調査による詳細な情報は得られていない。西部台地には南坪遺跡，中央台地には猿山遺跡群，かわい山遺跡，大歩遺跡群，東部台地には穴辺遺跡群，内門新田遺跡群，中ノ芝遺跡などがある。これらの遺跡のうち，穴辺遺跡群は猿島郡衙跡と想定されている。また，分布調査の所見として，大規模集落が中央台地と東部台地に存在していた可能性を指摘している。

中世の遺跡は，境町域で6か所が登載され，旧長井戸沼周辺では12か所確認されている。町域内の遺跡は北部台地に稲尾城跡〈3〉，中央台地に長井戸城跡〈2〉，田向の城跡，東部台地には大照院遺跡群などが存在している。長井戸城跡や田向の城跡は保存状態が良好であり，稲尾城跡や大照院遺跡群は掘割の一部が確認できるのみで，年代を推定する資料が乏しい。当地域は中世期，下河辺荘として，藤原秀郷の後裔とされる下河辺氏の支配下にあった。その後，北条氏一門の金沢家の所領となる。戦国期には後北条氏と北関東諸勢力との最前線となり，当遺跡群内の長井戸城は逆井城や栗橋城などとともに後北条氏方の城として機能していたとされている。ただし，長井戸城に関しての文書史料は現在のところ確認されておらず，発掘調査による情報に頼るほかない。

近世の遺跡は，境町域では東部台地の山崎遺跡群の1か所のみで，旧長井戸沼周辺には15か所ほどの遺跡が確認されている。江戸時代，境町域は関宿藩に所属していた。関宿藩は家康の江戸入府の際，異父弟である康元に2万石を与えて立藩させた。藩庁は関宿城に置かれ，後の藩主も幕府内で信頼の厚い譜代諸侯が任命されている。鬼怒川，利根川，江戸川などの分岐点という立地条件から，利根川の水運の拠点として，「境河岸」を形成し，繁栄をもたらすこととなった。

旧長井戸沼は江戸時代から明治時代にかけてもたびたび利根川からの洪水を受け，付近の住民に大きな被害をもたらしていた。このため，大正初年に沼周辺に大規模な堤防改修工事を行った。これに続き，大正4年から本格的な干拓事業が行われ，同13年に工事は完了した。これにより，耕地面積は増大することとなったが，沼の魚介類は姿を消し，周辺に何十軒もあったと言われる魚屋も暖簾を下ろしていった。

※　文中の＜　＞内の番号は，表1及び第1図の該当遺跡番号と同じである。

註

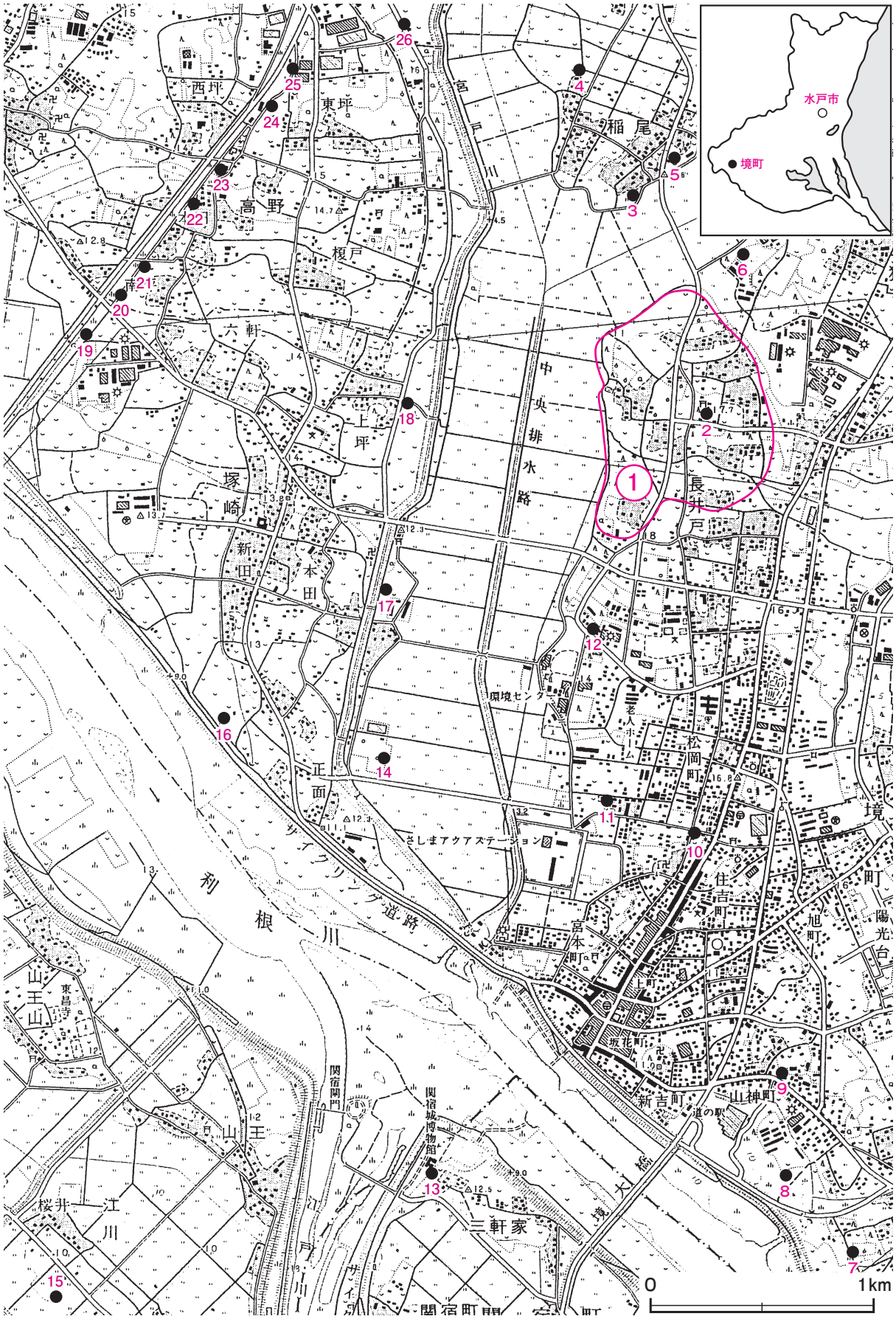
1）境町史編さん委員会『下総境の生活史　史料編　原始・古代・中世』2004年3月
2）茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会　2001年3月
3）総和町教育委員会『都市計画道路西牛谷・大和田線（町道6号線）改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　蔵王遺跡・行屋西遺跡』2002年
4）寺門義範・西宮一男『南坪遺跡』新四号国道遺跡発掘調査会　1978年
5）中沢時宗・桜井一美・和田雄次「一般国道4号改築工事地内埋蔵文化財調査報告書1（総和地区）南坪A・B・C遺跡 高野遺跡 西坪A・B遺跡 向坪A・B遺跡 北新田A・B・C遺跡 溜原遺跡」『財団法人茨城県教育財団文化財調査報告』第38集　1986年6月
6）註1に同じ
7）江原美奈子・大関武「本田遺跡　一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第313集　2008年3月
8）註1に同じ
9）註1に同じ

10）深谷昇「茨城県境町伏木出土の後期弥生土器」『下総さかい』５号　1999 年 10 月
11）註１に同じ
12）註４に同じ
13）桑村裕「清水遺跡　同所新田遺跡　一般国道 468 号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 290 集　2008 年３月
14）註１に同じ
15）西ヶ谷恭弘『長井戸城』　1986 年

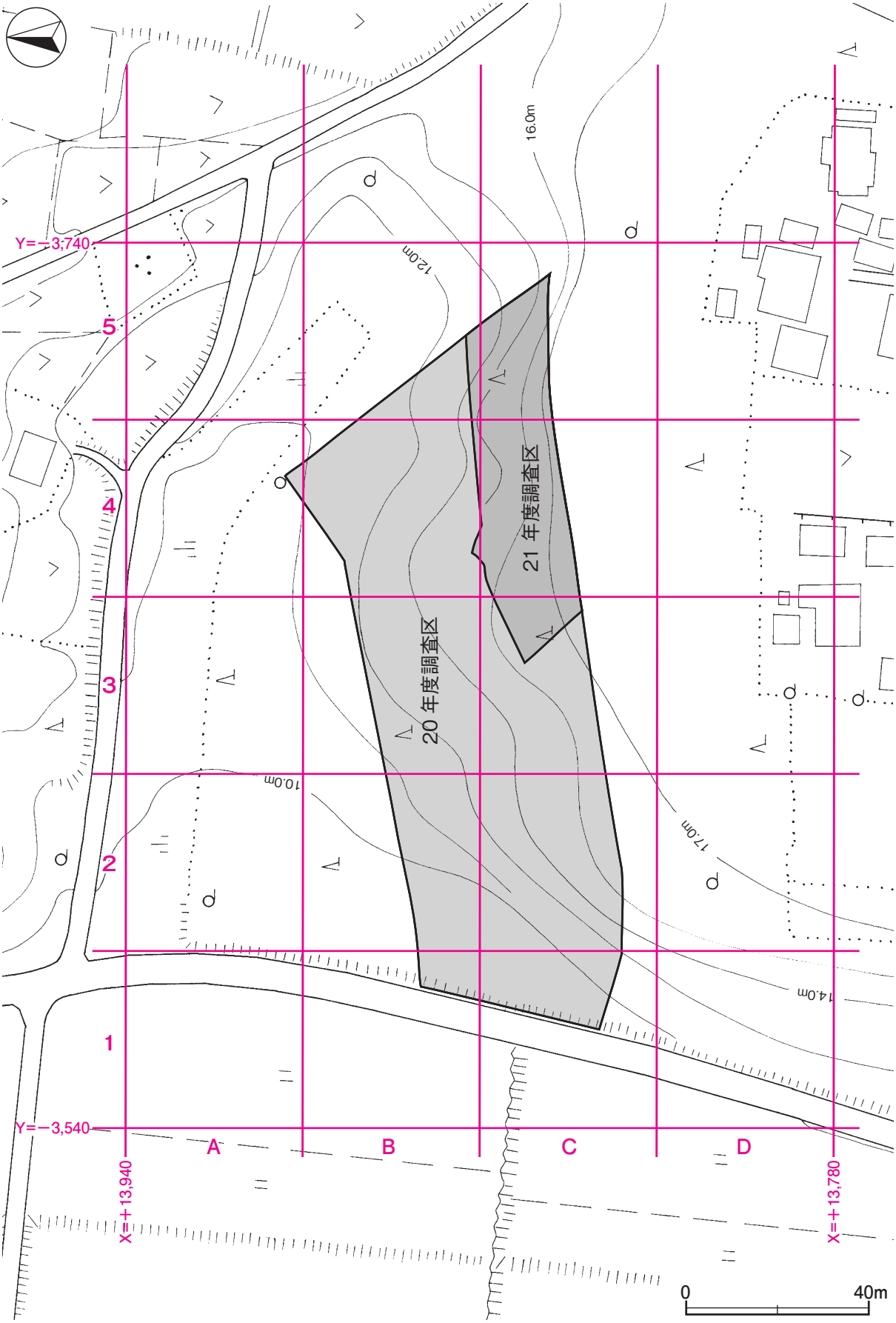
参考文献
・境町史編さん委員会『下総境の生活史　地誌編　自然・動植物』　2004 年３月
・総和町史編さん委員会『総和町史　通史編　原始・古代・中世』総和町　2005 年３月
・総和町史編さん委員会『総和町史　資料編　原始・古代・中世』総和町　2002 年３月
・今井隆助『北下総地方史』崙書房　1974 年 12 月
・椎名仁『境町の歴史散歩』筑波書林　1985 年５月

表１　長井戸遺跡群周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世	近世
①	長井戸遺跡群		○	○	○			○	14	塚崎古墳				○			
2	長井戸城跡						○		15	桜井前遺跡		○				○	○
3	稲尾城跡						○		16	清水遺跡				○			○
4	稲尾遺跡				○				17	本田遺跡		○		○	○		
5	志鳥遺跡			○	○				18	上坪遺跡群		○					
6	小金井古墳群				○				19	南坪遺跡		○		○	○		
7	下小橋遺跡		○		○				20	南坪A遺跡		○		○	○		
8	桜山古墳群				○				21	南坪B遺跡		○					○
9	山神町古墳群				○				22	南坪C遺跡		○					
10	末広遺跡				○				23	高野遺跡		○					
11	かわい山遺跡		○		○	○			24	西坪A遺跡		○					○
12	南長井戸遺跡		○		○			○	25	西坪B遺跡		○					
13	関宿城跡						○	○	26	横塚古墳群				○			○



第１図　長井戸遺跡群周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の１「下総・境」）



第２図　長井戸遺跡群調査区設定図（境町都市計画図 2,500 分の 1 から作成）

第３章　調 査 の 成 果

第１節　調 査 の 概 要

長井戸遺跡群は，宮戸川（旧長井戸沼）東岸の標高 16 mの台地上に立地している。調査面積は 6,388㎡で，調査前の現況は山林・雑種地である。

調査によって，縄文時代早期から前期，弥生時代後期の集落跡を中心とする複合遺跡であることが分かった。確認できた遺構は，竪穴住居跡 36 軒（縄文時代 12，弥生時代 24），土坑 143 基（縄文時代 71，古墳時代1，時期不明 71），溝跡３条（時期不明），炉穴７基（縄文時代），炉跡４基（縄文時代），井戸跡１基（時期不明），ピット群９か所（時期不明）である。

遺物は，遺物コンテナ（60 × 40 × 20cm）に 16 箱出土している。主な遺物は，縄文土器（深鉢・浅鉢），弥生土器（壺），土師器（坩），陶器（土瓶），土製品（紡錘車），石器・石製品（尖頭器・鏃・磨石・敲石・凹石）などである。

第２節　基 本 層 序

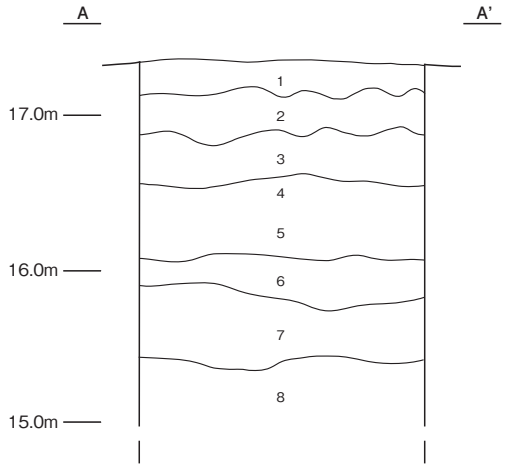
調査区北部中央（Ｂ３e2 区）にテストピットを設定し，地表面から２mほど掘り下げて基本土層（第３図）の堆積状況の観察を行った。土層観察は色調・構成粒子・含有物・粘性・締まり具合などから分層を行った。結果は，以下の通りである。

第１層は黒暗褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを含み、粘性は弱く，締まりは普通である。層厚は 16 ～ 25cm である。

第２層は暗褐色を呈する耕作土層からソフトローム層への漸移層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 20 ～ 36cm である。

第３層は褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 24 ～ 38cm である。

第４層は褐色を呈するソフトローム層からハードローム層への漸移層である。火山ガラスを微量に含み、粘性・締まりともに普通で，層厚は 14 ～ 18cm である。火山ガラスが集中していることからＡＴ層相当か，色調がやや暗いことから第２黒色帯（ＢＢⅡ）上層と考えられる。



第３図　基本土層図

第５層は暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 30 ～ 45cm である。第２黒色帯（ＢＢⅡ）下層と考えられる。

第６層は褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で，層厚は 10 ～ 18cm である。

第７層は褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりが強い。層厚は 15 ～ 30cm である。

第８層は褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強い。層厚は 25cm 以上である。

なお，遺構は第３層上面で確認され、第３層から第８層にかけて各層とも白色スコリアをわずかに含んでいる。

第３節　遺 構 と 遺 物

１　縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は竪穴住居跡 12 軒，炉穴７基，炉跡４基，土坑 71 基が確認されている。以下，検出した遺構と遺物について記述する。

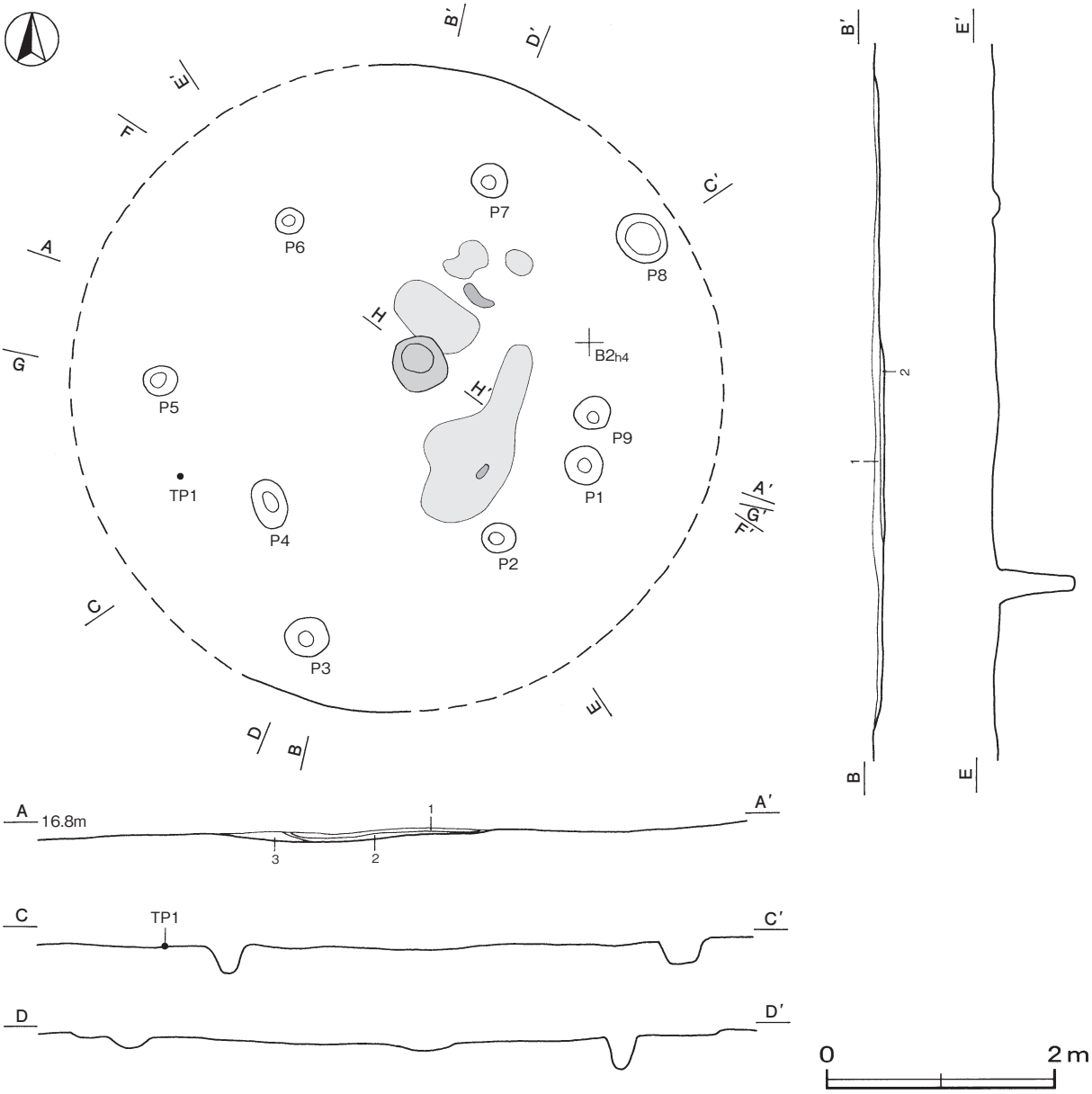
(1) 竪穴住居跡

第５号住居跡（第４～６図）

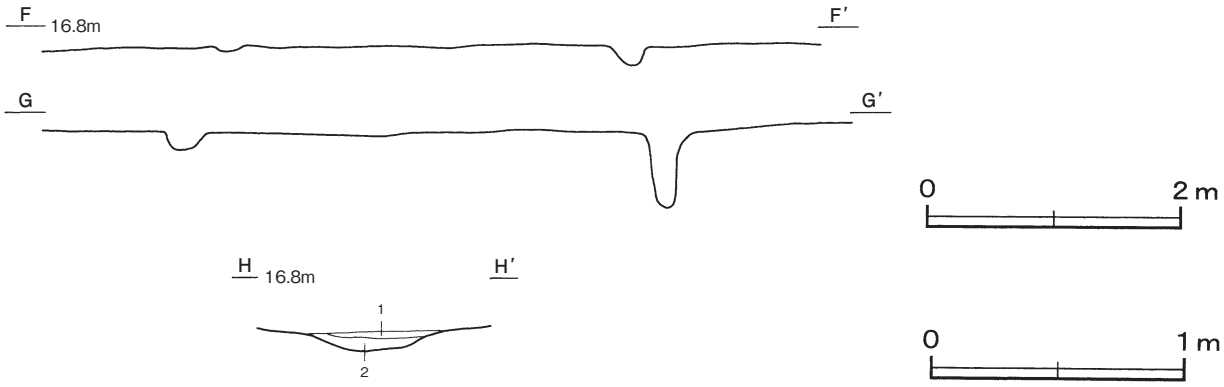
位置　調査区北西部のＢ２h3 区，標高 16.7 ｍの台地縁辺部の平坦面に位置している。

確認状況　壁は削平を受けており，床面と炉およびピットを確認した。

規模と形状　ピットの配置から，径 5.70 ｍほどの円形と推定される。



第４図　第５号住居跡実測図 (1)



第5図　第5号住居跡実測図（2）

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。中央部やや東寄りの覆土下層から床面にかけて，炭化材や焼土が確認できた。

炉　中央部に付設されている地床炉で，長径 50cm，短径 48cm の円形である。床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

2　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

ピット　９か所。Ｐ１～Ｐ３，Ｐ５～Ｐ９は深さ５～65cmで，配置から柱穴と考えられる。Ｐ４は深さ 25cm で，性格は不明である。

覆土　３層に分層できる。ロームブロック，焼土ブロックなどを含んだ堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量

2　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子中量，ロームブロック微量

3　褐　　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　縄文土器片８点（深鉢），剥片２点が出土している。TP １は西部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期と考えられる。また，床面から焼土や炭化材が確認されていることから，焼失住居の可能性がある。

第6図　第５号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部折り返し 外面斜位の条痕文縦位の沈線を施文　縦位の隆帯を貼り付ける 内面斜位の沈線と貼付文を施文	床面	早期 PL23

第 15 号住居跡（第７図）

位置　調査区北部中央寄りのＢ３f1 区，標高 16.9 mの台地平坦部に位置している。

確認状況　壁は削平を受けており，床面とピットを確認した。

重複関係　第164号土坑に掘り込まれている。

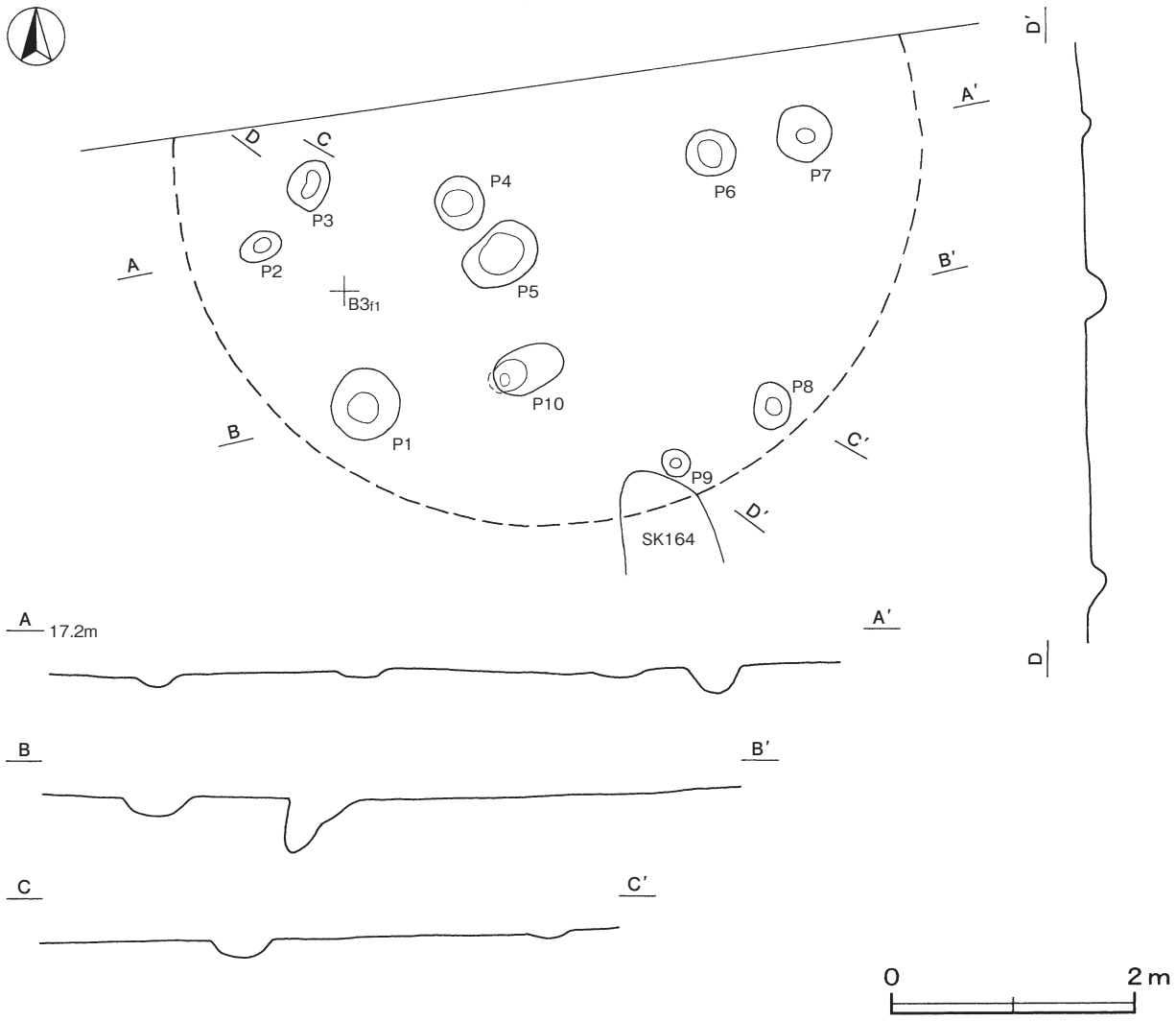
規模と形状　北部が調査区域外に延びているため，東西軸は6.14ｍで，南北軸は3.75ｍしか確認できなかった。形状は円形もしくは楕円形と推測できる。

床　南から北に向かって若干傾斜しているが平坦で，硬化面は認められない。

ピット　10か所。Ｐ１・２・７～Ｐ９は深さ６～22cmで，配置から柱穴と考えられる。Ｐ３～Ｐ６・10は，深さ６～44cmで，性格は不明である。

遺物出土状況　縄文土器片６点（深鉢）が出土している。いずれも細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器片に貝殻条痕文が施文されていることから，早期と考えられる。



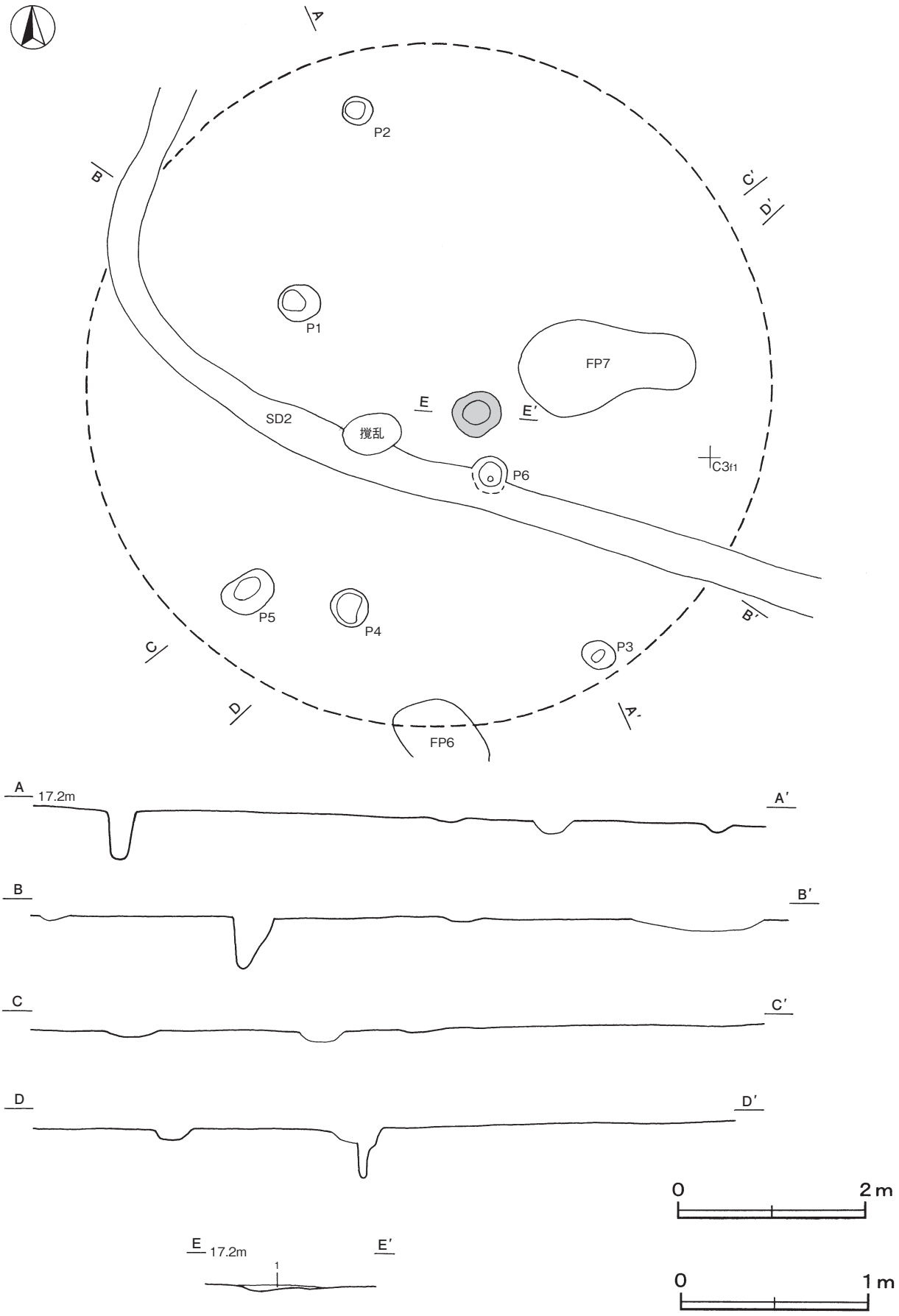
第７図　第15号住居跡実測図

第19号住居跡（第８・９図）

位置　調査区南西部のＣ２f0区，標高17.1ｍの台地平坦部に位置している。

確認状況　壁は削平を受けており，床面と炉およびピットを確認した。

重複関係　第７号炉穴を掘り込み，第２号溝に掘り込まれ，第６号炉穴との関係は不明である。



第８図　第 19 号住居跡実測図

規模と形状　ピットの配置から，径 7.36 mほどの円形と推測できる。

床　北から南に向かって若干傾斜しているが平坦で，硬化面は認められない。

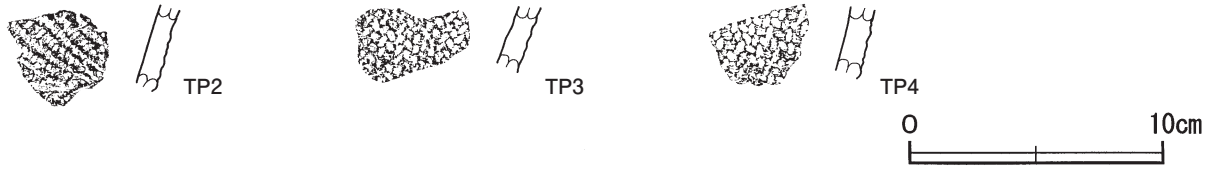
炉　中央部に付設されている地床炉で，径 50cm ほどの円形である。床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　６か所。Ｐ２～Ｐ５は深さ８～ 51cm で，配置から柱穴と考えられる。Ｐ１・６は深さ 55cm・52cm で，性格は不明である。

遺物出土状況　縄文土器片 14 点（深鉢），剥片２点が出土している。TP ２～ TP ４は，いずれもＰ４の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から前期と考えられる



第９図　第 19 号住居跡出土遺物実測図

第 19 号住居跡出土遺物観察表（第９図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP ２	縄文土器	深鉢	長石	橙	普通	単節縄文 RL を施文	P4 覆土中	前期
TP ３	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 LR・RL の２種類の原体を施文	P4 覆土中	前期
TP ４	縄文土器	深鉢	長石	橙	普通	単節縄文 LR・RL の２種類の原体を施文	P4 覆土中	前期

第 25 号住居跡（第 10・11 図）

位置　調査区中央部のＣ３a5 区，標高 17.2 mの台地平坦部に位置している。

確認状況　壁は削平を受けており，東壁を若干と床面，ピットを確認した。

規模と形状　ピットの配置から，長径 5.80 m，短径 4.80 mの楕円形で，主軸方向はＮ－４°－Ｗと推定される。壁高は４cm ほどで，緩斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

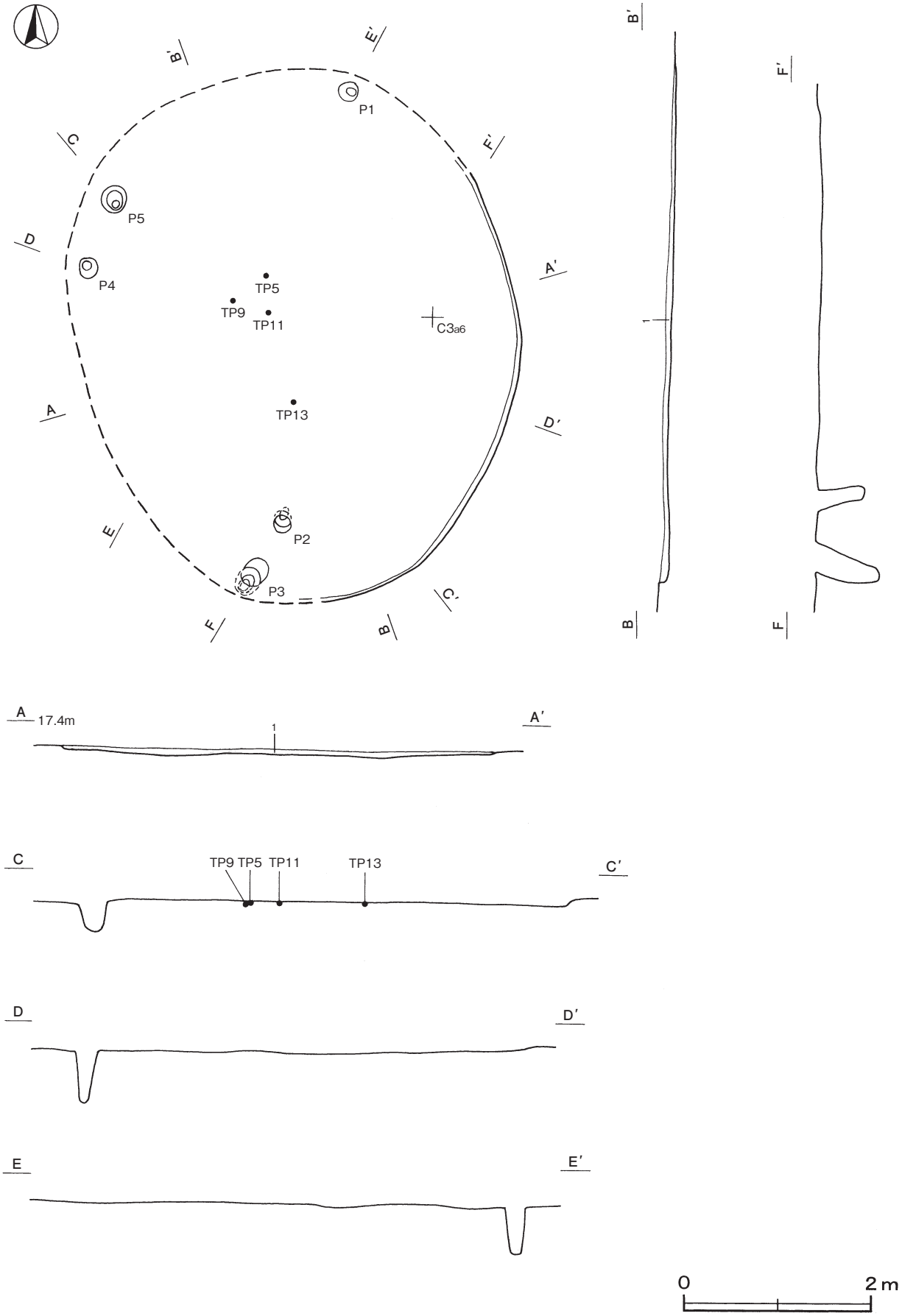
ピット　５か所。Ｐ１・３～Ｐ５は深さ 34 ～ 66cm で，配置から柱穴と考えられる。Ｐ２は深さ 49cm で，性格は不明である。

覆土　単一層である。ロームブロックを含んだ堆積状況から，埋め戻されている。

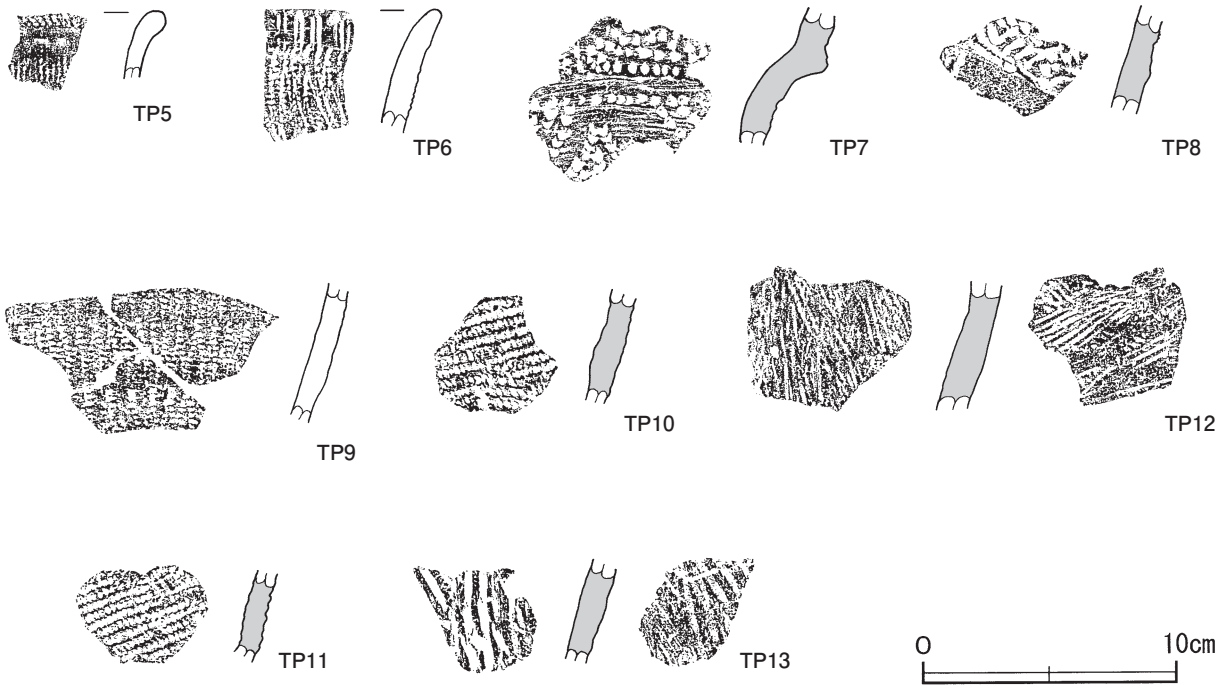
土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 64 点（深鉢），剥片２点が出土している。TP ５・TP11・TP13 は中央部の床面，TP ９は覆土中から中央部の床面にかけて出土し，TP ６～ TP ８・TP10・TP12 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から前期後半である。



第10図　第25号住居跡実測図



第 11 図　第 25 号住居跡出土遺物実測図

第 25 号住居跡出土遺物観察表（第 11 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP 5	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	普通	口縁部縦位の撚糸文を施文	床面	前期前半 PL23
TP 6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部に縦位の竹管による沈線施文 胴部外面縦位の貝殻腹縁文	覆土中	前期後半 PL23
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文を地文に竹管状工具による押捺文を幾何学的に施文	覆土中	早期後半 PL23
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・　繊維	にぶい橙	普通	低い細隆起文で襷掛け状に区画 区画内に刺突文を充填区画外に竹管状工具による押捺文を付加	覆土中	早期後半
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	貝殻条痕文を地文 貝殻腹縁文を縦位に施文	床面	前期後半 PL23
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	単節縄文 LR を施文	覆土中	前期
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	単節縄文 LR を施文	床面	前期
TP12	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	床面	早期

第 26 号住居跡（第 12 図）

位置　調査区中央部北寄りのＢ３f4 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

確認状況　壁は削平を受けており，床面と炉およびピットを確認した。

規模と形状　ピットの配置から，径 4.76 mほどの円形と推測できる。

床　平坦で，硬化面は認められない。

炉　中央部に付設されている地床炉で，長径 60cm，短径 50cm の楕円形である。床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

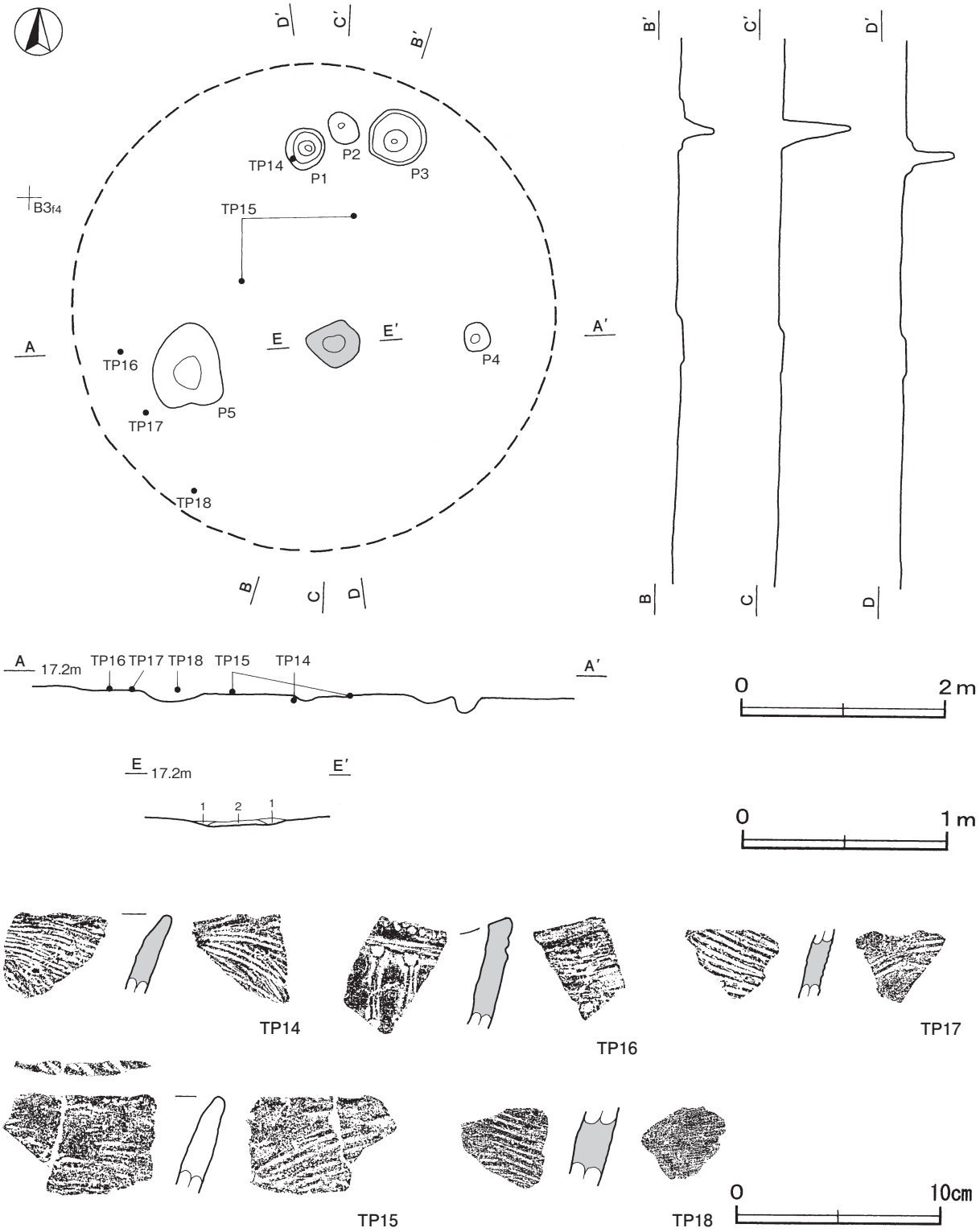
炉土層解説

1　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量　　2　明 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　５か所。Ｐ１～Ｐ５は深さ 16 ～ 66cm で，配置から柱穴と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片18点(深鉢)，剥片３点が出土している。TP15は中央部の床面から散乱した状態で，TP18は南部の床面，TP17は南西部の床面，TP16は西部の床面，TP14はＰ１の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後半である。



第12図　第26号住居跡・出土遺物実測図

第 26 号住居跡出土遺物観察表（第 12 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	P1 上層	早期
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部太いキザミ 外・内面貝殻条痕文を施文	床面	早期
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	口縁部キザミ横位の沈線文 胴部外面細い隆起文で襷掛け状に区画 細隆起文に竹管状工具で押捺文を付加 内面貝殻条痕文を施文	床面	早期後半 PL23
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	床面	早期
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	床面	早期

第 27 号住居跡（第 13・14 図）

位置　調査区中央部南寄りのＣ３b7 区，標高 17.3 mの台地平坦部に位置している。

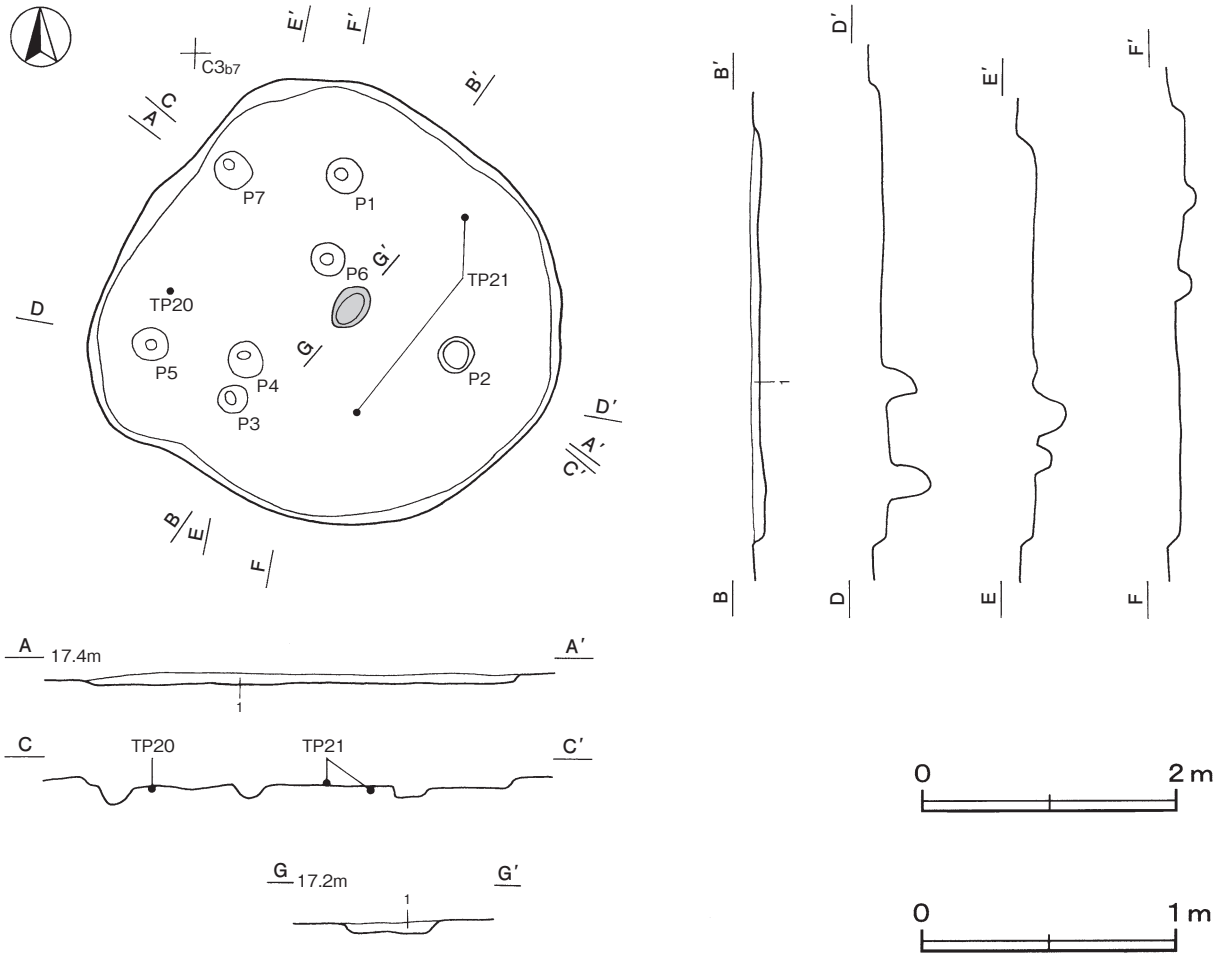
規模と形状　長径 3.75 m，短径 3.51 mの不整円形で，壁高は８cm ほどで，外傾して立ち上がっている。

床　やや凹凸があり，硬化面は認められない。

炉　中央部に付設されている地床炉で，長径 38cm，短径 26cm の楕円形である。床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量



第 13 図　第 27 号住居跡実測図

ピット　７か所。Ｐ１～Ｐ３・５・７は深さ７～31cmで，配置から柱穴と考えられる。Ｐ４・６は深さ22cm・13cmで，性格は不明である。

覆土　単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片23点（深鉢），剥片１点が出土している。TP21は北東部の床面と中央部南寄りの床面から出土した土器片が接合したもので，TP19は南西部の覆土中，TP20は西部の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期と考えられる。

第14図　第27号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表（第14図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP19	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい橙	普通	口縁部キザミ 外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	床面	早期
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	外面格子状の沈線を施文	床面	早期後半 PL23

第31号住居跡（第15図）

位置　調査区中央部北寄りのＢ３h2区，標高17.1ｍの台地平坦部に位置している。

確認状況　東部は木の根による撹乱を受けている。壁の大部分は削平を受けており，床面とピットを確認した。

重複関係　第16号住居に掘り込まれている。

規模と形状　ピットの配置から，長径5.60ｍ，短径4.60ｍの楕円形で，主軸方向はＮ－53°－Ｅと推定される。壁高は４cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，一部硬化面が認められる。

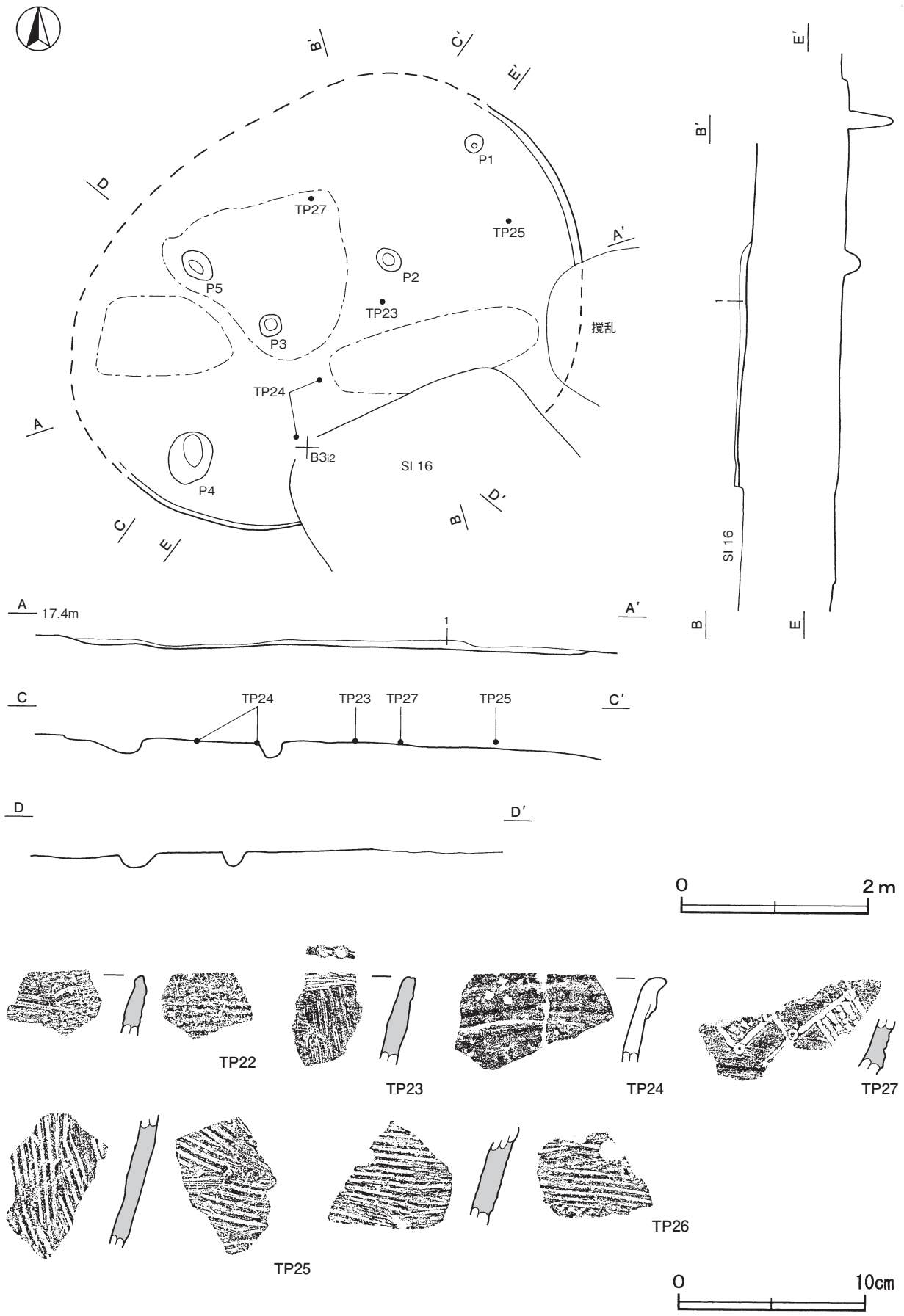
ピット　５か所。Ｐ１・４・５は深さ13～48cmで，配置から柱穴と考えられる。Ｐ２・３は深さ19cm・18cmで，性格は不明である。

覆土　単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片105点（深鉢），剥片５点が出土している。TP23は中央部の床面，TP25は北東部の覆土下層，TP24は中央部やや南寄りの床面，TP22は北西部の覆土中，TP27は北西部の床面，TP26は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後半と考えられる。



第 15 図　第 31 号住居跡・出土遺物実測図

第 31 号住居跡出土遺物観察表（第 15 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP23	縄文土器	深鉢	石英・雲母・繊維	にぶい黄褐	普通	口縁部キザミ 口辺部横位の条痕文 胴部外面貝殻条痕文を施文	床面	早期
TP24	縄文土器	深鉢	長石	にぶい黄褐	普通	口縁部折り返し	床面	PL23
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	外・内面貝殻状痕文を施文	下層	早期
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期 補修痕あり
TP27	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	にぶい黄橙	普通	外面沈線にて格子状に区画 区画内に半截竹管の平行沈線を充填 区画線交点に竹管状工具による押捺文を付加	床面	早期後半 PL23

第 32 号住居跡（第 16 図）

位置　調査区東部北寄りのＢ３d0 区，標高 17.1 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 2.43 m，短軸 1.90 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－０°である。壁高は５～ 10cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南西部に硬化面が認められる。

ピット　Ｐ１は深さ 10cm で，性格は不明である。

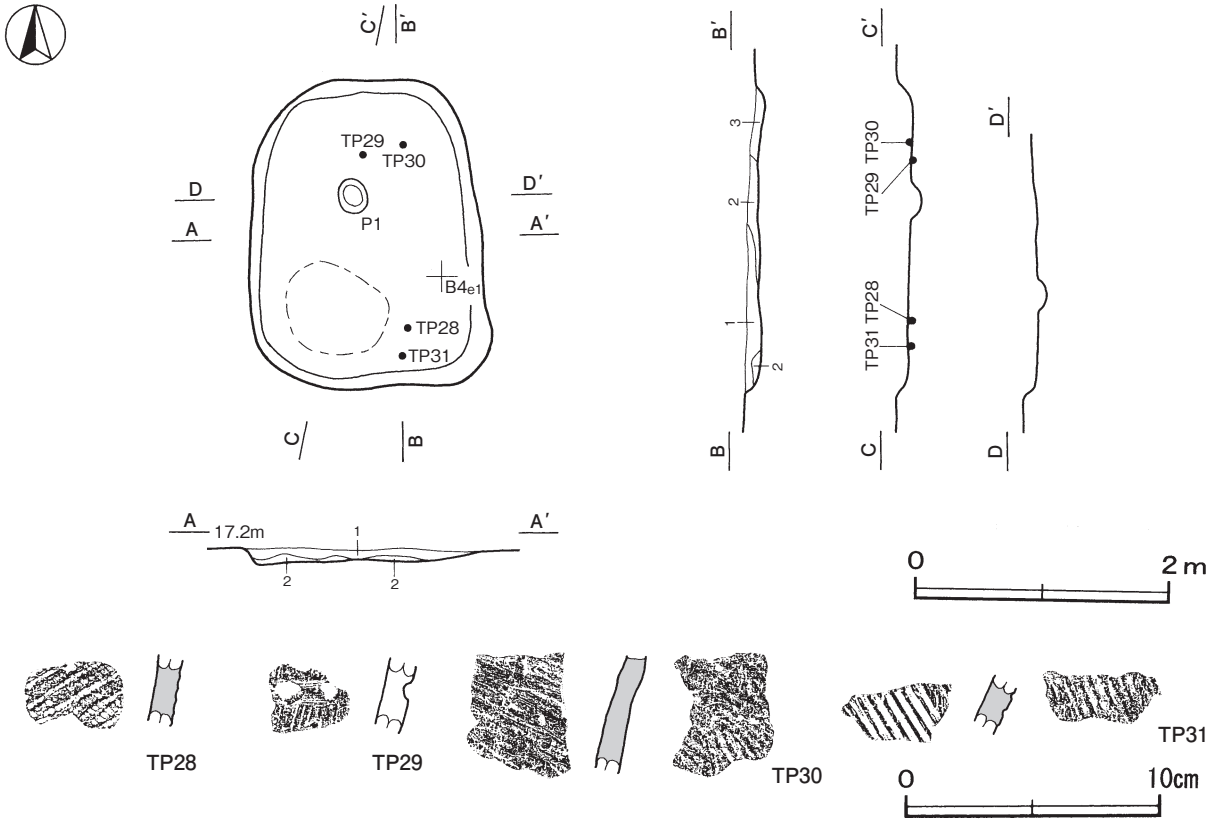
覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

１　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
２　暗　褐　色　ロームブロック微量
３　褐　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　縄文土器片 12 点（深鉢）が出土している。TP29 は北部中央の床面，TP30 は北部東寄りの床面，TP28 は南部の床面，TP31 は南部中央の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から前期である。



第 16 図　第 32 号住居跡・出土遺物実測図

第 32 号住居跡出土遺物観察表（第 16 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	単節縄文 LR を施文	床面	前期
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面貝殻状痕文施文後，竹管状工具で刺突	床面	早期
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	床面	早期
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	床面	早期

第 33 号住居跡（第 17・18 図）

位置　調査区東部北寄りのＢ４g4 区，標高 17.1 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 4.42 m，短径 3.50 mの楕円形で，主軸方向はＮ－ 23°－Ｅである。壁高は 9 cm ほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

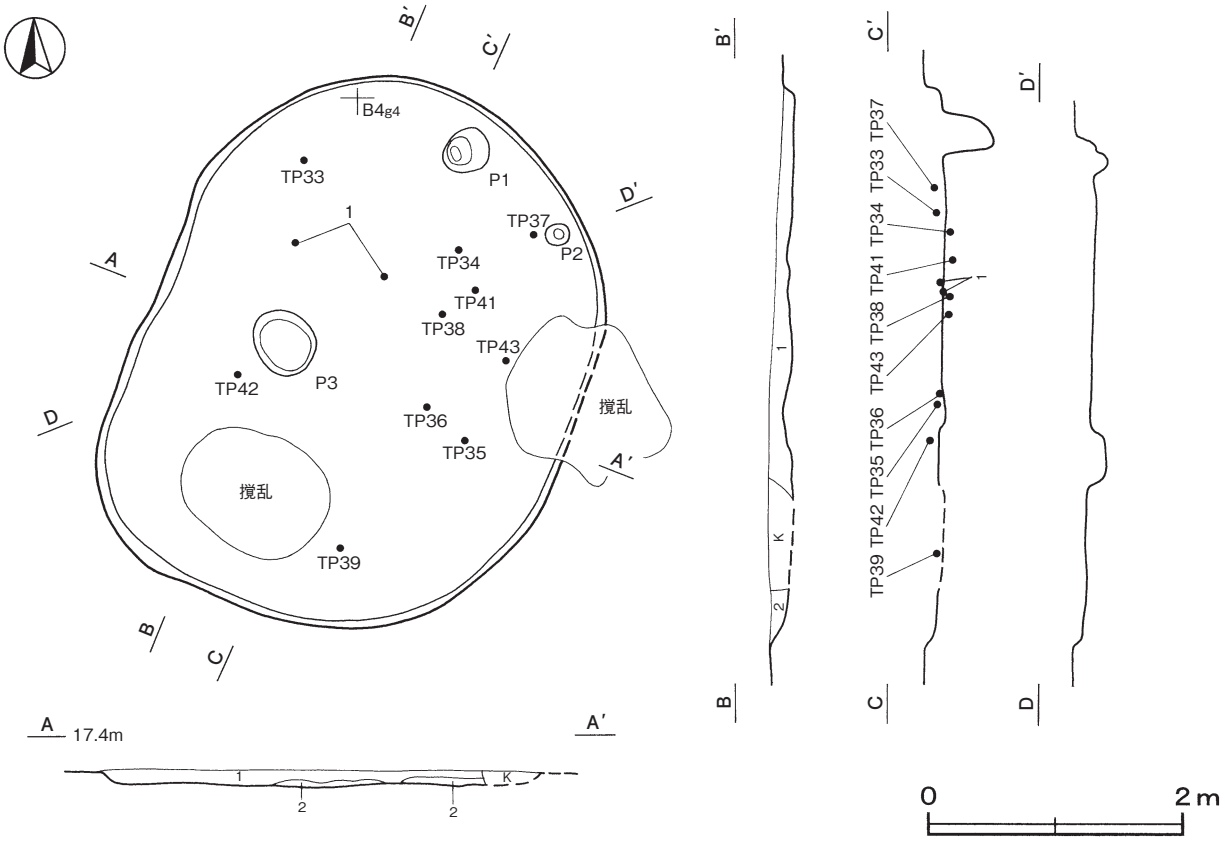
ピット　３か所。Ｐ１・２は深さ 40cm・12cm で，配置から柱穴と考えられる。Ｐ３は深さ 13cm で，性格は不明である。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量　　2　にぶい褐色　ロームブロック少量

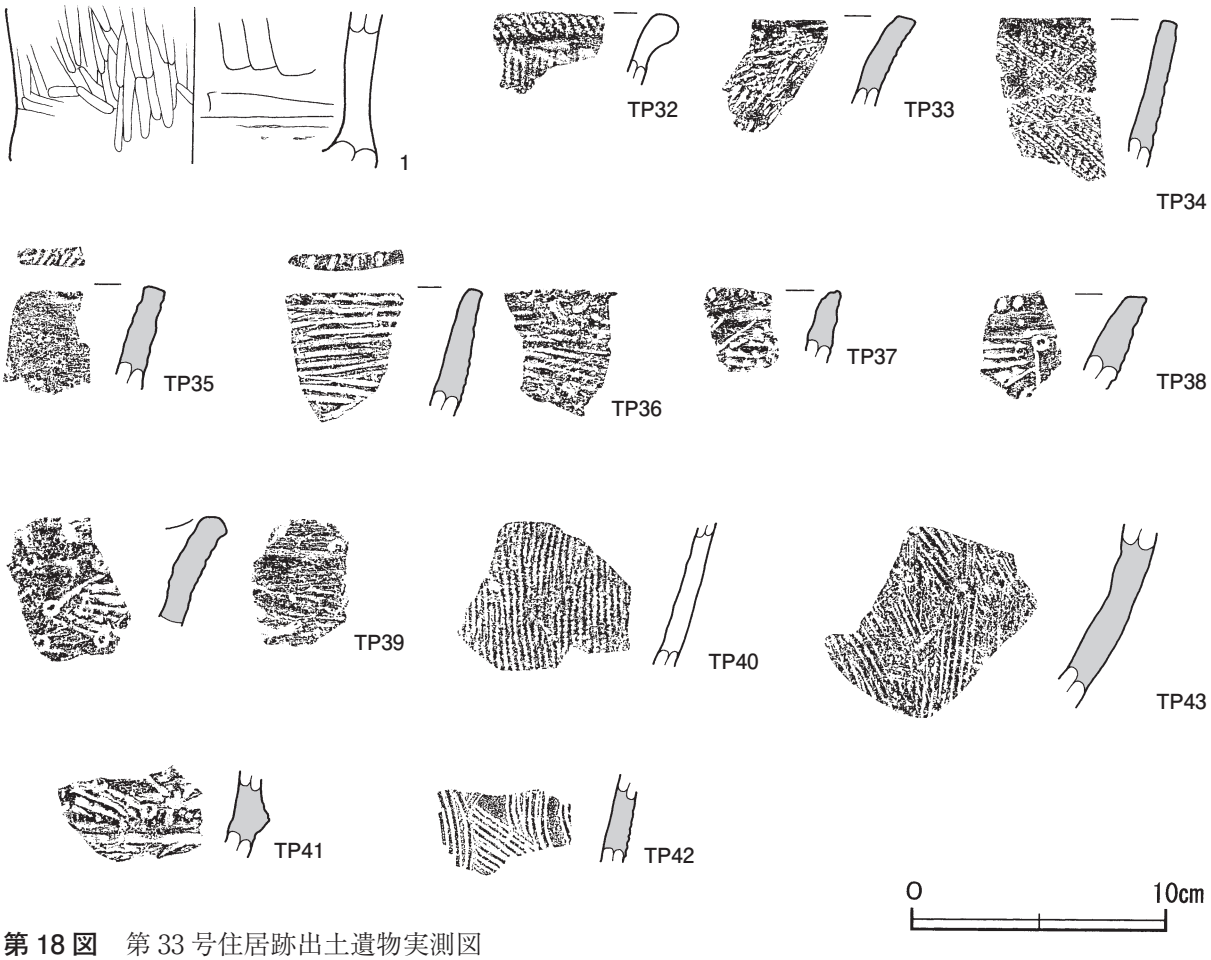
遺物出土状況　縄文土器片 69 点（深鉢），剥片３点が出土している。TP38 は中央部の床面，TP36 は中央部南東寄りの床面，１は北部中央の床面，TP34・TP41 は北東部の床面，TP37 は北東部の覆土下層，TP43 は



第 17 図　第 33 号住居跡実測図

東部中央の床面，TP35 は南東部の覆土下層，TP39 は南部中央の覆土下層，TP42 は西部中央の覆土下層，TP33 は北部西寄りの覆土下層，TP32・TP40 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から前期前半である。



第 18 図　第 33 号住居跡出土遺物実測図

第 33 号住居跡出土遺物観察表（第 18 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラ磨き	床面	５％　前期

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部斜位の撚糸文 胴部に縦位の撚糸文を施文	覆土中	前期前半 PL23
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	２条１組の撚糸文を施文	下層	前期前半
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	直前段合撚の縄文を施文	床面	前期前半 PL23
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	普通	口唇部貝殻腹縁文 外面貝殻条痕文を施文	下層	早期
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	口唇部キザミ 胴部内外面貝殻条痕文を施文	床面	早期 PL23
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	口縁部キザミ 胴部外面沈線にて区画 区画内に半截竹管の平行沈線を充填	下層	早期後半
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	口縁部キザミ 胴部外面沈線にて区画 区画線交点に竹管状工具による押捺文を付加	床面	早期後半
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面沈線にて格子状に区画 区閣内に横位の沈線を充填 区画線交点に竹管状工具による押捺文を付加	下層	早期後半
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外面撚糸文を施文	覆土中	前期 PL23
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	外面沈線にて格子状に区画 区画線交点に竹管状工具による押捺文を付加	床面	早期後半
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	半截竹管を用いた平行沈線を施文	下層	早期 PL23
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	外面貝殻沈線文を施文	床面	前期 PL23

第 34 号住居跡（第 19 図）

位置　調査区東部北寄りのＢ４f5 区，標高 16.9 ｍの台地縁辺部の平坦面に位置している。

規模と形状　長軸 3.30 m，短軸 2.60 ｍの隅丸長方形で，主軸方向はＮ－ 62°－Ｗである。壁高は 10 ～ 13cm で，緩斜して立ち上がっている。

床　やや北側に傾斜しているがほぼ平坦であり，硬化面は認められない。

ピット　Ｐ１は深さ 18cm で，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

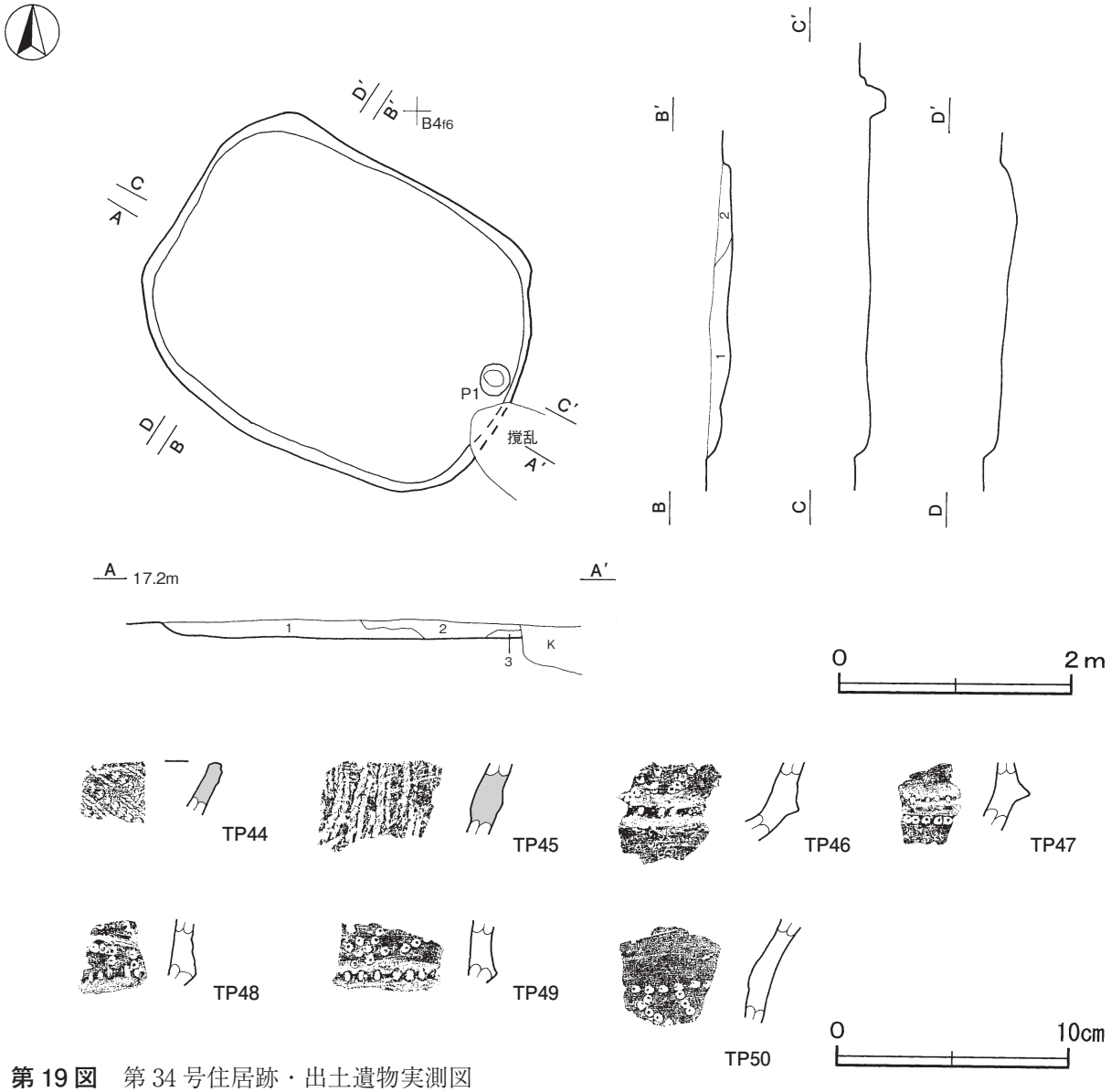
土層解説

１　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　３　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

２　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 17 点（深鉢）が出土している。TP44 ～ TP50 はすべて覆土中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から前期前半と考えられる。



第 19 図　第 34 号住居跡・出土遺物実測図

第 34 号住居跡出土遺物観察表（第 19 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP44	縄文土器	深鉢	石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	直前段合撚の縄文を施文	覆土中	前期前半
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい褐	普通	２条１組の撚糸文を施文	覆土中	早期 PL24
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	竹管状工具による刺突文	覆土中	早期後半 PL24
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	竹管状工具による刺突文	覆土中	早期後半 PL24
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	普通	竹管状工具による刺突文	覆土中	早期後半 PL24
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	竹管状工具による刺突文	覆土中	早期後半 PL24
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒	普通	竹管状工具による刺突文	覆土中	早期後半 PL24

第 35 号住居跡（第 20・21 図）

位置　調査区中央部北寄りのＢ３d9 区，標高 17.0 ｍの台地平坦部に位置している。

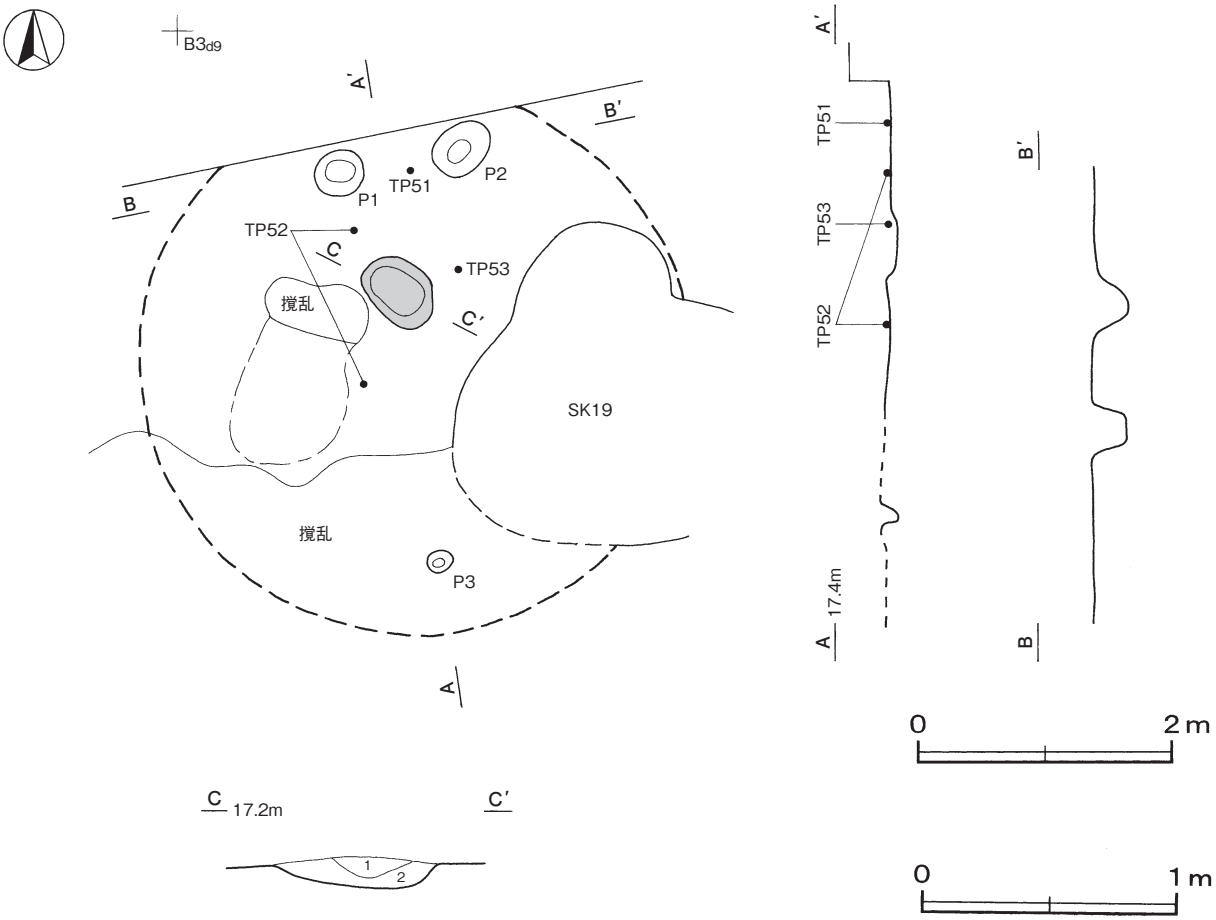
確認状況　壁は削平を受けており，床面と炉およびピットを確認した。

重複関係　第 19 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　ピットの配置から，径 4.36 ｍほどの円形と推測できる。

床　平坦で，中央部西寄りに硬化面が認められる。

炉　中央部やや北寄りに付設されている地床炉で，長径 62cm，短径 48cm の楕円形である。床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。



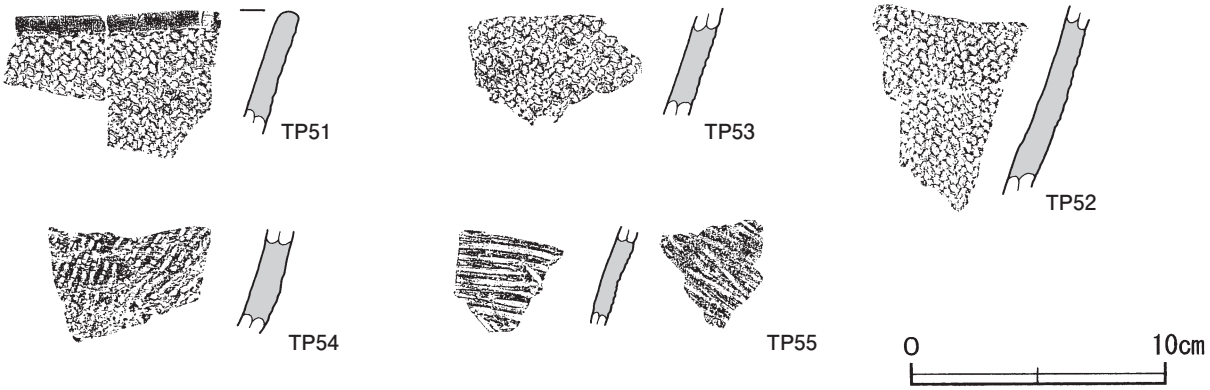
第 20 図　第 35 号住居跡実測図

炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量　　2　にぶい赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 14 ～ 27cm で，配置から柱穴と考えられる。

遺物出土状況　縄文土器片 27 点（深鉢），剥片１点が出土している。TP52 は中央部南寄りの床面と，中央部北寄りの床面から出土した土器片が接合したもので，TP51 は北部の床面，TP53 は中央部東寄りの床面，TP54・TP55 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から前期前半と考えられる。



第 21 図　第 35 号住居跡出土遺物実測図

第 35 号住居跡出土遺物観察表（第 21 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP51	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	橙	普通	組紐による縄文を施文	床面	前期前半 PL24
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	組紐による縄文を施文	床面	前期前半
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	組紐による縄文を施文	床面	前期前半
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻腹縁文を施文	覆土中	早期 PL24
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	外・内面貝殻状痕文を施文	覆土中	早期

第 36 号住居跡（第 22 図）

位置　調査区北西部のＢ２h0 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 4.12 m，短径 3.95 mの不整円形で，壁高は 4 cm ほどで，緩斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，硬化面は認められない。壁際で焼土が確認できた。

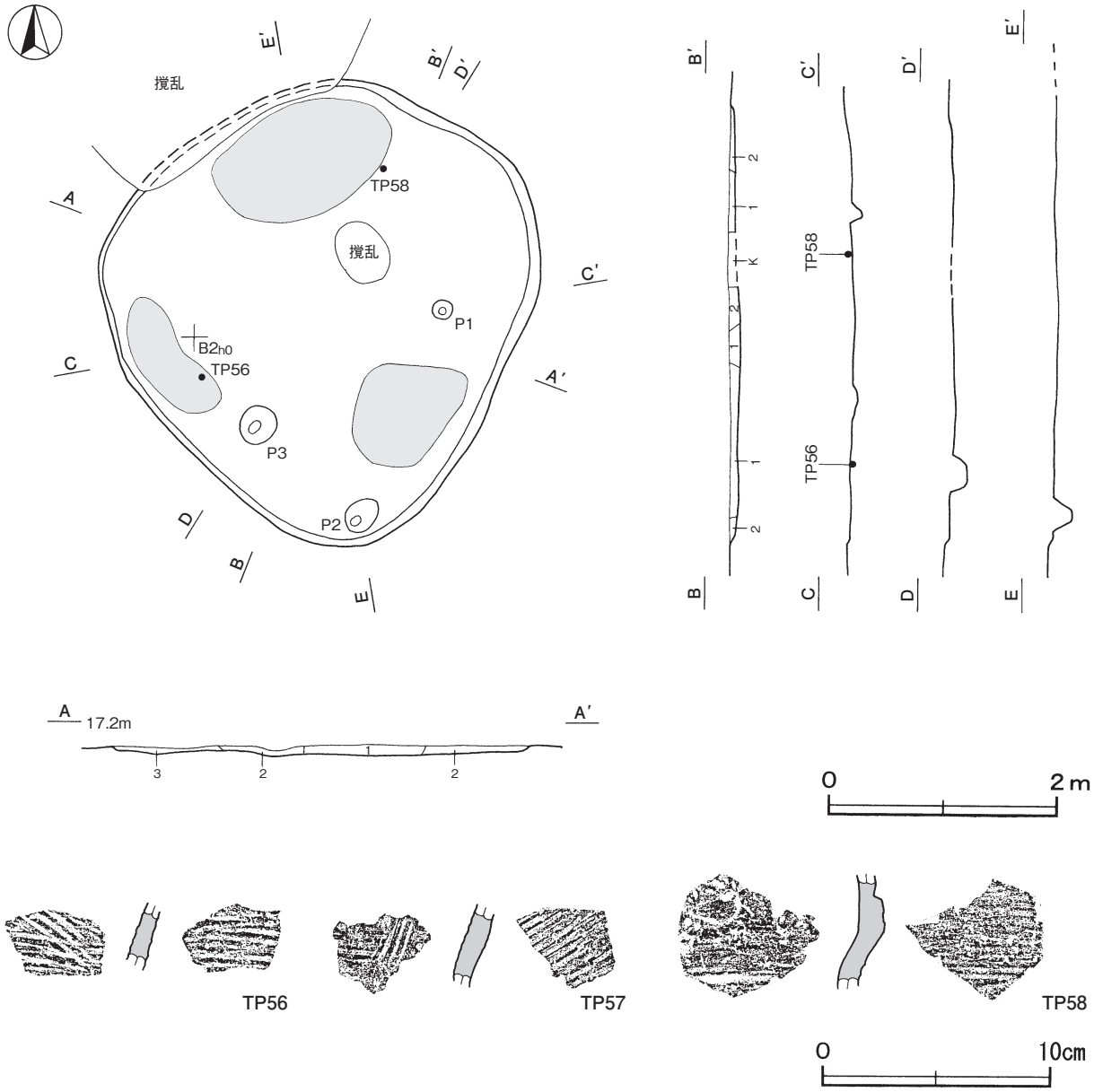
ピット　３か所。Ｐ１・２は深さ 10cm・16cm で，配置から柱穴と考えられる。Ｐ３は深さ 14cm で，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックや焼土，炭化物を含んだ堆積状況から埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量　　3　褐　　色　ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況　縄文土器片 16 点（深鉢）が出土している。TP58 は北東部の床面，TP56 は南西部の床面，TP57 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後半である。また，床面から焼土や炭化材が確認されていることから，焼失住居の可能性がある。



第 22 図　第 36 号住居跡・出土遺物実測図

第 36 号住居跡出土遺物観察表（第 22 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP56	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	床面	早期
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻状痕文を施文	覆土中	早期
TP58	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面竹管状工具による押捺文を付加 内面貝殻条痕文を施文	床面	早期後半

表２　縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）長軸×短軸	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								柱穴	出入口ピット	ピット	貯蔵穴	竈・炉				
5	B 2 h3	－	［円形］	［5.70］×［5.70］	－	平坦	－	8	－	1	－	炉	人為	縄文土器，剥片	早期	焼失住居
15	B 3 f1	－	［円形・楕円形］	6.14×（3.75）	－	平坦	－	5	－	5	－	－	－	縄文土器	早期	本跡→ SK164
19	C 2 f0	－	［円形］	［7.36］×［7.36］	－	平坦	－	4	－	2	－	炉	－	縄文土器，剥片	前期	FP7 →本跡 → SD2,FP6
25	C 3 a5	［N－4°－W］	［楕円形］	［5.80］×［4.80］	4	平坦	－	4	－	1	－	－	人為	縄文土器，剥片	前期後半	
26	B 3 f4	－	［円形］	［4.76］×［4.76］	－	平坦	－	5	－	－	－	炉	－	縄文土器，剥片	早期後半	

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）長軸×短軸	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
								柱穴	出入口ピット	ピット	貯蔵穴	竈・炉				
27	C 3 b7	－	不整円形	3.75×3.51	8	凹凸	－	5	－	2	－	炉	不明	縄文土器，剥片	早期	
31	B 3 h2	［N－53°－E］	［楕円形］	［5.60］×［4.60］	4	平坦	－	3	－	2	－	－	不明	縄文土器，剥片	早期後半	本跡→SI16
32	B 3 d0	N－0°	隅丸長方形	2.43×1.90	5～10	平坦	－	－	－	1	－	－	自然	縄文土器	前期	
33	B 4 g4	N－23°－E	楕円形	4.42×3.50	9	平坦	－	2	－	1	－	－	自然	縄文土器，剥片	前期前半	
34	B 4 f5	N－62°－W	隅丸長方形	3.30×2.60	10～13	平坦	－	－	1	－	－	－	自然	縄文土器	前期前半	
35	B 3 d9	－	［円形］	［4.36］×［4.36］	－	平坦	－	3	－	－	－	炉	－	縄文土器，剥片	前期	本跡→SK19
36	B 2 h0	－	不整円形	4.12×3.95	4	平坦	－	2	1	－	－	－	人為	縄文土器	早期後半	焼失住居

(2)　炉穴

第１号炉穴（第 23 図）

位置　調査区中央部南寄りのＣ３d9 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

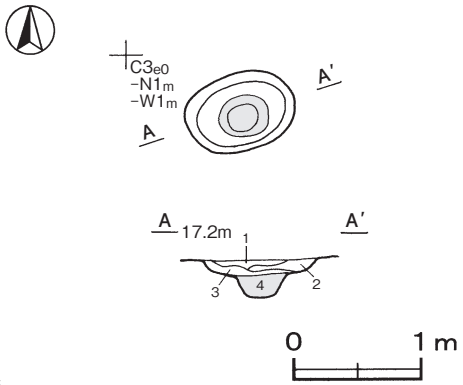
規模と形状　長径 0.88 m，短径 0.62 mの楕円形で，長径方向はＮ－74°－Ｅである。中央部が火焚部で，東側または西側に足場が敷設されていたと考えられる。深さは火焚部が 28cm，足場が 10cm で，壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は椀状で，火熱を受けて赤変硬化している。足場は火焚部に向かって緩やかに傾斜している。

覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第４層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　明 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化物・灰微量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）が出土しているが，細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から縄文時代と考えられる。



第 23 図　第１号炉穴実測図

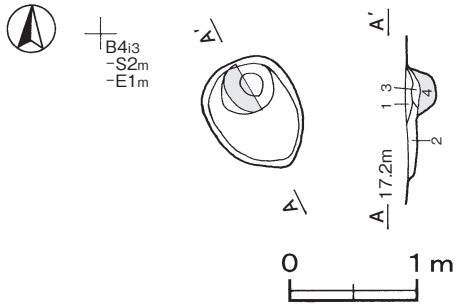
第２号炉穴（第 24 図）

位置　調査区東部中央のＢ４i3 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 0.94 m，短径 0.72 mの楕円形で，長径方向はＮ－27°－Ｗである。北西部が火焚部で，南東部に足場が敷設されている。深さは火焚部が 24cm，足場が８cm で，壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は椀状で，火熱を受けて赤変硬化している。足場はほぼ平坦につくられている。

覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第４層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量



第 24 図　第２号炉穴実測図

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）が出土しているが，細片のため図示できない。

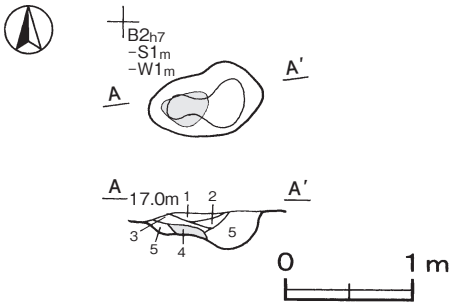
所見　時期は，出土土器片の外面に貝殻条痕文が施文されていることから，早期と考えられる。

第３号炉穴（第 25 図）

位置　調査区西部北寄りのＢ２h6 区，標高 16.9 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 0.90 ｍ，短径 0.51 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 101°－ Ｗである。西部が火焚部で，東部に足場が敷設されている。深さは火焚部が 18cm，足場が 30cm で，壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で，火熱を受けて赤変硬化している。足場は火焚部より低くつくられている。

覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第４層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。第１～３層は焼けた天井部の崩落土である。



第 25 図　第３号炉穴実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土ブロック多量，炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢），剥片１点（チャート）が出土しているが，細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器の外面に貝殻条痕文が施文されていることから，早期と考えられる。

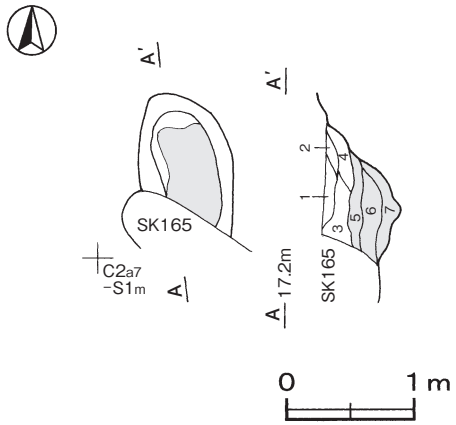
第４号炉穴（第 26 図）

位置　調査区西部中央のＣ２a7 区，標高 17.0 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 165 号土坑に南部を掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.34 ｍ，短径 0.74 ｍの楕円形と推測され，長径方向はＮ－ 11°－Ｗである。中央部が火焚部で，南部に足場が敷設されていた可能性がある。深さは火焚部が 62cm で，壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で，火熱を受けて赤変硬化している。

覆土　７層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第５～７層の各上面で，火熱を受けて赤変硬化している。



第 26 図　第４号炉穴実測図

土層解説

1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ロームブロック・炭化粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土ブロック多量，炭化物・ローム粒子微量
7　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片４点（深鉢），細礫が出土しているが，細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器片に貝殻条痕文が施文されていることから，早期と考えられる。また，火床部の焼土の堆積状況から複数回用いられた可能性がある。

第５号炉穴（第 27 図）

位置　調査区西部中央のＢ２j8 区，標高 16.9 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 10 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.80 ｍ，短径 0.98 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 28°－Ｗである。北西部が火焚部で，南東部に足場が敷設されている。深さは火焚部が 46cm，足場が８cm で，壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は椀状で，火熱を受けて赤変硬化している。足場は火焚部に向かって若干の高まりを設けている。

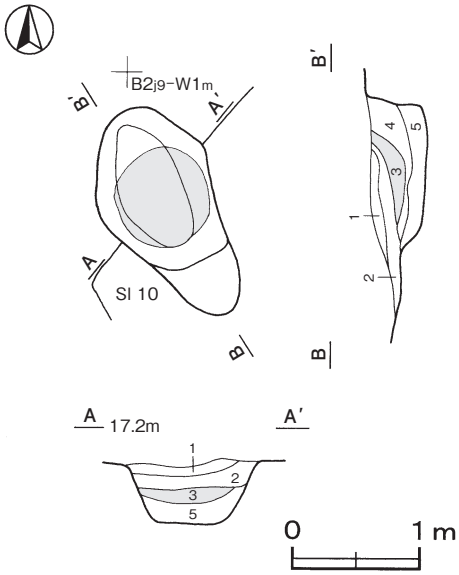
覆土　５層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第３層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

１	褐	色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量
２	褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
３	赤　褐	色	焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量
４	暗　褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
５	褐	色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）が出土しているが，細片のため図示できない。

所見　時期は，出土土器から縄文時代と考えられる。



第 27 図　第５号炉穴実測図

第６号炉穴（第 28 図）

位置　調査区西部南寄りのＣ２f0 区，標高 17.0 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 19 号住居跡との重複関係は不明である。

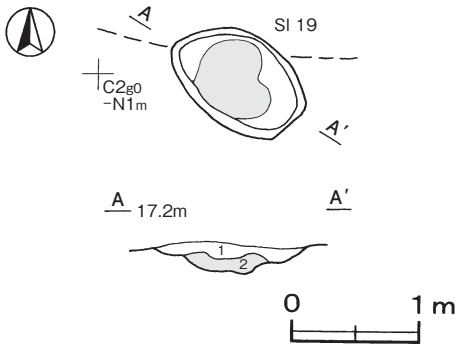
規模と形状　長径 1.20 ｍ，短径 0.74 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 58°－Ｗである。中央部が火焚部で，南東部もしくは北西部に足場が敷設されている。深さは火焚部が 22cm，足場が 10cm で，壁は外傾して立ち上がっている。火焚部は皿状で，火熱を受けて赤変硬化している。足場は平坦である。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第２層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

１	暗　褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
２	赤　褐	色	焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量

所見　時期は，遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状などから縄文時代と考えられる。



第 28 図　第６号炉穴実測図

第７号炉穴（第 29 図）

位置　調査区西部南寄りのＣ２e0 区，標高 17.0 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 19 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長径 1.90 ｍ，短径 1.06 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 99°－Ｗである。西部が火焚部で，東部に足場が敷設されている。深さは火焚部が 34cm，足場が 48cm で，壁は外傾して立ち上がっている。火焚部

は皿状で，火熱を受けて赤変硬化している。足場は火焚部に向かって緩やかに傾斜している。

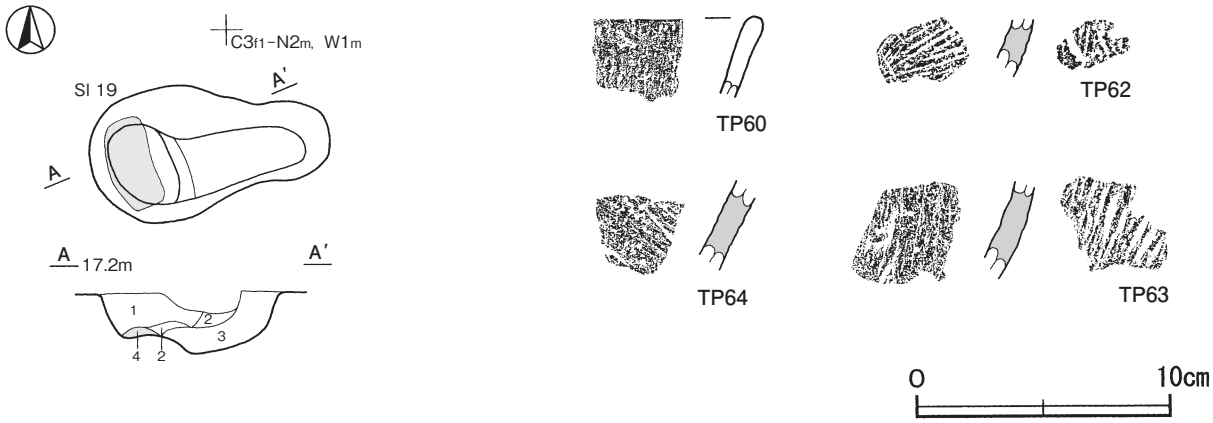
覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第４層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　赤　褐　色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 11 点（深鉢）が出土している。TP60・TP62 ～ TP64 はすべて覆土中からの出土である。

所見　時期は，出土土器から早期である。



第 29 図　第７号炉穴・出土遺物実測図

第７号炉穴出土遺物観察表（第 29 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	縦位の撚糸文	覆土中	早期前半 PL24
TP62	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	早期
TP63	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文	覆土中	早期
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文	覆土中	早期

表３　炉穴一覧表

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模（m）長径×短径	深さ・規模（cm）				壁面	火焚部底面	覆土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
					火焚部		足場						
1	C３d9	N－74°－E	楕円形	0.88 × 0.62	28	36 × 38	10	18 × 35	外傾	椀状	自然	縄文土器	縄文時代
2	B４i3	N－27°－W	楕円形	0.94 × 0.72	24	42 × 45	8	44 × 60	外傾	椀状	自然	縄文土器	早期
3	B２h6	N－101°－W	楕円形	0.90 × 0.51	18	26 × 38	30	30 × 38	外傾	皿状	自然	縄文土器　剥片	早期
4	C２a7	N－11°－W	[楕円形]	(1.34) × 0.74	62	50 × 80	－	－	外傾	皿状	自然	縄文土器	早期 本跡→ SK165
5	B２j8	N－28°－W	楕円形	1.80 × 0.98	46	80 × 80	8	66 × 60	外傾	椀状	自然	縄文土器	縄文時代 本跡→ SI 10
6	C２f0	N－58°－W	楕円形	1.20 × 0.74	22	60 × 64	10	23 × 50	外傾	皿状	自然	－	縄文時代
7	C２e0	N－99°－W	楕円形	1.90 × 1.06	34	44 × 96	48	60 × 66	外傾	皿状	自然	縄文土器	早期 本跡→ SI 19

（3）　炉跡

第１号炉跡　（第 30 図）

位置　調査区東部南寄りのＣ４c1 区，標高 17.1 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 0.58 ｍ，短径 0.48 ｍの楕円形で，長径方向はＮ－ 38°－Ｗである。深さは 14cm で，壁は外傾

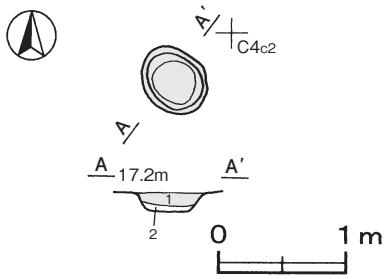
して立ち上がり，底面は皿状で，火熱を受けて赤変硬化している。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第１層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

所見　時期は，遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から縄文時代と考えられる。



第 30 図　第１号炉跡実測図

第２号炉跡（第 31 図）

位置　調査区西部中央のＢ２i9 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 10 号住居に掘り込まれている。

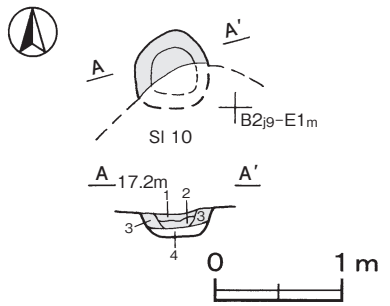
規模と形状　径 0.60 mの円形と推測でき，深さは 22cm である。壁は外傾して立ち上がり，底面は皿状で，火熱を受けて赤変硬化している。

覆土　４層に分層できる。不自然な堆積状況から，埋め戻されている。火床面は第１～３層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

所見　時期は，遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から縄文時代と考えられる。



第 31 図　第２号炉跡実測図

第３号炉跡（第 32 図）

位置　調査区西部中央のＢ２j8 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

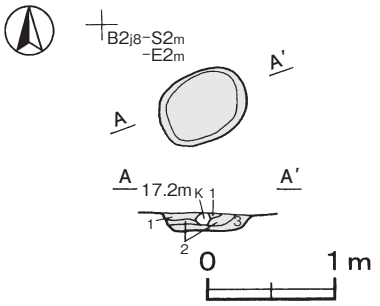
規模と形状　長径 0.72 m，短径 0.56 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 62°－Ｅである。深さは 12cm で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，火熱を受けて赤変硬化している。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第１～３層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説

1　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量

所見　時期は，遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から縄文時代と考えられる。

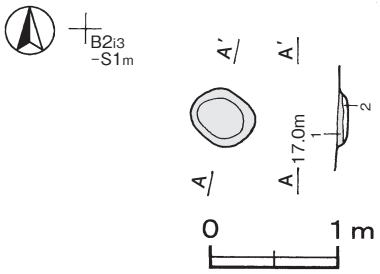


第 32 図　第３号炉跡実測図

第４号炉跡（第 33 図）

位置　調査区西部中央のＢ２i3 区，標高 16.7 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 0.50 m，短径 0.43 mの楕円形で，長径方向はN－46°－Wである。深さは８cm で，壁は外傾して立ち上がっている。底面は平坦で，火熱を受けて赤変硬化している。



第 33 図　第４号炉跡実測図

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。火床面は第１層上面で，火熱を受けて赤変硬化している。

土層解説
1　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　にぶい赤褐色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量

所見　時期は，遺物が出土していないため不明であるが，遺構の形状から縄文時代と考えられる。

表４　炉跡一覧表

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模（m） 長径×短径	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備　考 重複関係 （古→新）
1	C 4 c1	N－38°－W	楕円形	0.58 × 0.48	14	外傾	皿状	自然	－	縄文時代
2	B 2 i9	－	［円形］	［0.60 × 0.60］	22	外傾	皿状	人為	－	縄文時代　本跡→ SI 10
3	B 2 j8	N－62°－E	楕円形	0.72 × 0.56	12	外傾	平坦	自然	－	縄文時代
4	B 2 i3	N－46°－W	楕円形	0.50 × 0.43	8	外傾	平坦	自然	－	縄文時代

（4）土坑

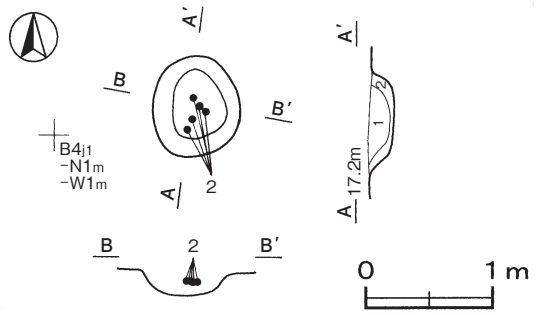
確認された土坑のうち，主なものを取り上げ解説し，それ以外のものは実測図，拓影図，土層解説，遺物観察表，遺構一覧表を掲載する。

第 28 号土坑　（第 34 図）

位置　調査区中央部のＢ４i1 区，標高 17.1 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 0.80 m，短径 0.70 mの楕円形で，長径方向はＮ－７°－Ｗである。深さは 20cm，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層に分層できる。覆土の不自然な堆積状況と，遺物の出土状況から埋め戻されたと考えられる。



第 34 図　第 28 号土坑実測図

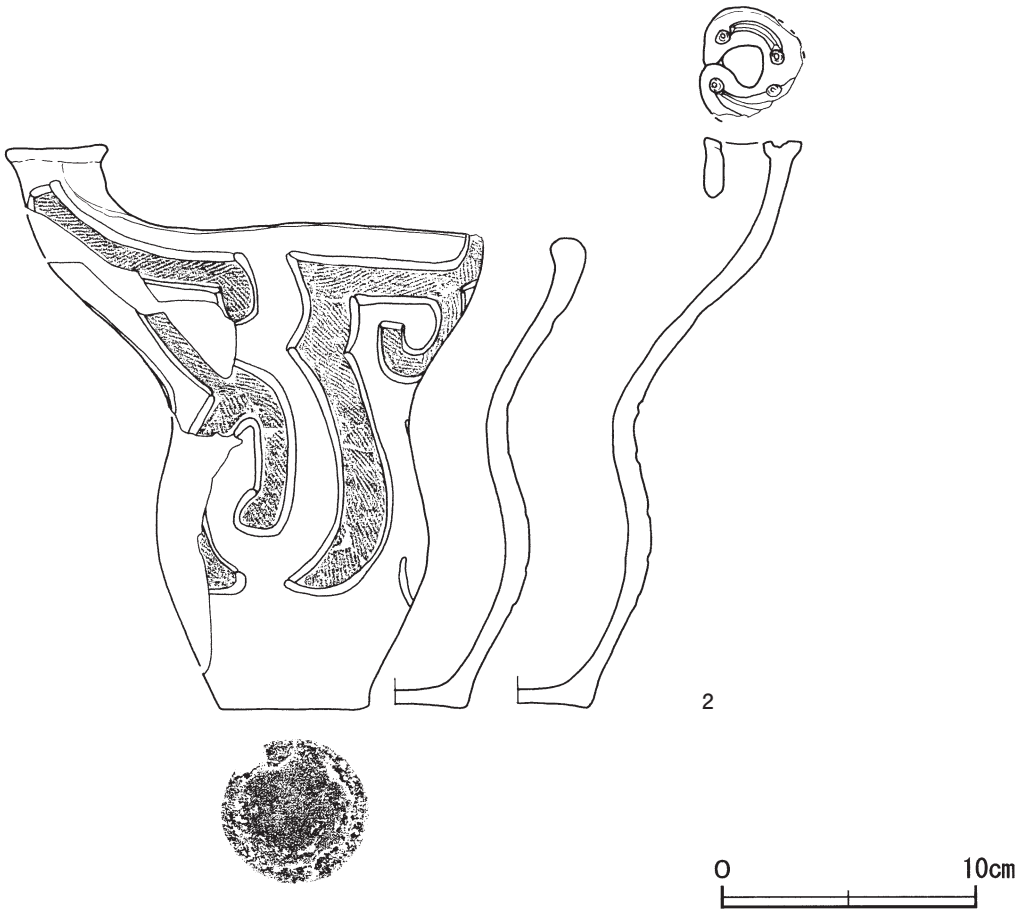
土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　縄文土器片１点（深鉢）が出土している。２は覆土中層に散乱した状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から後期前半である。

第 28 号土坑出土遺物観察表（第 35 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備 考
2	縄文土器	深鉢	13.5	22.5	5.8	長石・石英	明褐	普通	突起部を円筒状に形成し，頂部に円形刺突文と沈線を施文　胴部は沈線で区画後，区画内にＲＬの単節縄文を施文区画外を磨り消している	中層	後期前半 60% PL22



第 35 図　第 28 号土坑出土遺物実測図

第 112 号土坑（第 36・37 図）

位置　調査区中央部南寄りのＣ３d9 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 0.94 m，短径 0.76 mの楕円形で，長径方向はＮ－ 58°－Ｗである。深さ 10cm，底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

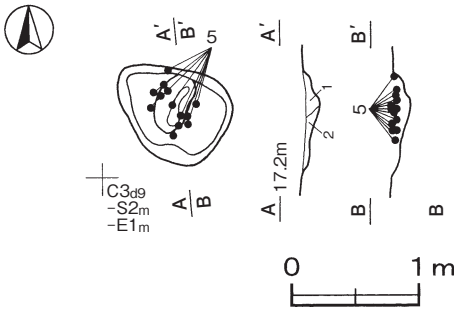
覆土　２層に分層できる。周囲からの土の流入を示す堆積状況と均質な含有物の様相から自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　縄文土器片 10 点（深鉢），剥片 1 点（チャート）が出土している。５は覆土中層から下層にかけて散乱した状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から早期後半である。

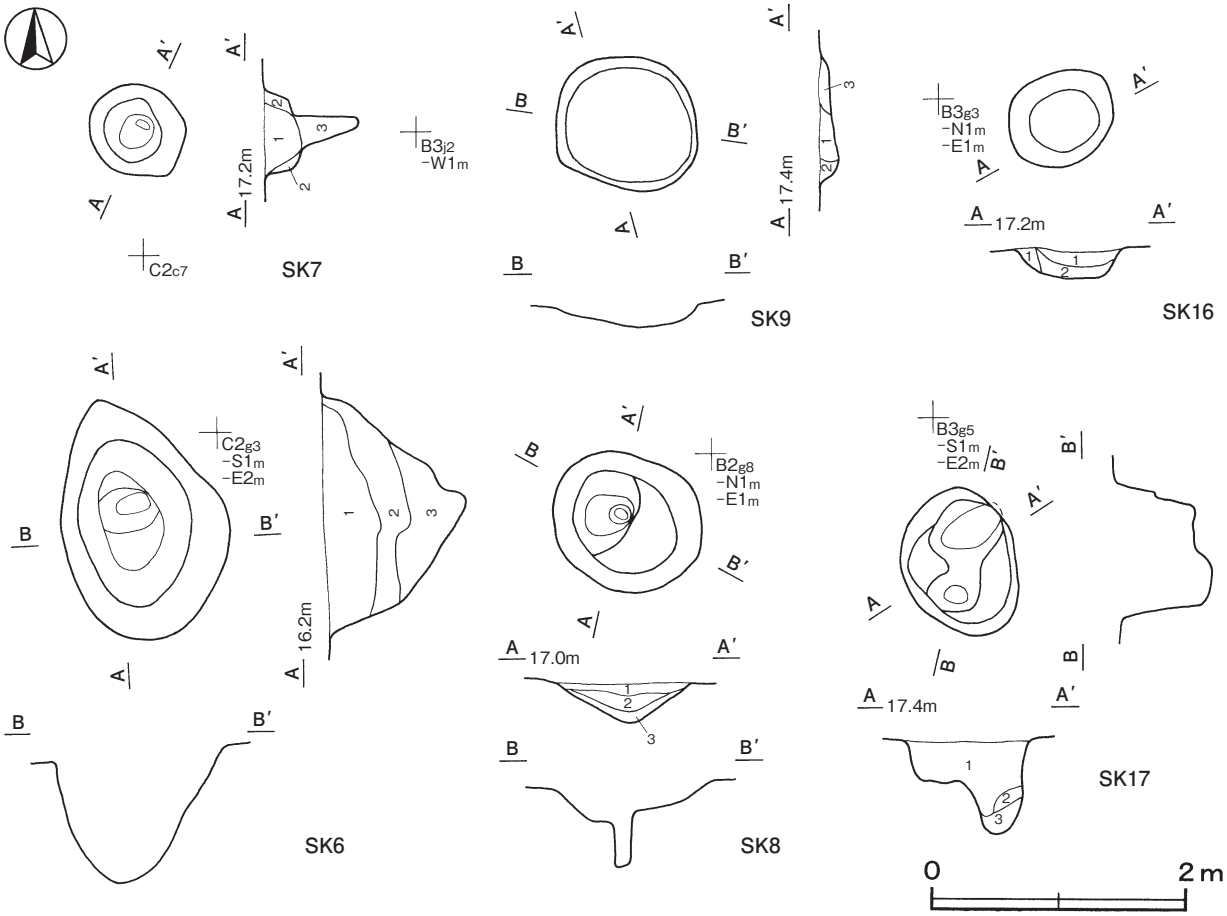


第 36 図　第 112 号土坑実測図

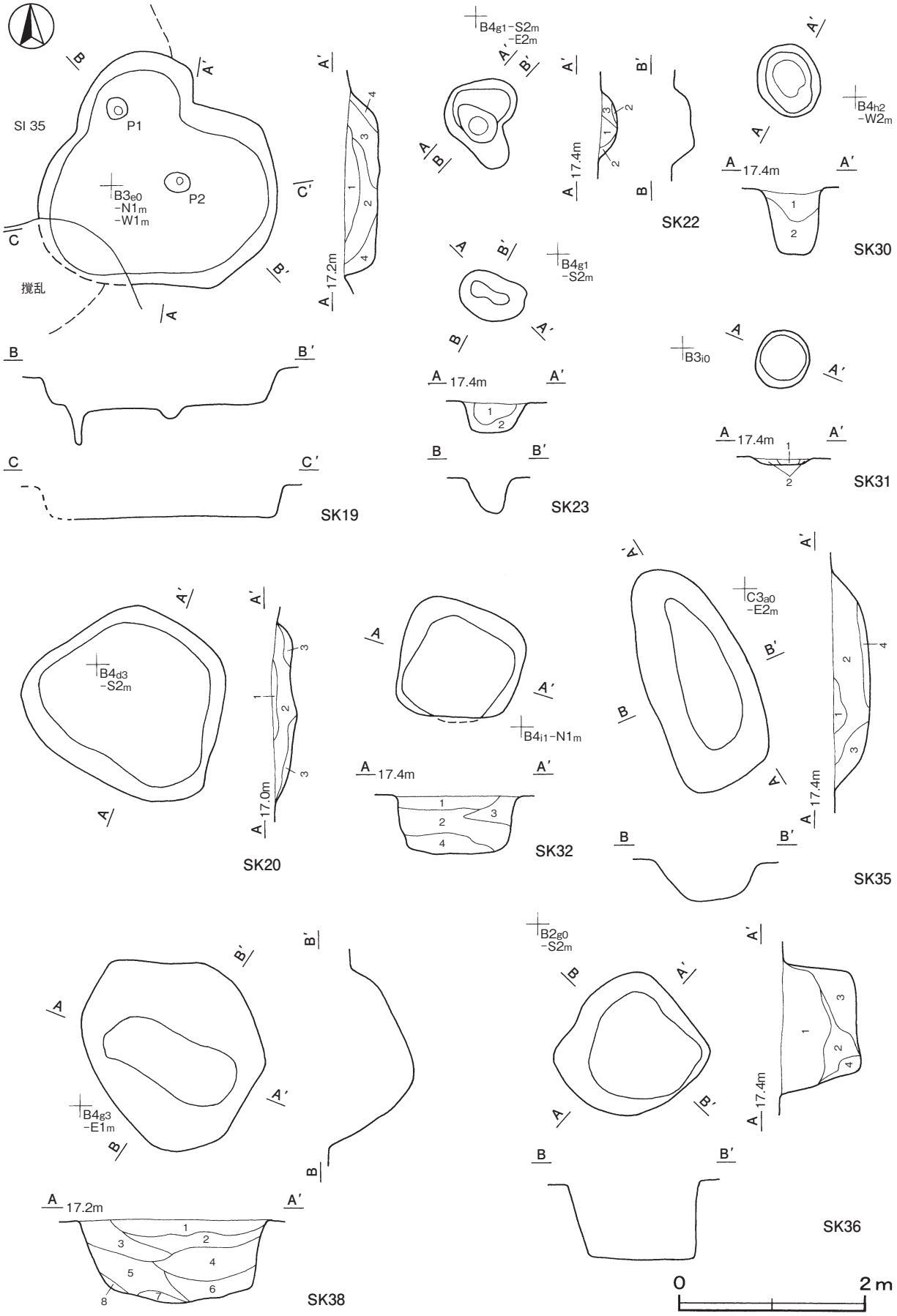
第 112 号土坑出土遺物観察表（第 37 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	［33.0］	（39.1）	－	長石・石英	にぶい橙	普通	外面貝殻沈線文を施文	中～下層	早期後半 40%

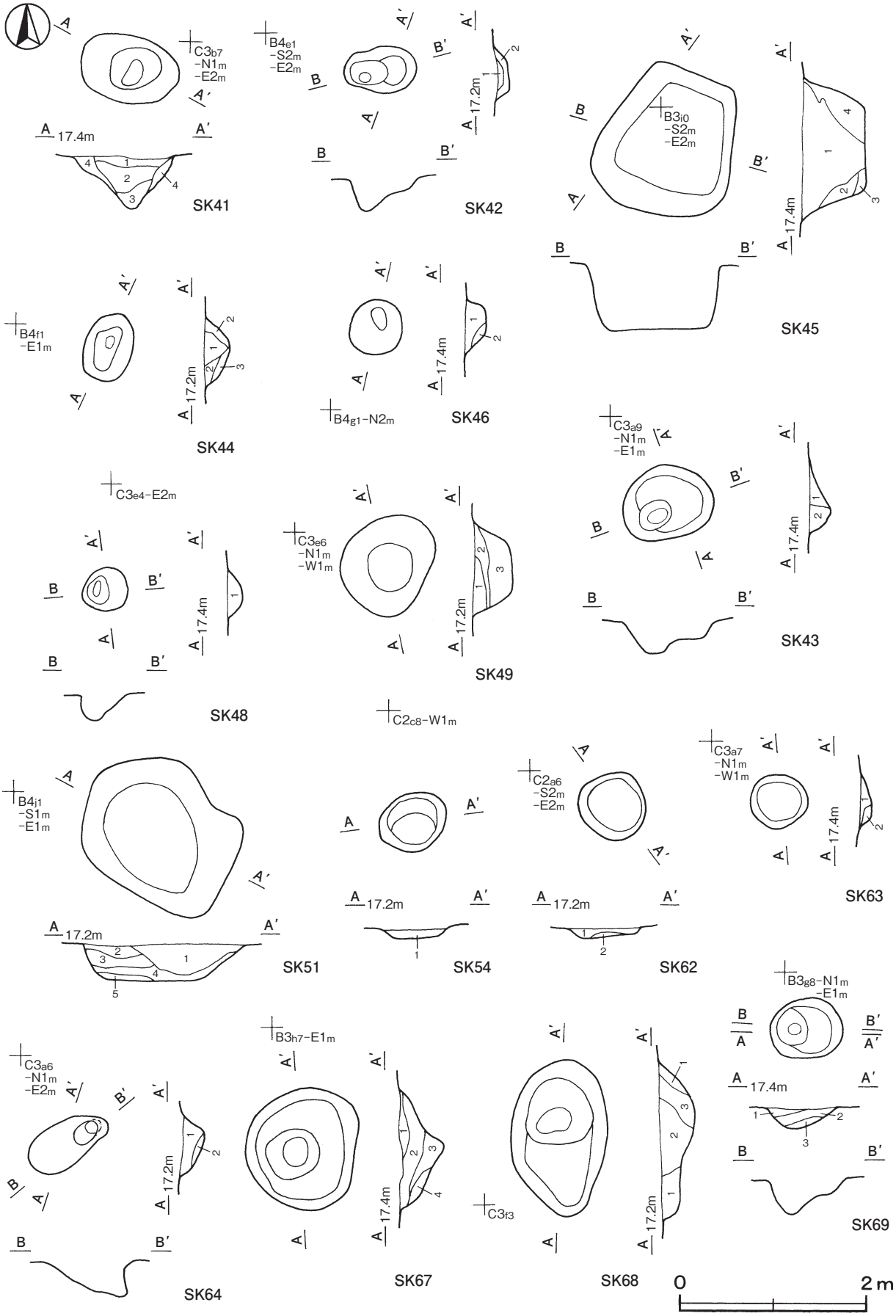
第 37 図　第 112 号土坑出土遺物実測図



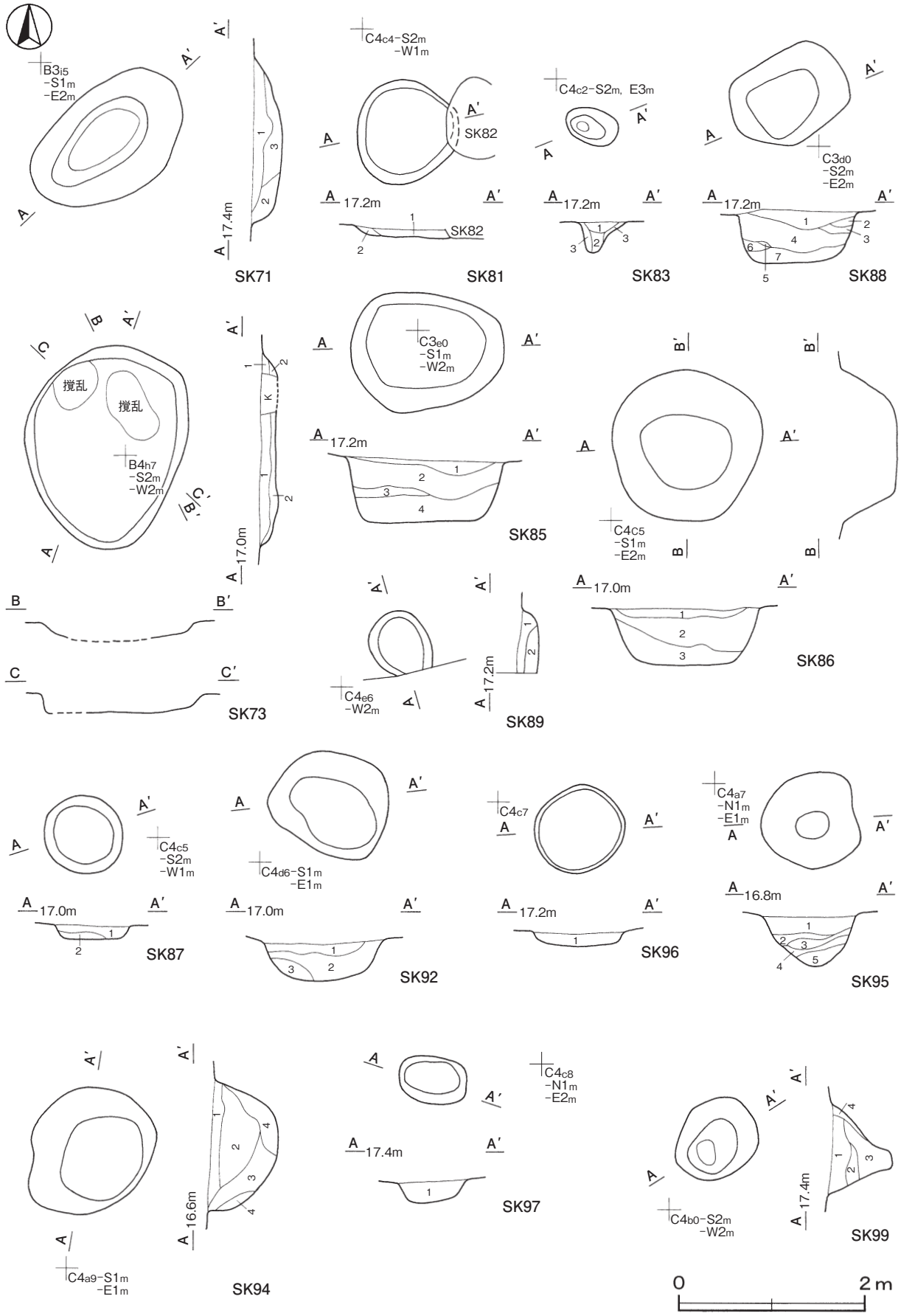
第 38 図　その他の土坑実測図（1）



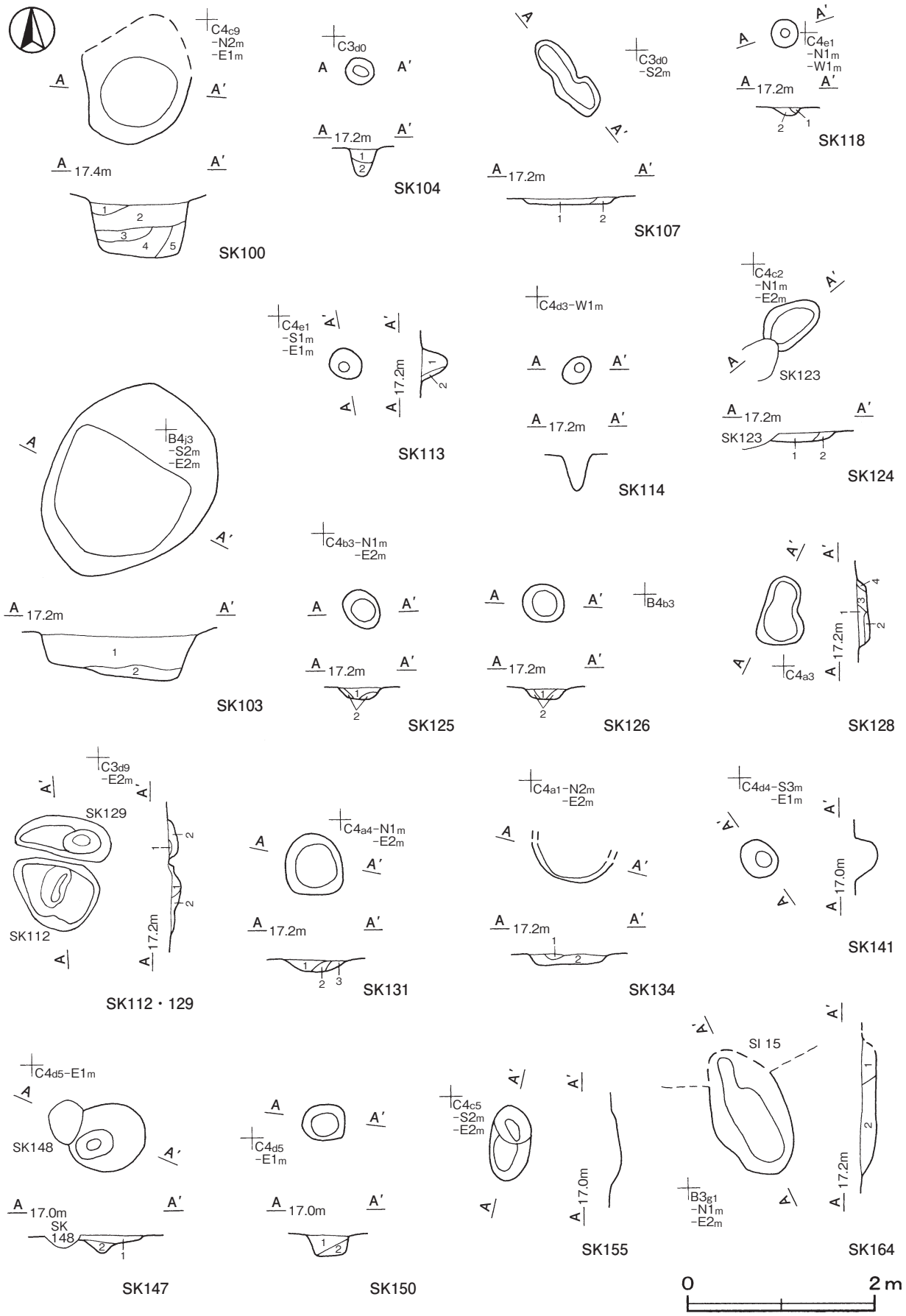
第39図　その他の土坑実測図（2）



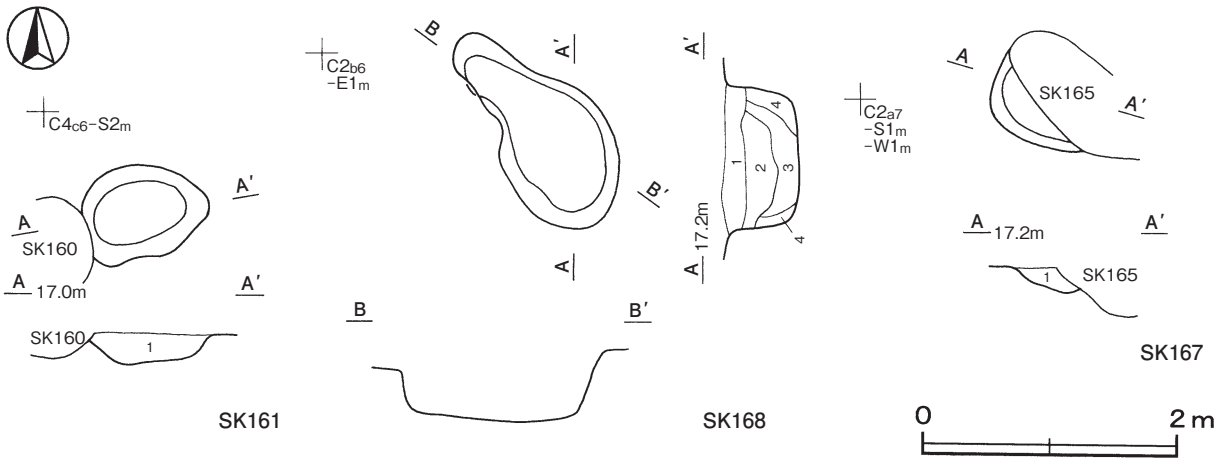
第 40 図　その他の土坑実測図（3）



第 41 図　その他の土坑実測図（4）



第 42 図　その他の土坑実測図（5）



第 43 図　その他の土坑実測図（6）

第６号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第７号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第８号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第９号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子多量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 16 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

第 17 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 19 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第 20 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 22 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 23 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量

第 30 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

第 31 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 32 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック・炭化物少量
2　極暗褐色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 35 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量

第 36 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　明　褐　色　ロームブロック中量
4　にぶい褐色　ローム粒子多量

第 38 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　褐　　色　ローム粒子少量
7　明　褐　色　ロームブロック中量
8　にぶい褐色　ローム粒子多量

第 41 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量

第 42 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 43 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

第 44 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 45 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 46 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量

第 48 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 49 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　にぶい褐色　ロームブロック少量

第 51 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　極暗褐色　ローム粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
5　明　褐　色　ローム粒子中量

第 54 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量

第 62 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量

第 63 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック少量
2　明　褐　色　ローム粒子中量

第 64 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 67 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量

第 68 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子微量

第 69 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　明　褐　色　ローム粒子中量

第 71 号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 73 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 81 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 83 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック中量

第 85 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 86 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　にぶい褐色　ロームブロック中量

第 87 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 88 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
4　黄　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　明　褐　色　ローム粒子多量
6　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
7　明　褐　色　ロームブロック中量

第 89 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
2　明　褐　色　ロームブロック多量

第 92 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 94 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック中量，粘土粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 95 号土坑土層解説
1　明　褐　色　ロームブロック中量，粘土ブロック・炭化粒子微量
2　にぶい褐色　粘土粒子中量，ロームブロック微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　にぶい褐色　ローム粒子中量，粘土粒子少量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，粘土粒子少量

第 96 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 97 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 99 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，白色粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック中量，白色粒子微量
4　明　褐　色　ローム粒子多量

第 100 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　明　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 103 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量

第 104 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子多量

第 107 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量

第 112 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 113 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子多量

第 118 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 124 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 125 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 126 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 128 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

第 129 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

第 131 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 134 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 147 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子多量

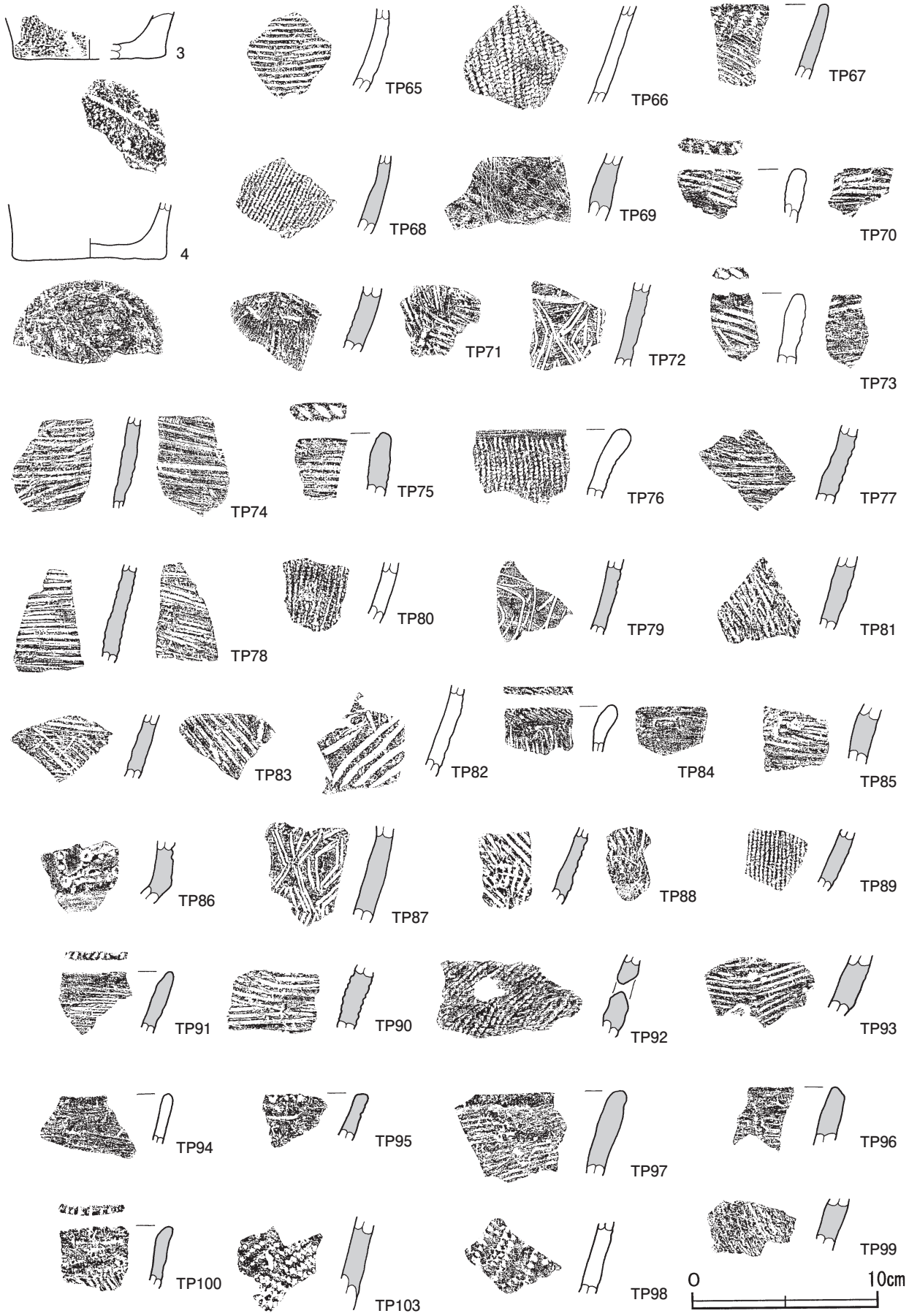
第 150 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 161 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量

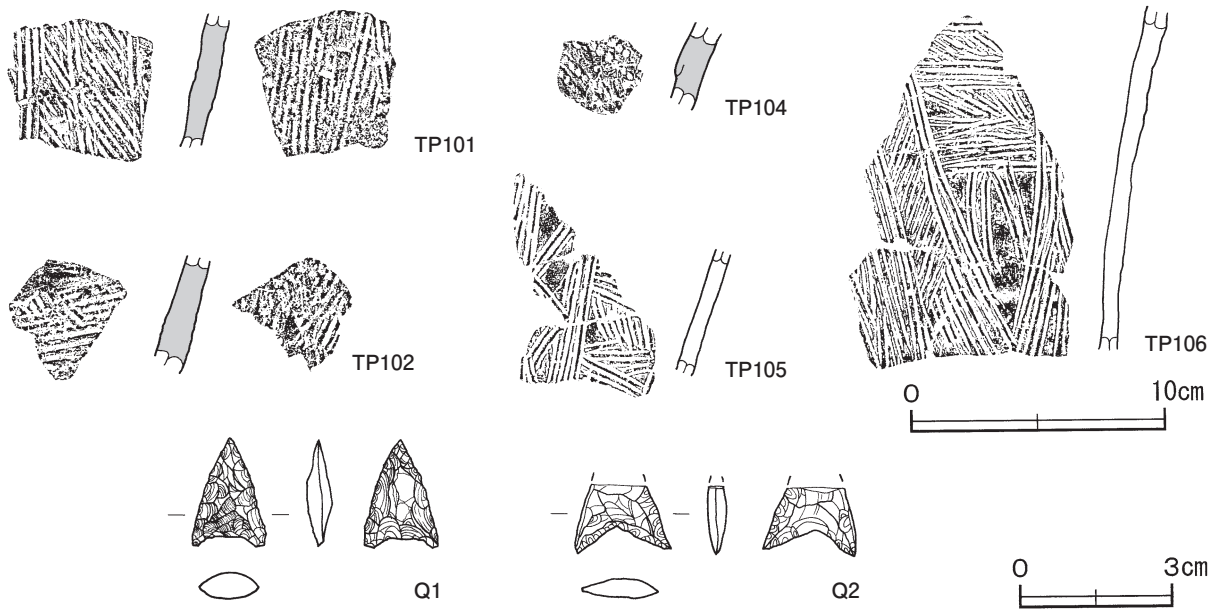
第 164 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 167 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 168 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
4　明　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



第 44 図　その他の土坑出土遺物実測図（1）



第 45 図　その他の土坑出土遺物実測図（2）

第 7 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文 RL を施文	覆土中	前期前半

第 8 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文 RL を施文	覆土中	前期前半 PL24

第 17 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文を施文後，口縁部に単節縄文を押圧	覆土中	早期後半 PL24
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	単節縄文 LR を施文	覆土中	前期前半 PL24

第 19 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	灰赤	普通	斜行沈線文	覆土中	早期 PL24

第 20 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	普通	口唇部キザミ　胴部内・外面貝殻条痕文	覆土中	早期後半
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻沈線文	覆土中	早期

第 22 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄橙	普通	外面貝殻条痕文を地文に沈線を格子状に施文	覆土中	早期前半 PL24

第 23 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部キザミ　胴部外・内面貝殻沈線文を施文	覆土中	早期
TP74	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	灰黄褐	普通	外・内面貝殻沈線文を施文	覆土中	早期

第 30 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP75	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	口唇部キザミ　胴部外面貝殻沈線文を施文	覆土中	早期

第 35 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP76	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	外面縦位の撚糸文を施文	覆土中	早期前半 PL25
TP77	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻沈線文を施文	覆土中	早期

第 36 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP78	縄文土器	深鉢	赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP79	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	外面細い沈線で幾何学的に区画した後，区画内に貝殻腹縁文を施文	覆土中	早期後半 PL25

第 38 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP80	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面縦位の撚糸文を施文	覆土中	早期前半 PL25
TP81	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP82	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	外面斜位の太い凹線文を施文	覆土中	早期後半 PL25

第 41 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP83	縄文土器	深鉢	赤色粒子・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 45 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
3	縄文土器	深鉢	－	(2.4)	[8.2]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部下位撚糸文を施文 底部木葉痕あり	覆土中	早期　５％

第 48 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP84	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口唇部斜位の撚糸文，胴部外面縦位の撚糸文 胴部内面貝殻条痕文	覆土中	早期前半 PL25
TP85	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 51 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP86	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面細い隆帯を格子状に貼り付け，隆帯に刺突文，隆帯交点に竹管状工具にて押圧	覆土中	早期後半
TP87	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文を地文とし，沈線を格子状に施文	覆土中	早期後半 PL25

第 62 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	－	(3.2)	8.0	長石･石英･雲母･赤色粒子	橙	普通	胴部下位ナデ調整 底部なで調整	覆土中	前期ヵ　５％

第 63 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP88	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 67 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP89	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・繊維	橙	普通	外面縦位に撚糸文を施文	覆土中	早期前半 PL25

第 69 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP90	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい橙	普通	外面に貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 71 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP91	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄橙	普通	口唇部キザミ 胴部外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 73 号土坑出土遺物観察表（第 44・45 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP92	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文を地文とし，撚糸文を斜位に施文	覆土中	早期 PL25 補修孔
TP93	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q 1	石鏃	2.1	1.5	0.5	0.94	黒曜石	凹基無茎鏃　両面調整	覆土中	PL28

第 81 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP94	縄文土器	深鉢	長石	にぶい橙	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 83 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP95	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	口縁部外面キザミ 胴部外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 86 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP96	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	外面貝殻復縁文を施文	覆土中	前期 PL25

第 92 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP99	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明赤褐	普通	外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 100 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP100	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	普通	口唇部キザミ 胴部外面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 103 号土坑出土遺物観察表（第 45 図）

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備考
Q 2	石鏃	(1.3)	1.9	0.36	(0.85)	黒曜石	凹基無茎鏃　両面調整　先端部欠損	覆土中	

第 128 号土坑出土遺物観察表（第 45 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP101	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	普通	外面斜位の沈線を施文後，縦位の沈線を施文	覆土中	早期後半 PL25

第 134 号土坑出土遺物観察表（第 45 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	普通	外・内面貝殻条痕文を施文	覆土中	早期

第 141 号土坑出土遺物観察表（第 44 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP103	縄文土器	深鉢	赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	外面単節縄文を羽状構成	覆土中	前期 PL25

第 147 号土坑出土遺物観察表（第 45 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP104	縄文土器	深鉢	赤色粒子・繊維	橙	普通	外面単節縄文 RL を施文	覆土中	前期

第 161 号土坑出土遺物観察表（第 45 図）

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面半截竹管による集合沈線文	覆土中	前期後半 PL25
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面半截竹管による集合沈線文	覆土中	前期後半 PL25

表５　縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模（m） 長径×短径	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備　　考 重複関係（古→新）
6	C２g3	N－18°－W	楕円形	1.94 × 1.33	113	外傾	皿状	自然	縄文土器	
7	C２b7	N－40°－W	楕円形	0.82 × 0.70	76	外傾	皿状	自然	縄文土器	
8	B２f8	N－62°－W	楕円形	1.25 × 1.03	68	外傾	皿状	自然	縄文土器	
9	B３i2	N－56°－W	楕円形	1.18 × 1.05	20	外傾	皿状	人為	縄文土器	
16	B３f2	N－52°－E	楕円形	0.92 × 0.73	20	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
17	B３g5	N－14°－W	楕円形	1.20 × 0.90	73	外傾	皿状	自然	縄文土器	
19	B３d9	N－0°	不定形	2.57 × 2.55	35	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI 35 →本跡
20	B４d3	N－33°－W	不定形	2.20 × 1.88	25	外傾	平坦	自然	縄文土器	
22	B４g1	N－22°－W	不定形	1.00 × 0.82	18	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
23	B３g0	N－69°－W	楕円形	0.73 × 0.50	40	外傾	平坦	自然	縄文土器	
28	B４i1	N－7°－W	楕円形	0.80 × 0.70	20	外傾	皿状	人為	縄文土器	後期前半
30	B４g1	N－30°－W	楕円形	0.80 × 0.65	70	外傾	平坦	自然	縄文土器	
31	B３i0	N－27°－E	楕円形	0.65 × 0.56	6	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
32	B３h0	N－71°－E	隅丸方形	1.30 × 1.30	60	外傾	平坦	自然	縄文土器	
35	C３a0	N－24°－W	楕円形	2.47 × 1.15	42	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
36	B３g0	N－80°－E	隅丸方形	1.70 × 1.54	85	外傾	平坦	人為	縄文土器	
38	B４f3	－	不整円形	2.00 × 2.00	85	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
41	C３a7	N－80°－W	楕円形	1.08 × 0.73	55	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
42	B４e1	N－85°－E	楕円形	0.75 × 0.50	35	外傾	皿状	自然	縄文土器	
43	B３j9	N－72°－E	楕円形	1.00 × 0.80	34	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
44	B４f1	N－20°－E	楕円形	0.73 × 0.50	26	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
45	B３i0	N－24°－E	隅丸方形	1.60 × 1.50	70	外傾	平坦	人為	縄文土器	
46	B４f1	－	円形	0.62 × 0.60	21	外傾	平坦	人為	縄文土器	
48	C３e4	－	円形	0.48 × 0.48	26	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
49	C３d5	N－39°－E	楕円形	1.10 × 0.94	43	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
51	B４j1	N－48°－W	不整楕円形	1.83 × 1.43	40	外傾	平坦	自然	縄文土器	
54	C２c7	N－60°－E	楕円形	0.80 × 0.63	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
62	C２a6	N－32°－W	楕円形	0.76 × 0.68	13	外傾	平坦	自然	縄文土器	
63	C２j6	－	円形	0.60 × 0.58	12	緩斜	皿状	自然	縄文土器	
64	C２j6	N－55°－E	楕円形	0.92 × 0.48	38	外傾	皿状	人為	縄文土器	
67	B３h7	N－2°－W	楕円形	1.34 × 1.20	45	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
68	C３e3	N－0°	楕円形	1.70 × 1.05	38	外傾	皿状	自然	縄文土器	
69	B３f8	N－87°－W	楕円形	0.79 × 0.62	39	緩斜	皿状	自然	縄文土器	

番号	位　置	長軸（径）方向	平面形	規模（m） 長径×短径	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備　　考 重複関係（古→新）
71	B 3 i5	N－51°－E	楕円形	1.86 × 1.17	30	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
73	B 4 h6	N－ 1°－E	楕円形	2.23 × 1.73	18	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
81	C 4 c3	－	［円形］	1.12 ×［1.10］	9	外傾	平坦	自然	縄文土器	本跡→ SK82
83	C 4 c2	N－70°－W	楕円形	0.58 × 0.40	35	外傾	平坦	人為	縄文土器	
85	C 3 d9	N－87°－W	楕円形	1.66 × 1.29	68	外傾	平坦	人為	縄文土器	
86	C 4 c5	－	円形	1.64 × 1.62	62	外傾	平坦	人為	縄文土器	
87	C 4 c4	－	円形	0.85 × 0.82	15	外傾	平坦	自然	縄文土器	
88	C 3 d0	N－58°－E	楕円形	1.38 × 0.94	56	外傾	平坦	人為	縄文土器	
89	C 4 d5	N－16°－W	楕円形	(0.68) × 0.64	23	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
92	C 4 d6	N－61°－W	楕円形	1.26 × 1.11	43	緩斜	平坦	人為	縄文土器	
94	B 4 j9	－	不整円形	1.50 × 1.23	70	外傾	皿状	人為	縄文土器	
95	B 4 j7	－	不整円形	1.05 × 1.03	54	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
96	C 4 c7	－	円形	0.97 × 0.95	17	外傾	平坦	自然	縄文土器	
97	C 4 b8	N－80°－W	楕円形	0.73 × 0.51	23	外傾	平坦	自然	縄文土器	
99	C 4 b9	N－58°－E	楕円形	0.95 × 0.80	74	外傾	椀状	人為	縄文土器	
100	C 4 b9	N－20°－E	［楕円形］	［1.43］× 1.19	57	外傾	平坦	人為	縄文土器	
103	B 4 j3	N－26°－E	楕円形	2.10 × 1.67	45	外傾	平坦	人為	縄文土器	
104	C 3 d9	－	円形	0.27 × 0.27	30	外傾	椀状	自然	縄文土器	
107	C 3 d9	N－38°－W	不整楕円形	0.97 × 0.36	5	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
112	C 3 d9	N－58°－W	楕円形	0.94 × 0.76	10	外傾	皿状	人為	縄文土器　剥片	早期後半
113	C 4 e1	－	円形	0.35 × 0.34	27	外傾	椀状	人為	縄文土器	
114	C 4 d2	N－35°－E	楕円形	0.30 × 0.26	40	外傾	椀状	－	縄文土器	
118	C 3 d0	－	円形	0.29 × 0.27	12	外傾	椀状	自然	縄文土器	
124	C 2 b2	N－65°－E	楕円形	［0.65］× 0.43	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器	本跡→ SK123
125	C 4 b3	－	円形	0.42 × 0.42	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
126	C 4 a3	N－36°－W	楕円形	0.43 × 0.36	10	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
128	B 4 j3	N－23°－E	不整楕円形	0.72 × 0.50	14	外傾	平坦	自然	縄文土器	
129	C 3 d9	N－84°－W	楕円形	1.02 × 0.44	8	外傾	皿状	自然	縄文土器	
131	B 4 j4	－	円形	0.65 × 0.63	12	緩斜	皿状	人為	縄文土器	
134	B 4 j4	N－74°－W	［楕円形］	0.85 ×（0.27）	12	緩斜	平坦	自然	縄文土器	
141	C 4 d4	N－34°－W	楕円形	0.44 × 0.37	24	外傾	椀状	－	縄文土器	
147	C 4 d5	N－69°－E	楕円形	0.85 × 0.73	19	緩斜	椀状	自然	縄文土器	本跡→ SK148
150	C 4 c5	N－85°－W	楕円形	0.45 × 0.37	22	外傾	平坦	人為	縄文土器	
155	C 4 c5	N－14°－E	楕円形	0.78 × 0.44	12	緩斜	平坦	－	縄文土器	
161	C 4 c6	N－80°－E	楕円形	(1.00) × 0.75	24	緩斜	平坦	人為	縄文土器	本跡→ SK160
164	B 3 f1	N－26°－W	楕円形	［1.46］× 0.81	15	緩斜	平坦	自然	縄文土器	SI 15 →本跡
167	C 2 a7	－	［楕円形］	(0.92) × 0.31	20	外傾	皿状	自然	縄文土器	本跡→ SK165
168	C 2 b6	N－41°－W	不整楕円形	1.79 × 0.90	56	外傾	平坦	自然	縄文土器	

2　弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は竪穴住居跡 24 軒が確認されている。以下，検出した遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第 1 号住居跡（第 46 図）

位置　調査区西部のＢ２i4 区，標高 16.9 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 34 号土坑に掘り込まれている。

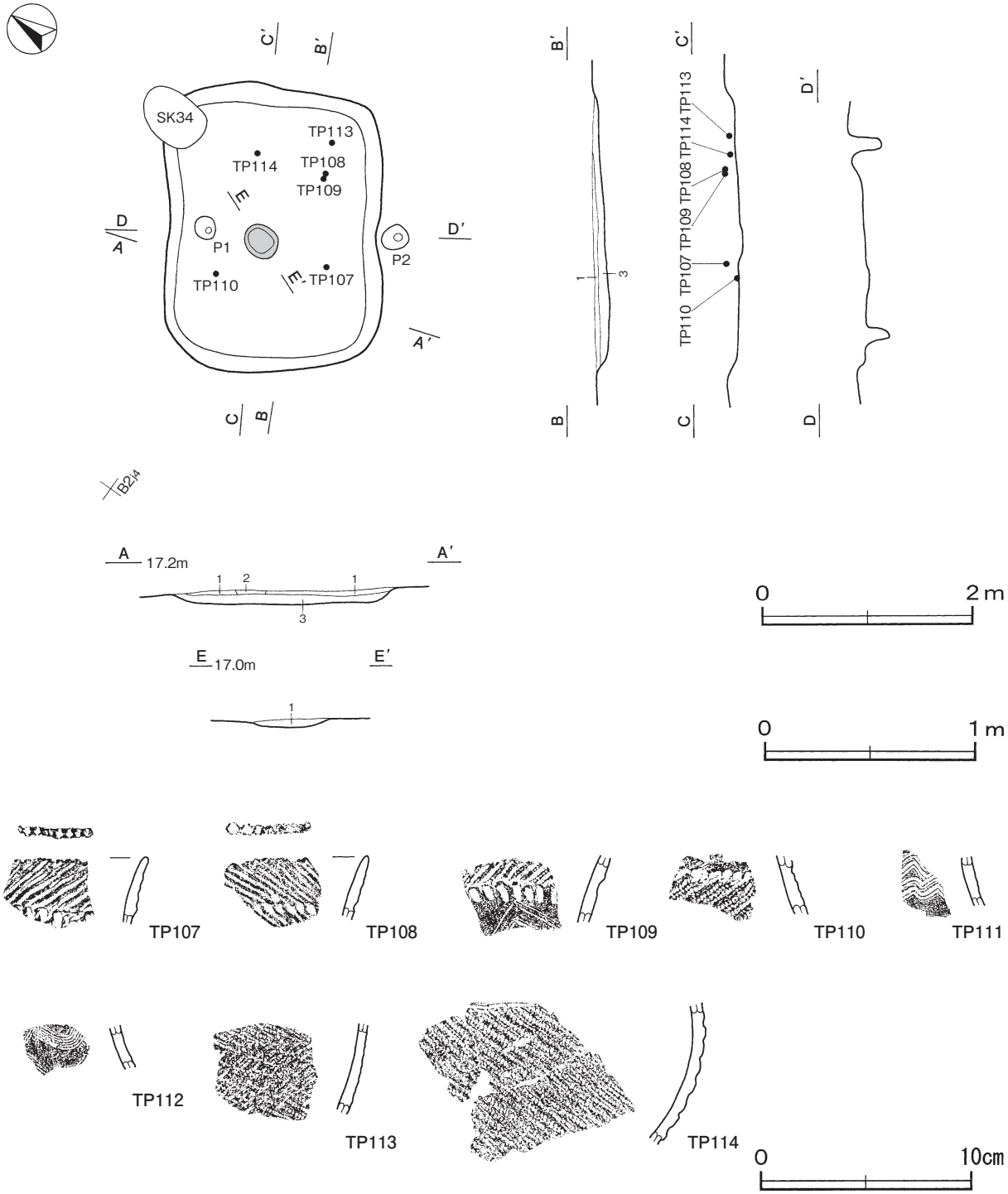
規模と形状　長軸 2.76 m，短軸 2.06 mの隅丸長方形で，長軸方向はN－54°－Eである。壁高は 10cm ほどで，緩斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　ほぼ中央部に付設されている地床炉である。径 32cm ほどの円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量



第 46 図　第 1 号住居跡・出土遺物実測図

ピット　２か所。Ｐ１・２は深さ 22cm・30cm で，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗赤褐色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
3　明　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　弥生土器片 16 点（壺類）が出土している。TP114 は北部の覆土中層，TP108・109・113 は東部の覆土中層，TP112 は東部の覆土中，TP107 は南部の覆土中層，TP110 は西部の床面，TP111 は西部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半である。

第１号住居跡出土遺物観察表（第 46 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP107	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口唇部縄文原体押圧 口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文 下端縄文原体押圧	中層	後期後半 PL26
TP108	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部縄文原体押圧 口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文 中位に縄文原体押圧	中層	後期後半
TP109	弥生土器	壺	長石・石英	灰黄褐	普通	胴部上位附加条一種（附加２条）の縄文を施文 下位７本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた山形文を施文 中位棒状工具を用いた刺突文を施文	中層	後期後半 PL26
TP110	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	頸部上位４本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた文様を施文 下位附加条一種（附加２条）の縄文を施文 中位縄文原体押圧	床面	後期後半
TP111	弥生土器	壺	長石・雲母	にぶい褐	普通	頸部５本単位の櫛歯状工具を用いた山形文（上段）と波状文（下段）を施文	覆土中	後期後半 PL26
TP112	弥生土器	壺	長石・雲母	にぶい褐	普通	頸部６本単位の櫛歯状工具を用いた連弧文を施文 下位３本以上の単位の櫛歯状工具を用いた文様を施文	覆土中	後期後半
TP113	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	灰黄褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	中層	後期後半
TP114	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，横位の沈線を施文	中層	後期後半

第２号住居跡（第 47 図）

位置　調査区西部中央寄りのＣ２a4 区，標高 16.9 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 5.28 m，短軸 3.70 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 31°－Ｅである。壁高は 12 ～ 20cm で，緩斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。壁際と中央部で焼土が確認できた。

炉　中央部やや北寄りに付設されている地床炉である。長径 44cm，短径 38cm の不整楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

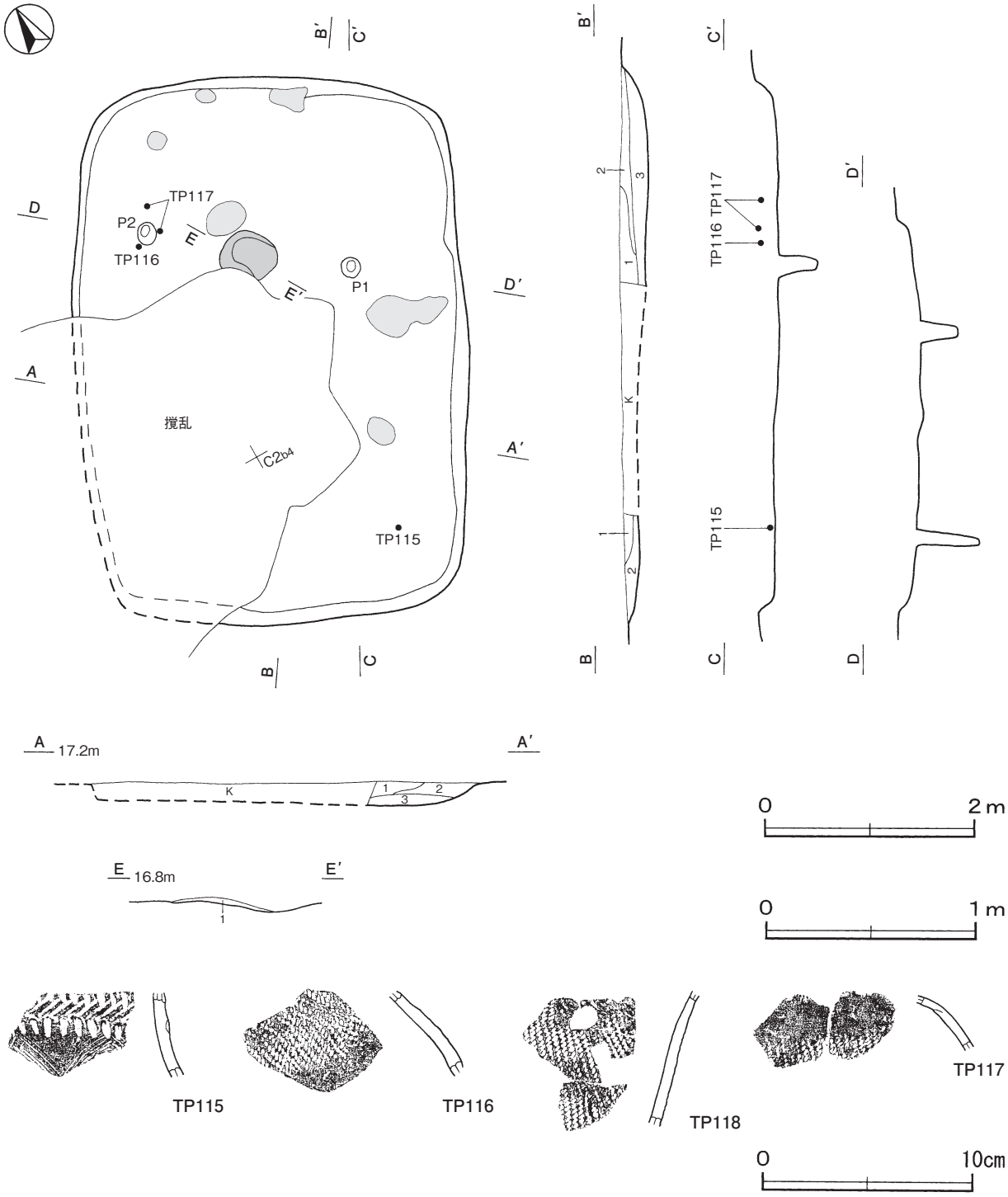
ピット　２か所。Ｐ１は深さ 38cm，Ｐ２は深さ 61cm で，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片 18 点（壺類）が出土している。TP115 は南東部の覆土下層，TP116・TP117 は北西部の覆土中層，TP118 は北西部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半である。また，床面から焼土が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第 47 図　第２号住居跡・出土遺物実測図

第２号住居跡出土遺物観察表（第 47 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP115	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	普通	頸部上位附加条一種（附加２条）の縄文を施文 下位８本以上の櫛歯状工具を用いた山形文を施文後，棒状工具を用いた刺突文を２段に施文	下層	後期後半 PL26
TP116	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	胴部上位単節縄文 RL を施文 下位無文帯	中層	後期後半
TP117	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部下位単節縄文 RL を施文後，上位無文帯	中層	後期後半
TP118	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部単節縄文 RL を施文	覆土中	後期後半

第４号住居跡（第 48・49 図）

位置　調査区西部のＣ２a2 区，標高 16.8 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.00 m，短軸 2.44 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 25°－Ｅである。壁高は８～ 20cm で，緩斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。中央部から西部にかけて焼土が確認できた。

炉　２か所。炉１は中央部北西寄りに付設されている地床炉で，径 40cm ほどの円形である。炉２は中央部南寄りに付設されている地床炉で，長径 36cm，短径 30cm の楕円形である。どちらも床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉１土層解説
１　暗 赤 褐 色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量

炉２土層解説
１　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子少量

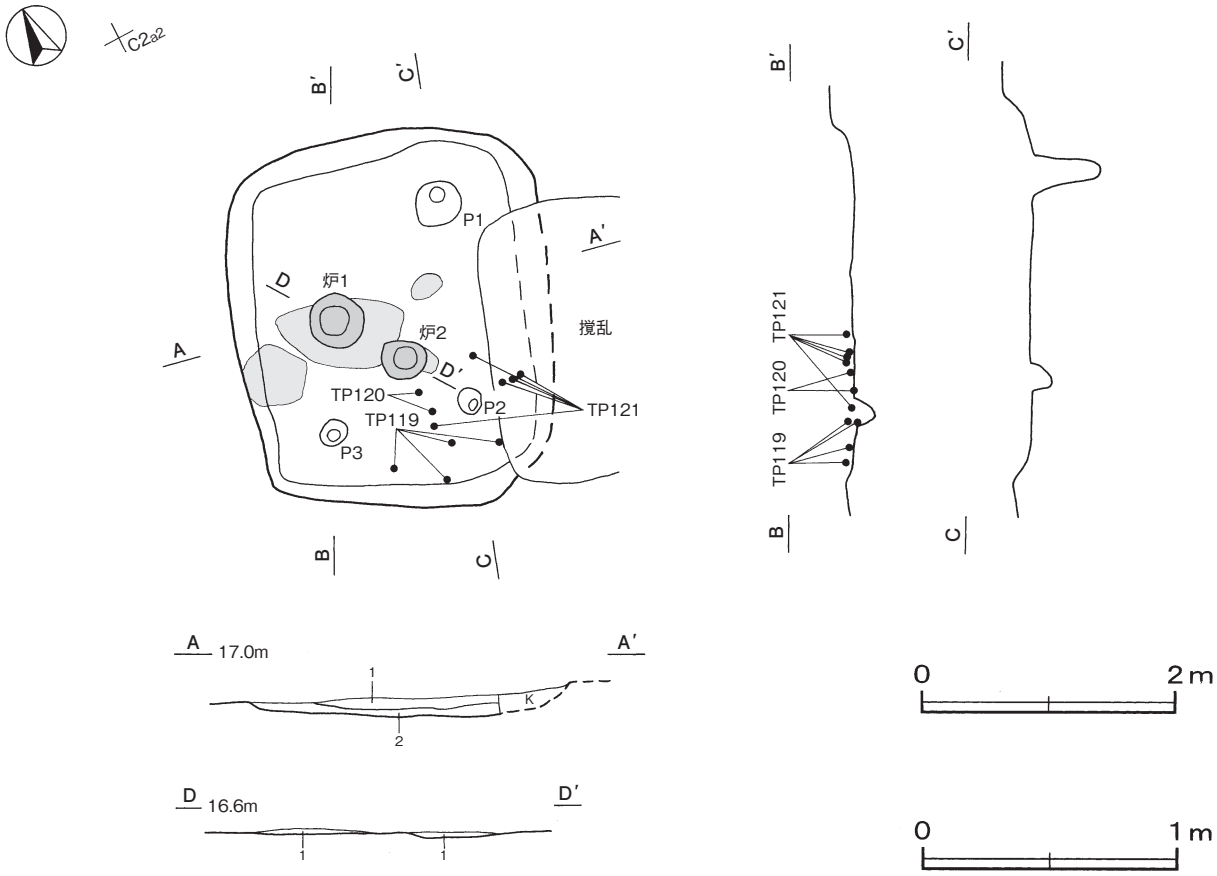
ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ９～ 48cm で，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
１　黒　褐　色　ローム粒子微量　　２　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片 14 点（壺類），剥片４点が出土している。TP119 ～ TP121 は南東部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半である。また，床面から焼土が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第 48 図　第４号住居跡実測図

第 49 図　第４号住居跡出土遺物実測図

第４号住居跡出土遺物観察表（第 49 図）

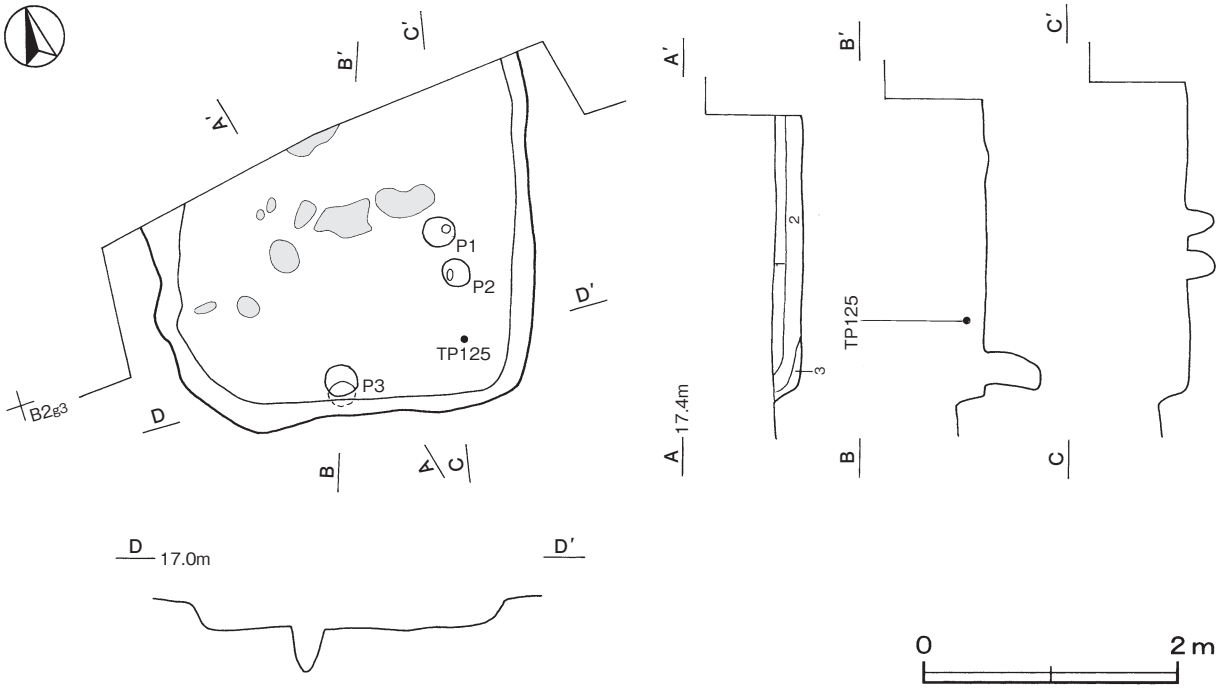
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP119	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部８本の櫛歯状工具を用いた連弧文を３段に施文	下層	後期後半 PL26
TP120	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	頸部上位に棒状工具を用いた刺突文施文 中～下位に８本の櫛歯状工具を用いた連弧文を２段に施文	下層	後期後半
TP121	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	頸部８本の櫛歯状工具を用いた連弧文を２段に施文 胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	下層	後期後半 PL26

第６号住居跡（第 50・51 図）

位置　調査区北西部のＢ２f3 区，標高 16.7 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　北部が調査区域外に延びているため，東西軸は 3.10 ｍ，南北軸は 2.46 ｍしか確認できなかった。形状は長方形と推測でき，南北軸方向はＮ－ 20°－Ｅである。壁高は 20cm ほどで，直立している。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。中央部で焼土が散乱した状態で確認できた。



第 50 図　第６号住居跡実測図

ピット　３か所。Ｐ３は深さ 40cm で，南壁際中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１・２は深さ 19cm・20cm で性格は不明である。

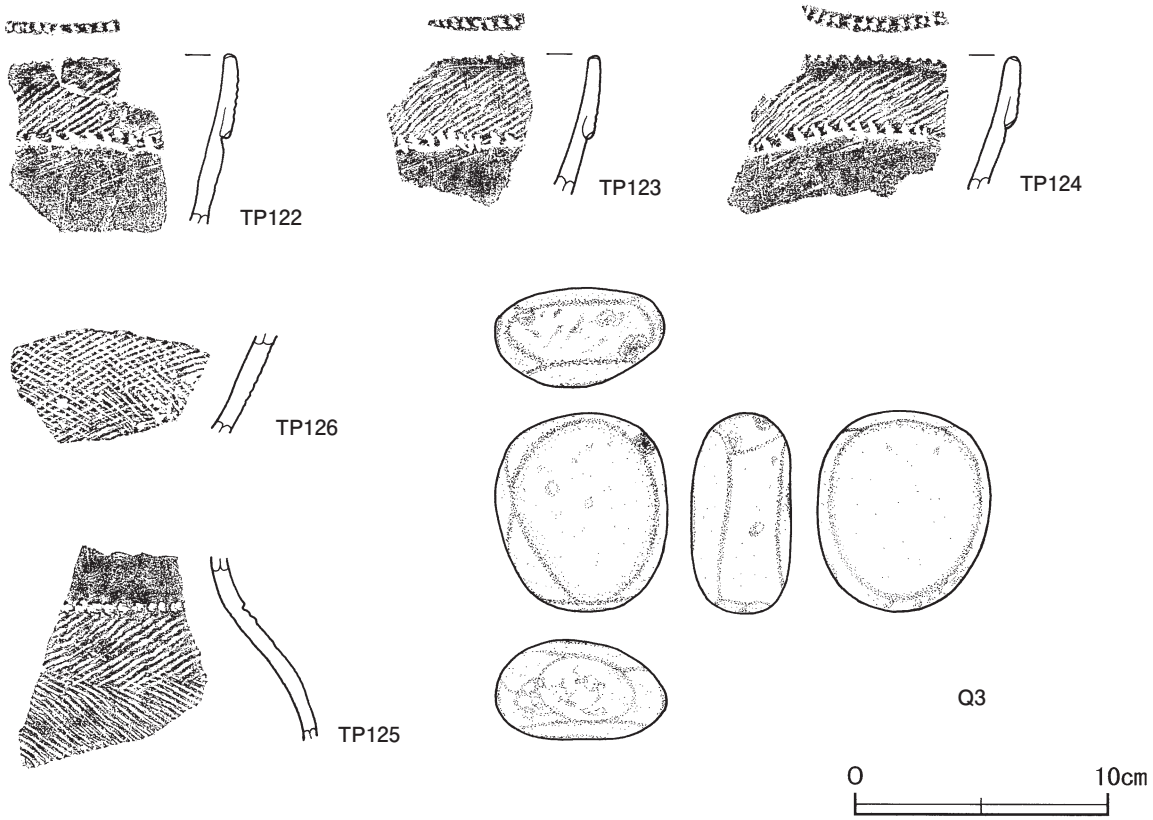
覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片 33 点（壺類），石器１点（磨石），剥片５点が出土している。TP125 は南東部の下層，TP122 ～ TP124・TP126，Ｑ３は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半である。また，床面から焼土が確認されていることから，焼失住居の可能性がある。



第 51 図　第６号住居跡出土遺物実測図

第６号住居跡出土遺物観察表（第 51 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP122	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	複合口縁 口唇部縄文原体押圧 口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，段の下端に縄文原体押圧 頸部無文帯	覆土中	早期前半 PL26
TP123	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	普通	複合口縁 口唇部縄文原体押圧 口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，段の下端に縄文原体押圧 頸部無文帯	覆土中	後期後半
TP124	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	普通	複合口縁 口唇部縄文原体押圧 口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，段の下端に縄文原体押圧 頸部無文帯	覆土中	後期後半 PL26
TP125	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	頸部無文帯 胴部附加条一種（附加２条）の縄文羽状に施文し，上位棒状工具の刺突文を施文	下層	後期後半 PL26
TP126	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい黄褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽条に施文	覆土中	後期後半 PL26

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ３	磨石	7.8	6.8	3.9	313.1	安山岩	全面研磨	覆土中	PL28

第７号住居跡（第 52・53 図）

位置　調査区西部寄りのＢ２h4 区，標高 16.8 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.54 m，短軸 2.52 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 53°－Ｅである。壁高は８～ 14cm で，緩斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部に硬化面が認められる。中央部や壁際で焼土や炭化材が確認できた。

炉　中央部に付設されている地床炉である。長径 46cm，短径 37cm の楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

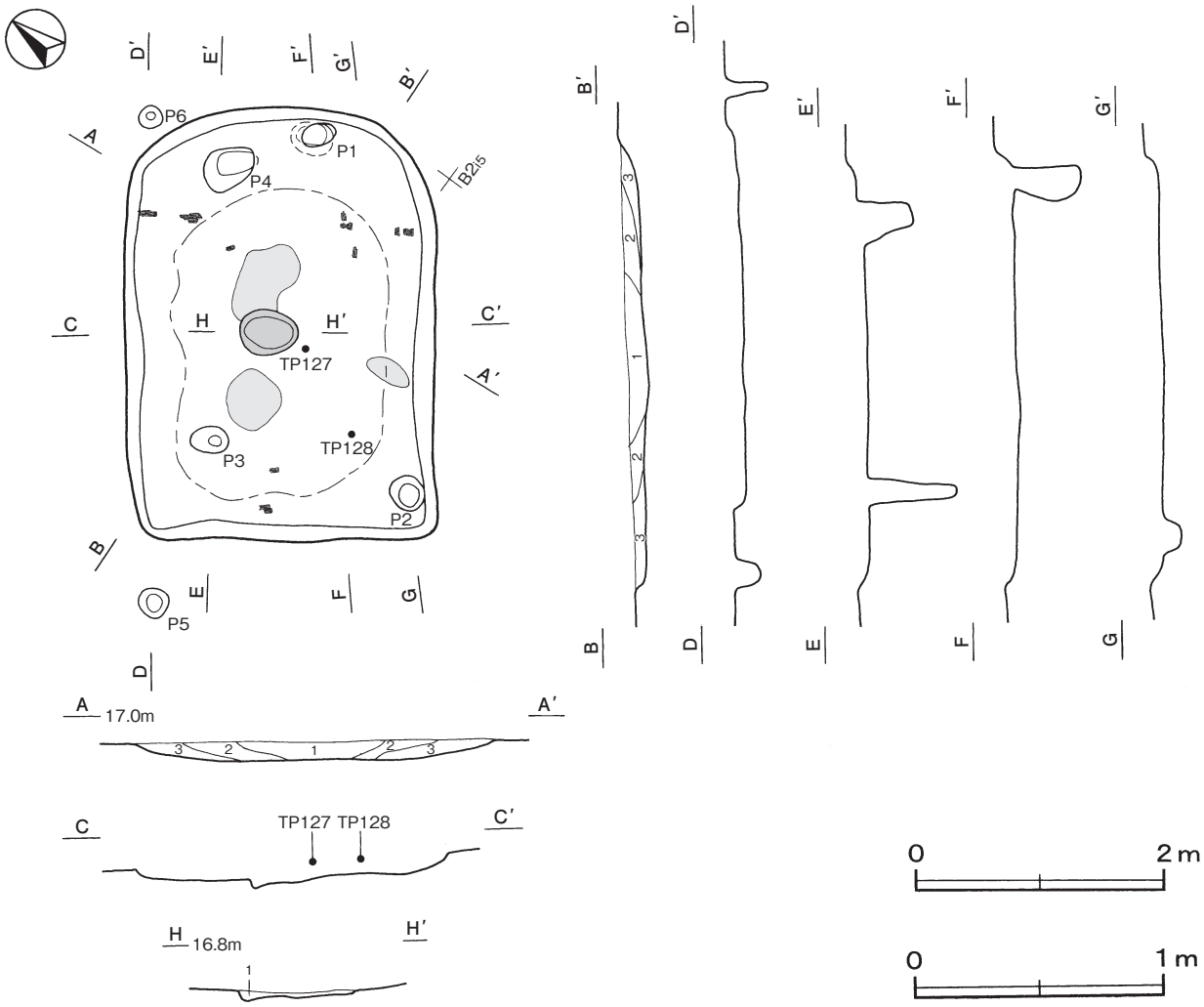
炉土層解説
1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は深さ 16～71cm で，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５・６は深さ 21cm･36cm で，壁外に位置しているが，上屋を支えた補助柱穴と考えられる。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片 10 点（壺類）が出土している。TP127 は中央部の覆土中層，TP128 は南東部の覆土中層，TP129 は覆土中から出土している。



第 52 図　第７号住居跡実測図

所見　時期は，出土土器から後期後半である。また，床面から焼土や炭化材が確認されていることから，焼失住居の可能性がある。

第53図　第７号住居跡出土遺物実測図

第７号住居跡出土遺物観察表（第53図）

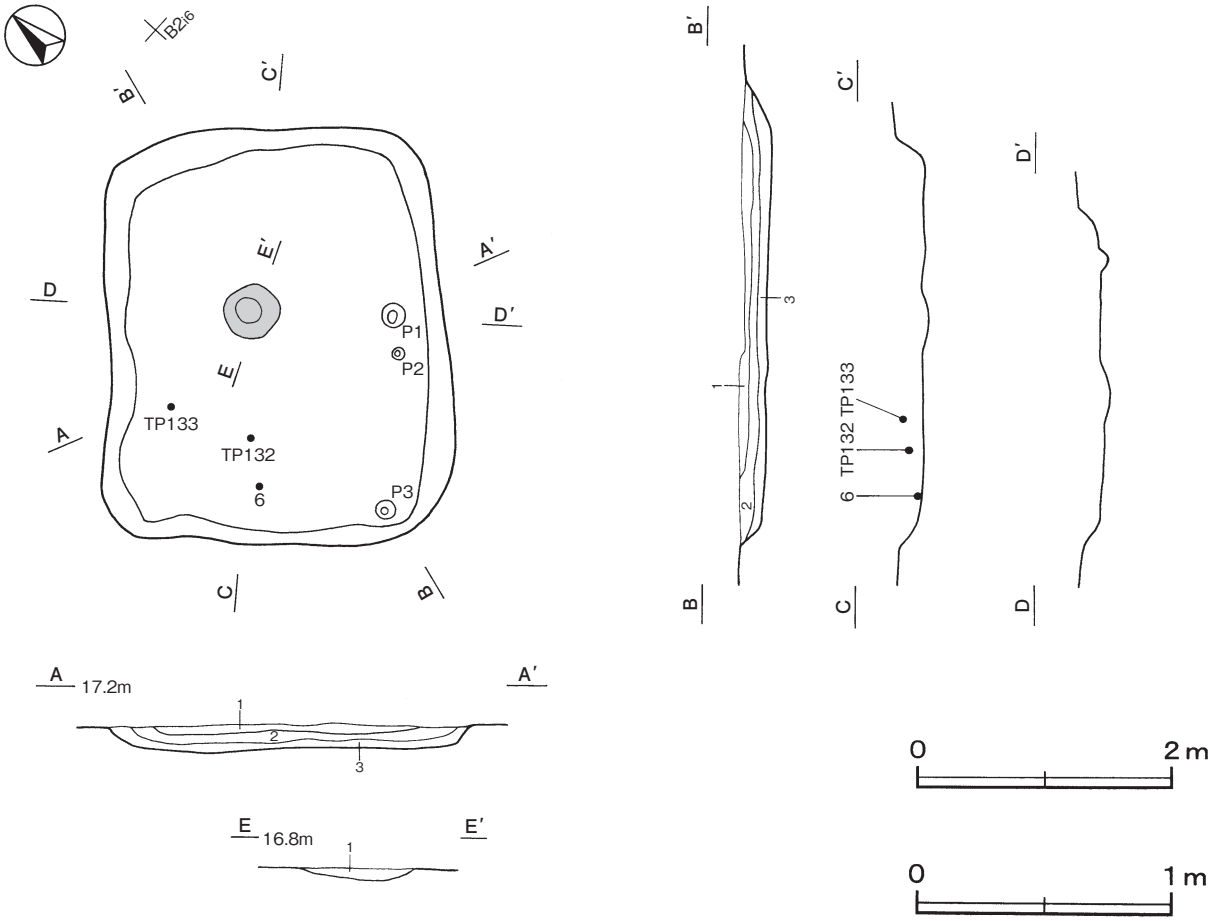
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP127	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	頸部５本単位の櫛歯状工具を用いた山形文を２段に施文	中層	後期後半
TP128	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部単節縄文ＲＬを施文	中層	後期後半
TP129	弥生土器	壺	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	覆土中	後期後半

第８号住居跡（第54・55図）

位置　調査区西部のＢ２i5区，標高16.9ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.32ｍ，短軸2.76ｍの長方形で，長軸方向はＮ－47°－Ｅである。壁高は15～23cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は認められない。



第54図　第８号住居跡実測図

炉　中央部に付設されている地床炉である。径 45cm ほどの円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量

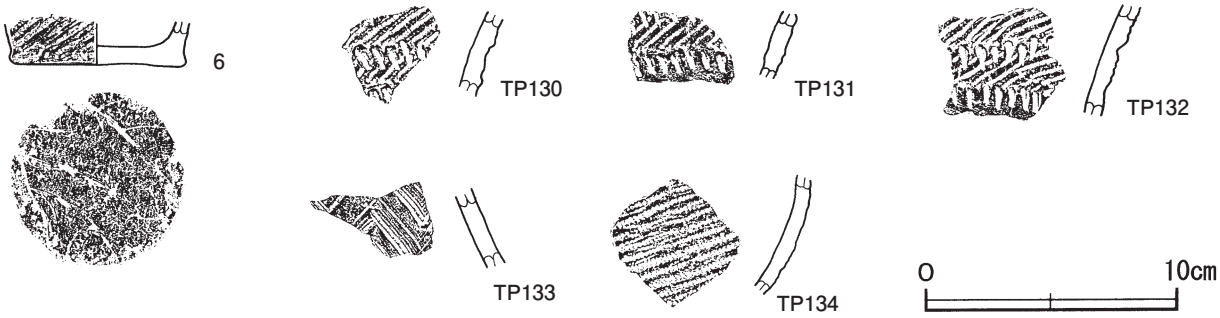
ピット　３か所。Ｐ１・２は深さ８cm・10cm で，南東壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ３は深さ 32cm で性格は不明である。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　弥生土器片 20 点（壺類）が出土している。６は南西部の覆土下層，TP132 は南西部の覆土中層，TP133 は北西部の覆土中層，TP130・TP131・TP134 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半である。



第 55 図　第８号住居跡出土遺物実測図

第８号住居跡出土遺物観察表（第 55 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
6	弥生土器	壺	－	(1.8)	7.0	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	下層	後期後半 10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP130	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	頸部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，棒状工具を用いた刺突文を２段に施文	覆土中	後期後半
TP131	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	頸部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，棒状工具を用いた刺突文を２段に施文	覆土中	後期後半
TP132	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	頸部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，棒状工具を用いた刺突文を２段に施文	中層	後期後半 PL26
TP133	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	頸部６本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた山形文を施文	中層	後期後半
TP134	弥生土器	壺	長石・石英・赤色粒子	暗褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	覆土中	後期後半

第９号住居跡（第 56・57 図）

位置　調査区西部のＢ２i7 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 22 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 4.60 m，短軸 4.20 mの方形で，長軸方向はＮ－ 36°－Ｅである。壁高は 24 ～ 30cm で，外傾して立ち上がっている。

床　中央部に向かって若干傾斜している。硬化面は認められない。中央部から壁際にかけて焼土と炭化材が確認できた。

炉　２か所。炉１は西部中央寄りに付設されている地床炉で，長径 72cm，短径 42cm の楕円形である。炉２は中央部南寄りに付設されている地床炉で，径 34cm ほどの円形である。どちらも床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉１土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量
2　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

炉２土層解説

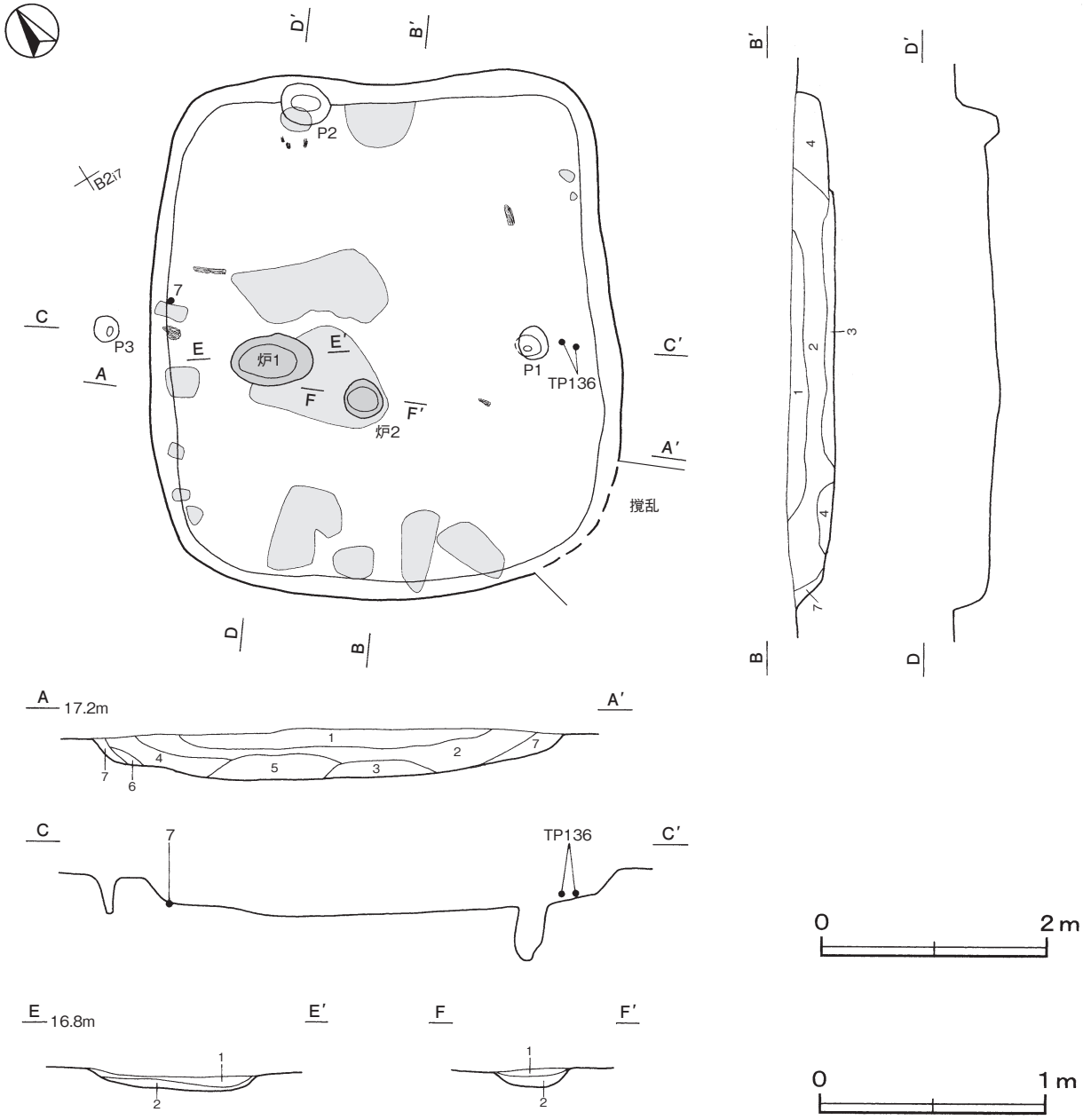
1　極暗赤褐色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

ピット　３か所。Ｐ１・３は深さ 52cm･34cm で，主柱穴と考えられる。Ｐ２は深さ 17cm で性格は不明である。

覆土　７層に分層できる。炭化材や焼土が混入した不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
5　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
6　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量



第 56 図　第９号住居跡実測図

遺物出土状況　弥生土器片 19 点（壺類）が出土している。TP136 は東部の覆土下層，TP135 は南東部の覆土中，７は北西部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半である。また，床面から焼土や炭化材が確認されていることから焼失住居の可能性がある。

第 57 図　第９号住居跡出土遺物実測図

第９号住居跡出土遺物観察表（第 57 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
7	弥生土器	壺	－	(3.2)	[6.8]	長石・石英	橙	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	下層	後期後半 ５％

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP135	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	頸部４本単位の櫛歯状工具を用いた波状文と山形文を施文後，棒状工具を用いた刺突文を施文	覆土中	後期後半
TP136	弥生土器	壺	長石・石英	明赤褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	下層	後期後半 PL26

第 10 号住居跡（第 58 図）

位置　調査区西部のＢ２j9 区，標高 17.1 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第５号炉穴，第２号炉跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.35 m，短軸 2.60 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 45°－Ｅである。壁高は 20 ～ 25cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，硬化面は認められない。中央部と壁際で焼土と炭化材が確認できた。

炉　中央部の北西寄りに付設されている地床炉である。長径 53cm，短径 40cm の楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量

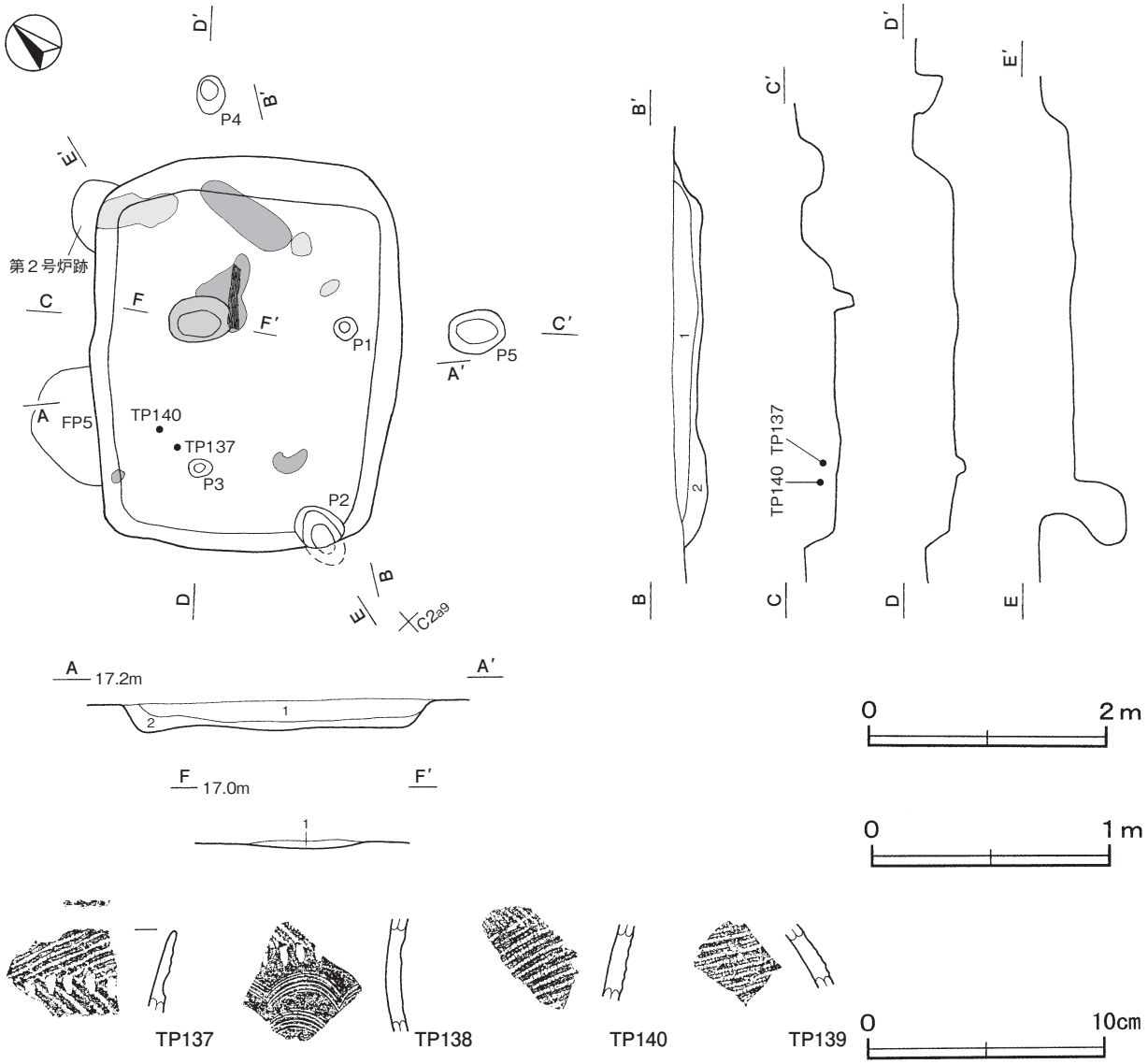
ピット　５か所。Ｐ３・４は深さ 10cm・22cm で，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１は深さ 18cm で，南東壁の壁際に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ５は深さ 20cm で，壁外に位置しているが，上屋を支えた補助柱穴と考えられる。Ｐ２は深さ 46cm で性格は不明である。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片９点（壺類）が出土している。TP137・TP140 は西部の覆土中層，TP138・TP139 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。また，床面から焼土や炭化材が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第 58 図　第 10 号住居跡・出土遺物実測図

第 10 号住居跡出土遺物観察表（第 58 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP137	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	黒褐	普通	頸部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文後，棒状工具を用いて刺突文を施文	中層	後期後半 PL26
TP138	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	頸部上位附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，棒状工具を用いて刺突文を施文 ６本単位の櫛歯状工具を用いた波状文を施文	覆土中	後期後半 PL26
TP139	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	覆土中	後期後半
TP140	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	中層	後期後半

第 11 号住居跡（第 59 図）

位置　調査区西部のＢ２h8 区，標高 16.8 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 37 号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 2.80 m，短軸 2.40 mの隅丸長方形で，長軸方向はＮ－ 50°－Ｅである。壁高は８～ 10cm で，緩斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，中央部に硬化面が認められる。北部から西部にかけて焼土と炭化材が確認できた。

炉　北西部に付設されている地床炉である。径 42cm ほどの円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

ピット　３か所。Ｐ３は深さ 11cm で，北東部の壁際に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ１・２は深さ 42cm・30cm で，性格は不明である。

貯蔵穴　北東コーナー部に付設されている。長径 58cm，短径 52cm の楕円形で，深さ 20cm である。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。

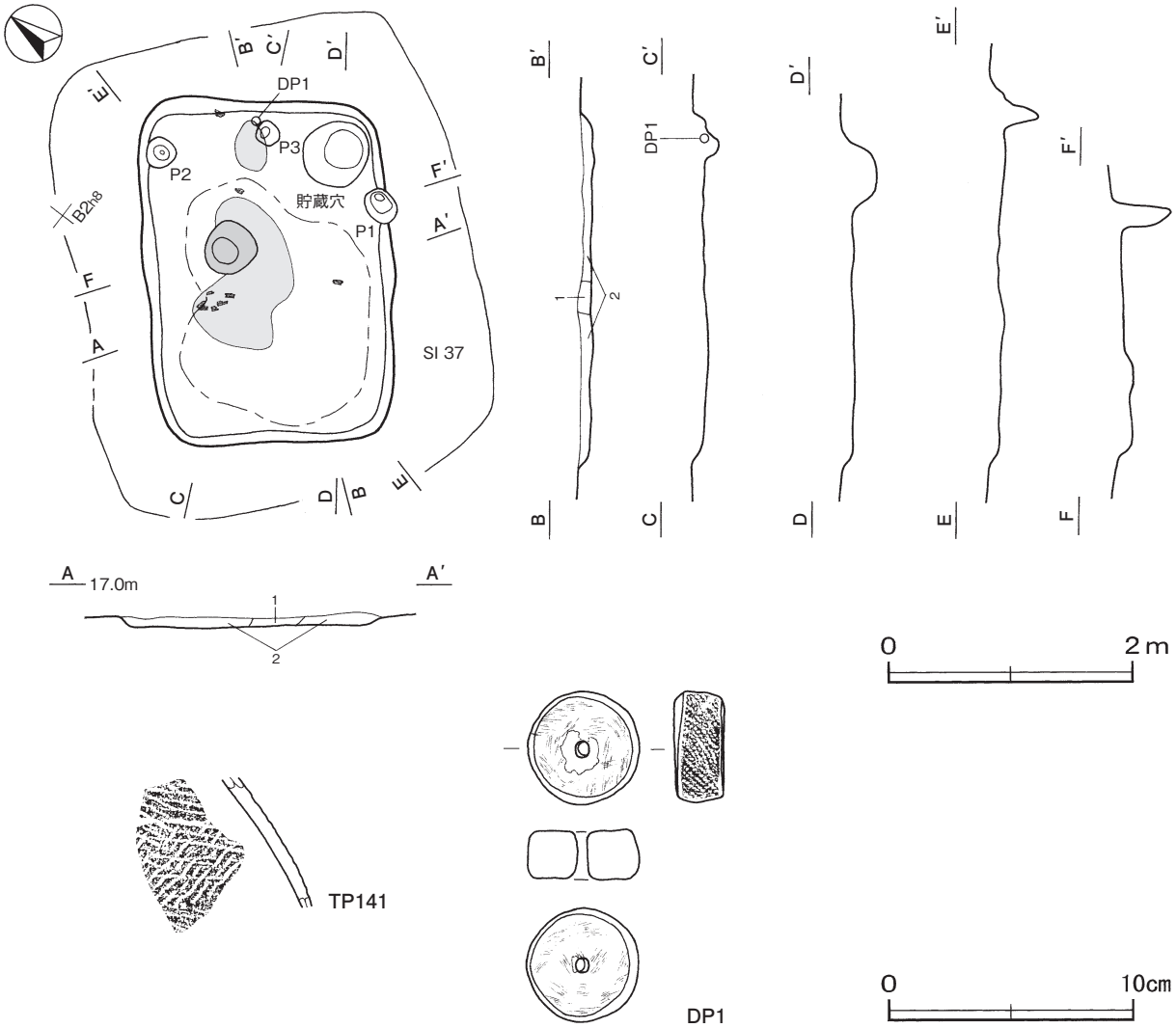
覆土　２層に分層できる。焼土のブロックや粒子を含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1　極 暗 褐 色　焼土粒子・炭化物少量，ローム粒子微量，締まり強　　2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，締まり強

遺物出土状況　弥生土器片８点（壺類），土製品１点（紡錘車）が出土している。DP １は北部Ｐ３付近の覆土下層，TP141 は貯蔵穴内の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。また，床面から焼土と炭化材が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第 59 図　第 11 号住居跡・出土遺物実測図

第 11 号住居跡出土遺物観察表（第 59 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP141	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	貯蔵穴内覆土中	後期後半

番号	種別	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP1	紡錘車	4.6	2.1	0.6	55.1	粘土	片面穿孔 側面附加条一種（附加２条）の縄文を施文	下層	PL28

第 12 号住居跡（第 60・61 図）

位置　調査区北西部のＢ２f0 区，標高 16.9 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.32 m, 短軸 2.92 mの隅丸長方形で, 長軸方向はＮ－ 31°－Ｅである。壁高は 22 ～ 28cm で, 外傾して立ち上がっている。

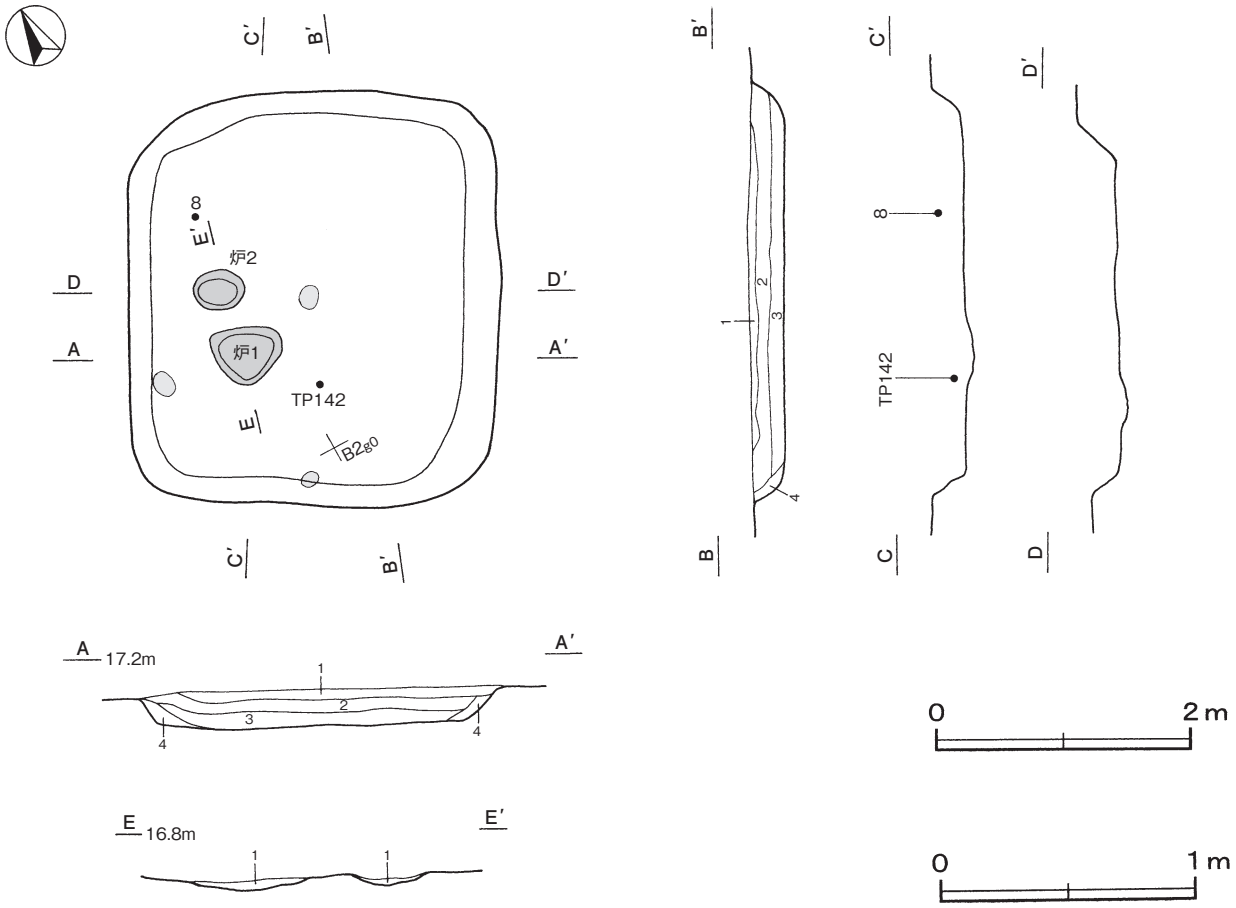
床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。中央部と壁際で焼土が確認できた。

炉　２か所。炉１は西部南寄りに付設されている地床炉で，長径 56cm，短径 45cm の楕円形である。炉２は西部北寄りに付設されている地床炉で, 長径 40cm, 短径 30cm の楕円形である。どちらも床面を若干掘り込み, 炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉１土層解説
1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量

炉２土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。



第 60 図　第 12 号住居跡実測図

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量
4　褐　　色　ローム中量

遺物出土状況　弥生土器片３点（壺類）が出土している。TP142 は中央部南寄りの覆土中層，８は北壁コーナー部の覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。また，床面から焼土が確認されていることから焼失住居の可能性がある。

第 61 図　第 12 号住居跡出土遺物実測図

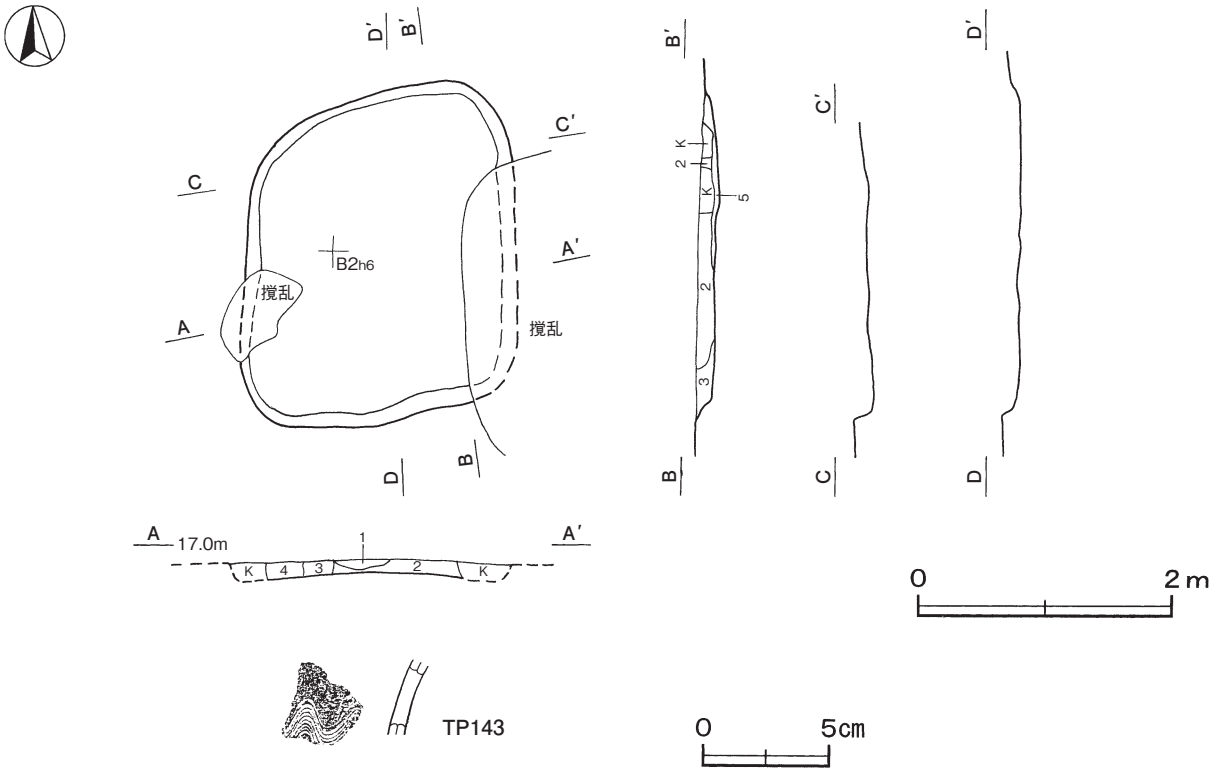
第 12 号住居跡出土遺物観察表（第 61 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
8	弥生土器	壺	－	(8.5)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	胴部下端ナデ	上層	後期後半 5％

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP142	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	中層	後期後半

第 13 号住居跡（第 62 図）

位置　調査区西部のＢ２h6 区，標高 16.9 ｍの台地平坦部に位置している。



第 62 図　第 13 号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状　長軸 2.66 m，短軸 2.12 mのやや歪んだ隅丸長方形で，長軸方向はN－2°－Wである。壁高は7～15cm で，緩斜して立ち上がっている。

床　平坦で，硬化面は認められない。

覆土　５層に分層できる。ブロック状の含有物が堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量
5　明　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　弥生土器片 20 点（壺類）が出土している。TP143 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。

第 13 号住居跡出土遺物観察表（第 62 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP143	弥生土器	壺	長石・雲母	にぶい黄褐	普通	頸部９本単位の櫛歯状工具を用いた波状文を施文	覆土中	後期後半

第 14 号住居跡（第 63・64 図）

位置　調査区北西部のＢ２f8 区，標高 17.3 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　北部が調査区域外に延びているため，東西軸は 3.62 mで，南北軸は 1.28 mしか確認できなかった。形状は長方形もしくは方形と推測でき，南北軸方向はN－6°－Wである。壁高は 35～50cm で，直立している。

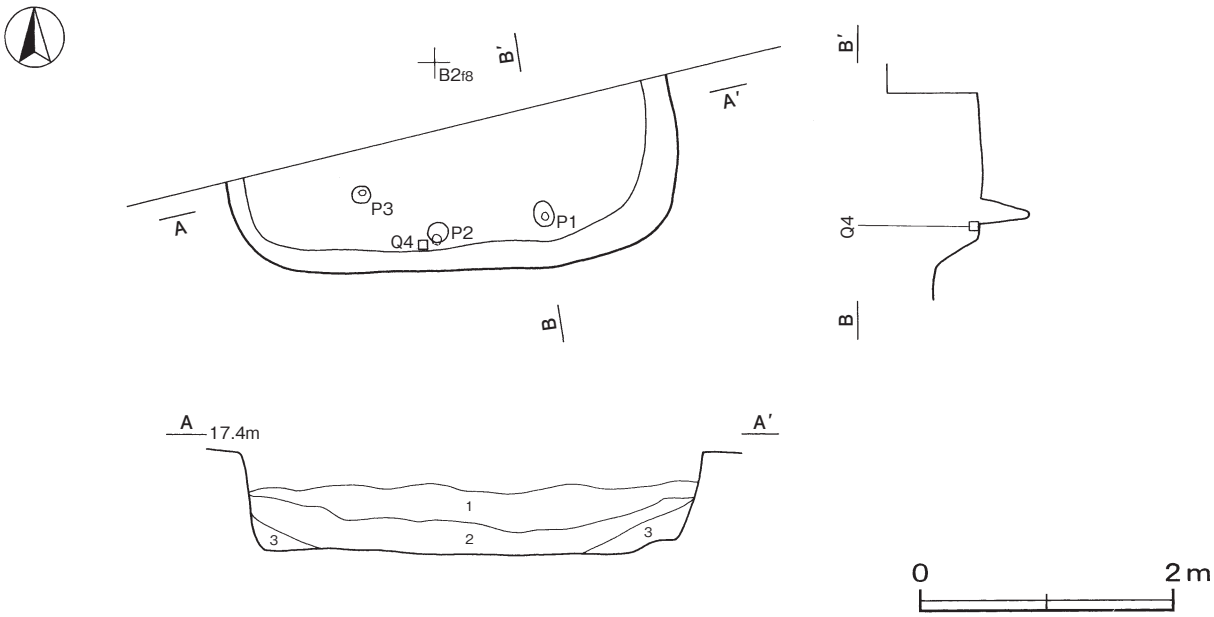
床　ほぼ平坦であり，硬化面は認められない。

ピット　３か所。Ｐ１・３は深さ 30cm・28cm で，配置から柱穴と考えられる。Ｐ２は深さ 40cm で，南壁際中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　３層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

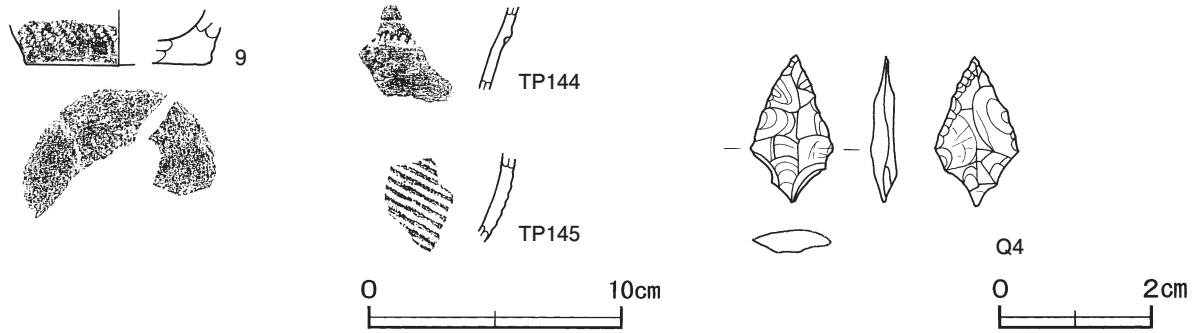
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量



第 63 図　第 14 号住居跡実測図

遺物出土状況　弥生土器片８点（壺類），石器１点（石鏃），剥片１点が出土している。Ｑ４は南部壁際の覆土下層，９・TP144・TP145 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。



第 64 図　第 14 号住居跡出土遺物実測図

第 14 号住居跡出土遺物観察表（第 64 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
9	弥生土器	壺	－	(2.1)	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部下端附加条一種（附加２条）の縄文を施文	覆土中	後期後半 ５％

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP144	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい赤褐	普通	頸部棒状工具を用いた刺突文を施文	覆土中	後期後半 PL27
TP145	弥生土器	壺	長石・石英	褐灰	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	覆土中	後期後半

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ４	石鏃	1.9	1.1	0.4	7.4	チャート	押圧剥離による両面調整 凸基有茎鏃	下層	PL28

第 16 号住居跡（第 65 図）

位置　調査区中央部のＢ３i2 区，標高 17.2 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 31 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.40 m，短軸 2.90 mの隅丸長方形で，長軸方向はN－34°－Wである。壁高は６～10cm で，緩斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　中央部に付設されている地床炉である。長径 44cm，短径 34cm の楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

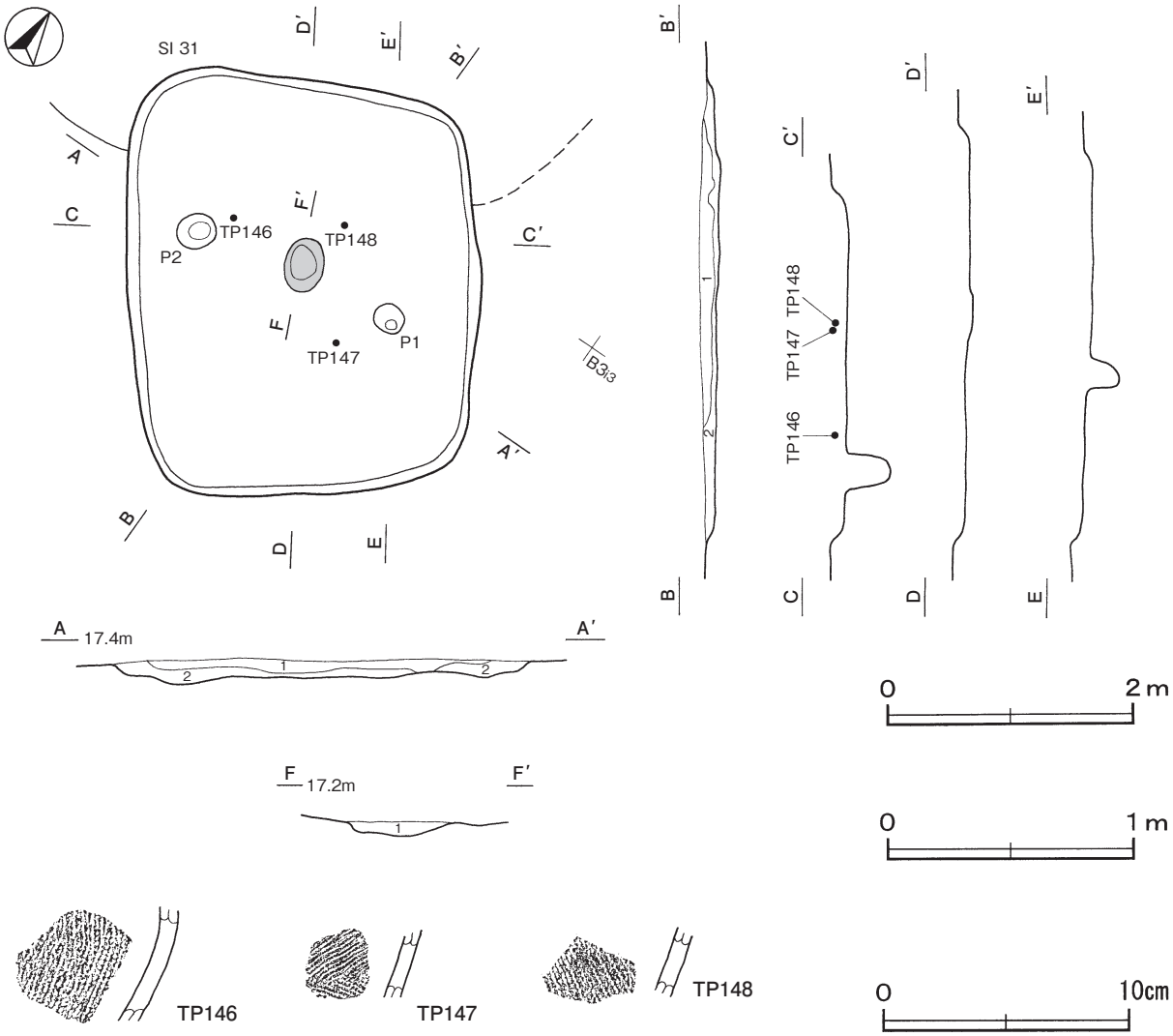
ピット　２か所。Ｐ１・２は深さ 28cm・36cm で，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量　　2　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片７点（壺類）が出土している。TP148 は北部の覆土中層，TP147 は東部の覆土中層，TP146 は西部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半である。



第 65 図　第 16 号住居跡・出土遺物実測図

第 16 号住居跡出土遺物観察表（第 65 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP146	弥生土器	壺	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	中層	後期後半
TP147	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい赤褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	中層	後期後半 PL27
TP148	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部撚糸文を施文	中層	後期後半

第 17 号住居跡（第 66・67 図）

位置　調査区西部のＢ２i9 区，標高 17.1 mの台地平坦部に位置している。

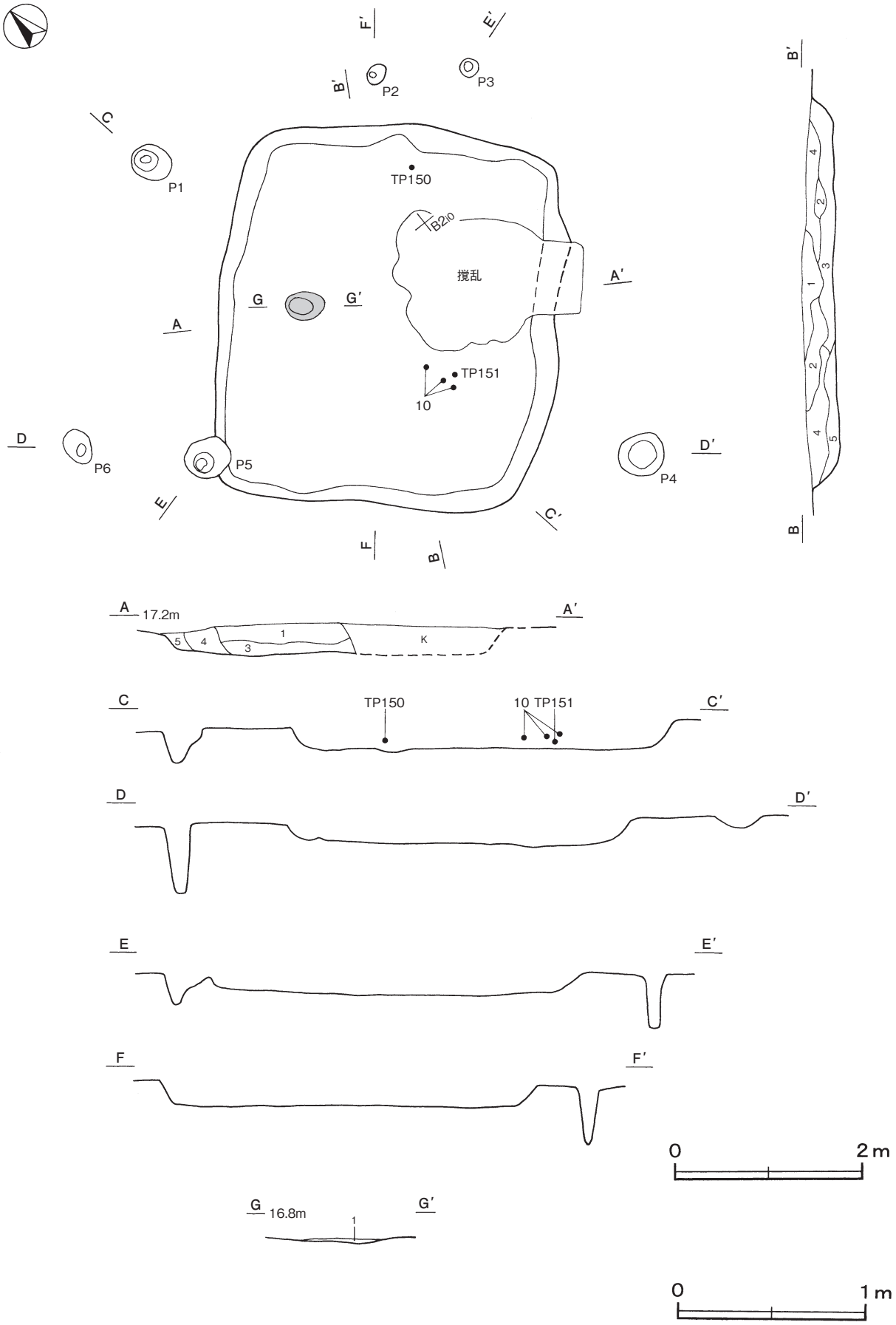
規模と形状　長軸 4.08 m, 短軸 3.66 mの隅丸長方形で, 長軸方向はＮ－ 45°－Ｅである。壁高は 14 ～ 30cm で, 外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　西部に付設されている地床炉である。長径 42cm，短径 32cm の楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　赤　褐　色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量



第66図　第17号住居跡実測図

ピット　６か所。いずれも壁外に位置しているが，Ｐ１～Ｐ４・６は深さ 14 ～ 74cm で，上屋を支えた柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ 30cm で性格は不明である。

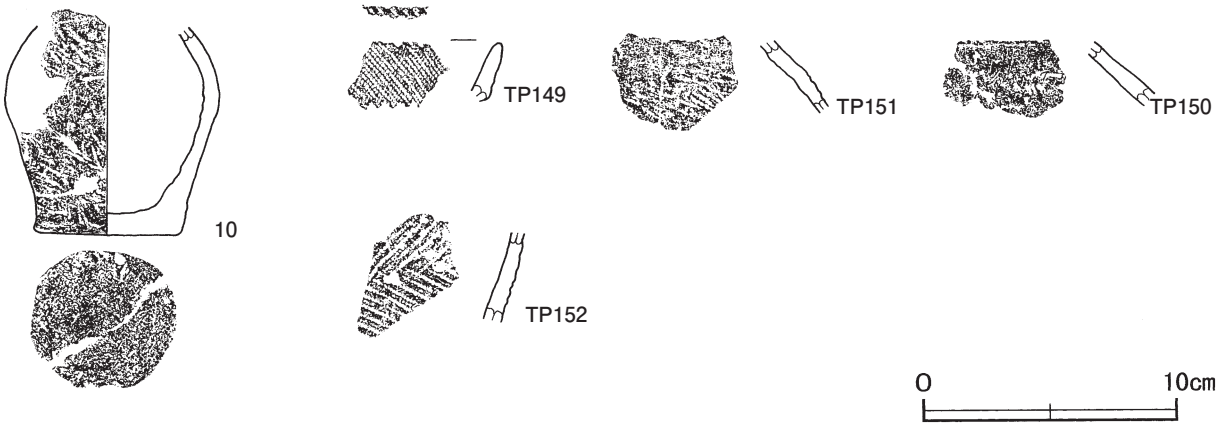
覆土　５層に分層できる。周囲からの土の流入を示す堆積状況と均質な含有物の様相から自然堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　にぶい褐色　ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片７点（壺類），剥片１点が出土している。TP150 は東部の覆土中層，TP152 は東部の覆土中，TP151 は南部の覆土下層，10 は南部の覆土中層，TP149 は西部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。



第 67 図　第 17 号住居跡出土遺物実測図

第 17 号住居跡出土遺物観察表（第 67 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
10	弥生土器	壺	－	(8.2)	5.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	外面摩耗顕著 撚糸文を施文ヵ	中層	後期後半 30% PL22

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP149	弥生土器	壺	雲母	灰黄褐	普通	口唇部縄文原体押圧　口縁部単節縄文ＲＬを施文後，下位縄文原体押圧	覆土中	後期後半 PL27
TP150	弥生土器	壺	長石・雲母	黒褐	普通	頸部無文帯	中層	後期後半
TP151	弥生土器	壺	長石・石英・雲母・小礫	にぶい黄褐	普通	頸部無文帯 胴部撚糸文を施文	下層	後期後半
TP152	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	覆土中	後期後半

第 18 号住居跡（第 68 図）

位置　調査区西部のＢ３h1 区，標高 17.0 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.54 ｍ，短軸 2.50 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 20°－Ｅである。壁高は 14 ～ 22cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。硬化面は認められない。壁溝が南壁際に確認できた。壁際で焼土が確認できた。

炉　中央部の北西寄りに付設されている地床炉で，長径 60cm，短径 40cm の楕円形である。床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗 赤 褐 色　焼土ブロック少量，炭化粒子微量

ピット　７か所。Ｐ１・６は深さ53cm･17cmで,配置から主柱穴と考えられる。Ｐ２・５は深さ55cm･17cmで,配置から補助柱穴と考えられる。Ｐ３・４は深さ43cm・31cmで，壁外に位置するが，上屋を支えた補助柱穴と考えられる。Ｐ７は深さ11cmで，性格は不明である。

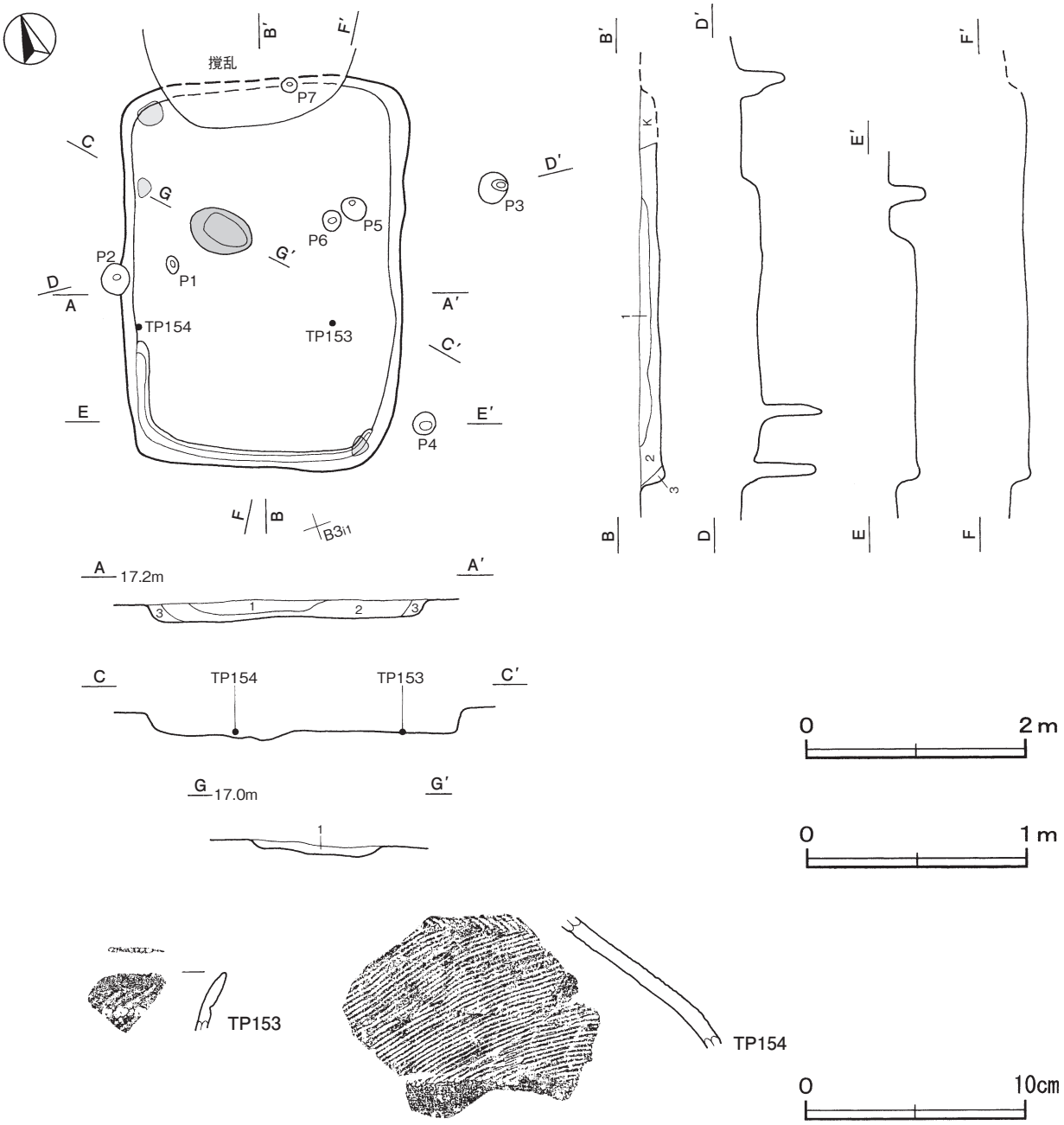
覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3	褐	色　ローム粒子中量
2	黒	褐	色	ローム粒子微量			

遺物出土状況　弥生土器片６点（壺類）が出土している。TP153は南東部の床面，TP154は南西部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半である。また，床面から焼土が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第68図　第18号住居跡・出土遺物実測図

第 18 号住居跡出土遺物観察表（第 68 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP153	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面摩耗顕著 口唇部縄文原体押圧 口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，竹管状工具を用いた刺突文を施文	床面	後期後半 PL27
TP154	弥生土器	壺	長石・石英	橙	普通	頸部無文帯 胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	下層	後期後半 PL27

第 20 号住居跡（第 69・70 図）

位置　調査区中央部のＢ３j1 区，標高 17.2 mの台地平坦部に位置している。

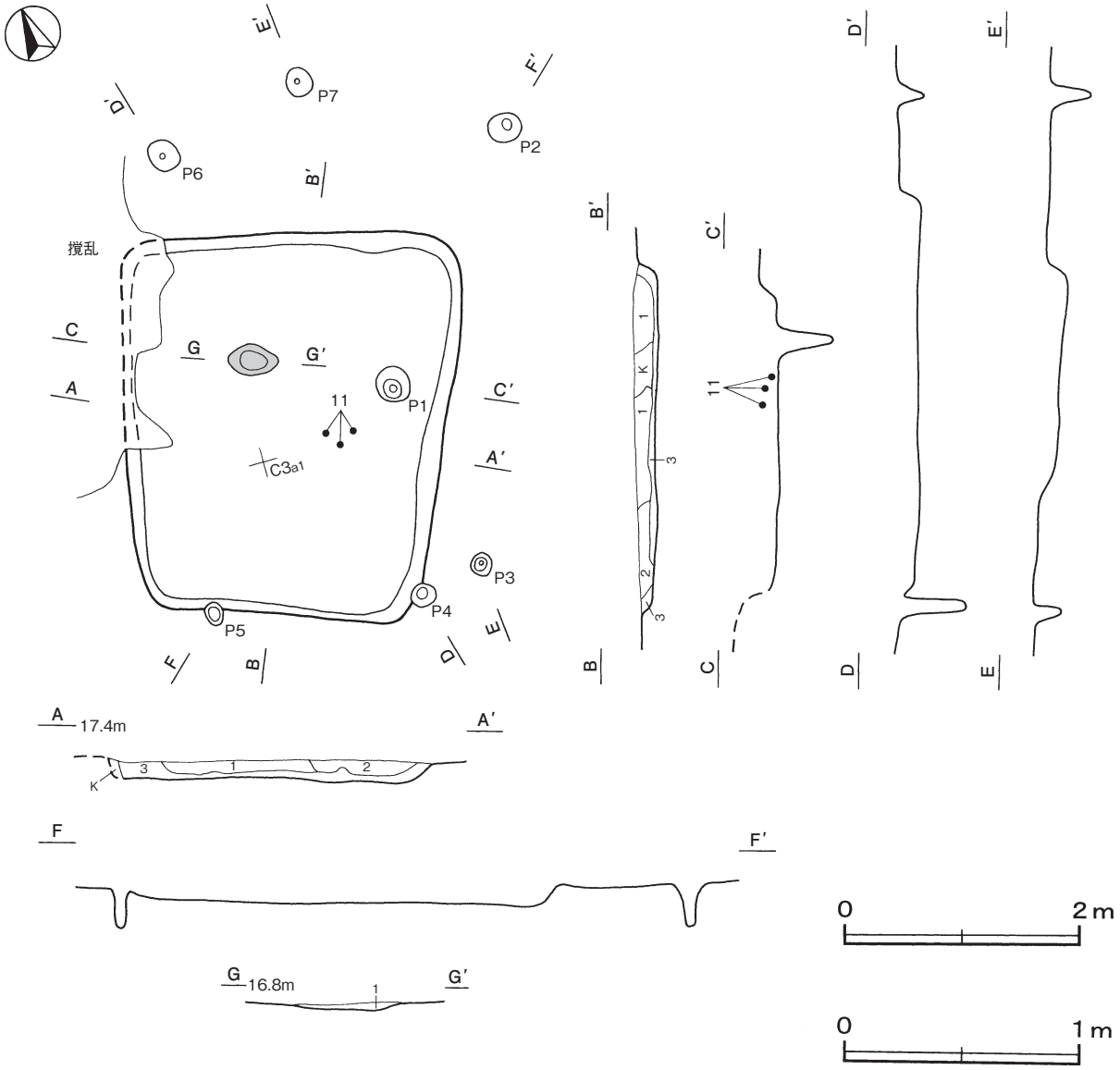
規模と形状　長軸 3.35 m，短軸 2.73 mの長方形で，長軸方向はＮ－ 18°－Ｅである。壁高は６～ 28cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　北部に付設されている地床炉である。長径 45cm，短径 26cm の楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量



第 69 図　第 20 号住居跡実測図

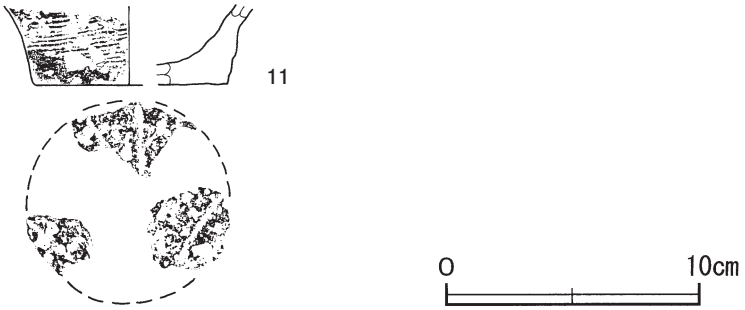
ピット　７か所。Ｐ１は深さ48cmで，東壁際に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ２～Ｐ７は深さ22～56cmで，壁外に位置しているが，上屋を支えた柱穴と考えられる。

覆土　３層に分層できる。周囲からの土の流入を示す堆積状況と均質な含有物の様相から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片１点（壺），剥片１点が出土している。11は中央部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。



第70図　第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表（第70図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
11	弥生土器	壺	－	(3.1)	[7.6]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	外面剥離顕著 胴部下端附加条一種（附加２条）の縄文を施文	中層	後期後半 10%

第21号住居跡（第71・72図）

位置　調査区中央部のＢ３i4区，標高17.2ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸3.80ｍ，短軸3.10ｍの長方形で，長軸方向はＮ－16°－Ｅである。壁高は38～48cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　西部に付設されている地床炉である。長径66cm，短径40cmの楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

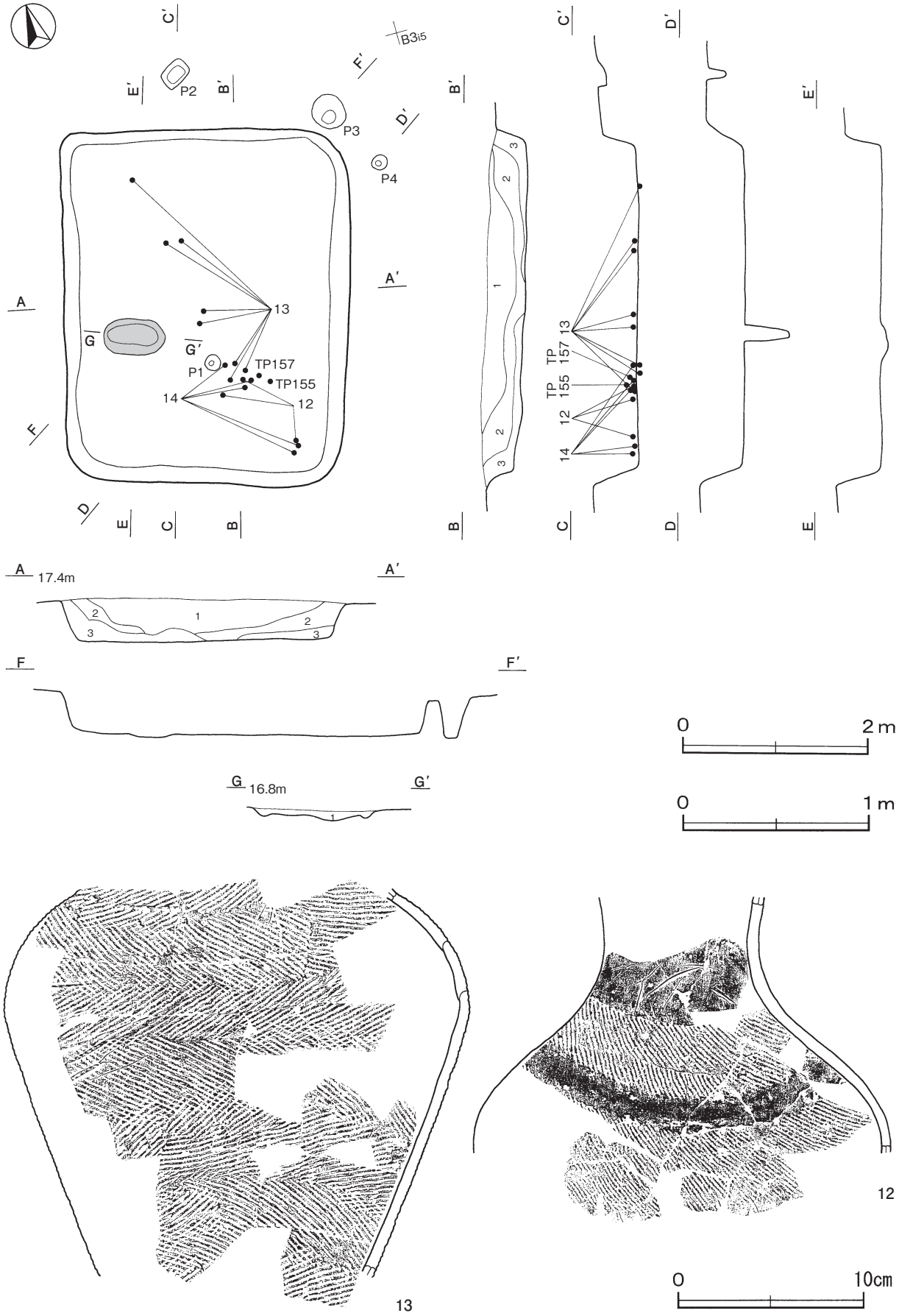
ピット　４か所。Ｐ１は深さ48cmで中央部に位置することから，主柱穴と考えられる。Ｐ２～Ｐ４は深さ10～42cmで，壁外に位置しているが，上屋を支えた補助柱穴と考えられる。

覆土　３層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片10点（壺類）が出土している。13は中央部から北部の床面，TP155・TP157は南東部の覆土下層，14は中央部の覆土下層から南部の覆土下層にかけて散乱，12は南部の覆土下層，TP156は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。



第71図　第21号住居跡・出土遺物実測図

第 72 図　第 21 号住居跡出土遺物実測図

第 21 号住居跡出土遺物観察表（第 71・72 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
12	弥生土器	壺	－	(13.9)	－	石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	頸部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，中位に無文帯	下層	後期後半 20% PL22
13	弥生土器	壺	－	(20.9)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	床面	後期後半 30% PL22
14	弥生土器	壺	－	(21.7)	－	長石・石英	橙	普通	外面剥離顕著 胴部撚糸文を施文	下層	後期後半 30%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP155	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	下層	後期後半
TP156	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	覆土中	後期後半
TP157	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	下層	後期後半

第 22 号住居跡（第 73 図）

位置　調査区西部のＢ２i7 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第９号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 3.33 m，短軸 2.73 mの長方形で，長軸方向はＮ－ 33°－Ｅである。壁高は 12 ～ 16cm で，緩斜して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であり，硬化面は認められない。

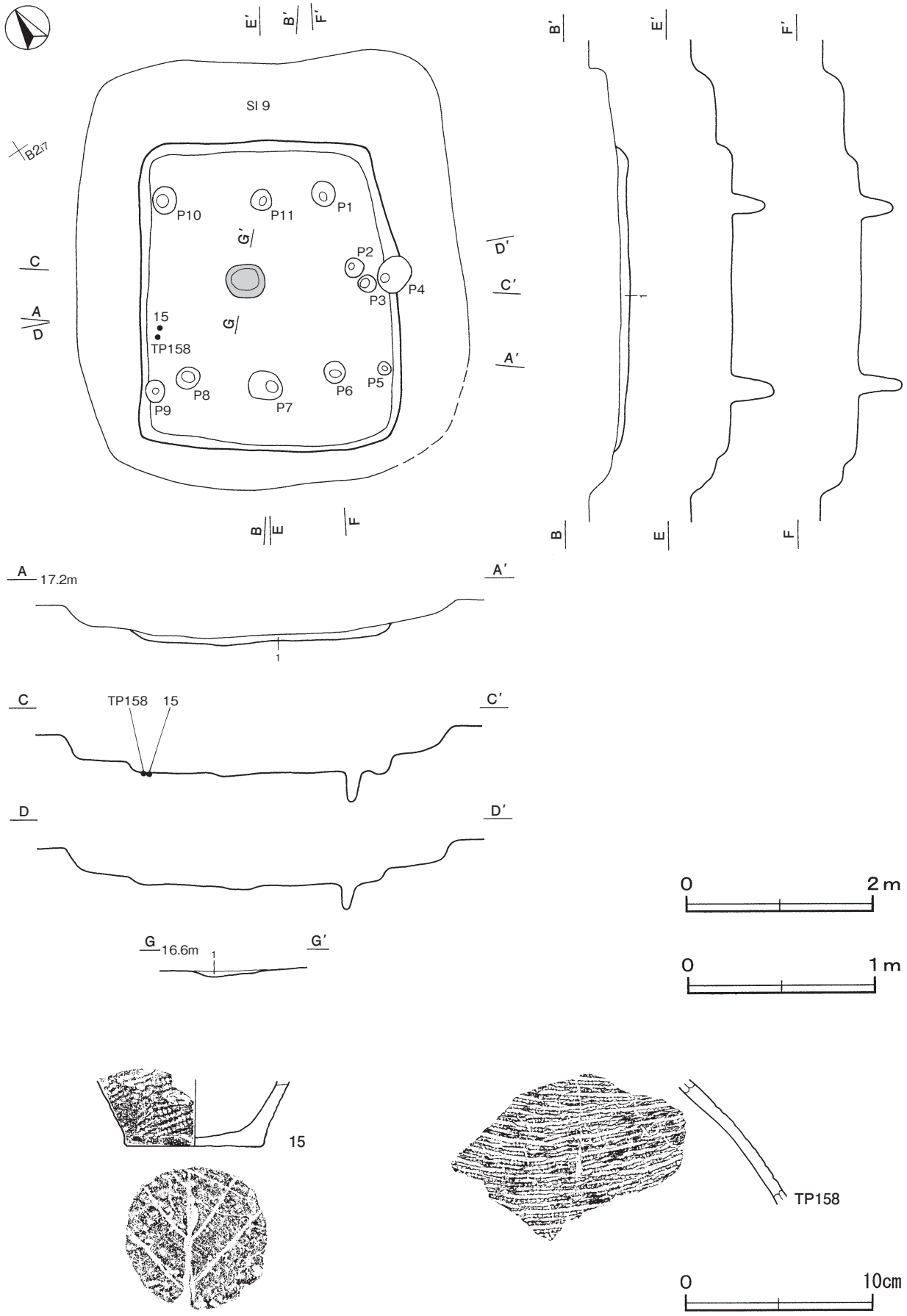
炉　中央部に付設されている地床炉である。長径 42cm，短径 34cm の楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　11 か所。Ｐ１・６～Ｐ８・10・11 は深さ 35 ～ 48cm で，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ２・３は深さ 29cm・38cm で，東壁際の中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられる。Ｐ５・９は深さ５cm・９cm で，配置から補助柱穴と考えられる。Ｐ４は深さ 50cm で性格は不明である。

覆土　単一層である。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量，締まり強



第 73 図　第 22 号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　弥生土器片５点（壺類）が出土している。15・TP158 は南西部壁際の床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。

第 22 号住居跡出土遺物観察表（第 73 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
15	弥生土器	壺	－	(3.6)	7.4	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部下端単節縄文 LR を施文	床面	後期後半 10%

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP158	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条一種（附加2条）の縄文を施文	床面	後期後半 PL27

第 23 号住居跡（第 74・75 図）

位置　調査区西部のＢ２j5 区，標高 17.0 mの台地平坦部に位置している。

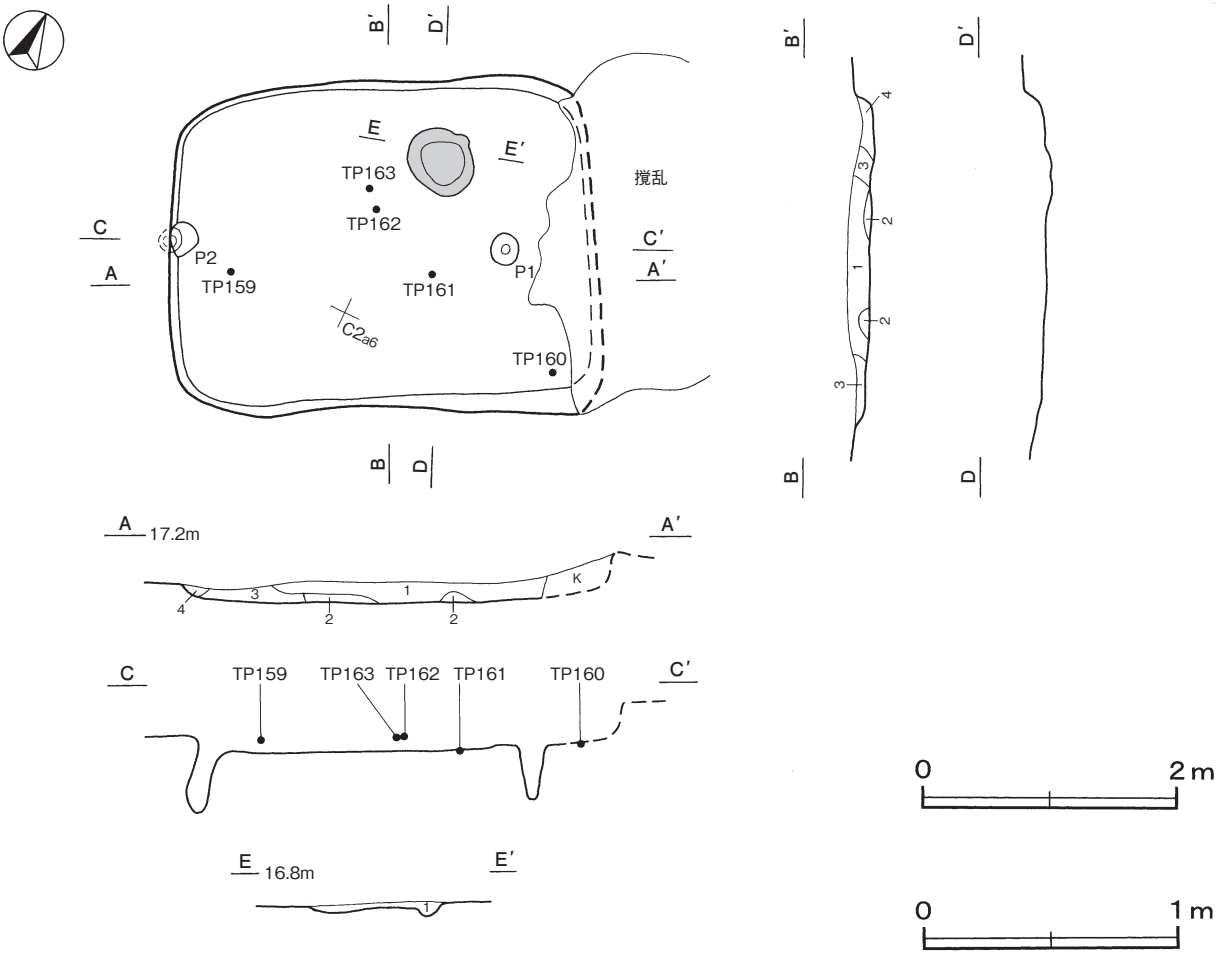
規模と形状　長軸 3.44 m，短軸 2.67 mの長方形と推定され，長軸方向はＮ－ 62°－Ｅである。壁高は４～34cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。

炉　北東部に付設されている地床炉である。径 54cm ほどの円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説
1　極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化物少量

ピット　２か所。Ｐ１・２は深さ 43cm・58cm で，配置から主柱穴と考えられる。



第 74 図　第 23 号住居跡実測図

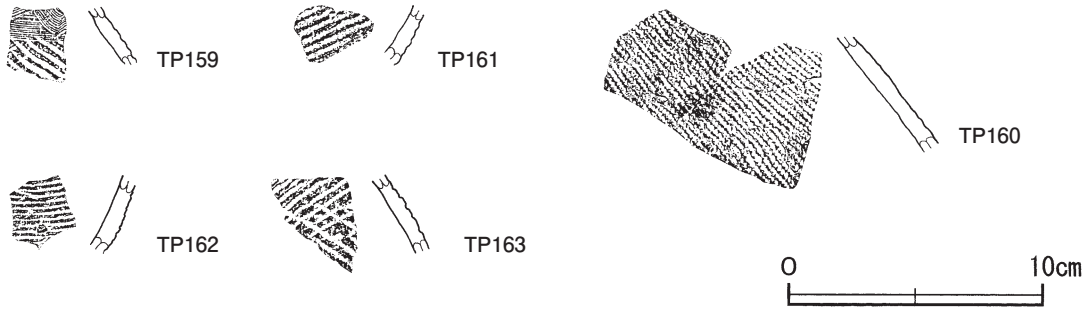
覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1　黒　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　弥生土器片５点（壺類）が出土している。TP161 は中央部の床面，TP162・TP163 は中央部の覆土中層，TP160 は東コーナー部壁際の床面，TP159 は西部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。



第 75 図　第 23 号住居跡出土遺物実測図

第 23 号住居跡出土遺物観察表（第 75 図）

番号	種別	器種	胎　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP159	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	頸部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，９本単位の櫛歯状工具を用いた横走文を施文後，10 本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた山形文を施文	中層	後期後半
TP160	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部単節縄文ＲＬを施文	床面	後期後半
TP161	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	床面	後期後半
TP162	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	中層	後期後半 PL27
TP163	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	中層	後期後半

第 24 号住居跡（第 76 図）

位置　調査区北西部のＢ２f6 区，標高 16.8 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.20 m，短軸 3.05 mの方形で，長軸方向はＮ－ 50°－Ｅである。壁高は 16 ～ 20cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部に硬化面が認められる。中央部から壁際にかけて，焼土と炭化材が確認できた。

炉　中央部の北西寄りに付設されている地床炉である。長径 67cm，短径 52cm の楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１・２は深さ 16cm・14cm で，配置から主柱穴と考えられる。

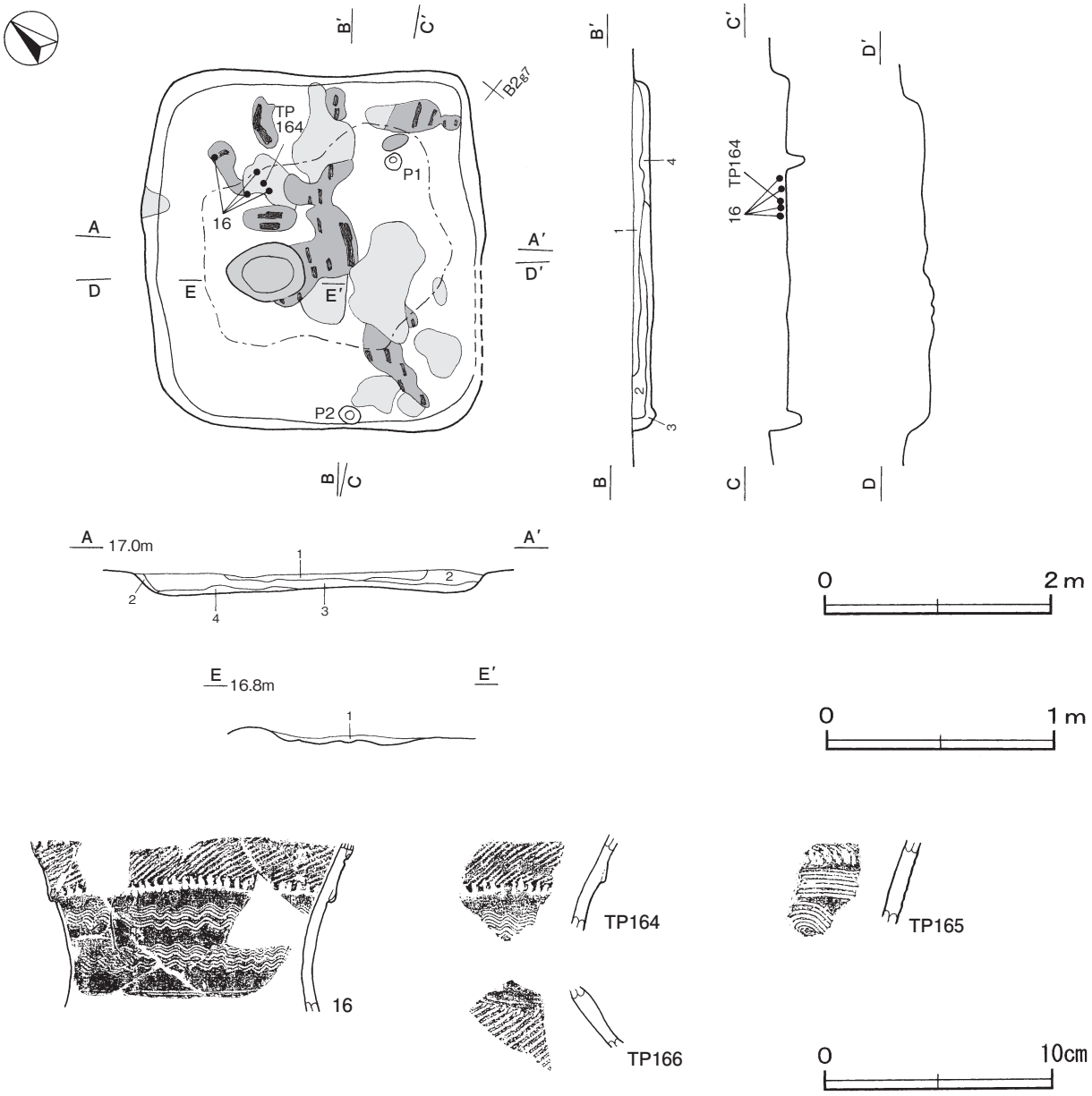
覆土　４層に分層できる。ブロック状の含有物が堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化物中量

遺物出土状況　弥生土器片 15 点（壺類）が出土している。16，TP164 は北部の覆土下層，TP165 は東部の覆土中，TP166 は西部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。また，床面から焼土や炭化材が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第76図　第24号住居跡・出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第76図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
16	弥生土器	壺	－	(7.4)	－	長石・石英	橙	普通	複合口縁　口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，段の下端に縄文原体押圧 頸部７本単位の櫛歯状工具を用いた波状文を２段に施文 下位３本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた横走文を施文	下層	後期後半 10%　PL22

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP164	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	複合口縁　口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，段の下端に縄文原体押圧 頸部８本単位の櫛歯状工具を用いた波状文を施文	下層	後期後半 PL27
TP165	弥生土器	壺	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	複合口縁ヵ　口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，段の下端に縄文原体押圧 頸部７本単位の櫛歯状工具を用いた横走文，６本以上の単位を有する櫛歯状工具を用いた波状文を施文	覆土中	後期後半 PL27
TP166	弥生土器	壺	長石・石英	明褐	普通	頸部無文帯 胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	覆土中	後期後半

第 28 号住居跡（第 77 図）

位置　調査区中央部のＢ３e9 区，標高 17.1 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 2.80 m，短軸 2.70 mの方形で，長軸方向はＮ－ 16°－Ｅである。壁高は 12 ～ 20cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部に硬化面が認められる。

炉　北西部に付設されている地床炉である。長径 68cm，短径 52cm の楕円形で，床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

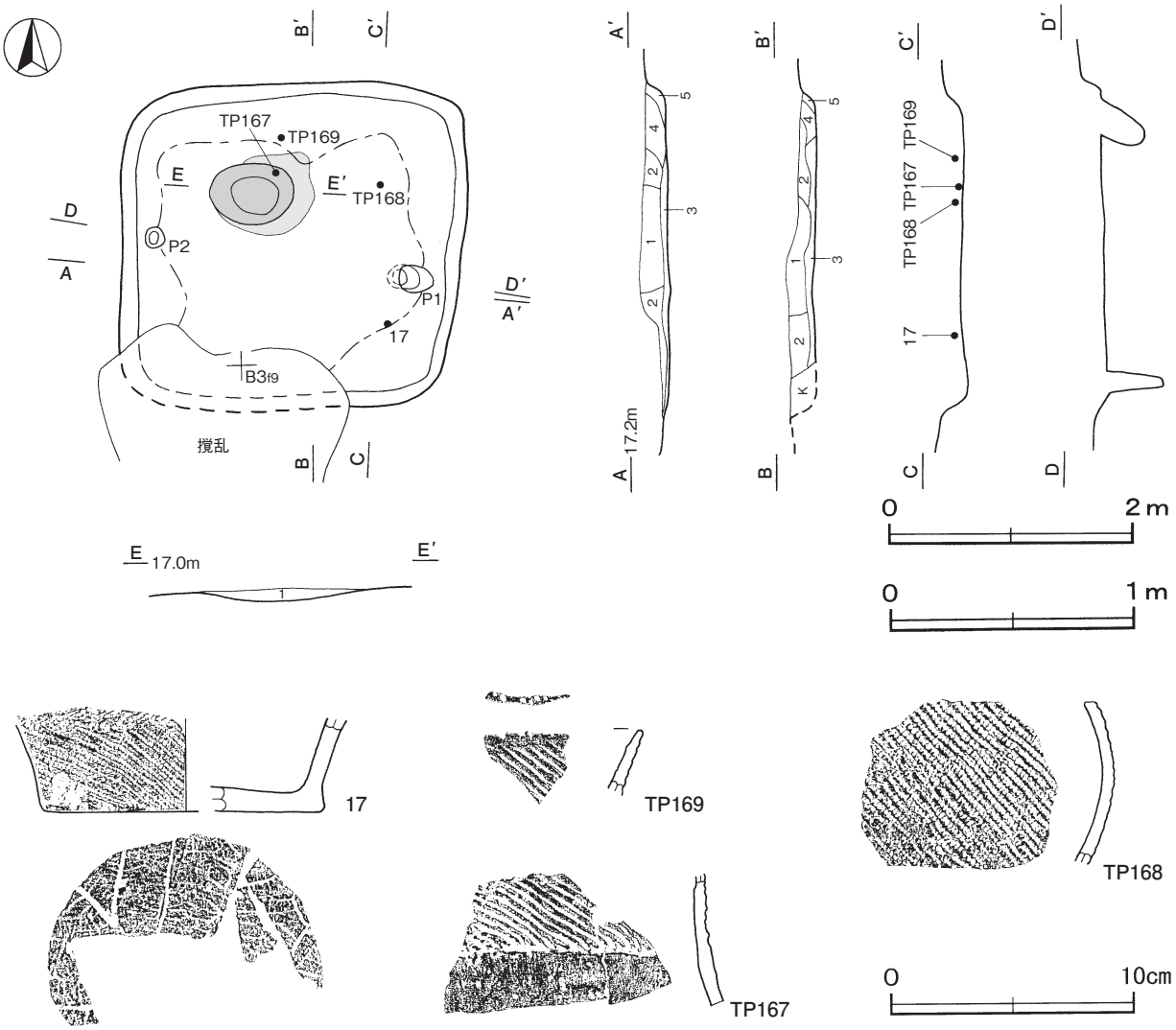
1　赤　褐　色　焼土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット　２か所。Ｐ１・２は深さ 37cm・46cm で，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　５層に分層できる。ブロック状の含有物が堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　にぶい褐色　ロームブロック中量



第 77 図　第 28 号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　弥生土器片７点(壺類)が出土している。TP169 は北部の覆土中層, TP168 は北東部の覆土中層, 17 は南東部の覆土下層，TP167 は炉床面から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。

第 28 号住居跡出土遺物観察表（第 77 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
17	弥生土器	壺	－	(3.8)	[11.4]	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部下端附加条一種（附加２条）を施文	下層	後期後半 ５％　PL22

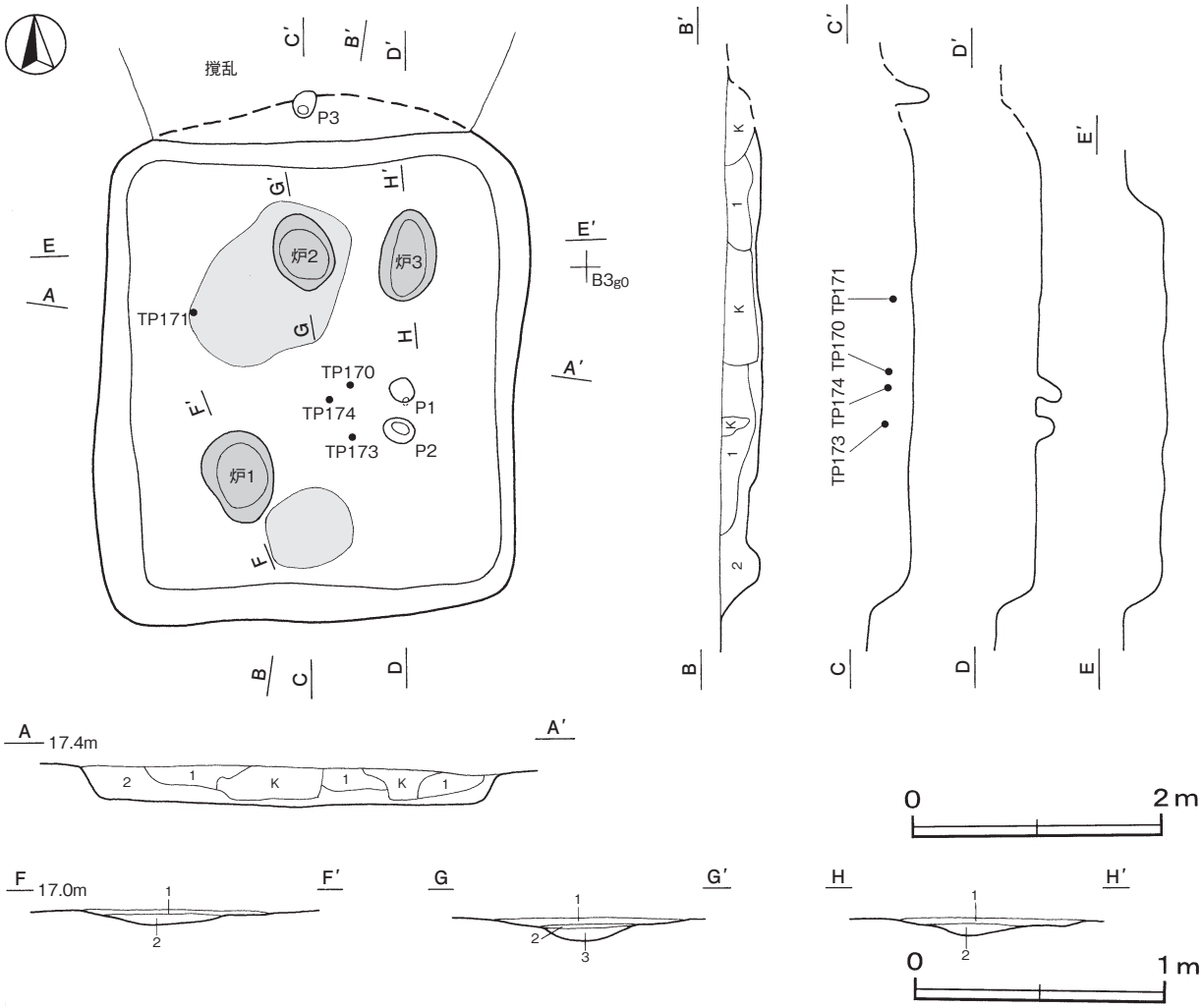
番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP167	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を施文 頸部無文帯	炉床面	後期後半 PL27
TP168	弥生土器	壺	長石・石英	橙	普通	胴部単節縄文 RL を施文	中層	後期後半
TP169	弥生土器	壺	砂粒	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文原体押圧　口縁部撚糸文を施文	中層	後期後半 PL27

第 29 号住居跡（第 78・79 図）

位置　調査区中央部のＢ３g9 区，標高 17.2 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 4.28 ｍ，短軸 3.42 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－０°である。壁高は 28cm ほどで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。中央部と壁際で焼土が確認できた。



第 78 図　第 29 号住居跡実測図

炉　３か所。炉１は南西部に付設されている地床炉である。長径 74cm，短径 53cm の楕円形である。炉２は北部中央に付設されている地床炉である。長径 61cm，短径 47cm の楕円形である。炉３は北東部に付設されている地床炉である。長径 77cm，短径 47cm の楕円形である。これらは床面を若干掘り込み，炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉１土層解説
1　暗 赤 褐 色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　赤　褐　色　焼土ブロック中量，炭化粒子微量

炉２土層解説
1　にぶい赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
2　明 赤 褐 色　焼土ブロック中量
3　赤　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

炉３土層解説
1　にぶい赤褐色　焼土粒子・炭化粒子少量
2　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量

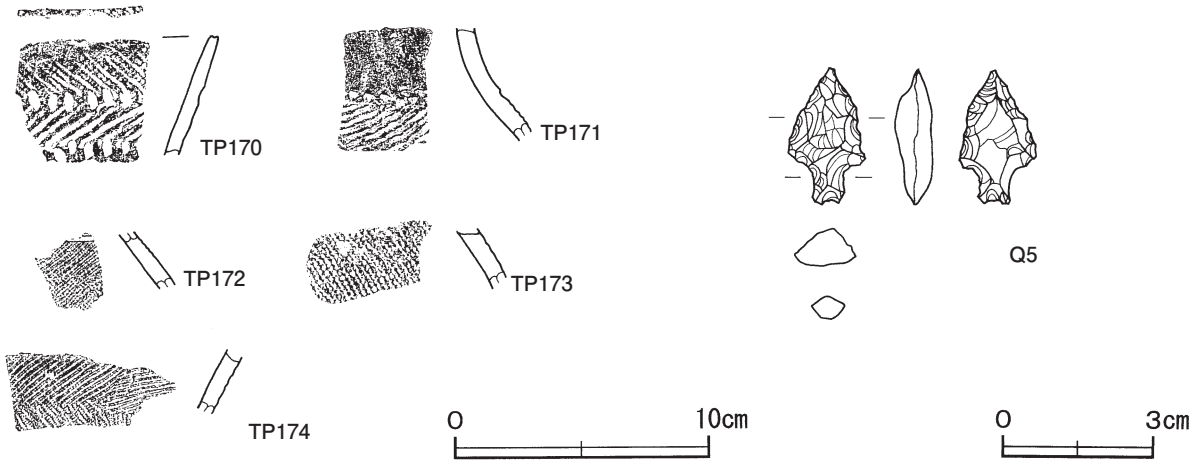
ピット　３か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ 14 ～ 32cm でいずれも性格は不明である。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説
1　黒　褐　色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片 10 点（壺類），石器１点（石鏃）が出土している。TP173 は中央部の覆土上層，TP170・TP174 は中央部の覆土中層，TP171 は北西部の覆土中層，TP172 は北東部の覆土中，Ｑ５は東部の覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。また，床面から焼土や炭化材が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第 79 図　第 29 号住居跡出土遺物実測図

第 29 号住居跡出土遺物観察表（第 79 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP170	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部縄文原体押圧 口縁部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文後，縄文原体を中位と下位の２段に押圧	中層	後期後半
TP171	弥生土器	壺	雲母	灰黄褐	普通	頸部無文帯 体部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，棒状工具を用いた刺突文を中位に施文	中層	後期後半 PL27
TP172	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文後，頸部２本以上の櫛歯状工具を用いた横走文を施文	覆土中	後期後半 PL27
TP173	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	胴部撚糸文を施文	上層	後期後半
TP174	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部上位附加条一種（附加２条）の縄文を施文 下位単節縄文を羽状に施文	中層	後期後半 PL27

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Ｑ５	石鏃	2.6	1.5	0.75	2.2	チャート	押圧剥離による両面調整 凸基有茎鏃	覆土中	PL28

第 30 号住居跡（第 80 図）

位置　調査区中央部のＢ３j9 区，標高 17.2 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長軸 3.40 ｍ，短軸 2.78 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 85°－Ｅである。壁高は 12 ～ 20cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，中央部に硬化面が認められる。

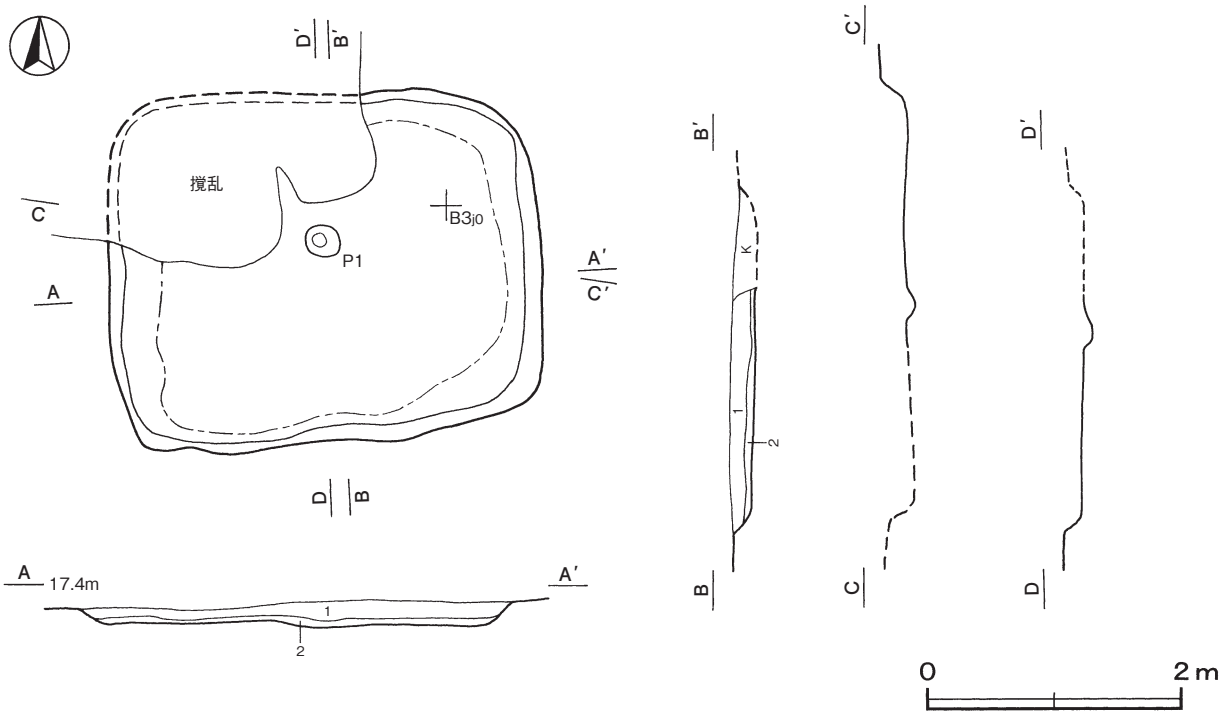
ピット　Ｐ１は，深さ 10cm で，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　２層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

１　黒　褐　色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量　　２　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

所見　時期は，遺物が出土していないが，遺構の形状や覆土の様相から後期後半と考えられる。



第 80 図　第 30 号住居跡実測図

第 37 号住居跡（第 81 図）

位置　調査区西部のＢ２h8 区，標高 16.9 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 11 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸 3.86 ｍ，短軸 3.20 ｍの長方形で，長軸方向はＮ－ 40°－Ｅである。壁高は 10 ～ 15cm で，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，硬化面は認められない。壁際で焼土が確認できた。

ピット　５か所。Ｐ３・４は深さ 58cm・46cm で，配置から主柱穴と考えられる。Ｐ１・２・５は深さ４～ 36cm で，性格は不明である。

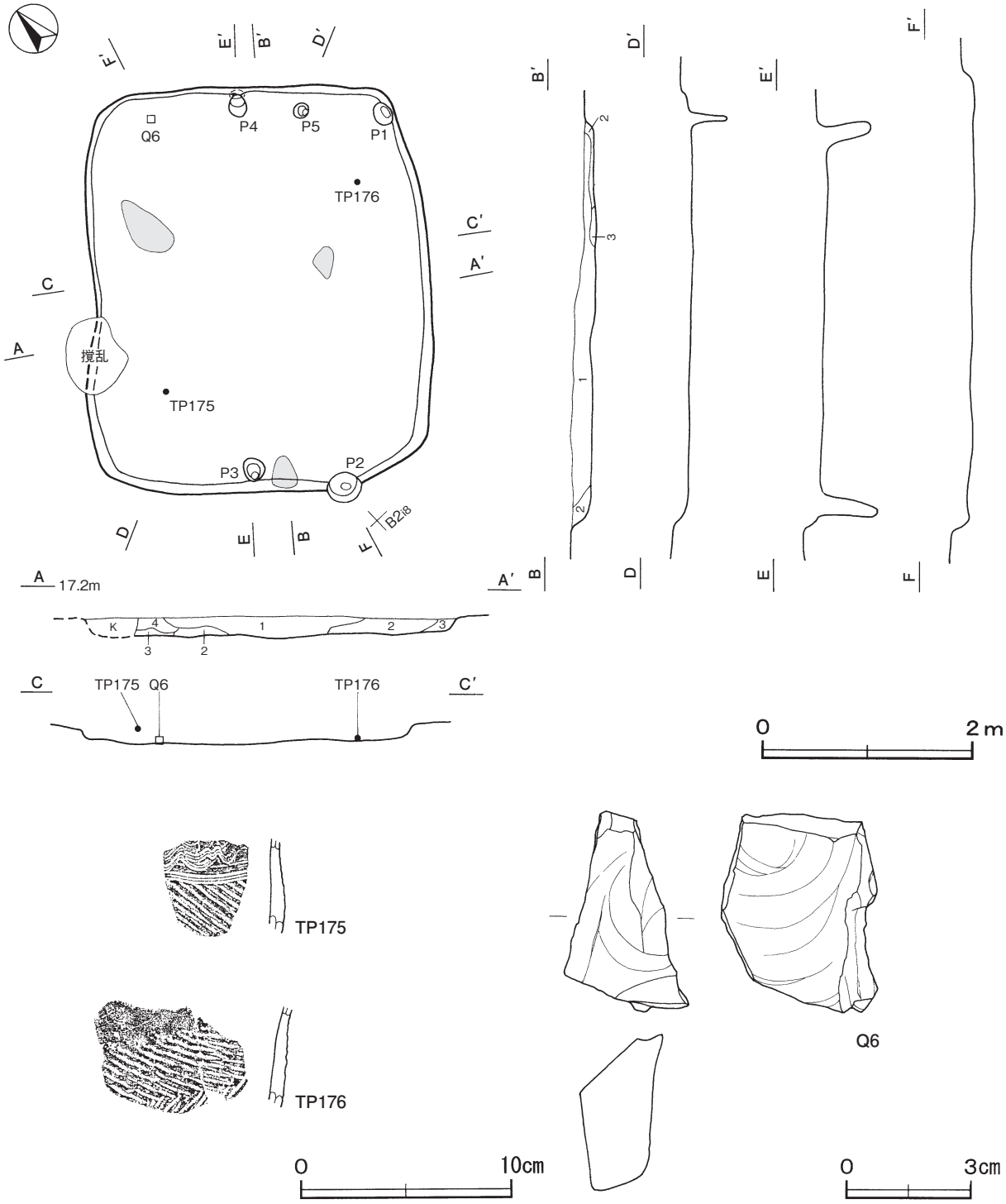
覆土　４層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

１	黒　褐　色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量	３	明　褐　色　ロームブロック中量
２	暗　褐　色　炭化物少量，ローム粒子・焼土粒子微量	４	極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　弥生土器片 10 点（壺類），石器１点（石核）が出土している。Ｑ６は北部の床面，TP176 は東部の覆土下層，TP175 は西部の覆土中層から出土している。

所見　時期は，出土土器から後期後半と考えられる。また，床面から焼土が確認されていることから焼失住居の可能性がある。



第 81 図　第 37 号住居跡・出土遺物実測図

第 37 号住居跡出土遺物観察表（第 81 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP175	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	頸部３本単位の櫛歯状工具を用いた横走文を施文後，波状文を施文 胴部附加条一種（附加２条）の縄文を施文	中層	後期後半 PL27
TP176	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい褐	普通	頸部無文帯 胴部附加条一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	下層	後期後半

番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 6	石核	4.8	3.7	3.0	47.1	チャート	縦長剥片石核 剥離面２面	床面	

表６　弥生時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模（m）長軸×短軸	壁高（cm）	床面	壁溝	内部施設 主柱穴	出入口ピット	ピット	壁外柱穴	竈・炉	覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係（古→新）
1	B 2 i4	N－54°－E	隅丸長方形	2.76 × 2.06	10	平坦	－	2	－	－	－	炉	自然	弥生土器	後期後半	本跡→ SK34
2	C 2 a4	N－31°－E	隅丸長方形	5.28 × 3.70	12 ～ 20	平坦	－	2	－	－	－	炉	自然	弥生土器	後期後半	
4	C 2 a2	N－25°－E	隅丸長方形	3.00 × 2.44	8 ～ 20	平坦	－	3	－	－	－	炉２	自然	弥生土器，剥片	後期後半	
6	B 2 f3	N－20°－E	［長方形］	3.02 ×（2.64）	20	平坦	－	－	1	2	－	－	自然	弥生土器，石器，剥片	後期後半	
7	B 2 h4	N－53°－E	隅丸長方形	3.54 × 2.52	8 ～ 14	平坦	－	4	－	－	2	炉	自然	弥生土器	後期後半	
8	B 2 i5	N－47°－E	長方形	3.32 × 2.76	15 ～ 23	平坦	－	－	2	1	－	炉	自然	弥生土器	後期後半	
9	B 2 i7	N－36°－E	方形	4.60 × 4.20	24 ～ 30	皿状	－	2	－	1	－	炉２	人為	弥生土器	後期後半	SI 22 →本跡
10	B 2 j9	N－45°－E	隅丸長方形	3.35 × 2.60	20 ～ 25	平坦	－	2	1	1	1	炉	自然	弥生土器	後期後半	FP5・第2号炉跡→本跡
11	B 2 h8	N－50°－E	隅丸長方形	2.80 × 2.40	8 ～ 10	平坦	－	－	1	2	－	炉	人為	弥生土器，土製品	後期後半	本跡→ SI 37
12	B 2 f0	N－31°－E	隅丸長方形	3.32 × 2.92	22 ～ 28	平坦	－	－	－	－	－	炉２	自然	弥生土器	後期後半	
13	B 2 h6	N－2°－W	隅丸長方形	2.66 × 2.12	7 ～ 15	平坦	－	－	－	－	－	－	人為	弥生土器	後期後半	
14	B 2 f8	N－6°－W	［方形・長方形］	3.62 ×（1.28）	35 ～ 50	平坦	－	2	1	－	－	－	自然	弥生土器，石器，剥片	後期後半	
16	B 3 i2	N－34°－W	隅丸長方形	3.40 × 2.90	6 ～ 10	平坦	－	2	－	－	－	炉	自然	弥生土器	後期後半	SI 31 →本跡
17	B 2 i9	N－45°－E	隅丸長方形	4.08 × 3.66	14 ～ 30	平坦	－	－	－	1	5	炉	自然	弥生土器，剥片	後期後半	
18	B 3 h1	N－20°－E	長方形	3.54 × 2.50	14 ～ 22	平坦	一部	2	－	1	4	炉	自然	弥生土器	後期後半	
20	B 3 j1	N－18°－E	長方形	3.35 × 2.73	6 ～ 28	平坦	－	－	1	－	6	炉	自然	弥生土器，剥片	後期後半	
21	B 3 i4	N－16°－E	長方形	3.80 × 3.10	38 ～ 48	平坦	－	－	1	－	3	炉	自然	弥生土器	後期後半	
22	B 2 i7	N－33°－E	長方形	3.33 × 2.73	12 ～ 16	平坦	－	6	2	1	2	炉	人為	弥生土器	後期後半	本跡→ SI 9
23	B 2 j5	N－62°－E	［長方形］	［3.44］× 2.67	4 ～ 34	平坦	－	2	－	－	－	炉	自然	弥生土器	後期後半	
24	B 2 f6	N－50°－E	方形	3.20 × 3.05	16 ～ 20	平坦	－	2	－	－	－	炉	人為	弥生土器	後期後半	
28	B 3 e9	N－16°－E	方形	2.80 × 2.70	12 ～ 20	平坦	－	2	－	－	－	炉	人為	弥生土器	後期後半	
29	B 3 g9	N－0°	長方形	4.28 × 3.42	28	平坦	－	－	－	3	－	炉３	自然	弥生土器，石器	後期後半	
30	B 3 j9	N－85°－E	長方形	3.40 × 2.78	12 ～ 20	平坦	－	1	－	－	－	－	自然		後期後半	
37	B 2 h8	N－40°－E	長方形	3.86 × 3.20	10 ～ 15	平坦	－	2	－	3	－	－	自然	弥生土器，石器	後期後半	SI 11 →本跡

３　古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は土坑１基が確認されている。以下，検出した遺構と遺物について記述する。

土坑

第 65 号土坑（第 82 図）

位置　調査区西部のＢ２h7 区，標高 17.0 ｍの台地平坦部に位置している。

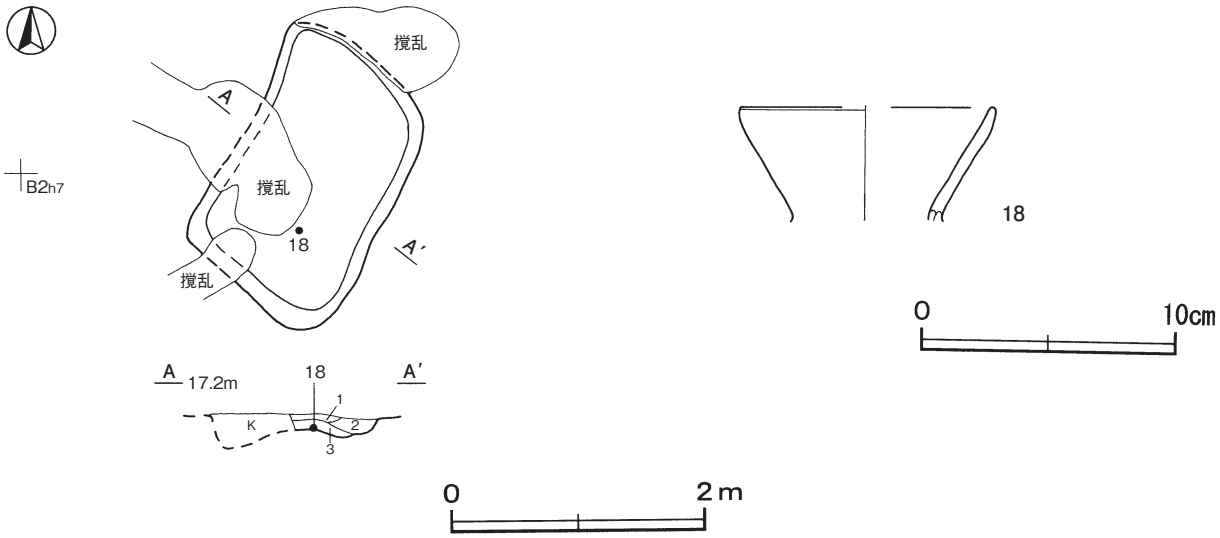
規模と形状　長軸 2.00 ｍ，短軸 1.32 ｍの不整長方形で，長軸方向はＮ－ 31°－Ｅである。深さは 20cm ほどで，底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックや炭化物を含んだ不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　明　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片１点（坩）が出土している。18 は中央部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から前期と考えられ，性格は不明である。



第 82 図　第 65 号土坑・出土遺物実測図

第 65 号土坑出土遺物観察表（第 82 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色調	焼成	手　法　の　特　徴　ほ　か	出土位置	備考
18	土師器	坩	[10.0]	(4.5)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部ナデ調整	下層	前期 ５％

４　その他の遺構と遺物

遺物が出土していないことなどから，時期不明の井戸跡１基，土坑 71 基，溝跡３条，ピット群９群が確認され，ほかに遺構に伴わない遺物が出土している。以下，特色ある遺構について記述し，それ以外は実測図と一覧表を掲載する。

(1)　井戸跡

第１号井戸跡（第 83 図）

位置　調査区東部のＣ４a7 区，標高 16.7 ｍの台地平坦部に位置している。

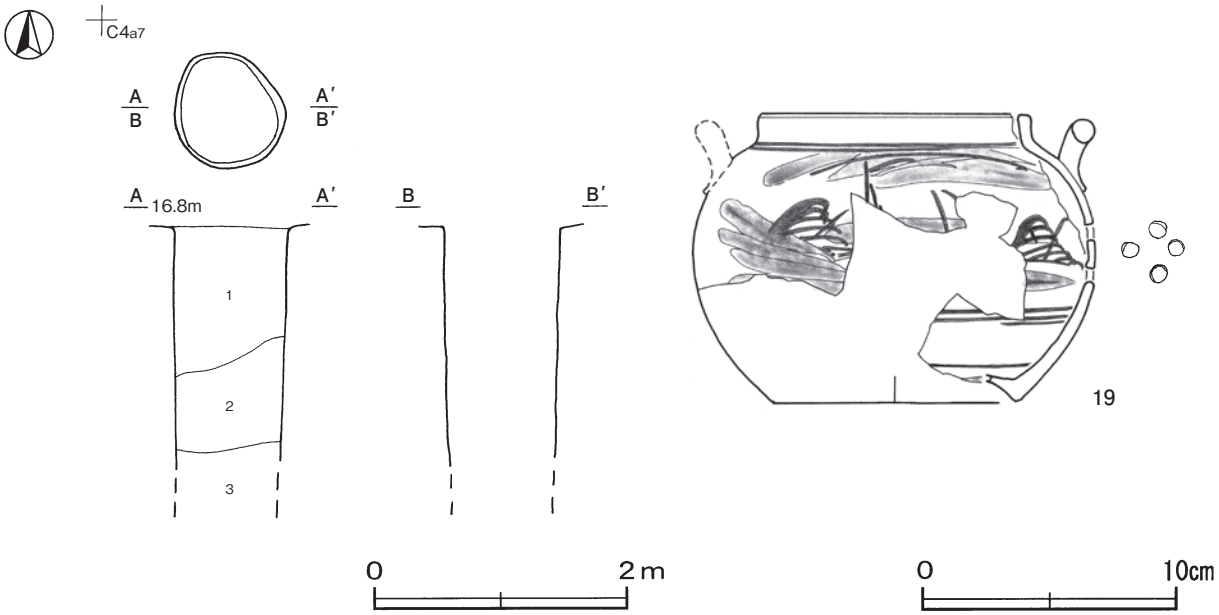
規模と形状　径 0.90 ｍほどの不整円形である。深さは 180cm 以上で，壁面の崩落が想定できたので，以上の掘り込みを断念した。壁は直立している。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックや炭化物を含んだ不自然な堆積状況から埋め戻されている。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　明　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　陶器片１点（土瓶）が出土している。19 は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から 19 世紀以降に埋め戻されたと考えられる。



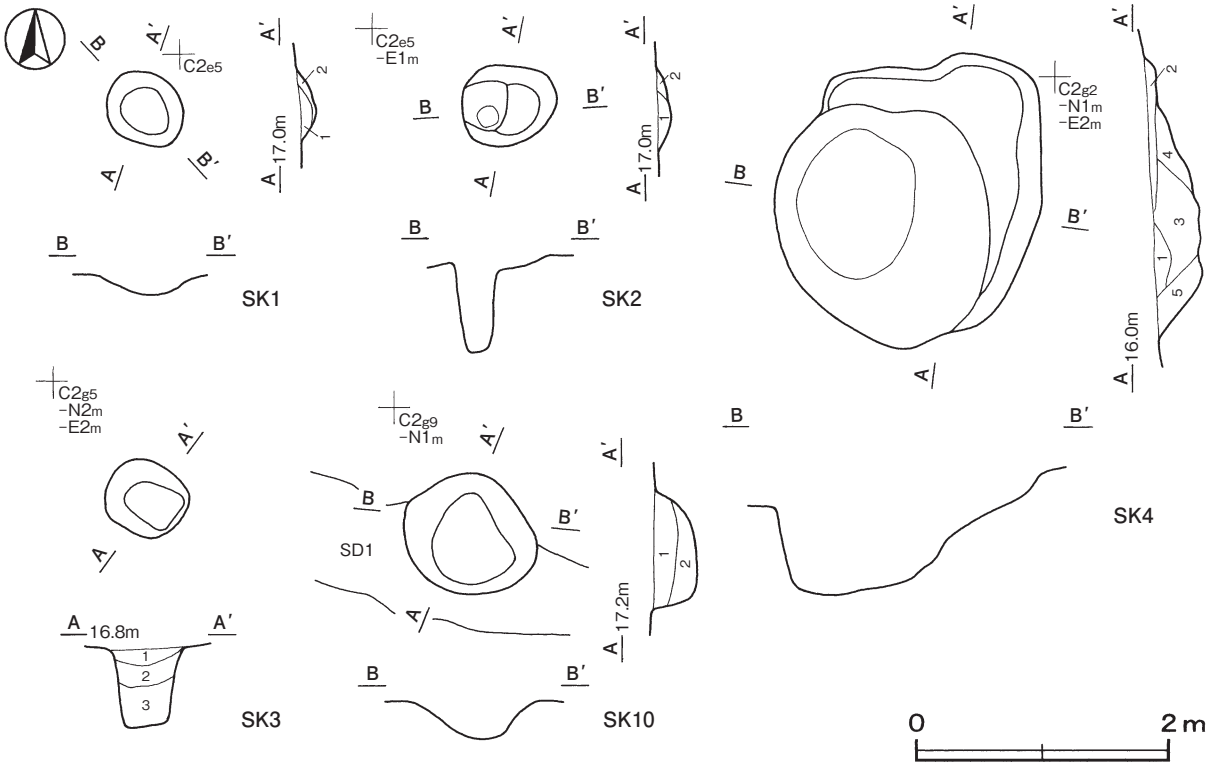
第 83 図　第 1 号井戸跡・出土遺物実測図

第 1 号井戸跡出土遺物観察表（第 83 図）

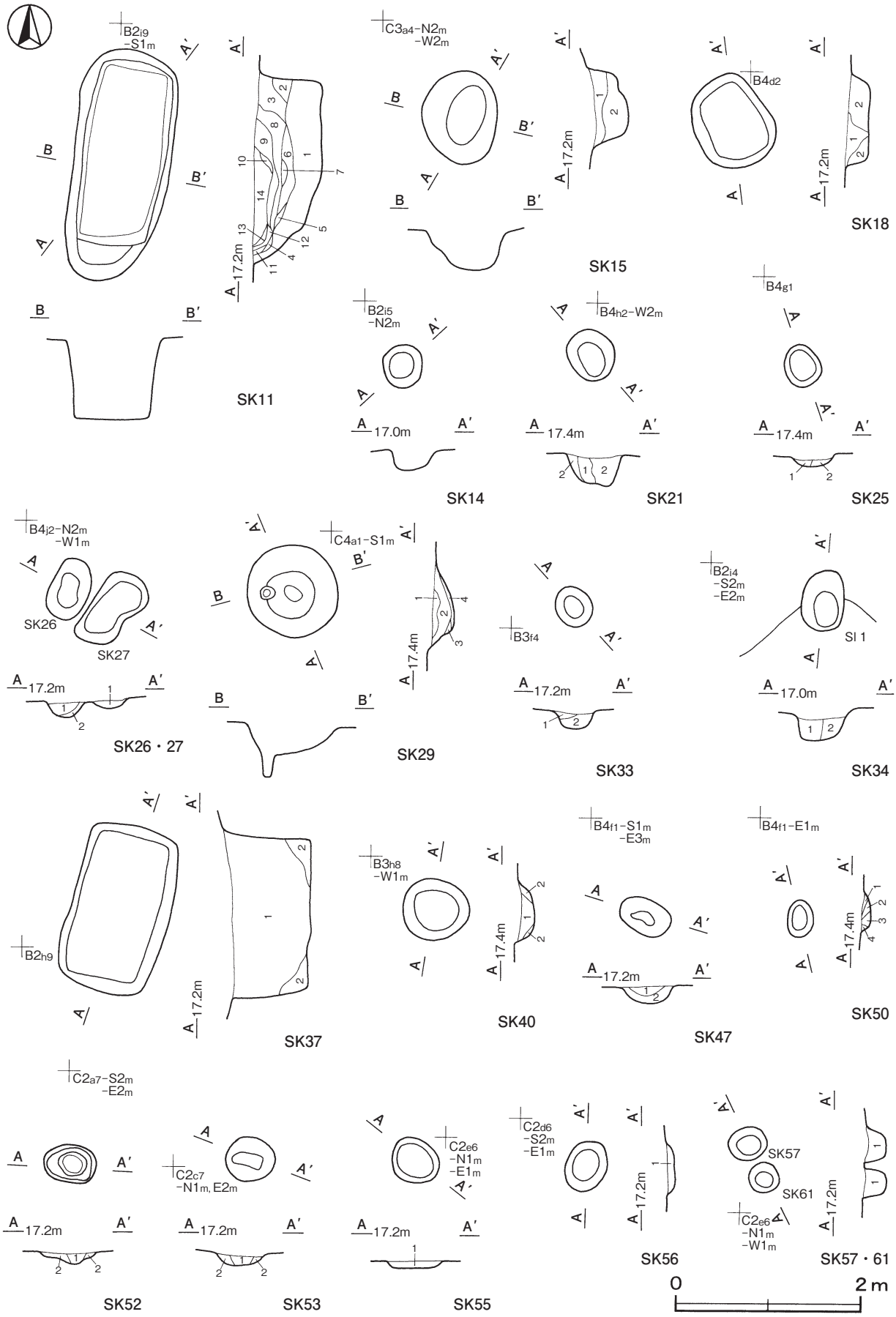
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・胎土色	色調	焼成	手法・文様の特徴	出土位置	備考
19	陶器	土瓶	［10.6］	11.4	［9.7］	細砂　灰白	橙	普通	外面草花文ヵ　蓋無し　注口部欠損	覆土中	19 世紀 60%　PL22

（2）　土坑（第 84 ～ 87 図）

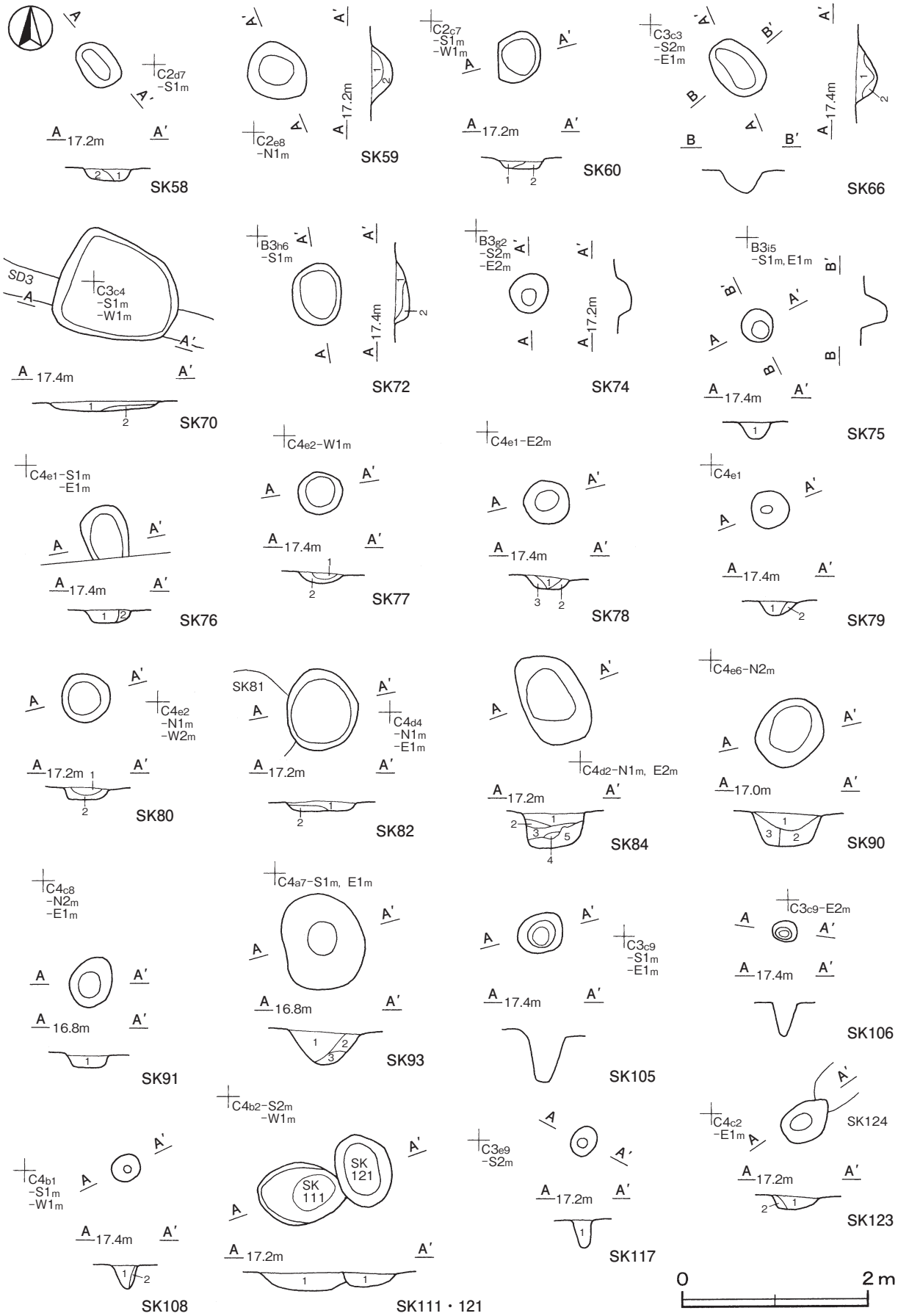
時期・性格ともに不明な土坑 71 基については，規模・形状等について実測図と一覧表を掲載する。



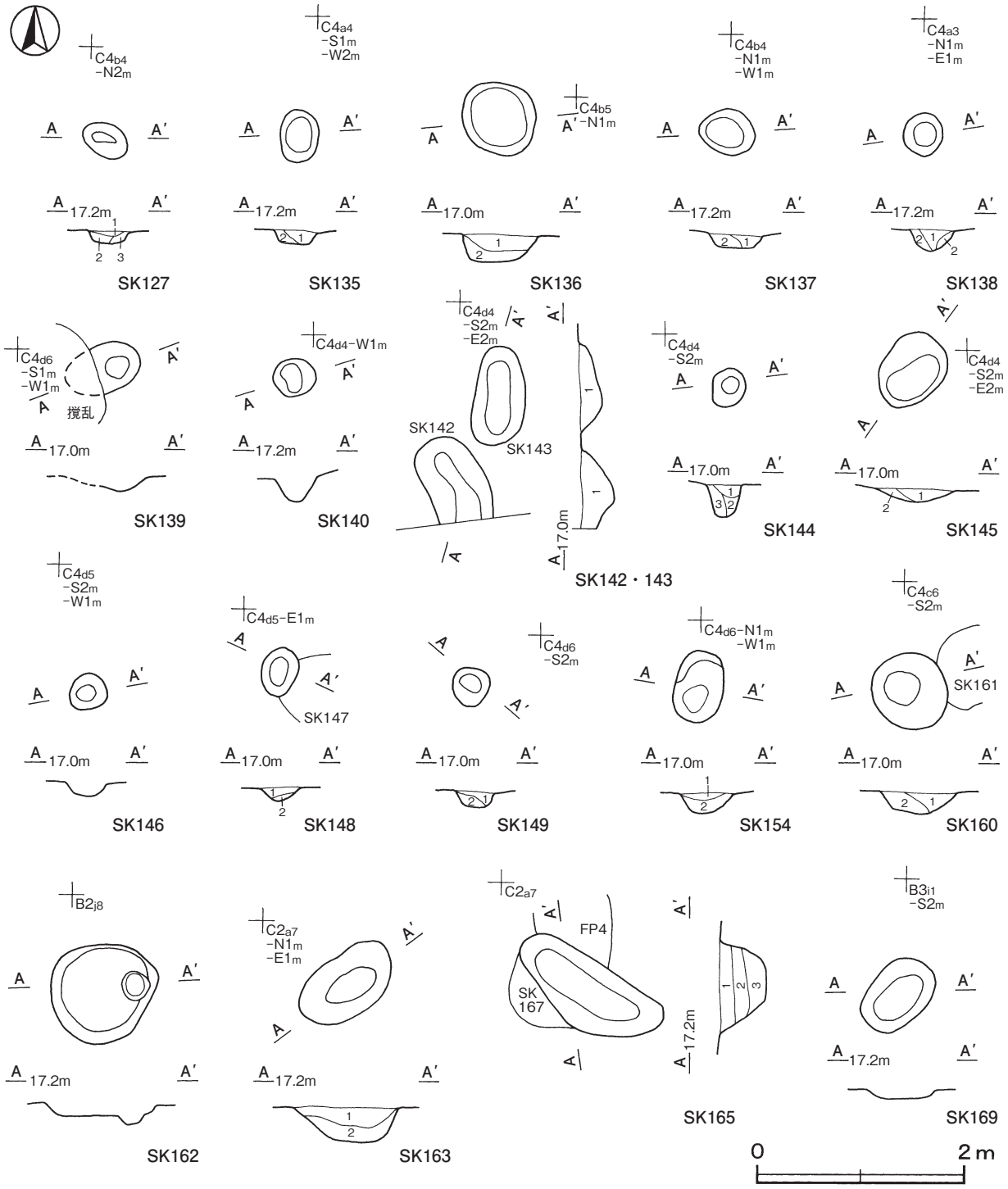
第 84 図　その他の土坑実測図（1）



第85図　その他の土坑実測図（2）



第86図　その他の土坑実測図（3）



第 87 図　その他の土坑実測図（4）

第１号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量

第２号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第３号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子中量
3　にぶい褐色　ロームブロック中量

第４号土坑土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量
4　にぶい褐色　ロームブロック中量
5　明　褐　色　ローム粒子中量

第 10 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 11 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック多量
3　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　赤　褐　色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
5　暗 赤 褐 色　焼土ブロック中量，炭化物・ローム粒子微量
6　にぶい赤褐色　焼土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　暗 赤 褐 色　焼土粒子・炭化粒子中量，ロームブロック微量
8　赤　褐　色　焼土ブロック多量
9　褐　　色　ローム粒子中量，炭化材微量
10　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量
11　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
12　にぶい褐色　ローム粒子中量，炭化物微量
13　褐　　色　ロームブロック中量
14　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 15 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 18 号土坑土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 21 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 25 号土坑土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子少量

第 26 号土坑土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 27 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 29 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量
3　明　褐　色　ローム粒子多量
4　にぶい褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第 33 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 34 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　にぶい褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 37 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　炭化材中量，焼土粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 40 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　にぶい褐色　ローム粒子中量

第 47 号土坑土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

第 50 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
4　極 暗 褐 色　ローム粒子微量

第 52 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 53 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 55 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 56 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量

第 57 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 58 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 59 号土坑土層解説
1　極 暗 褐 色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 60 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 61 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 66 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

第 70 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 72 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック中量

第 75 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量

第 76 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 77 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　極 暗 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量

第 78 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子中量

第 79 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 80 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 82 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量

第 84 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック中量
2　明　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック・焼土粒子中量
4　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量

第 90 号土坑土層解説
1　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　明　褐　色　ローム粒子多量

第 91 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量

第 93 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量
3　明　褐　色　ロームブロック多量

第 108 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック多量

第 111 号土坑土層解説
1　明　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 117 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 121 号土坑土層解説
1　黄　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子微量

第 123 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量

第 127 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量

第 135 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 136 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック中量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量

第 137 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 138 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量

第 142 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 143 号土坑土層解説
1　明　褐　色　ローム粒子多量

第 144 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック中量，焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　明　褐　色　ローム粒子多量

第 145 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量

第 148 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

第 149 号土坑土層解説
1　褐　　色　ローム粒子少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量

第 154 号土坑土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量

第 160 号土坑土層解説
1　にぶい褐色　ロームブロック中量
2　明　褐　色　ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量

第 163 号土坑土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子微量

第 165 号土坑土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量

表７　その他の土坑一覧表

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模（m） 長径×短径	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
1	C２e4	N－41°－W	楕円形	0.67 × 0.58	16	緩斜	皿状	自然	－	
2	C２e5	N－82°－E	楕円形	0.76 × 0.65	10 ～ 72	緩斜・直立	皿状	自然	－	
3	C２f5	N－64°－W	隅丸長方形	0.65 × 0.55	60	直立	平坦	人為	－	
4	C２g2	N－９°－E	不整楕円形	2.37 × 2.06	75 ～ 100	外傾・直立	凸凹	人為	－	
10	C２g9	N－72°－W	楕円形	1.10 × 0.94	28	外傾	皿状	自然	－	SD1 →本跡
11	B２i9	N－８°－E	楕円形	2.50 × 1.04	80	外傾・直立	平坦	人為	－	
14	B２h5	－	円形	0.46 × 0.43	22	外傾	皿状	－	－	
15	B３j3	N－７°－E	楕円形	1.02 × 0.82	40	外傾	皿状	自然	－	
18	B４d1	N－34°－W	隅丸長方形	1.00 × 0.80	25	外傾	平坦	自然	－	
21	B４h1	N－18°－W	楕円形	0.56 × 0.52	32	外傾	平坦	人為	－	
25	B４g1	N－５°－W	楕円形	0.45 × 0.40	12	緩斜	皿状	自然	－	
26	B４i1	N－18°－E	楕円形	0.68 × 0.42	16	外傾	平坦	自然	－	
27	B４i1	N－35°－E	楕円形	0.87 × 0.52	10	外傾	皿状	自然	－	
29	C３a0	－	円形	1.00 × 1.00	23	外傾・直立	皿状	自然	－	
33	B３e4	N－42°－W	楕円形	0.45 × 0.40	20	外傾	平坦	自然	－	
34	B２i4	N－８°－E	楕円形	0.66 × 0.47	30	外傾	平坦	人為	－	SI １→本跡
37	B２g9	N－14°－E	長方形	1.83 × 1.05	88	直立	平坦	人為	－	
40	B３h7	－	円形	0.70 × 0.65	16	外傾	平坦	自然	－	
47	B４f1	N－58°－W	楕円形	0.56 × 0.38	20	緩斜	平坦	自然	－	
50	B４f1	－	楕円形	0.50 × 0.27	10	緩斜	平坦	自然	－	
52	C２a7	N－84°－W	楕円形	0.58 × 0.40	13	緩斜	皿状	自然	－	
53	C２b7	－	円形	0.53 × 0.49	19	外傾	皿状	自然	－	
55	C２d6	N－40°－W	楕円形	0.56 × 0.46	13	直立	平坦	人為	－	
56	C２d6	N－30°－E	楕円形	0.56 × 0.43	13	外傾	平坦	人為	－	
57	C２d5	－	円形	0.40 × 0.37	22	直立	皿状	人為	－	
58	C２d6	N－37°－W	楕円形	0.55 × 0.48	15	外傾	平坦	自然	－	
59	C２d8	N－58°－W	楕円形	0.68 × 0.58	24	外傾	皿状	自然	－	
60	C２c6	N－40°－E	楕円形	0.60 × 0.45	14	外傾	平坦	自然	－	
61	C２d5	－	円形	0.33 × 0.33	33	直立	皿状	人為	－	
66	C３c3	N－41°－W	楕円形	0.68 × 0.47	25	外傾	皿状	自然	－	
70	C３c3	N－69°－W	隅丸長方形	1.30 × 1.09	9	外傾	平坦	自然	－	SD３→本跡

番号	位置	長軸（径）方向	平面形	規模（m） 長径×短径	深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備　考 重複関係（古→新）
72	B３h6	N－９°－W	楕円形	0.67 × 0.54	11	外傾	平坦	自然	－	
74	B３g2	N－30°－E	楕円形	0.44 × 0.38	14	外傾	平坦	－	－	
75	B３i5	－	円形	0.35 × 0.35	27	外傾	平坦	人為	貝殻	
76	C４e1	N－12°－W	［楕円形］	(0.57) × 0.49	14	外傾	平坦	人為	－	
77	C４e1	－	円形	0.48 × 0.46	10	緩斜	皿状	人為	－	
78	C４e1	－	円形	0.47 × 0.47	14	緩斜	平坦	人為	－	
79	C４e1	－	円形	0.40 × 0.40	14	外傾	皿状	人為	－	
80	C４d1	－	円形	0.54 × 0.54	13	外傾	平坦	人為	－	
82	C４c4	N－10°－W	楕円形	0.89 × 0.75	10	緩斜	平坦	自然	－	SK81 →本跡
84	C４c2	N－26°－W	楕円形	1.02 × 0.64	38	外傾	平坦	人為	－	
90	C４d6	N－39°－E	楕円形	0.80 × 0.65	35	外傾	平坦	人為	－	
91	C４b8	N－22°－E	楕円形	0.57 × 0.45	13	外傾	平坦	人為	－	
93	C４a7	N－18°－W	楕円形	1.06 × 0.84	35	緩斜	皿状	人為	－	
105	C３c9	N－34°－E	楕円形	0.50 × 0.45	65	直立	皿状	－	－	
106	C３c9	－	円形	0.25 × 0.23	14	外傾	皿状	－	－	
108	C４b1	－	円形	0.30 × 0.28	25	外傾	皿状	人為	－	
111	C４b1	N－81°－W	楕円形	(0.96) × 0.70	20	外傾	平坦	自然	－	本跡→ SK121
117	C３e9	N－21°－E	楕円形	0.33 × 0.25	31	外傾	皿状	自然	－	
121	C４b2	N－20°－W	楕円形	0.82 × 0.57	14	外傾	平坦	自然	－	SK111 →本跡
123	C４c2	N－54°－E	楕円形	0.53 × 0.43	16	緩斜・外傾	皿状	自然	－	SK124 →本跡
127	C４a4	N－62°－W	楕円形	0.44 × 0.30	12	緩斜	皿状	自然	－	
135	C４a3	N－２°－W	楕円形	0.50 × 0.37	13	外傾	平坦	自然	－	
136	C４a4	N－43°－W	楕円形	0.78 × 0.70	22	外傾	平坦	自然	－	
137	C４a3	N－52°－W	楕円形	0.51 × 0.45	13	緩斜	平坦	自然	－	
138	C４a3	－	円形	0.39 × 0.39	20	外傾	皿状	自然	－	
139	C４d5	N－66°－E	［楕円形］	[0.76] × 0.46	12	緩斜	皿状	－	－	
140	C４d3	－	円形	0.41 × 0.39	20	外傾	皿状	－	－	
142	C４d4	N－26°－W	［楕円形］	(0.88) × 0.59	30	外傾	皿状	自然	－	
143	C４d4	N－３°－E	楕円形	0.98 × 0.52	11	外傾	皿状	人為	－	
144	C４d4	N－２°－W	楕円形	0.38 × 0.32	30	外傾	皿状	人為	－	
145	C４d4	N－43°－E	楕円形	0.78 × 0.56	12	緩斜	皿状	自然	－	
146	C４d4	－	円形	0.36 × 0.34	12	外傾	皿状	－	－	
148	C４d5	N－23°－E	楕円形	0.45 × 0.34	9	緩斜	皿状	自然	－	SK147 →本跡
149	C４d5	N－７°－E	楕円形	0.38 × 0.32	14	外傾	平坦	自然	－	
154	C４c5	N－８°－E	楕円形	0.70 × 0.48	20	外傾	皿状	自然	－	
160	C４c5	N－30°－W	楕円形	0.76 × 0.67	22	緩斜	平坦	人為	－	SK161 →本跡
162	B２j8	－	円形	1.00 × 0.98	６～10	緩斜・外傾	凸凹	－	－	
163	B２j7	N－45°－E	楕円形	1.03 × 0.60	34	緩斜・外傾	平坦	自然	－	
165	C２a7	N－52°－W	楕円形	1.54 × 0.60	24	外傾	平坦	自然	－	SK167・FP4 →本跡
169	B２i0	N－48°－E	楕円形	0.82 × 0.55	6	緩斜	平坦	－	－	

（3）溝跡（第 88 図・付図）

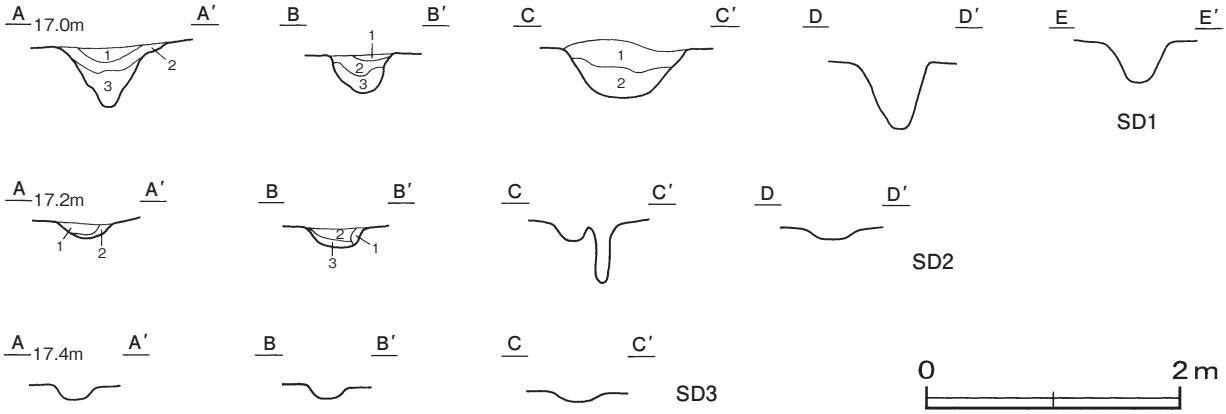
時期・性格ともに不明な溝跡３条については，規模・形状等について実測図と一覧表を掲載する。

第１号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量
2　黒　褐　色　炭化粒子中量，ローム粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

第２号溝跡土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　褐　　色　ロームブロック中量，焼土粒子少量
3　明　褐　色　ロームブロック多量



第88図　第１～３号溝跡実測図

表８　その他の溝跡一覧表

番号	位　置	方　向	形状	規　模（m）				覆土	断面形	出土遺物	備　考 重複関係 （古→新）
				長さ	上幅	下幅	深　さ				
1	C２e4～C２g9	N－74°－W	直線状	(20.9)	0.28～1.22	0.04～0.44	0.26～0.52	人為	U字状	縄文土器	本跡→SK10
2	C２b0～C３f2	N－12°－E N－73°－W	屈曲	(27.7)	0.30～0.55	0.15～0.28	0.08～0.15	人為	逆台形	－	SI 19→本跡
3	C３b1～C３d7	N－73°－W	直線状	27.6	0.22～0.45	0.06～0.24	0.09～0.11	－	浅いU字状	－	本跡→SK70

(4) ピット群

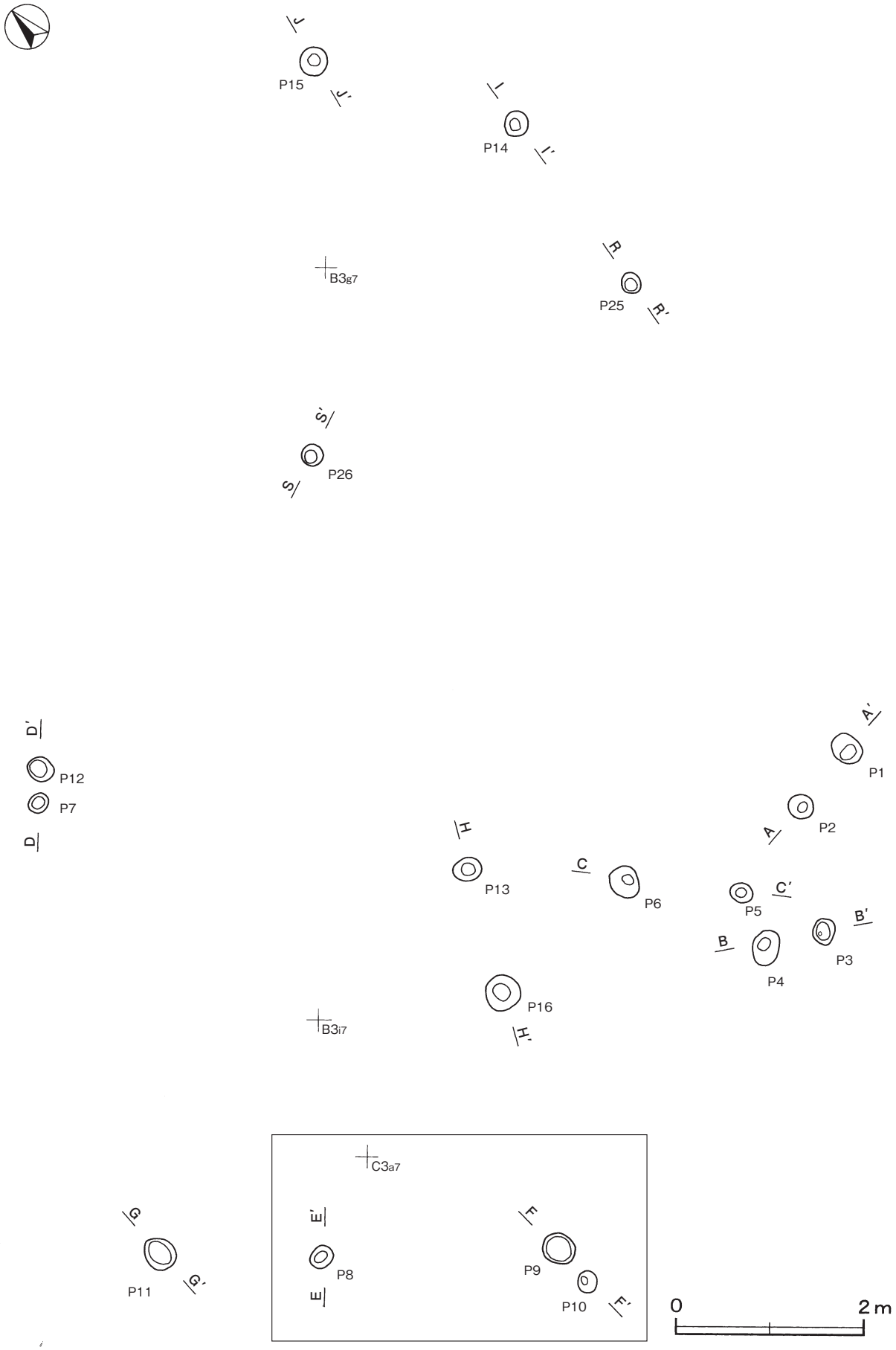
今回の調査で，ピット群が９か所確認できた。いずれのピット群も明確に建物跡を想定できず，また伴出する出土遺物がないことから，時期を決定することもできない。ここではピット一覧表と平面図をそれぞれ記載する。

第１号ピット群（第89・90図）

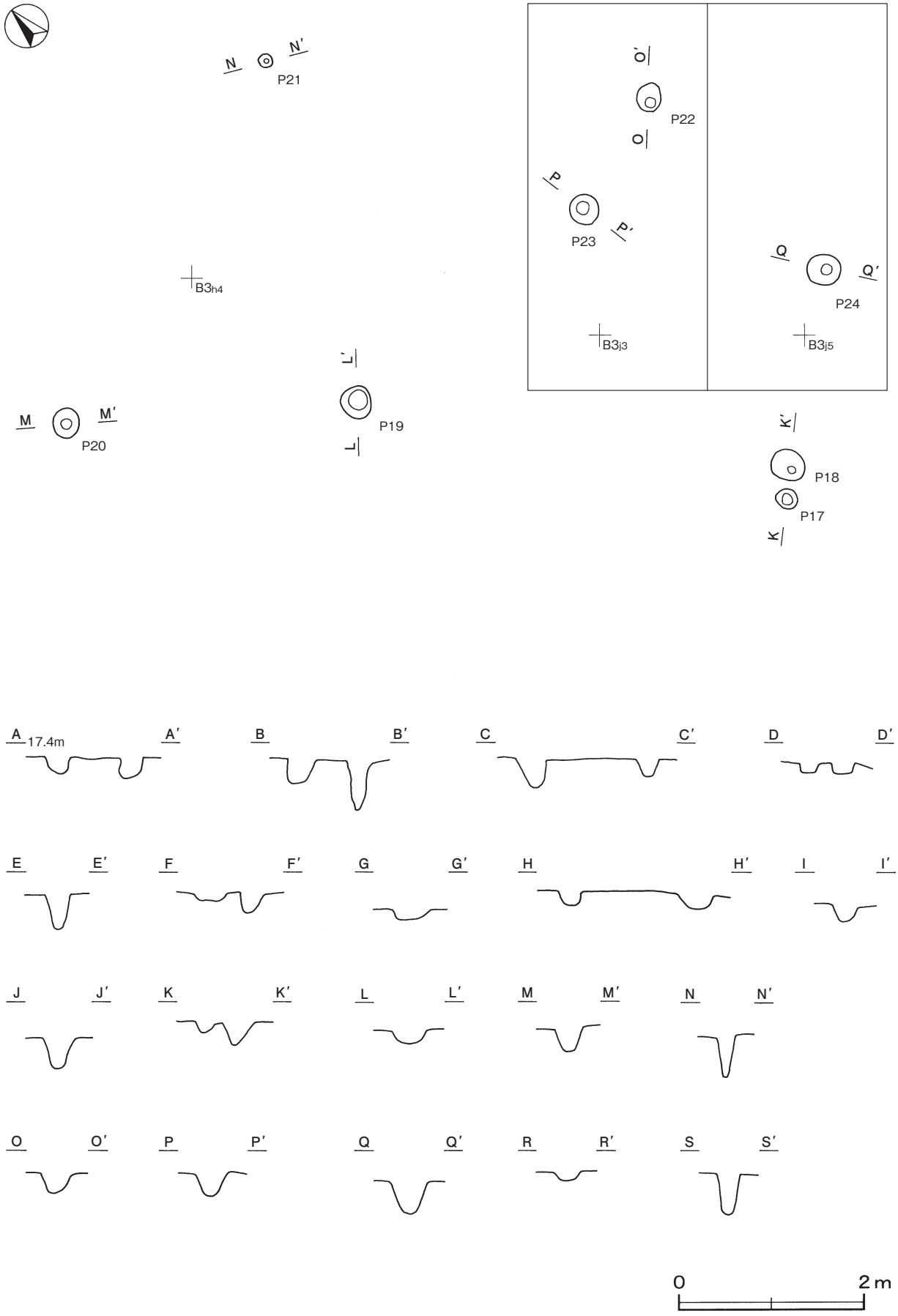
調査区中央部北寄りのＢ３f6～Ｂ３h5区にかけての東西28ｍ，南北24ｍの範囲から，柱穴状のピット26か所を確認した。平面形は長径16～39cmの円形または楕円形で，深さが10～52cmである。覆土中から縄文土器片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表９　第１号ピット群　ピット一覧表

番号	位置	形状	規模（cm）			番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Ｂ３h8	楕円形	32	28	24	14	Ｂ３f7	円形	27	25	19
2	Ｂ３h8	円形	28	26	18	15	Ｂ３f6	楕円形	30	26	34
3	Ｂ３h8	楕円形	28	24	52	16	Ｂ３h7	円形	38	37	19
4	Ｂ３h8	楕円形	38	28	28	17	Ｂ３h5	楕円形	24	21	12
5	Ｂ３h8	円形	25	22	20	18	Ｂ３h5	楕円形	39	35	29
6	Ｂ３h7	円形	35	32	34	19	Ｂ３h4	円形	35	32	15
7	Ｂ３h6	楕円形	22	19	12	20	Ｂ３h3	円形	32	29	26
8	Ｃ３a6	円形	24	23	38	21	Ｂ３g4	円形	16	15	48
9	Ｃ３a7	楕円形	34	30	10	22	Ｂ３i3	楕円形	30	26	20
10	Ｃ３a7	円形	22	21	24	23	Ｂ３i2	円形	33	31	29
11	Ｂ３i6	楕円形	39	31	11	24	Ｂ３i5	円形	36	34	37
12	Ｂ３h6	楕円形	27	24	13	25	Ｂ３g7	円形	22	21	13
13	Ｂ３h7	楕円形	30	24	14	26	Ｂ３g6	円形	25	24	46



第89図　第1号ピット群実測図（1）



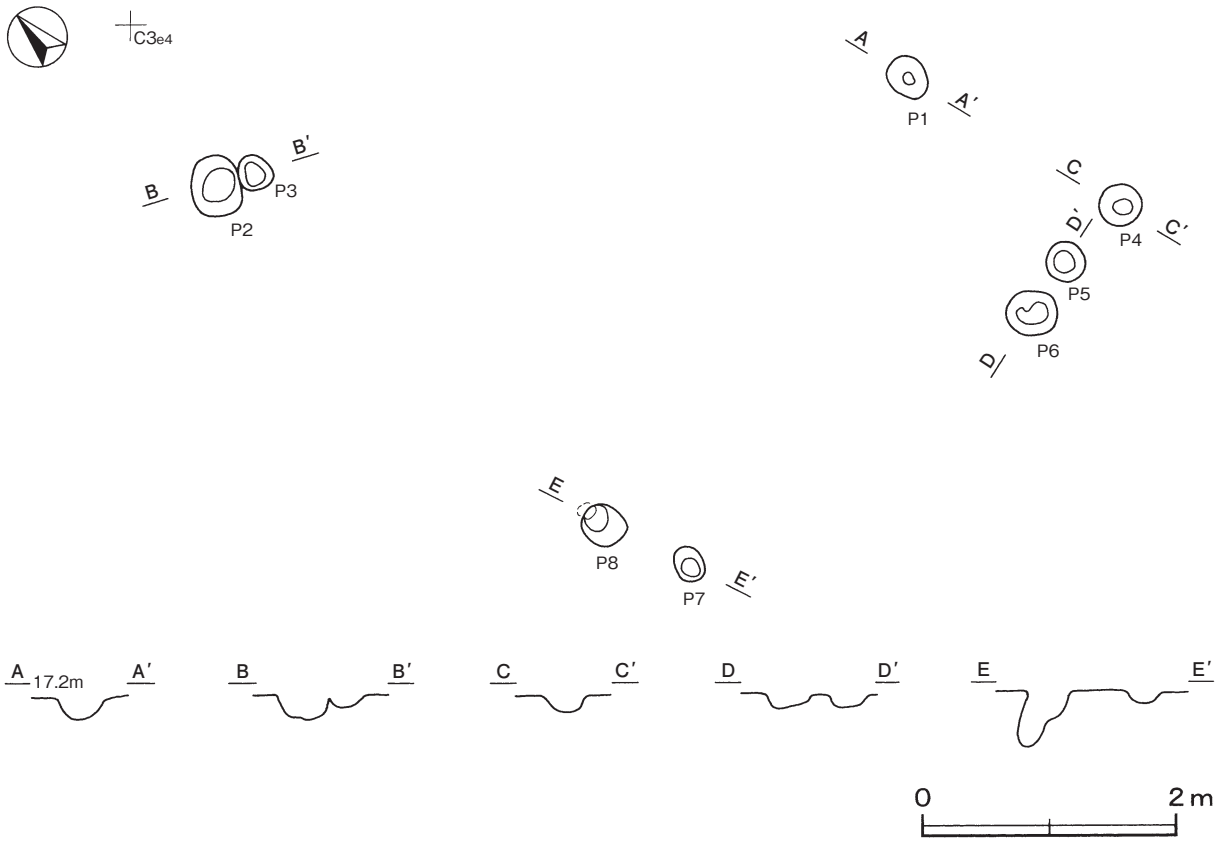
第 90 図　第１号ピット群実測図（2）

第２号ピット群（第 91 図）

調査区中央部南寄りのＣ３e4 ～Ｃ３f5 区にかけての東西８ｍ，南北８ｍの範囲から，柱穴状のピット８か所を確認した。平面形は長径 28 ～ 48cmの円形または楕円形で，深さが８～ 42cmである。時期・性格ともに不明である。

表 10　第２号ピット群　ピット一覧表

番号	位置	形状	規模（cm）			番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Ｃ３e5	楕円形	36	30	18	5	Ｃ３e5	円形	31	30	10
2	Ｃ３e4	楕円形	48	38	20	6	Ｃ３e5	円形	39	38	12
3	Ｃ３e4	円形	28	26	10	7	Ｃ３f5	楕円形	28	23	8
4	Ｃ３e5	円形	34	33	12	8	Ｃ３f4	楕円形	37	30	42



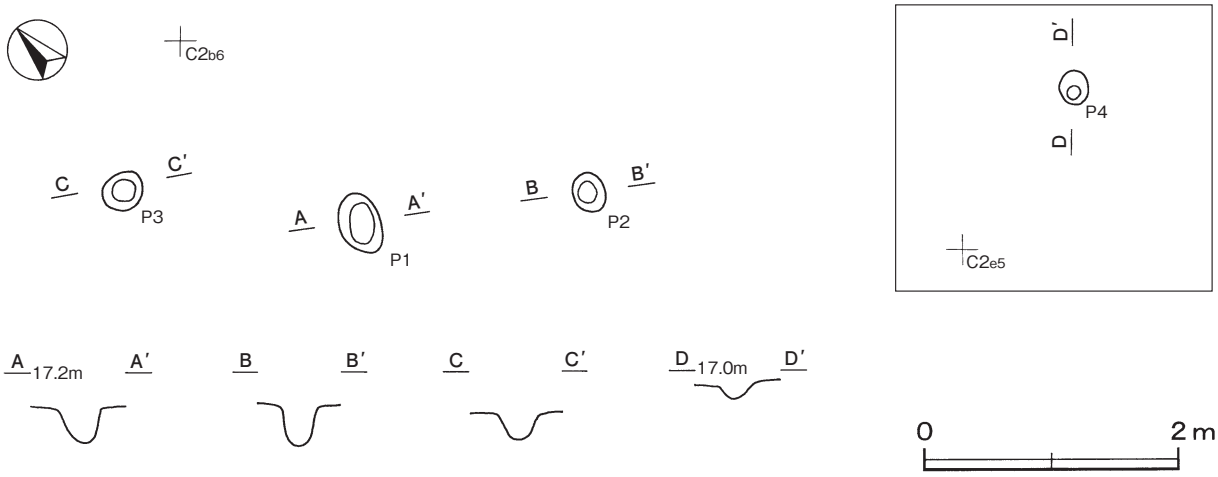
第 91 図　第２号ピット群実測図

第３号ピット群（第 92 図）

調査区西部南寄りのＣ２b5 ～Ｃ２d5 区にかけての東西８ｍ，南北 12 ｍの範囲から，柱穴状のピット４か所を確認した。平面形は長径 28 ～ 48cmの円形または楕円形で，深さが 14 ～ 31cmである。時期・性格ともに不明である。

表 11　第３号ピット群　ピット一覧表

番号	位置	形状	規模（cm）			番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Ｃ２b6	楕円形	48	32	28	3	Ｃ２b5	楕円形	35	29	23
2	Ｃ２b6	楕円形	31	25	31	4	Ｃ２d5	楕円形	28	25	14



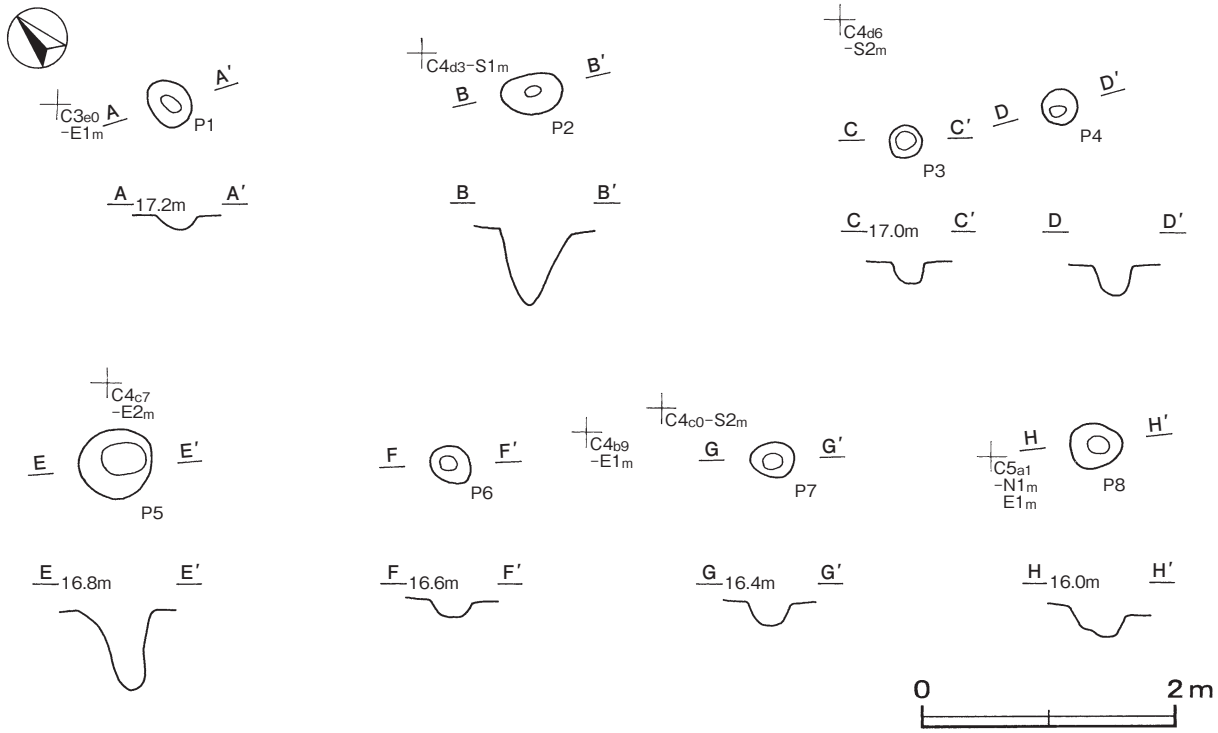
第92図　第３号ピット群実測図

第４号ピット群（第93図）

調査区東部南寄りのＣ３d0～Ｂ５j1区にかけての東西36ｍ，南北24ｍの範囲から，柱穴状のピット８か所を確認した。平面形は長径27～58㎝の円形または楕円形で，深さが12～60㎝である。覆土中から縄文土器片，土師器片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表12　第４号ピット群　ピット一覧表

番号	位置	形状	規模（㎝）			番号	位置	形状	規模（㎝）		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Ｃ３d0	楕円形	38	30	12	5	Ｃ４c7	円形	58	54	58
2	Ｃ４d3	楕円形	48	31	60	6	Ｃ４b8	楕円形	34	29	13
3	Ｃ４d6	円形	27	26	18	7	Ｃ４c0	楕円形	34	28	19
4	Ｃ４d6	円形	28	28	25	8	Ｂ５j1	楕円形	40	38	23



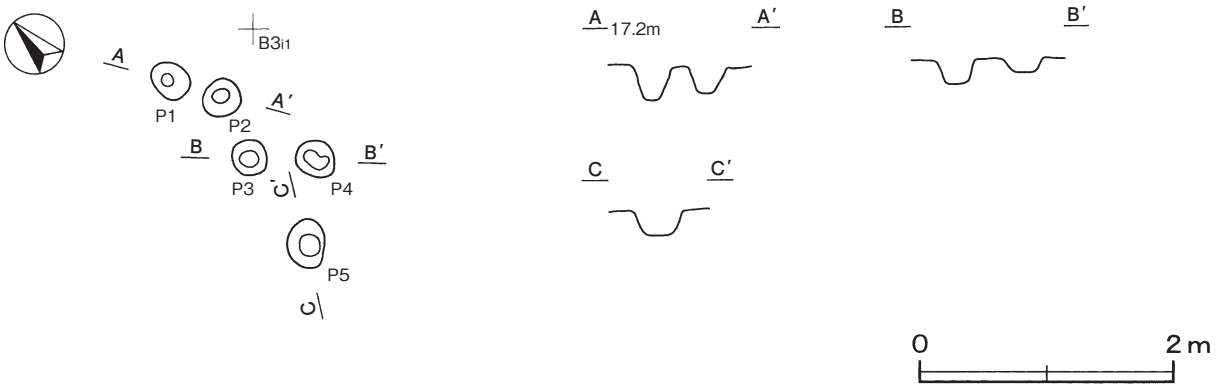
第93図　第４号ピット群実測図

第５号ピット群（第 94 図）

調査区中央部北寄りのＢ２i0 ～Ｂ３i1 区にかけての東西８ｍ，南北４ｍの範囲から，柱穴状のピット５か所を確認した。平面形は長径 28 ～ 39cmの円形または楕円形で，深さが 10 ～ 28cmである。覆土中から縄文土器片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表 13　第５号ピット群　ピット一覧表

番号	位置	形状	規模（cm）			番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Ｂ２i0	楕円形	32	28	28	4	Ｂ３i1	円形	32	30	10
2	Ｂ２i0	円形	30	30	21	5	Ｂ３i1	楕円形	39	29	19
3	Ｂ２i0	円形	28	28	20						



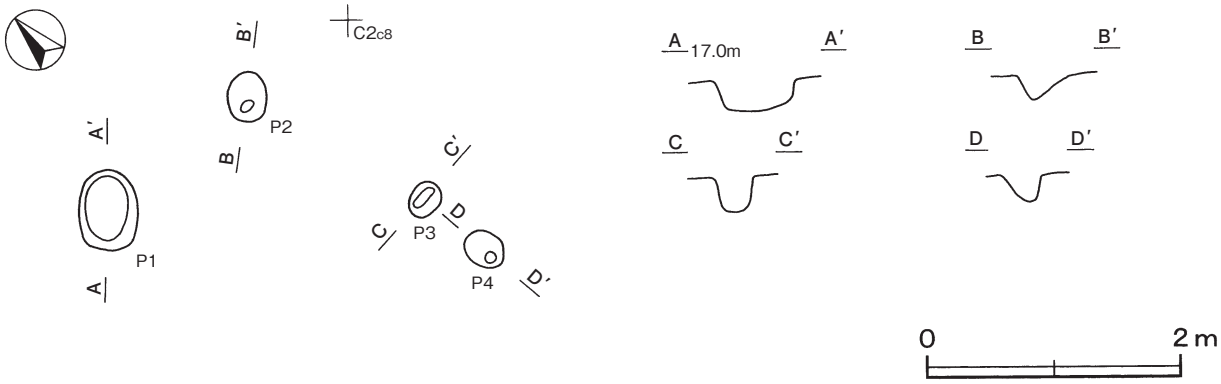
第 94 図　第５号ピット群実測図

第６号ピット群（第 95 図）

調査区西部のＣ２c7 ～Ｃ２c8 区にかけての東西８ｍ，南北４ｍの範囲から，柱穴状のピット４か所を確認した。平面形は長径 29 ～ 66cmの円形または楕円形で，深さが 20 ～ 29cmである。時期･性格ともに不明である。

表 14　第６号ピット群　ピット一覧表

番号	位置	形状	規模（cm）			番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Ｃ２c7	楕円形	66	46	25	3	Ｃ２c8	楕円形	29	23	29
2	Ｃ２c7	楕円形	40	30	20	4	Ｃ２c8	楕円形	33	25	22



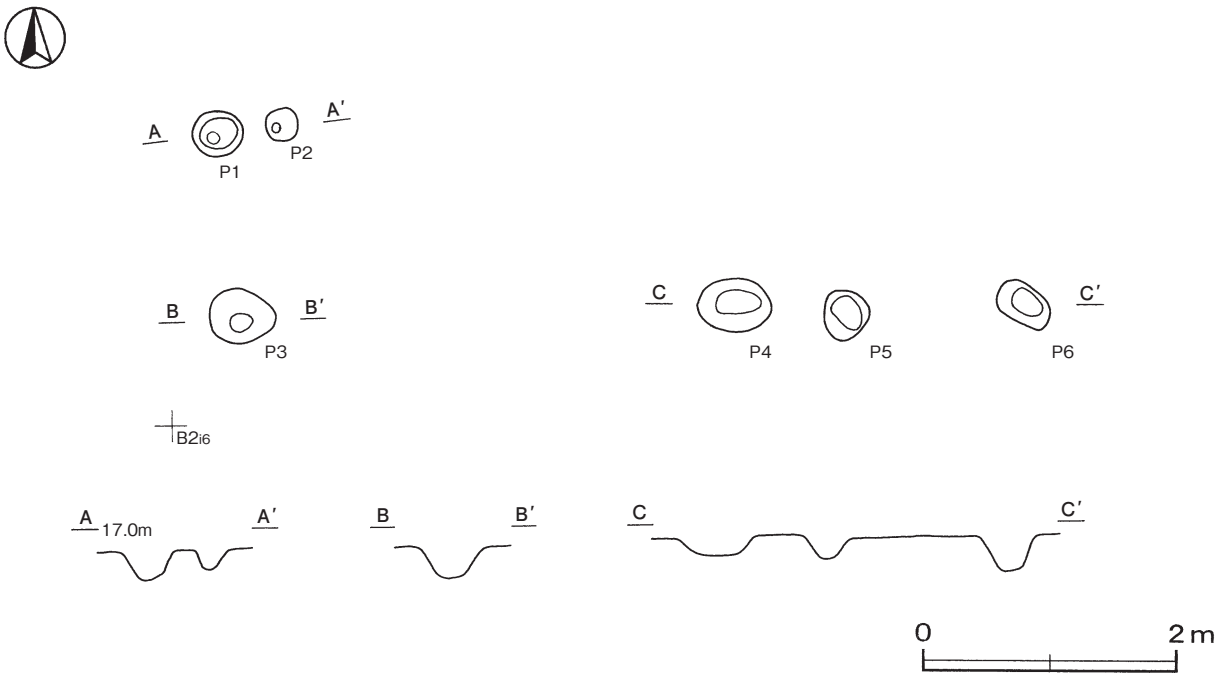
第 95 図　第６号ピット群実測図

第７号ピット群（第 96 図）

調査区西部のＢ２h6 ～Ｂ２h7 区にかけての東西８ｍ，南北４ｍの範囲から，柱穴状のピット６か所を確認した。平面形は長径 25 ～ 58cmの円形または楕円形で，深さが 13 ～ 29cmである。覆土中から縄文土器片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表 15　第７号ピット群　ピット一覧表

番号	位置	形状	規模（cm）			番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Ｂ２h6	楕円形	39	35	24	4	Ｂ２h7	楕円形	58	40	13
2	Ｂ２h6	円形	25	24	16	5	Ｂ２h7	楕円形	40	36	17
3	Ｂ２h6	楕円形	50	44	25	6	Ｂ２h7	楕円形	44	30	29



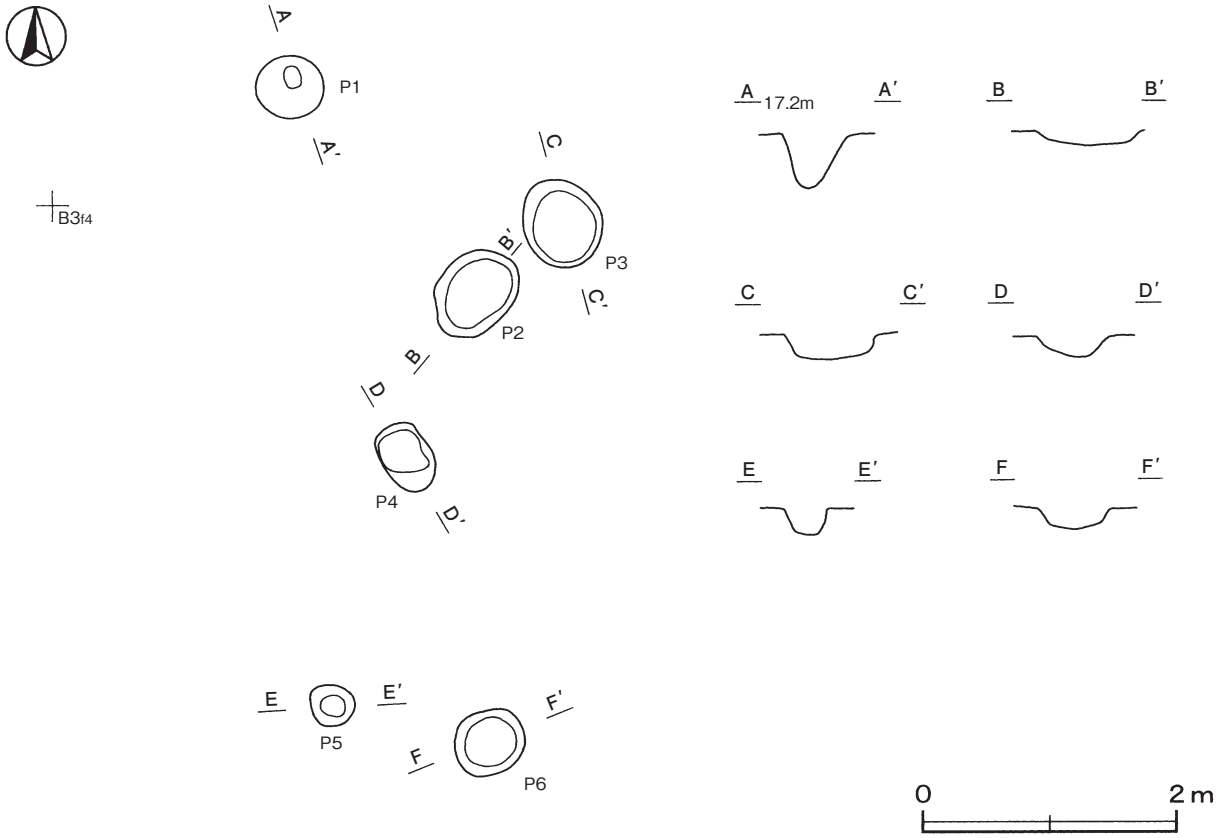
第 96 図　第７号ピット群実測図

第８号ピット群（第 97 図）

調査区中央部のＢ３e4 ～Ｂ３g4 区にかけての東西８ｍ，南北 12 ｍの範囲から，柱穴状のピット６か所を確認した。平面形は長径 34 ～ 70cmの円形または楕円形で，深さが 10 ～ 44cmである。覆土中から縄文土器片や剥片が出土している。時期・性格ともに不明である。

表 16　第８号ピット群　ピット一覧表

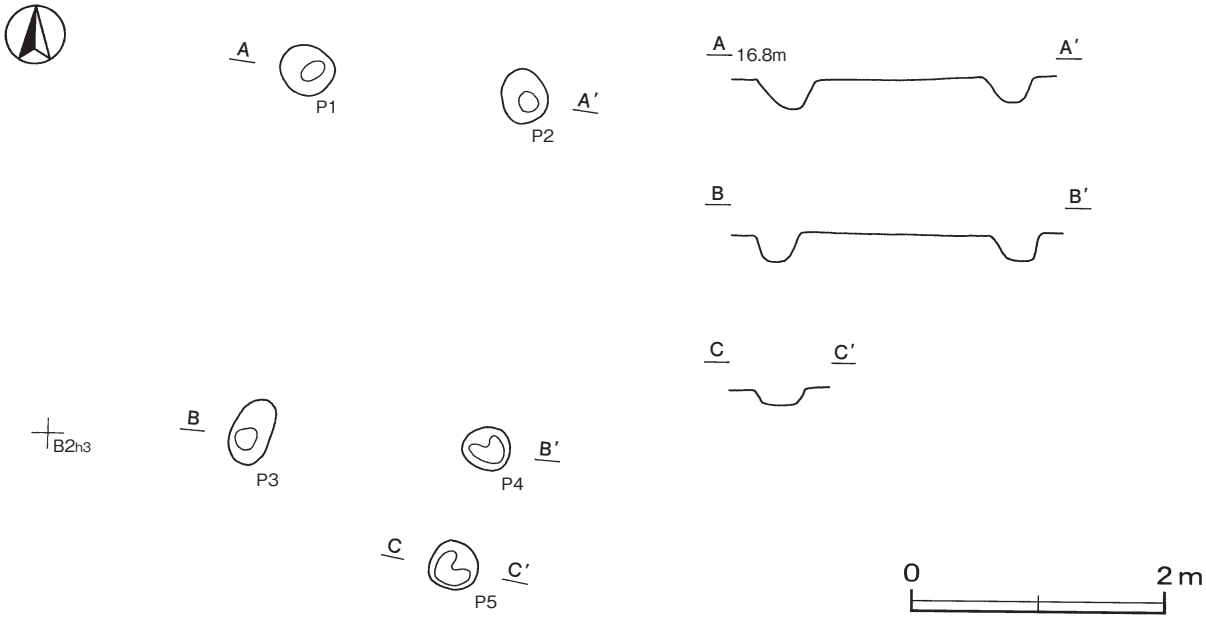
番号	位置	形状	規模（cm）			番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Ｂ３e4	円形	52	50	44	4	Ｂ３f4	楕円形	57	40	15
2	Ｂ３f4	楕円形	68	59	10	5	Ｂ３g4	円形	34	34	24
3	Ｂ３f4	楕円形	70	62	18	6	Ｂ３g4	楕円形	58	52	17



第 97 図　第８号ピット群実測図

第９号ピット群（第 98 図）

調査区北西部寄りのＢ３g3 ～Ｂ２h3 区にかけての東西４m，南北８mの範囲から，柱穴状のピット５か所を確認した。平面形は長径 37 ～ 53cmの円形または楕円形で，深さが 13 ～ 24cmである。覆土中から縄文土器片が出土している。時期・性格ともに不明である。



第 98 図　第９号ピット群実測図

表 17　第９号ピット群　ピット一覧表

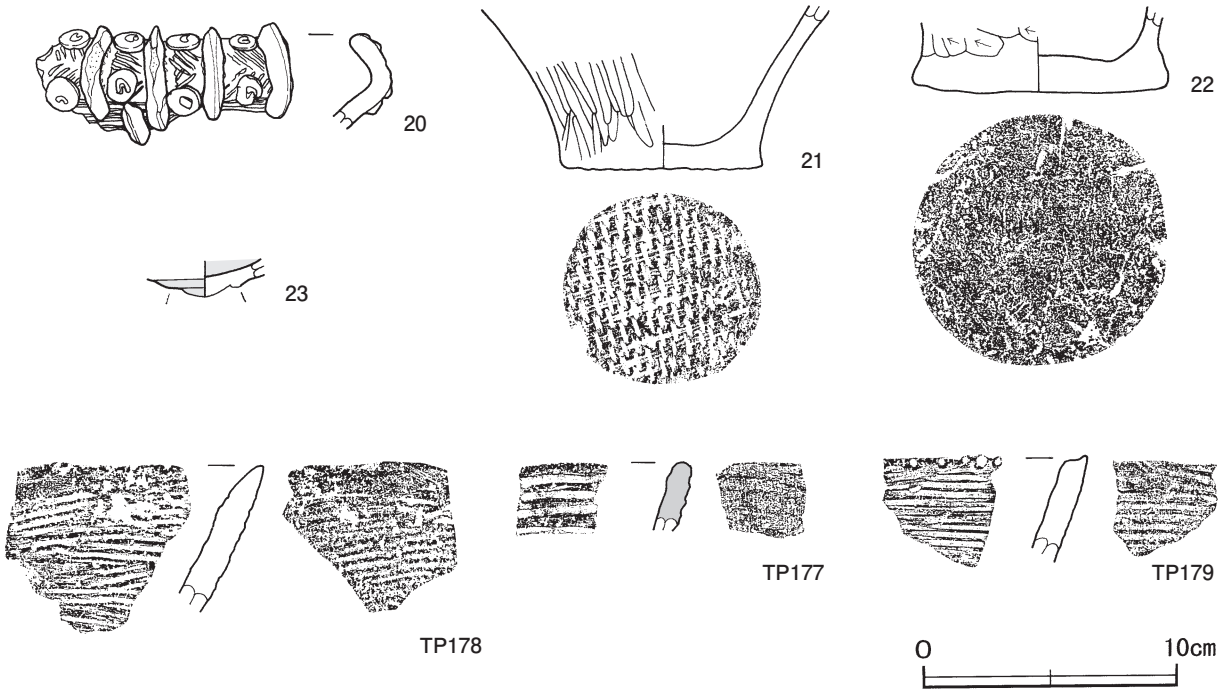
番号	位置	形状	規模（cm）			番号	位置	形状	規模（cm）		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	Ｂ２g3	楕円形	44	39	24	4	Ｂ２h3	円形	37	35	21
2	Ｂ２g3	楕円形	42	37	21	5	Ｂ２h3	円形	40	38	13
3	Ｂ２g3	楕円形	53	34	24						

表 18　ピット群一覧表

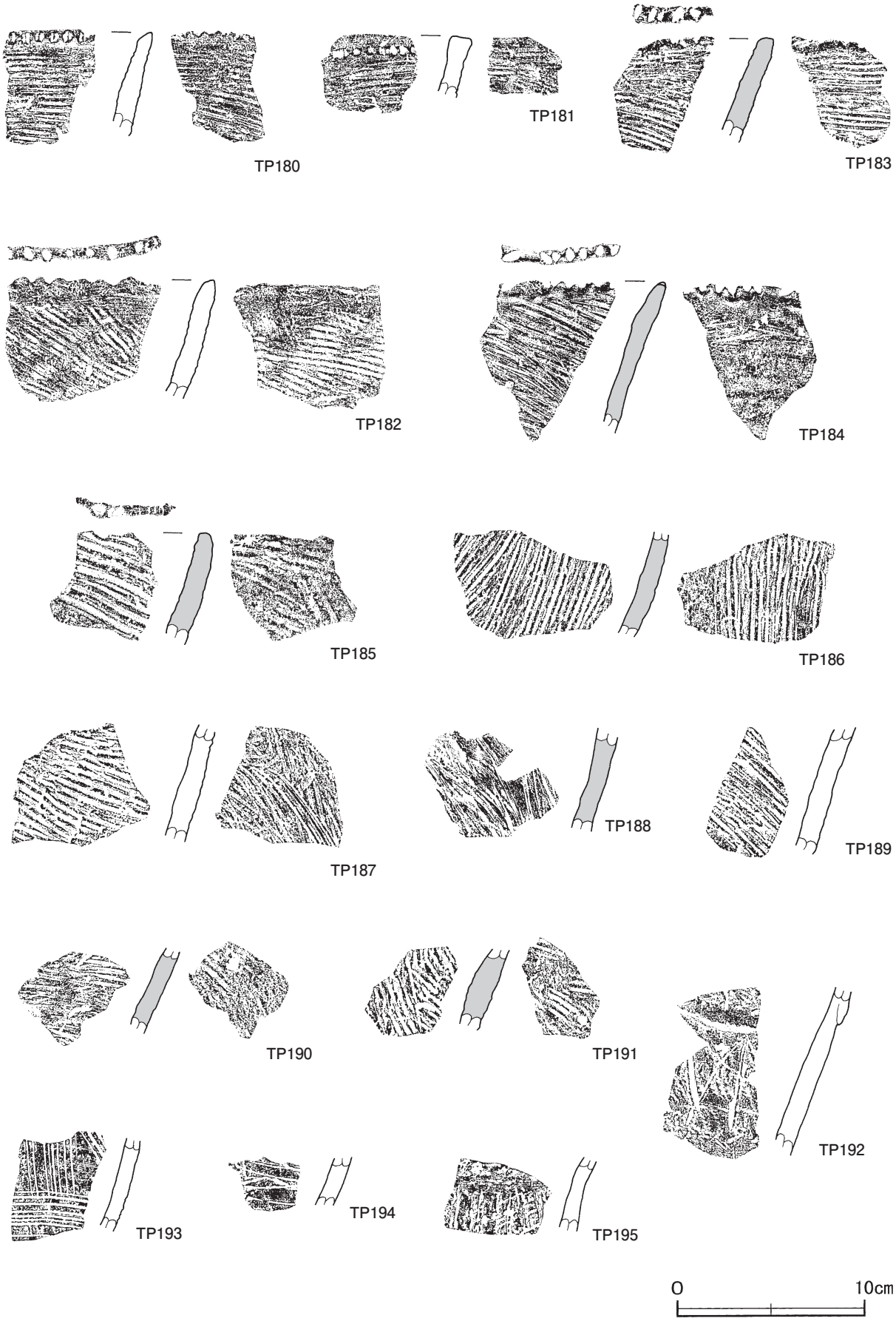
番号	位　置	穴　数	平面形	規　模　（cm）			主　な　遺　物
				長径	短径	深さ	
1	Ｂ３f6 ～Ｂ３h5	26	円形，楕円形	16 ～ 39	15 ～ 37	10 ～ 52	縄文土器
2	Ｃ３e4 ～Ｃ３f5	8	円形，楕円形	28 ～ 48	23 ～ 38	8 ～ 42	
3	Ｃ２b5 ～Ｃ２d5	4	円形，楕円形	28 ～ 48	25 ～ 32	14 ～ 31	
4	Ｃ３d0 ～Ｂ５j1	8	円形，楕円形	27 ～ 58	26 ～ 54	12 ～ 60	縄文土器，土師器
5	Ｂ２i0 ～Ｂ３i1	5	円形，楕円形	28 ～ 39	28 ～ 30	10 ～ 28	縄文土器
6	Ｃ２c7 ～Ｃ２c8	4	円形，楕円形	29 ～ 66	23 ～ 46	20 ～ 29	
7	Ｂ２h6 ～Ｂ２h7	6	円形，楕円形	25 ～ 58	24 ～ 44	13 ～ 29	縄文土器
8	Ｂ３e4 ～Ｂ３g4	6	円形，楕円形	34 ～ 70	34 ～ 62	10 ～ 44	縄文土器，剥片
9	Ｂ３g3 ～Ｂ２h3	5	円形，楕円形	37 ～ 53	34 ～ 39	13 ～ 24	縄文土器

（5）　遺構外出土遺物（第 99 ～ 104 図）

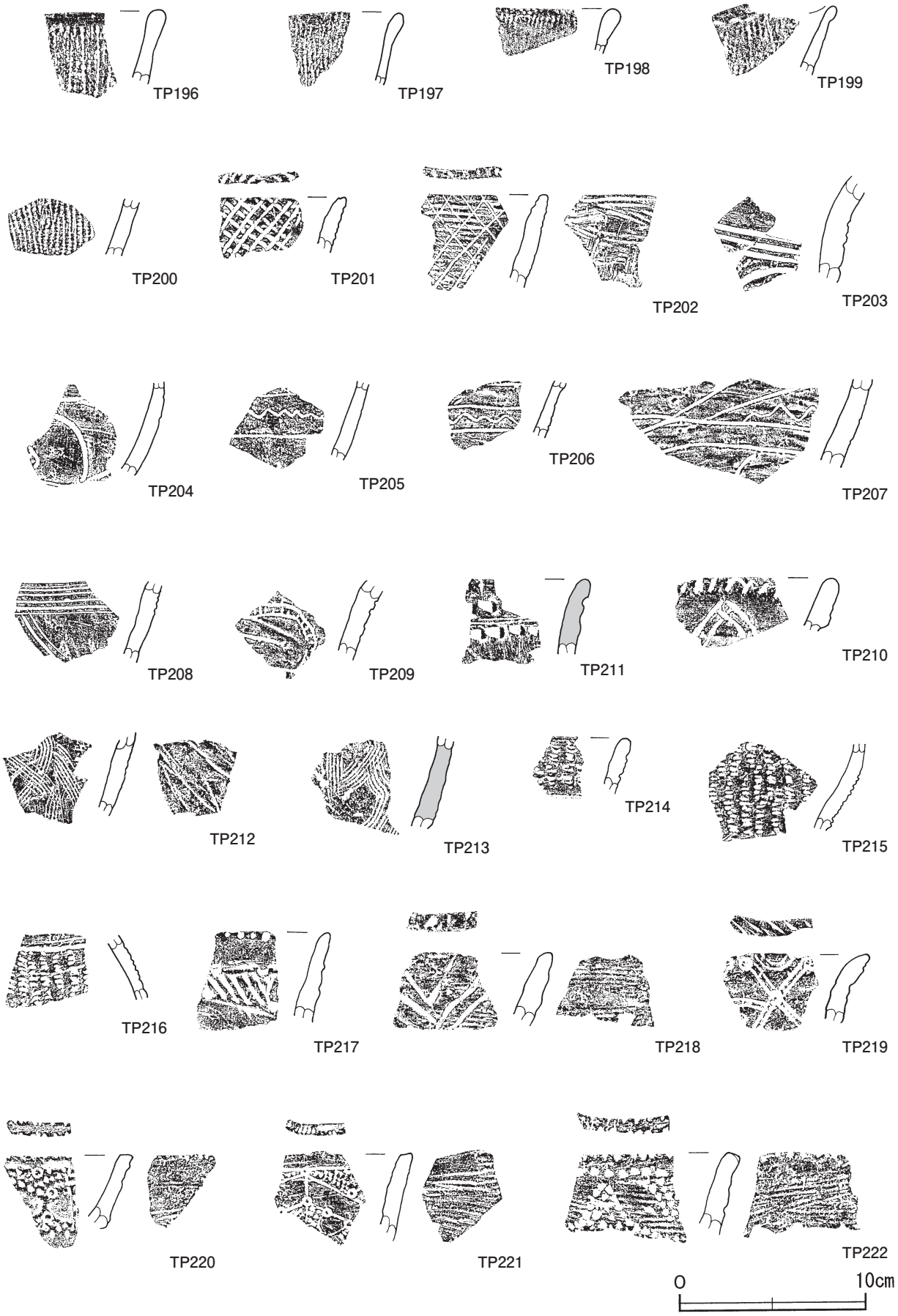
遺構に伴わない遺物のうち，特徴的なものを実測図と遺物観察表で記述する。



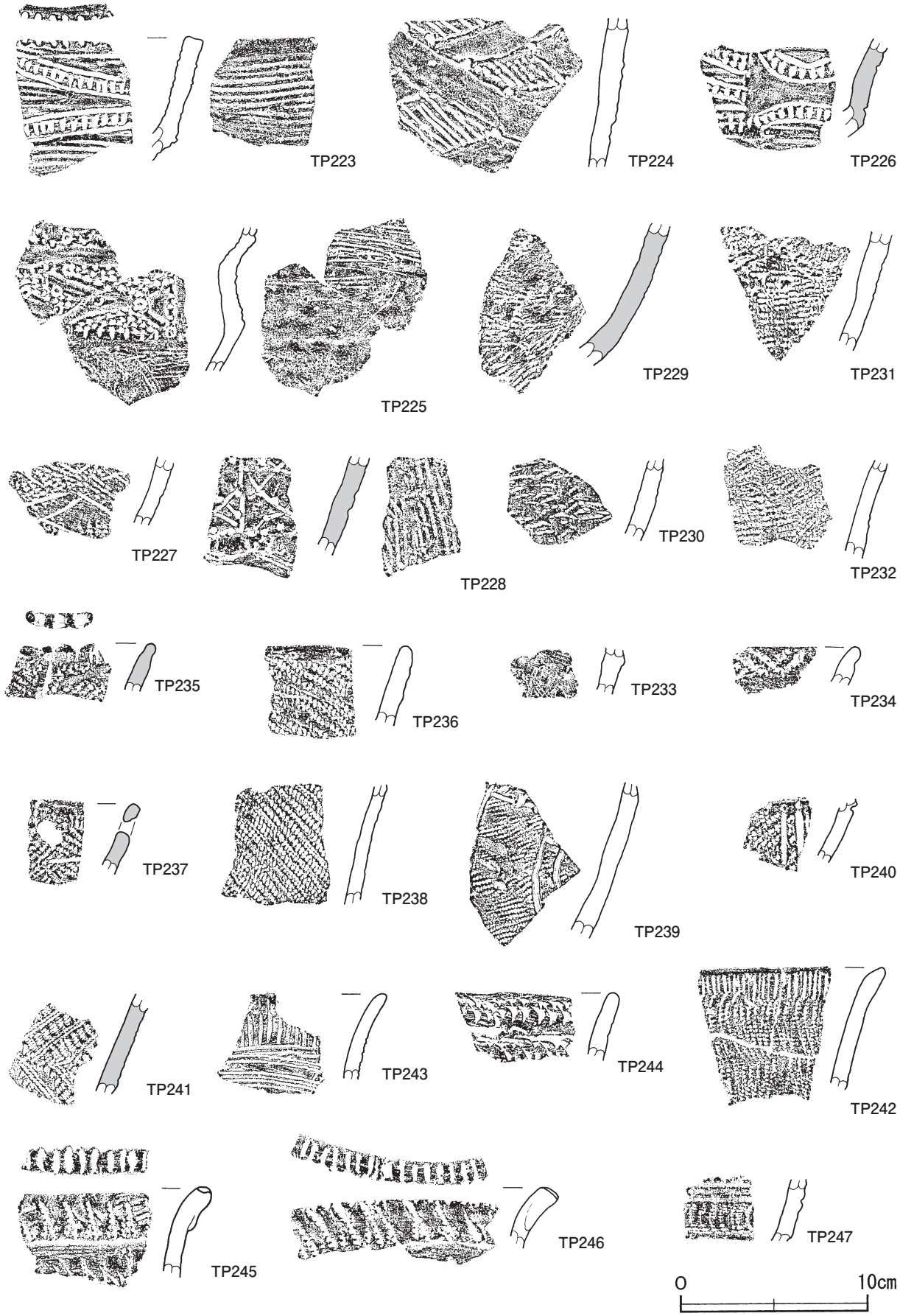
第 99 図　遺構外出土遺物実測図（1）



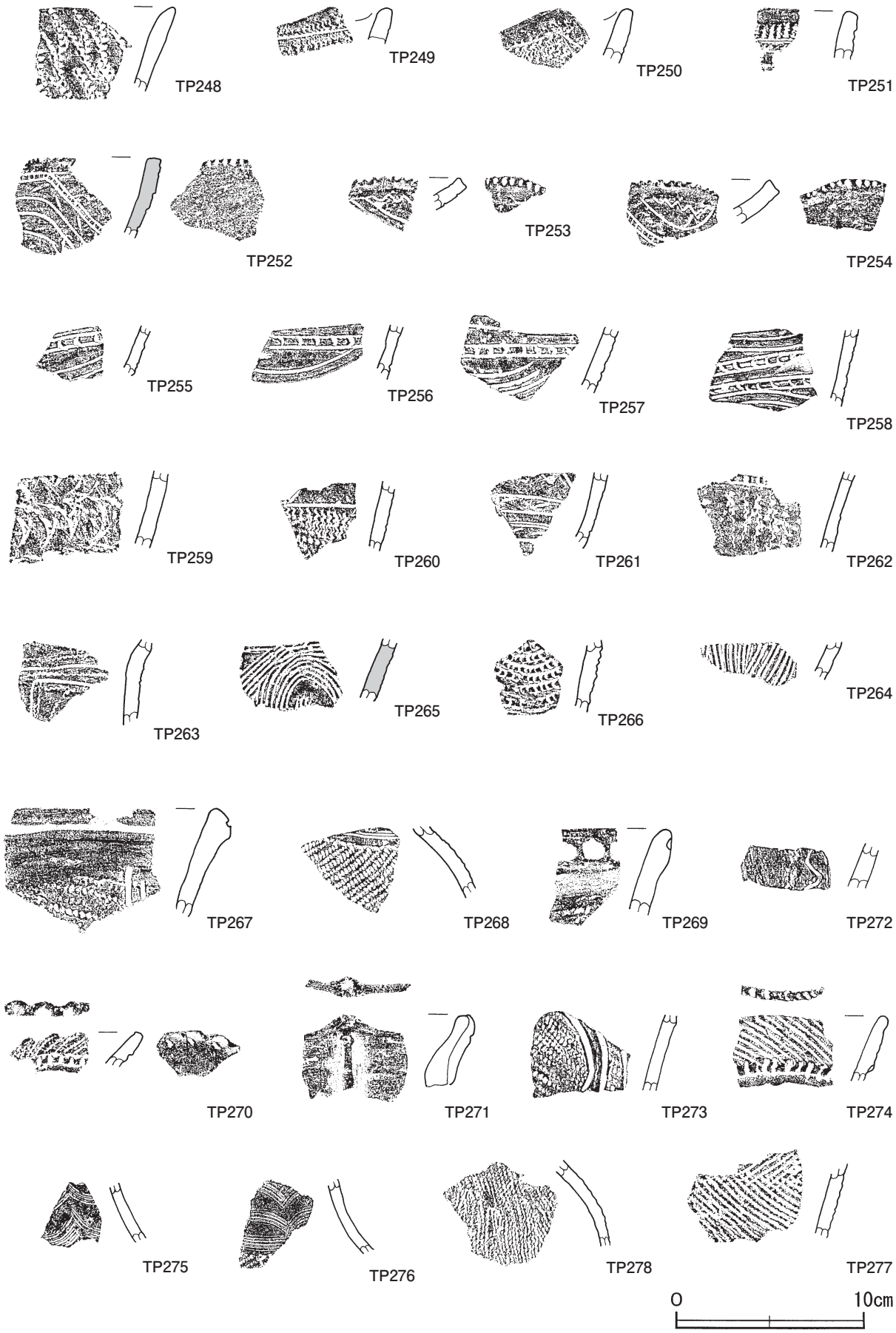
第 100 図　遺構外出土遺物実測図（2）



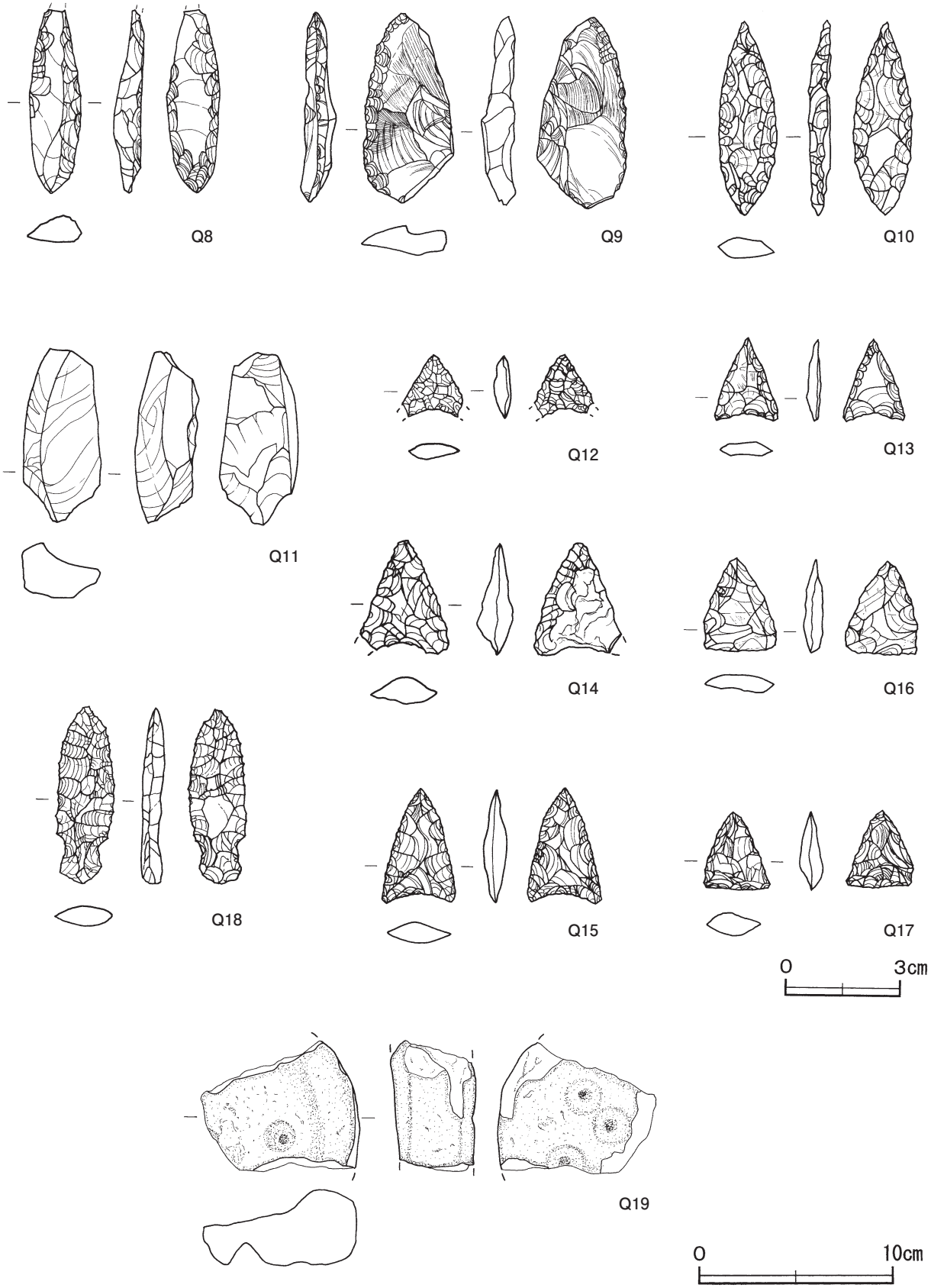
第 101 図　遺構外出土遺物実測図（3）



第 102 図　遺構外出土遺物実測図（4）



第 103 図　遺構外出土遺物実測図（5）



第 104 図　遺構外出土遺物実測図（6）

遺構外出土遺物観察表（第 99 ～ 104 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色調	焼成	手法・文様の特徴ほか	時期	備考
20	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石･石英･赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部集合沈線を地文とし，縦位の隆帯を貼り付け，その間に小さなボタン状粘土を２段に貼り付ける	前期後半	５％ PL28
21	縄文土器	深鉢	－	(5.9)	7.8	長石･石英･赤色粒子	橙	普通	胴部ヘラ磨き 底部編組組織圧痕	縄文時代	10% PL22
22	縄文土器	深鉢	－	(3.4)	9.9	長石・赤色粒子	橙	普通	外面ヘラ削り 底部ナデ調整	縄文時代	10%
23	土師器	高坏	－	(1.6)	－	長石	橙	普通	坏部外・内面ヘラ磨き	前期	５％　赤彩

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文様の特徴ほか	備考
TP177	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	口縁部外面貝殻背圧痕文を地文にし，横位に沈線を施文 内面貝殻条痕文を施文	早期
TP178	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP179	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部上端キザミ 外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP180	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP181	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部キザミ 外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP182	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP183	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP184	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	にぶい黄橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP185	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP186	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	胴部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP187	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP188	縄文土器	深鉢	赤色粒子・繊維	にぶい黄橙	普通	胴部貝殻条痕文を施文	早期
TP189	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	胴部貝殻条痕文を施文	早期
TP190	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	胴部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP191	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	胴部外・内面貝殻条痕文を施文	早期
TP192	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部折り返し 貝殻条痕文を地文とし，沈線で山形文を施文	早期
TP193	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部貝殻背圧痕文を地文とし，沈線を施文	早期ヵ
TP194	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	胴部沈線文	早期ヵ
TP195	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部貝殻条痕文を地文とし，隆帯を縦位に貼り付け	早期ヵ
TP196	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部縦位の撚糸文を施文	早期前半
TP197	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部縦位の撚糸文を施文	早期前半
TP198	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部縦位の撚糸文を施文	早期前半
TP199	縄文土器	深鉢	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部縦位の撚糸文を施文	早期前半
TP200	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	胴部撚糸文を施文	早期前半
TP201	縄文土器	深鉢	赤色粒子	にぶい黄褐	普通	口唇部キザミ　口縁部格子状に沈線を施文	早期後半
TP202	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外面貝殻条痕文を地文とし，格子状に沈線を施文 内面貝殻条痕文を施文	早期後半
TP203	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	普通	胴部中位に３条の沈線を横位に施文 下位に曲線の沈線を施文	早期後半
TP204	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部貝殻条痕文を地文とし，沈線文を施文	早期後半
TP205	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部横位と波状の沈線を施文	早期後半
TP206	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部横位と波状の沈線を施文	早期後半
TP207	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	胴部沈線文を施文	早期後半
TP208	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	胴部６本単位の沈線を横位に施文後，３本単位以上の沈線を斜位に施文	早期後半
TP209	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部平行沈線と刺突文	早期後半
TP210	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部キザミ　口縁部平行沈線で山形文を施文	早期後半
TP211	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	口唇部キザミ　口縁部２段の棒状工具を用いた刺突文と横位の沈線文を施文	早期後半
TP212	縄文土器	深鉢	長石・石英	オリーブ黒	普通	胴部外面７本単位の細沈線文を施文 内面貝殻条痕文を施文	早期後半

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	備考
TP213	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	胴部６本単位の沈線を施文	早期後半
TP214	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部貝殻条痕文を地文とし，刺突文を施文	早期後半
TP215	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	胴部貝殻条痕文を地文とし，棒状工具を用いた刺突文を施文	早期後半
TP216	縄文土器	深鉢	長石	にぶい褐	普通	胴部貝殻条痕文を地文とし，上位に平行沈線文を横位に施文，中～下位に刺突文を施文	早期後半
TP217	縄文土器	深鉢	砂粒	橙	普通	口縁部外面上端キザミ 中～下位隆起線文により格子状に区画 区画内に棒状工具を用いた沈線文と刺突文を施文	早期後半
TP218	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外面格子状に沈線を施文後，区画内に横位の細沈線を施文 内面貝殻条痕文を施文	早期後半
TP219	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口唇部キザミ　口縁部半截竹管を用いた平行沈線にて格子状・半円状に施文 竹管状工具を用いて沈線交点に刺突文を施文	早期後半
TP220	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外面棒状工具を用いて幾何学的に刺突文を施文後，竹管状工具を用いて刺突文を施文	早期後半
TP221	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部縄文原体押圧　口縁部沈線による幾何学的文様を施文後，区画内に刺突文を充填 沈線交点に竹管状工具を押捺 内面貝殻条痕文を施文	早期後半
TP222	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外面貝殻条痕文を地文とし，格子状に刺突文を施文 内面貝殻条痕文を施文	早期後半
TP223	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外面貝殻条痕文を地文とし，襷掛け状に平行沈線と刺突文を施文 内面貝殻条痕文を施文	早期後半
TP224	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部低い細隆起線文で襷掛け状に区画 区画内に棒状工具を用いた沈線文を充填 交点に棒状工具を用いた刺突文を附加	早期後半
TP225	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部低い細隆起線文で襷掛け状に区画 区画内に棒状工具を用いた刺突文を充填 交点に棒状工具を用いた刺突文を附加	早期後半
TP226	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	普通	胴部沈線にて幾何学文を施文後，区画内に竹管状工具を用いた刺突文を施文	早期後半
TP227	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	胴部単節縄文 RL を地文とし，幾何学的な文様を沈線で施文	早期後半
TP228	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	普通	胴部外面貝殻条痕文を地文 細隆起線文と沈線文・刺突文を用いた格子文を施文 内面貝殻条痕文を施文	早期後半
TP229	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	胴部貝殻背圧痕文を施文	早期後半
TP230	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部貝殻背圧痕文を施文	早期後半
TP231	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部貝殻背圧痕文を施文	早期後半
TP232	縄文土器	深鉢	砂粒	にぶい橙	普通	胴部貝殻背圧痕文を施文	早期後半
TP233	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部貝殻背圧痕文を施文	早期後半
TP234	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部単節縄文を施文	前期
TP235	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	にぶい褐	普通	口唇部キザミ　口縁部単節縄文 RL を施文	前期
TP236	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部単節縄文 RL を施文	前期
TP237	縄文土器	深鉢	雲母・繊維	にぶい黄橙	普通	口縁部単節縄文を施文	前期 補修孔
TP238	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	胴部単節縄文 RL を施文	前期
TP239	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	胴部単節縄文 RL を地文とし，沈線文を施文	前期
TP240	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	褐	普通	胴部単節縄文 LR を施文後，縦位の平行沈線と竹管状工具を用いた刺突文を施文	前期ヵ
TP241	縄文土器	深鉢	砂粒・繊維	にぶい橙	普通	胴部直前段合撚りの縄文を施文	前期前半
TP242	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部縦位の沈線を施文 胴部貝殻腹縁文を施文	前期後半
TP243	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部上位縦位の沈線文中～下位横位の沈線文を施文	前期後半
TP244	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部折り返し 貝殻腹縁文を施文	前期後半
TP245	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部キザミ　口縁部折り返し 貝殻腹縁文を施文	前期後半
TP246	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口唇部キザミ　口縁部折り返し 貝殻腹縁文を斜位に施文	前期後半
TP247	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部上位２条の沈線を施文 中～下位貝殻腹縁文を施文	前期後半
TP248	縄文土器	深鉢	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部貝殻腹縁文を施文	前期後半
TP249	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部貝殻腹縁文を施文後，沈線を施文	前期後半
TP250	縄文土器	深鉢	雲母	にぶい橙	普通	口縁部貝殻腹縁文施文後，沈線を施文	前期後半
TP251	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部貝殻背圧痕文を施文後，横位に沈線を施文	前期後半
TP252	縄文土器	深鉢	雲母・繊維	にぶい橙	普通	口縁部外面半截竹管を用いた平行沈線文と爪形文・沈線文を施文 内面上位キザミ	前期後半
TP253	縄文土器	浅鉢	砂粒	橙	普通	口唇部キザミ　口縁部沈線文を施文	前期後半
TP254	縄文土器	浅鉢	雲母	にぶい橙	普通	口唇部キザミ　口縁部沈線文を施文	前期後半
TP255	縄文土器	深鉢	雲母	にぶい黄橙	普通	胴部半截竹管を用いた平行沈線と爪形文を施文	前期後半

番号	種別	器種	胎　　土	色調	焼成	文　様　の　特　徴　ほ　か	備考
TP256	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	普通	胴部半截竹管を用いた平行沈線と爪形文を施文	前期後半
TP257	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	普通	胴部半截竹管を用いた平行沈線と爪形文を施文	前期後半
TP258	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	胴部半截竹管を用いた平行沈線と爪形文を施文	前期後半
TP259	縄文土器	深鉢	石英・長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部貝殻腹縁文を施文	前期後半
TP260	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	胴部貝殻腹縁文と横位の沈線文を施文	前期後半
TP261	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	普通	胴部平行沈線と山形沈線文を施文	早期後半
TP262	縄文土器	深鉢	長石	橙	普通	胴部貝殻腹縁文を施文後，横位の沈線文を施文	前期後半
TP263	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	胴部沈線文と貝殻腹縁文を施文	前期後半
TP264	縄文土器	深鉢	石英・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部半截竹管を用いた集合沈線を施文	前期後半
TP265	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	普通	胴部３～６本単位の沈線文を施文	早期後半
TP266	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	普通	胴部半截竹管を用いた押引文を施文	前期後半
TP267	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部横位の太沈線文を施文 胴部単節縄文 RL を施文後，縦位の沈線を施文	中期ヵ
TP268	縄文土器	深鉢	石英	橙	普通	頸部上位３条以上の沈線を横位に施文，中～下位に単節縄文 LR を施文	中期ヵ
TP269	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部円形刺突文を施文	後期
TP270	縄文土器	浅鉢	長石・石英	橙	普通	口唇部キザミ　口縁部外面上位撚り糸文を施文 波状に隆帯を貼り付け 内面刺突文を施文	後期ヵ
TP271	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部隆帯貼り付け後，竹管状工具を用いて刺突文を施文	後期前半
TP272	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部磨き後縦位の沈線文を施文	後期前半
TP273	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部沈線により区画 区画内を単節縄文 RL を施文	後期前半ヵ
TP274	弥生土器	壺	長石・雲母	灰黄褐	普通	口唇部縄文原体押圧　口縁部折り返し 附加条一種（附加２条）の縄文を施文 下端縄文原体押圧	後期後半
TP275	弥生土器	壺	雲母	黒褐	普通	頸部３～８本の櫛歯状工具を用いた連弧文を２段に施文	後期後半
TP276	弥生土器	壺	長石・石英	橙	普通	頸部６本単位の櫛歯状工具を用いた２段の連弧文と下位に横走文を施文	後期後半
TP277	弥生土器	壺	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部附加状一種（附加２条）の縄文を羽状に施文	後期後半
TP278	弥生土器	壺	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部撚糸文を施文	後期後半

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石　　質	特　　徴	備考
Q８	ナイフ形石器	(4.7)	1.4	0.6	(4.12)	チャート	両縁調整 先端部欠損	PL28
Q９	ナイフ形石器	4.9	2.3	0.9	7.9	黒曜石	片縁調整	
Q 10	尖頭器	5.0	1.5	0.55	4.38	珪質頁岩	押圧剥離による両面調整	PL28
Q 11	石核	4.4	2.0	1.6	15.3	チャート	縦長剥片石核	
Q 12	石鏃	(1.6)	(1.6)	0.4	(0.68)	チャート	押圧剥離による両面調整 凹基無茎鏃 一部欠損	PL28
Q 13	石鏃	2.1	1.6	0.4	1.02	チャート	押圧剥離による両面調整 凹基無茎鏃	PL28
Q 14	石鏃	2.9	(2.3)	0.9	(3.42)	チャート	押圧剥離による両面調整 凹基無茎鏃 一部欠損	PL28
Q 15	石鏃	2.9	1.9	0.6	2.18	チャート	押圧剥離による両面調整 凹基無茎鏃	PL28
Q 16	石鏃	2.4	1.9	0.5	2.16	チャート	押圧剥離による両面調整 平基無茎鏃	PL28
Q 17	石鏃	2.0	1.7	0.6	1.28	チャート	押圧剥離による両面調整 平基無茎鏃	PL28
Q 18	石匙	4.5	1.5	0.6	3.84	チャート	押圧剥離による両面調整	PL28
Q 19	凹石	(6.8)	(8.3)	4.3	(173.6)	安山岩	全面研磨 凹部４か所	PL28

第４節　ま　　と　　め

1　はじめに

今回の調査で，縄文時代早期・前期の住居跡と炉穴，炉跡，土坑，弥生時代後期の住居跡，古墳時代前期の土坑などを確認した。ここでは，確認した遺構や遺物から当遺跡の変遷を追い，また縄文時代の炉穴や，弥生時代の出土土器や焼失住居について詳細に資料を整理し，分析を行っていきたい。

2　遺跡の変遷

(1) 縄文時代（第 105・106 図参照）

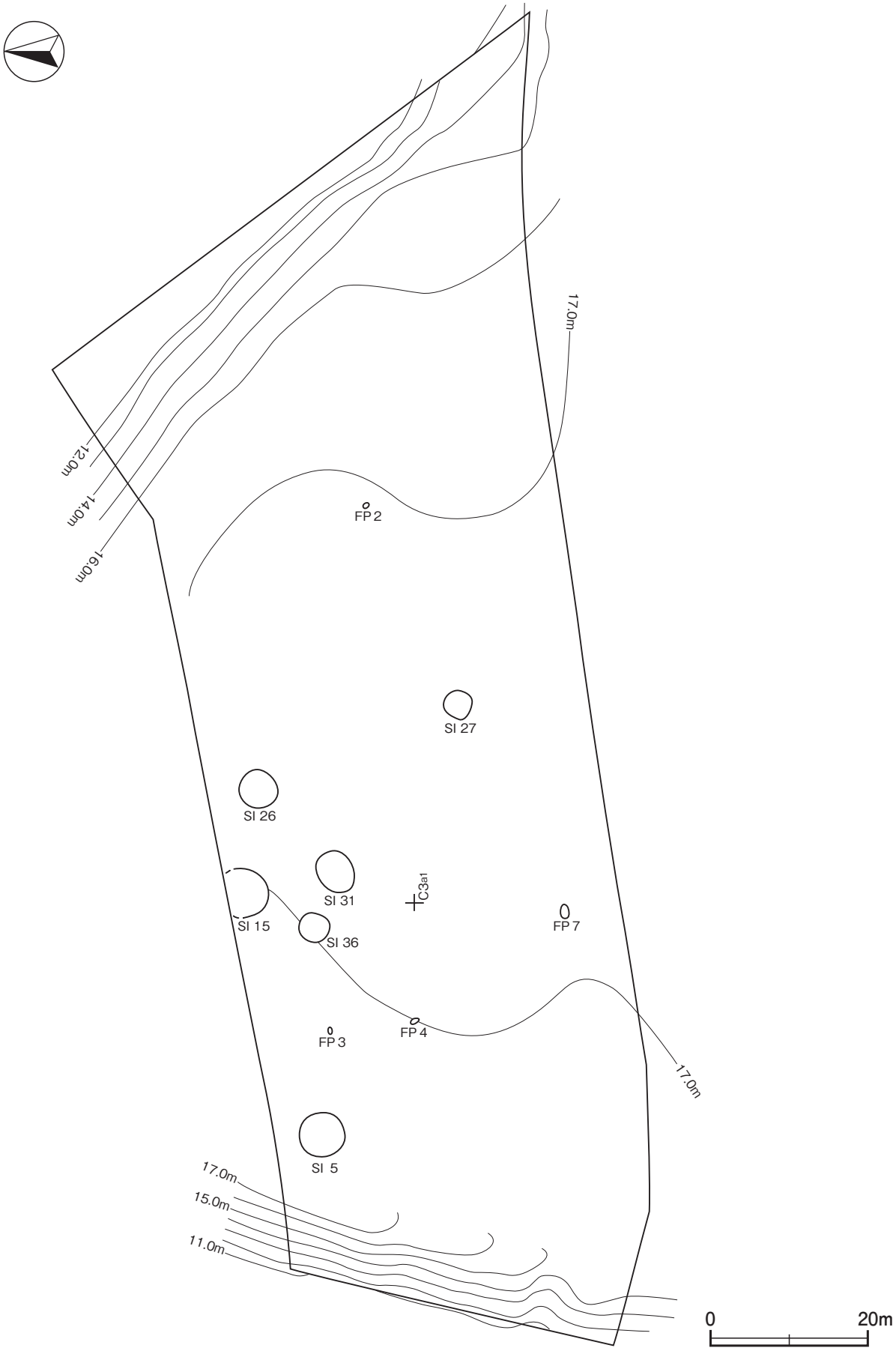
当時代の遺構は住居跡 12 軒，炉穴７基，炉跡４基，土坑 71 基を確認した。時期は，主に早期と前期である。早期の遺構は住居跡６軒，炉穴が４基などである。住居跡からは，主に早期後半の鵜ヶ島台式期の土器片が出土している。炉穴は，第７号炉穴から撚糸文系土器片１点が出土し，ほかには貝殻条痕文が施文された細片が出土しているだけで，時期を絞り込むことが困難である。前期の住居跡は６軒確認できた。そのうち前半に比定できる関山式期の土器片が出土している住居跡が３軒，後半に比定できる浮島式期の土器片が出土している住居跡が１軒である。ほかは出土土器片が細片のため，時期を明確にできなかった。出土遺物は土器片が多く，石製品や土製品などは，ほとんど出土していない。土器もそのほとんどが深鉢で，器種の組成に乏しい。石器は，チャートや黒曜石を素材として，石鏃・尖頭器・石匙などが出土している。中期から晩期にかけての遺構は，後期の土坑１基が確認されただけである。遺構の分布を見てみると，早期の住居跡が北に延びる舌状台地の中央部から北西部に展開しているのに対し，前期の住居跡は台地中央部から東部に広がっている。また，早期の炉穴は舌状台地西部の一群と東部の一群に分かれている。このほかに，後期の土坑や，遺構に伴わない出土土器片の中には中期から後期のものも含まれているため，調査区域外の北部の舌状台地先端部や南部には，他時期の遺構群の存在が想定できる。

(2) 弥生時代（第 107 図参照）

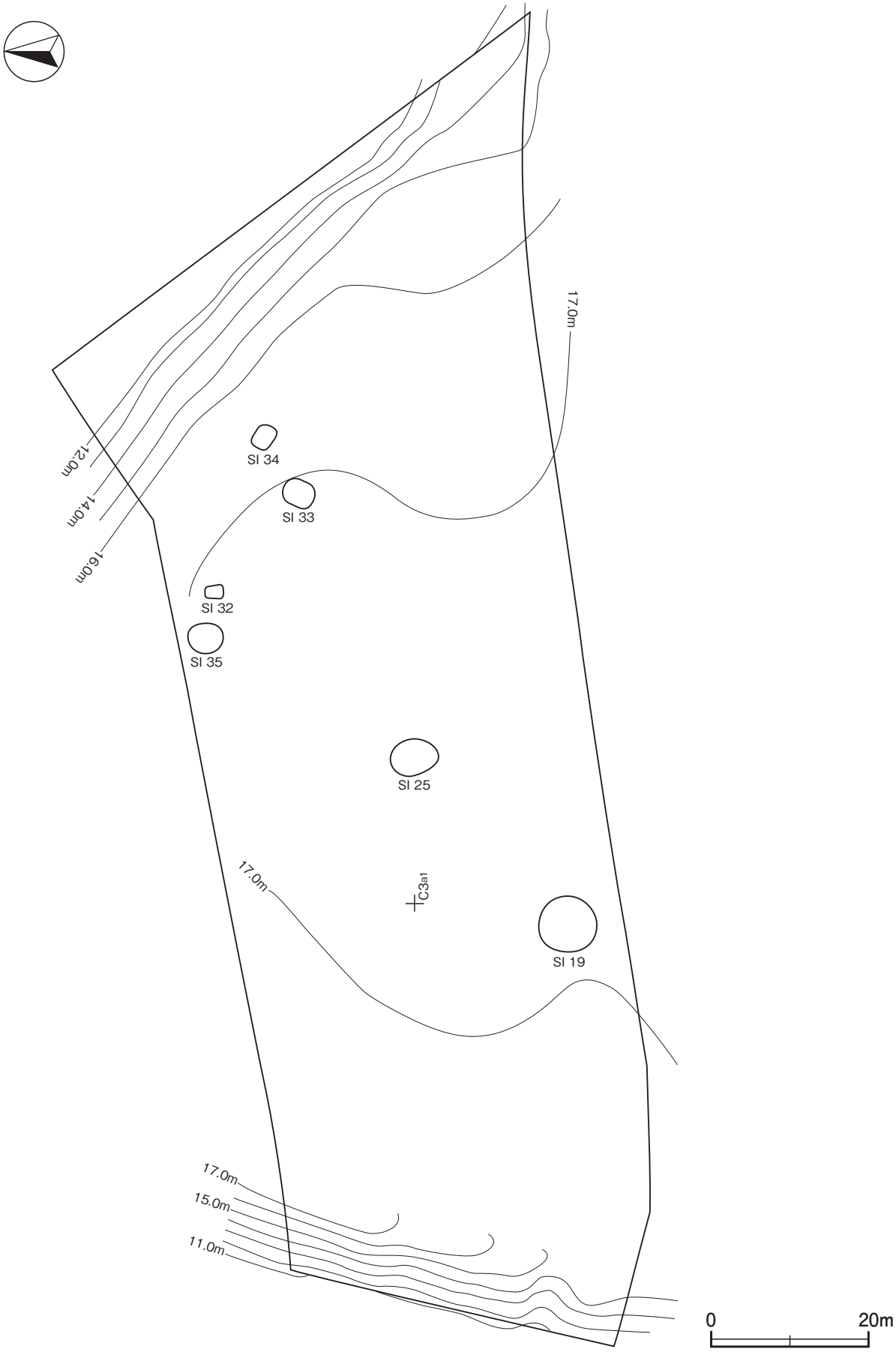
当時代の遺構は，住居跡 24 軒を確認した。時期は，出土土器から後期後半と考えられる。出土土器の多くは破片で，壺形土器がそのほとんどを占めている。ほかに土製品として紡錘車１点，石器・石製品として石鏃２点，磨石１点，石核１点などが出土している。出土土器を観察すると，口縁部に段を有し，段の下端に縄文原体の押捺を施し，頸部に櫛歯状工具を用いた文様を施文するか，または無文帯にし，胴部に縄文を斜状，または羽状に施文する文様描出技法を行っているものが多く，主に茨城県西部から栃木県にかけて分布する土器の特徴を備えているものである。住居跡の多くは，焼失した痕跡が確認でき，また，住居跡の壁外に柱穴を有すると考えられるものも多く確認された。住居跡の分布は，舌状台地北西部と北東部の２グループに分けられる。

(3) 古墳時代

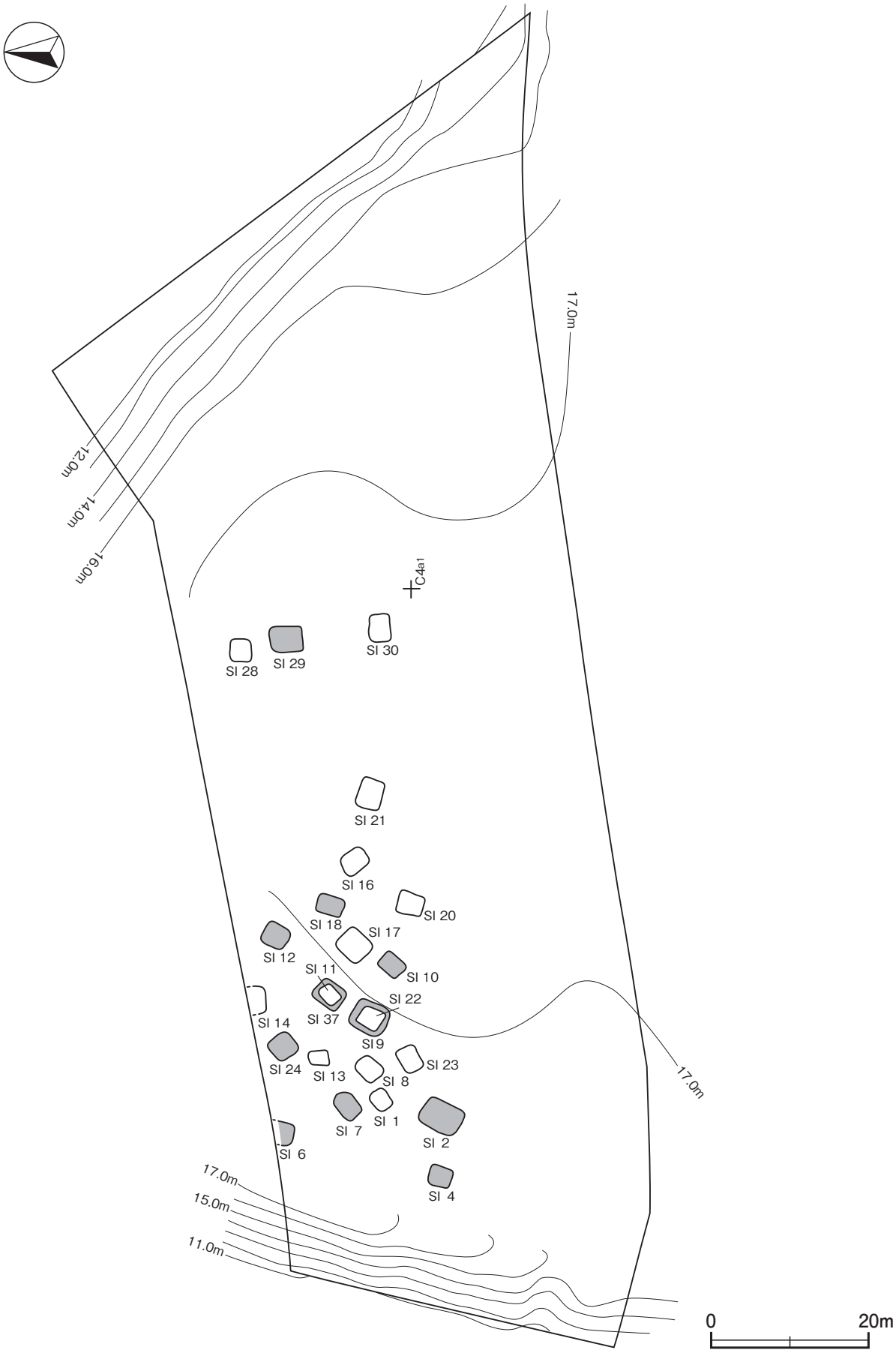
当時代の遺構は，土坑１基を確認した。時期は，出土土器から前期前半に埋め戻されたと考えられる。出土土器は土師器坩の破片１点のみである。調査区北西部に位置しており，他の遺構が確認されていないため，性格は不明である。弥生時代後期後半まで集落が展開していたが，この時期になると他へ移動したものと考えられる。当期以降，近世まで調査区域内に人々の生活の痕跡を見つけることはできなかった。



第 105 図　遺構変遷図（縄文時代早期）



第 106 図　遺構変遷図（縄文時代前期）



第 107 図　遺構変遷図（弥生時代後期）　■…焼失住居跡

(4) 近世以降

当時代の遺構は，井戸跡１基を確認した。時期は，出土土器から19世紀代に埋め戻されたものと考えられる。出土遺物は，益子焼の土瓶１点のみである。井戸跡は調査区南東部の台地平坦部に位置しているが，同時代の他の遺構が確認出来なかったことから，性格は不明である。

3　縄文時代の炉穴について

縄文時代の炉穴については，1938年に千葉県飛ノ台貝塚の調査において初めて認識される。その際，杉原荘介氏により，「爐部と足場とを有する楕円形の凹穴一個が本體なのである」[1)] という定義付けがなされ，主に関東地方を中心に調査・研究がなされてきた。また，九州地方・鹿児島県加栗山遺跡において，２つの土坑がトンネル状の横穴で連結した土坑が発見され，「連結土坑」という名称で報告されている[2)]。現在この炉穴と連結土坑は，その機能的な類似性を指摘されている。今回の調査においては７基確認でき，遺物を伴うものは早期に比定でき，ほかも前期には収まるものと考えられる。今回検出した遺構について詳細な観察を行い，その性格の一端を明らかにできればと思う。

(1) 炉穴の分類

炉穴の基本的な構造として，煙出部・煙道部・開口部に分けてつくられている[3)]。当遺跡から検出された炉穴の平面プランは楕円形であり，本来存在したと思われる天井部が後世の削平のため，失われてしまい，全体像を明らかにすることはできなかった。そのため，遺存している火床部（爐部）と足場の関係を見てみたいと思う。基本的に，火床部は火を焚くことによって火を受けた場所であり，煙道部の底面・煙出部の一部の焼土範囲である。足場は開口部底面で火を焚く際に人が立ったり，しゃがんだりすることによってできた場所である。この際，足場は多少なりとも硬化すると考えられるが，今回の調査においては硬化面の有無は確認できなかった。各炉穴の内容を確認していくと，火床部は円形または楕円形を呈し，火熱をよく受けたらしく，焼土の層が厚く堆積している。足場の平面プランの形状は様々で，設置当初はある程度意識的に設計したと思われるが，使用するにつれ変形していったと考えられ，現状では不定型なものになっている。断面形は主に２種類の形状があり，

① 足場が火床面と同じ高さに位置するもの

② 火床面より低い場所に位置するもの

が存在する。①は第１・２・５・６号炉穴で，②は第３・７号炉穴である。第４号炉穴は足場が削平されているため不明である。

(2) 炉穴の用途

炉穴の用途として，薫製施設・煮沸施設・土器焼成など様々な機能性が主張されてきた。今回の調査においては，それら機能を推し量ることのできる遺物の出土や，状況を見出すことはできなかった。前出の断面形の違いによる使用目的の違いなども可能性はあるが，明確な答えは今のところ出てこない。今後の課題としては，覆土の篩い出しによる遺存物の抽出など，その性格の絞り込みに努めるべきである。

(3) 炉穴の分布

今回出土した炉穴は調査区域内で２グループに分けることができる。一つは台地西部の５基（第３～７号炉穴）で，もう一つは台地東部の２基（第１・２号炉穴）である。周辺には同時期の住居跡も点在し，第６・７号炉穴は前期の第19号住居跡と重複している。ただし，炉穴同士の重複は無く，周囲に散在している状態である。他地域の炉穴などは，比較的密集してつくられることも多く，前出の飛ノ台貝塚（千葉県）や山田大塚遺跡[4]（神奈川県），田中谷津遺跡（東京都）などは一か所に５，６基の炉穴が重なった状態で確認されている。本県においても，常陸伏見遺跡においては前期の炉穴が密集してつくられている。これらには時期差があり，一か所に継続的につくられている。また，本跡のような炉穴が単独で点在するタイプの遺跡もあり，多摩ニュータウンNo241遺跡･No309遺跡（東京都）などや，本県では原遺跡[5]（谷和原村）や殿開遺跡[6]（守谷町）などがある。これら①密集するタイプの炉穴と②点在するタイプの炉穴を斎藤進氏は①＝群集型，②＝散在型に分類し，一定地域内に①と②が存在する場合，双方が有機的な関連を持ち，①は拠点的な使用を，②は移動に伴う使用を想定している[7]。当跡の場合，②のタイプに該当すると考えられる。

以上のことから，早期初頭から前期後半にかけての間，この地に狩りや漁などのために小さな集団が移動してきて，一時的に簡単な住居をつくり，炉穴を設置して生活していたと考えられる。

4　弥生土器の分類

今回の調査では，弥生土器片261点が出土し，そのうち観察に耐えられる82点を取り上げた。出土した土器の多くは破片であり，その全体像を明らかにできるものは残念ながらほとんど無かった。前述したような文様構成をとる土器がほとんどであり，二軒屋式と呼ばれる土器形式の範疇に入るものと考えられる。ここでは，出土した土器の文様構成を観察し，その詳細を明らかにしていきたいと思う。

(1) 各部位の施文法

A　口唇部：縄文原体を押圧しているもの（TP107・TP108・TP122～TP124・TP137・TP149・TP153・TP169・TP170・TP274）が主体である。

B　口縁部：口縁部は，その形状から複合口縁と複合口縁を意識した口縁，普通の口縁の３種に分類できる。施文については，口唇部から頸部の間に施文した一群と無文の一群がある。後者については，TP144のみである。前者については，附加条一種（附加２条）の縄文を斜状に施文した一群（６・TP122～TP124など）と，羽状に施文した一群（TP137・TP170など）に分類できる。また，下端の施文法も縄文原体押圧（TP107・TP108・TP110など）と刺突文（TP109・TP115など）に分類でき，さらに１段のものと２段のものにも分類できる。

C　頸部：頸部は，無文帯のもの（TP117・TP118・TP122～TP125など）と，櫛歯状工具を用いたものに大別できる。後者は山形文，波状文，連弧文，横走文の四つの文様を１段，多くて３段に同じ文様を施文したもの（A：TP109・TP115・TP127・TP133 B：６・TP111・TP143・TP164 C：TP112・TP119～TP121･TP135など）と，他の文様を組み合わせて施文したもの（TP135･TP165･TP175･TP276など）がある。ただし，横走文は単独で用いられることはなく，他の文様の付属的な用い方をしている。

D　胴部：胴部の施文方法としては，附加条一種（附加２条）の縄文（TP129・TP134・TP140 など），撚糸文（TP148），単節縄文（TP128・TP160）を斜状に施文した一群と，付加条一種（付加２条）の縄文を羽状に施文した一群（TP126・TP136・TP157 など）に分けられる。撚糸文と単節縄文においては羽状の施文は見られなかった。

E　底部：底部は木葉痕施文（６・７・11・15・17）と，ヘラ削り調整（９・10）に分けることができる。

以上が当遺跡から出土している主な土器の施文方法である。出土した住居跡のうち，重複関係にある住居跡は４軒ある。第９号住居跡（新）と第 22 号住居跡（旧），第 37 号住居跡（新）と第 11 号住居跡（旧）である。前者は胴部で附加条一種（附加２条）の縄文を第９号では斜位に施文を行い，第 22 号では羽状に施文を行っている。底部は外面の施文を第９号住居跡では附加条一種（附加２条）で行い，第 22 号住居跡では単節縄文で行っている。ともに木葉痕がつけられている。後者は胴部に附加条一種（附加２条）の縄文が羽状に施文されているものが，どちらの住居跡からも出土している。また胴部の附加条一種（附加２条）の縄文を斜位に施文するもの（旧），羽状に施文するもの（新）ということで大雑把な分類も可能ではあるが，斜位の縄文土器片が羽状になる可能性もあると考えると，かなり曖昧さの残る方法であり，確実性に欠けると思われる。両者ともに重複関係にはあるが，出土土器も少なく，特徴的な施文法の変化をとらえることが出来なかったため，これらの土器の時期差を明確にすることが出来なかった。

5　弥生時代の焼失住居跡について

弥生時代に該当する住居跡は 24 軒であり，そのうち 11 軒の住居跡に火災の痕跡が残っている。焼土・炭化材が出土した住居跡を焼失住居と認定し，本文中で明示している。後期後半の集落においての焼失住居の割合は比較的多いが，当遺跡においてもその傾向を同様に見ることができる。ここでは各焼失住居跡の状況を観察し，その特徴をとらえたいと思う。

(1) 焼失住居跡の状況

焼土や炭化材が床面から確認されたものを焼失住居跡と認定した。第２・６・７・９・10・11・12・18・24・29・37 号住居跡である。24 軒中 11 軒が焼失住居跡であり，45.8％の住居跡が火を受けていることとなる。また，堆積土層を観察してみると，人為的に埋め戻されている第９・11・24 号住居跡のほかはレンズ状の堆積を示し，自然に埋まったものと認識した。このことは，住居の廃絶時に火を放ち，その後すぐに埋め戻された住居（３軒）とそのまま遺棄された住居（８軒）の違いを表しているものと考えられる。

(2) 焼失住居跡からの遺物の出土状況

垂直分布では，主に床面・覆土下層から出土しているのは第２・６・７・９・11・12・29 号住居跡で，主に覆土中層・上層から出土しているのは第 10・18・24・37 号住居跡である。これらの遺物は，そのほとんどが破片であり，完全な形をとどめているのは第 11 号住居跡の DP 1 だけである。出土土器片のほとんどは煤が付着し，被熱を受けている可能性のある土器片も出土している。また，平面分布では，明確な傾向というものを確認することはできなかった。出土土器は完形品が皆無であり，出土位置にも明確な規則性が感じられないことなどから，後かたづけを行ったあと，不要品・破損品を住居内に残して火をかけた，または火をかけてから投げ捨てたという行為を想定することができる。

(3) 焼失住居跡の分布（第107図参照）

確認された焼失住居跡は，台地北西部のグループで21軒中10軒，北東部のグループで３軒中１軒である。特に，北西部のグループでは，焼失住居跡と焼失していない住居跡が不規則に密集して存在している。

このことは，何らかの理由で弥生時代の人々はこの地から移動することとなり，やや大きめの住居に自ら火をかけて，不要になった日用雑器などは住居内に放置して，この地を離れたと考えられる。古墳時代前期の遺構が少ないことや，遺構外からの出土土器の中に古墳時代前期の土師器がごくわずかしか見られないことから，かなり離れた場所に移動したものと考えられる。『町史』によると，遺跡群の北部から当期の土師器片が出土していることが記されている[8)]ので，一部の人々は谷を越えて北部へ生活の場を移したことも考えられる。

6　おわりに

弥生時代後期に人々が立ち去った後，古墳時代から中世までの遺構や遺物はほとんど確認できなかった。中世の長井戸城の出城として想定された「田向の城」の痕跡も今回の調査では確認するには至らなかった。近世以降に比定できる井戸跡の確認は，一時期この地に人が戻ってきたことを感じさせるが，その後，最近まで人の手が入ることがなかったことが，遺構や遺物が確認出来なかったことに示されている。縄文時代や弥生時代においても，一時的な生活の場でしかなく，その後も生活の場所に選ばれることはなかった。

註

1）杉原荘介ほか「下総飛ノ台貝塚調査報告」『考古学』10－4　1939年4月

2）青木和憲ほか「加栗山遺跡・神ノ木山遺跡」『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財報告』Ⅴ　鹿児島県教育委員会　1981年3月

3）小濱学「炉穴とその機能－形態特徴からのアプローチ－」『縄文時代の考古学５　なりわい－食料生産の技術』同成社　2007年12月

4）石井寛ほか「山田大塚遺跡」『港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告』Ⅺ　横浜市埋蔵文化財センター　1990年３月

5）小高五十二 松浦敏「常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書１　原遺跡 沼崎遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第112集　1996年３月

6）茂木悦男「常磐新線及び主要地方道野田牛久線新設事業地内埋蔵文化財調査報告書 殿開遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第178集　2001年３月

7）斎藤進「炉穴の時代」『研究論集Ⅹ 創立10周年記念論文集』東京都埋蔵文化財センター　1991年３月

8）境町史編さん委員会『下総境の生活史 史料編原始・古代・中世』境町　2004年３月

参考文献

・伊藤文彦「『煙道付炉穴』の再検討」『研究紀要』第18－１号　三重県埋蔵文化財センター　2009年３月

・岩上照朗「栃木県域の弥生時代後期」『弥生人のくらし－卑弥呼時代の北関東－』栃木県立なす風土記の丘資料館　1996年３月

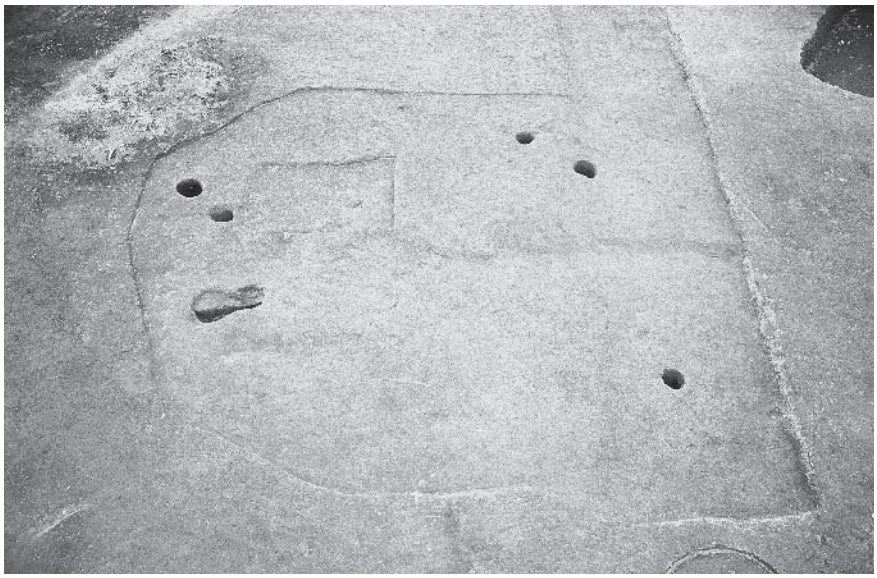
・関口友紀「茨城県西部地域における弥生時代後期の土器について－櫻川中流域を中心として－」『茨城大学考古学研究室20周年記念論文集　日本考古学の基礎研究－茨城大学人文学部考古学研究報告－』第４冊　茨城大学人文学部考古学研究室　2001年３月

写　真　図　版

調査終了状況

遺跡全景（上空から）

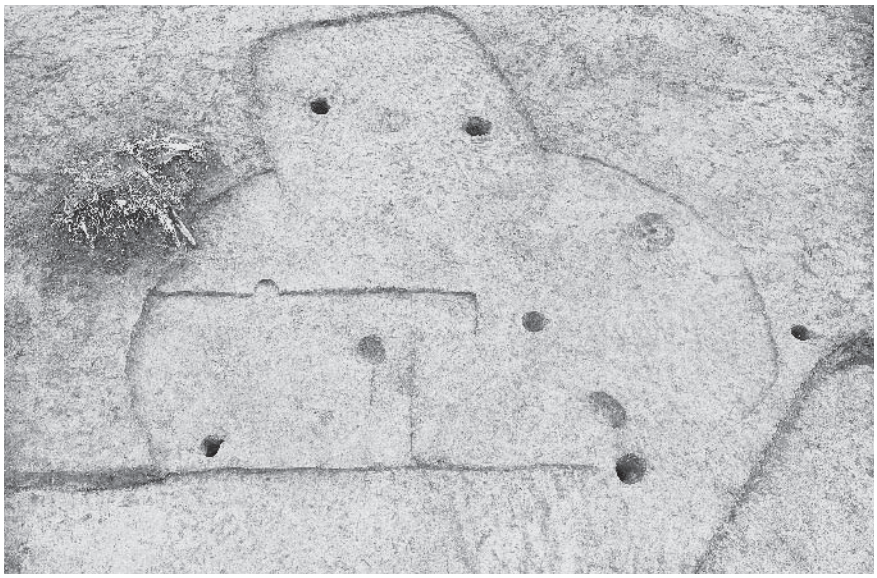
第５号住居跡
完掘状況
（南から）



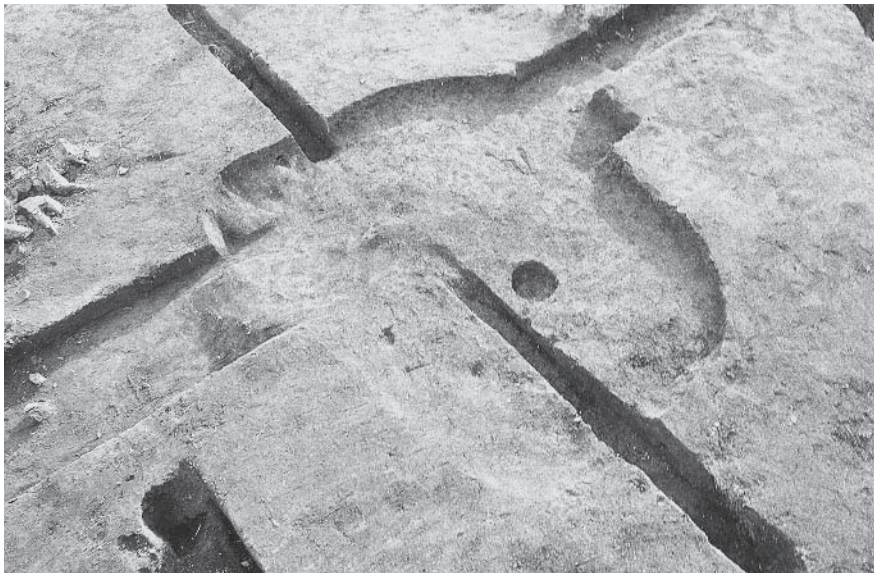
第25号住居跡
完掘状況
（東から）

第27号住居跡
遺物出土状況
（北から）

第27号住居跡
完掘状況
（西から）



第31号住居跡
完掘状況
（北から）

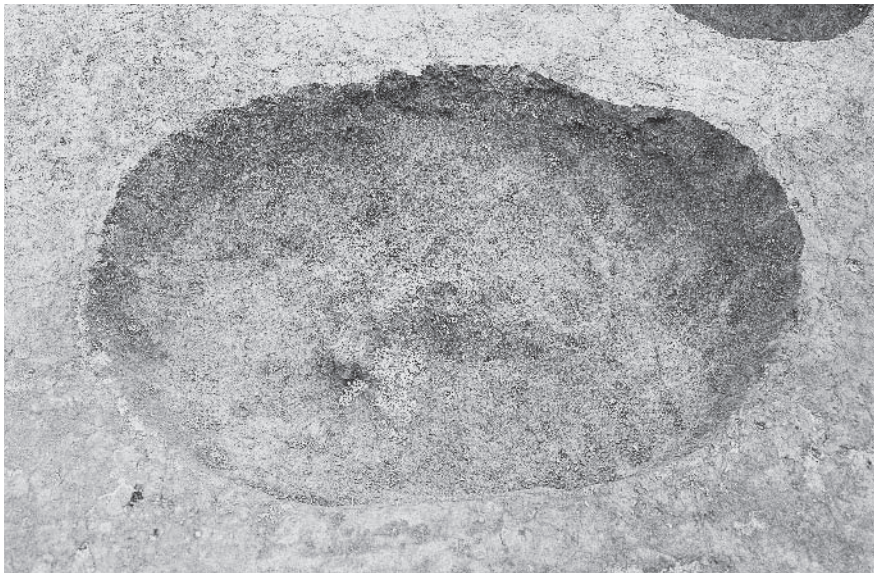


第32号住居跡
完掘状況
（北東から）

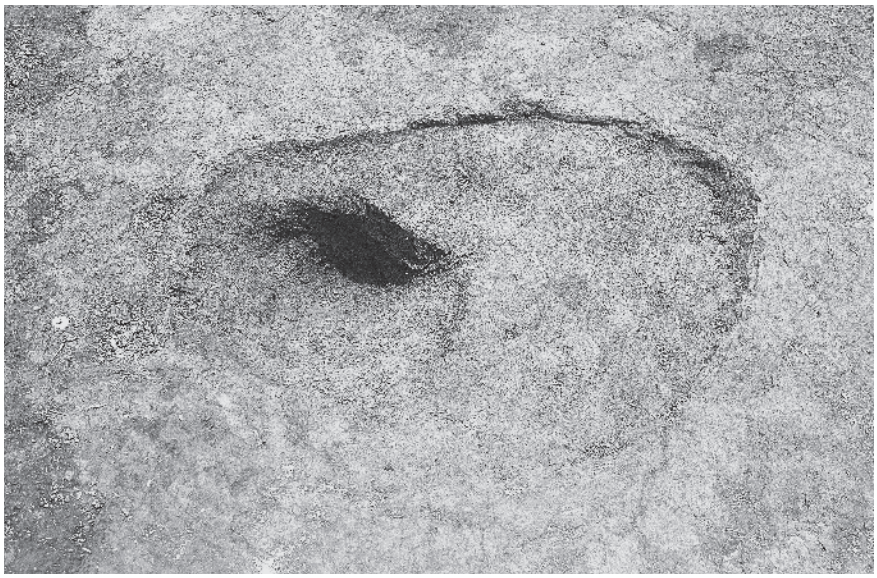
第33号住居跡
遺物出土状況
（南東から）

第34号住居跡
完掘状況
（南から）

第35号住居跡
完掘状況
（南から）

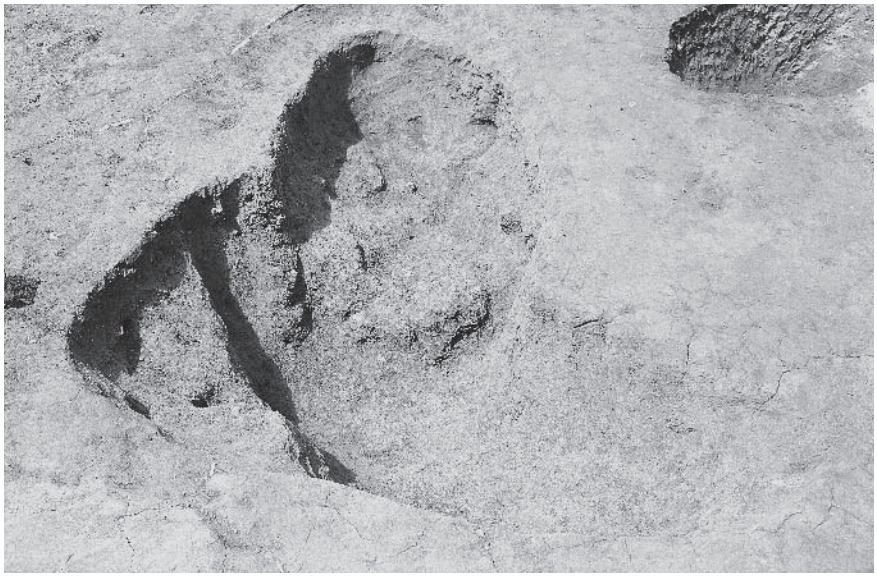


第１号炉穴
完掘状況
（南から）

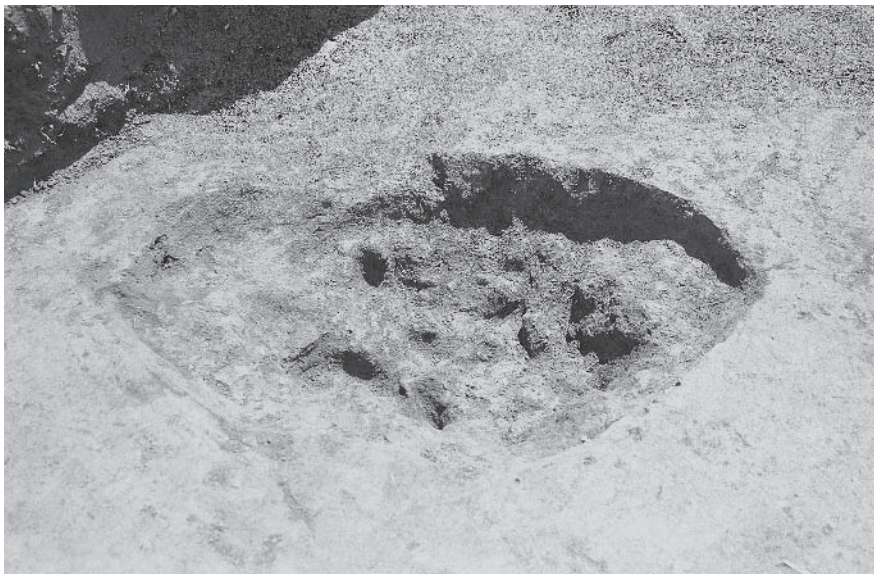


第２号炉穴
完掘状況
（南から）

第３号炉穴
完掘状況



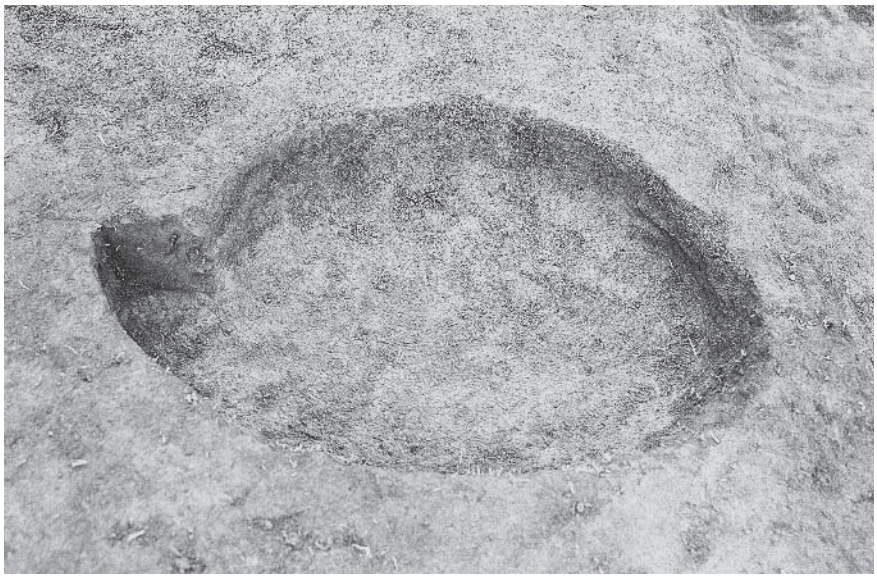
第165･167号土坑
第４号炉穴
完掘状況



第６号炉穴
完掘状況
（東から）

第７号炉穴
焼土出土状況
（北から）

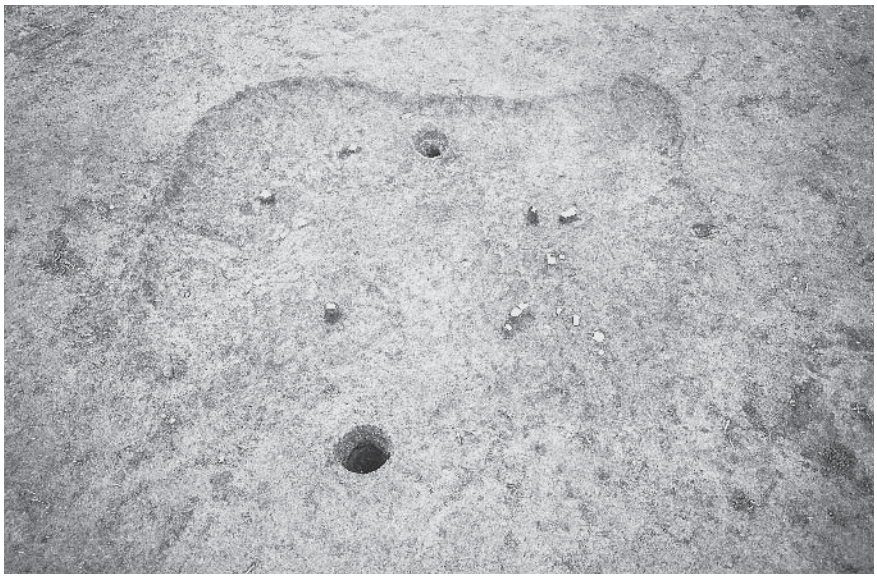
第２号炉跡
完掘状況
（南から）



第３号炉跡
完掘状況
（南から）

第28号土坑
遺物出土状況

第112号 土 坑
遺物出土状況
（南東から）



第 1 号住居跡
遺物出土状況

第 2 号住居跡
遺物出土状況
（北から）

第２号住居跡
完掘状況
（北から）

第４号住居跡
遺物出土状況

第６号住居跡
遺物出土状況

第７号住居跡
遺物出土状況
（北西から）

第７号住居跡
完掘状況
（北西から）

第８号住居跡
遺物出土状況
（南東から）

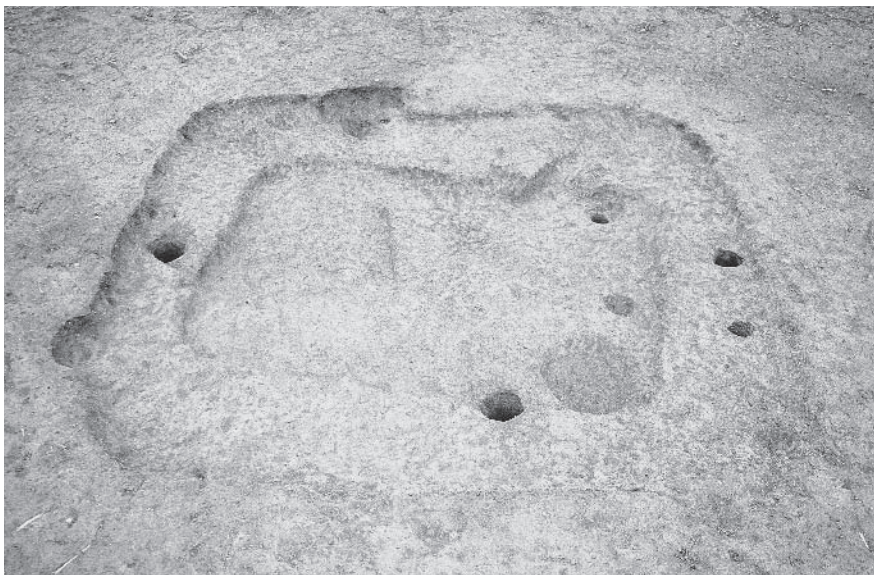
第８号住居跡
完　掘　状　況

第９号住居跡
遺物出土状況
（北西から）

第９号住居跡
完　掘　状　況
（東から）

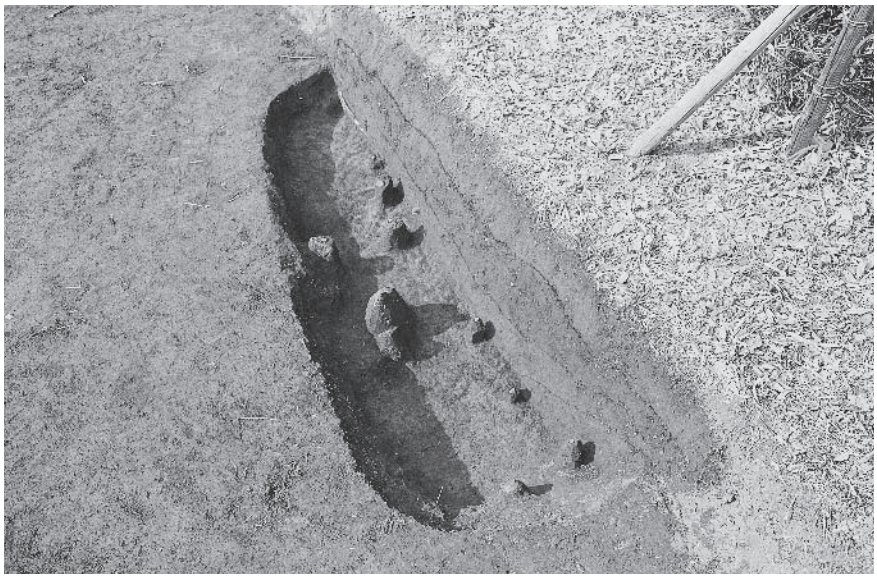
第10号住居跡
完掘状況
（南東から）

第11･37号住居跡
遺物出土状況
（北東から）

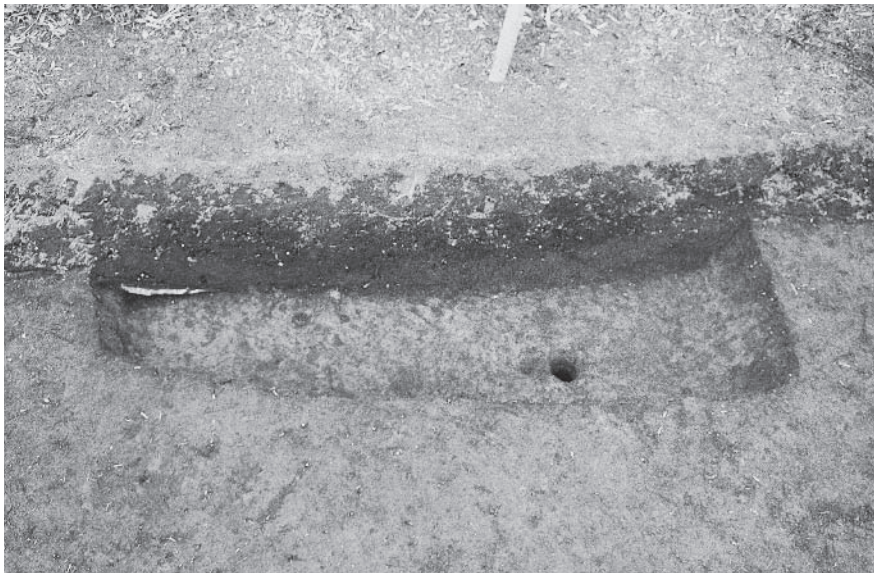


第11･37号住居跡
完掘状況
（南東から）

第12号住居跡
遺物出土状況

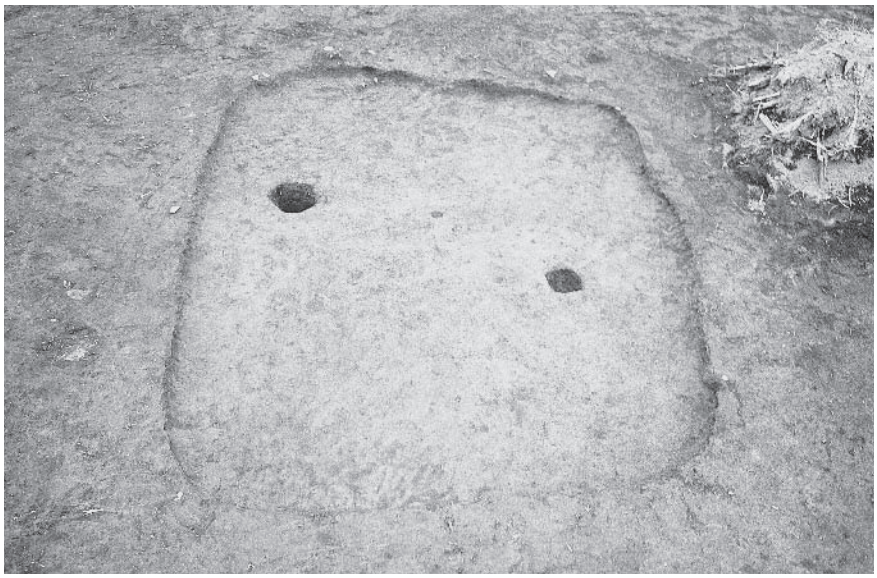


第14号住居跡
遺物出土状況
（南東から）



第14号住居跡
完掘状況
（南から）

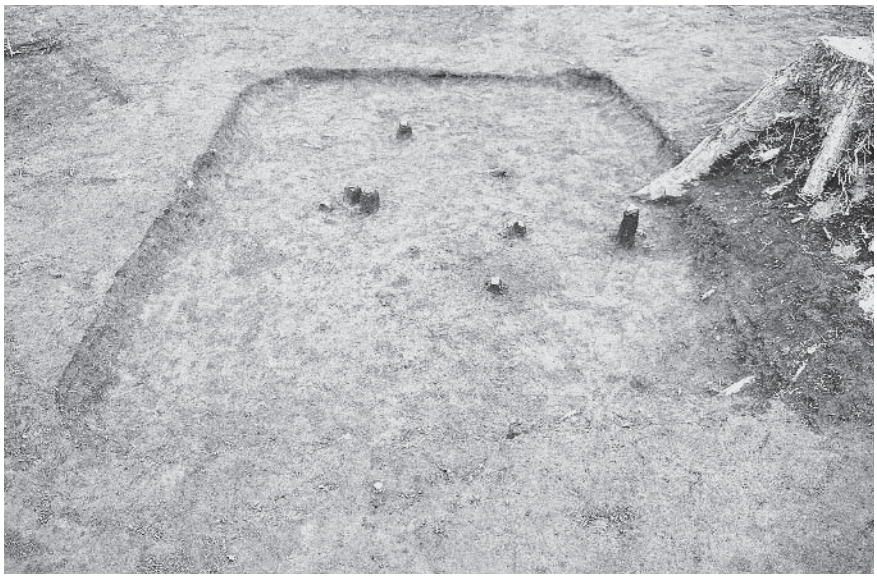
第16号住居跡
遺物出土状況
（北から）



第16号住居跡
完掘状況
（南から）

第17号住居跡
完掘状況
（北西から）

第18号住居跡
完掘状況
（北西から）

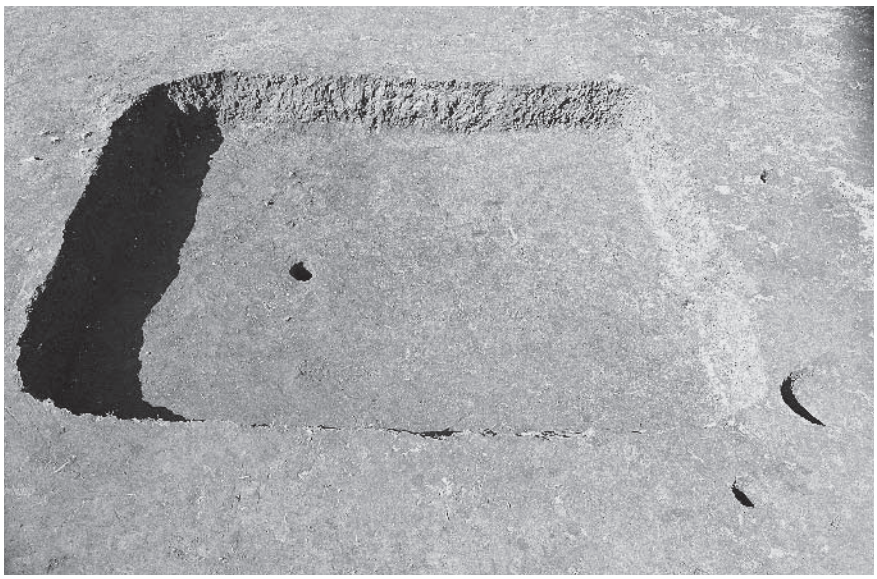


第20号住居跡
遺物出土状況
（北東から）

第20号住居跡
完掘状況
（南東から）

第21号住居跡
遺物出土状況
（南東から）

第21号住居跡
遺物出土状況

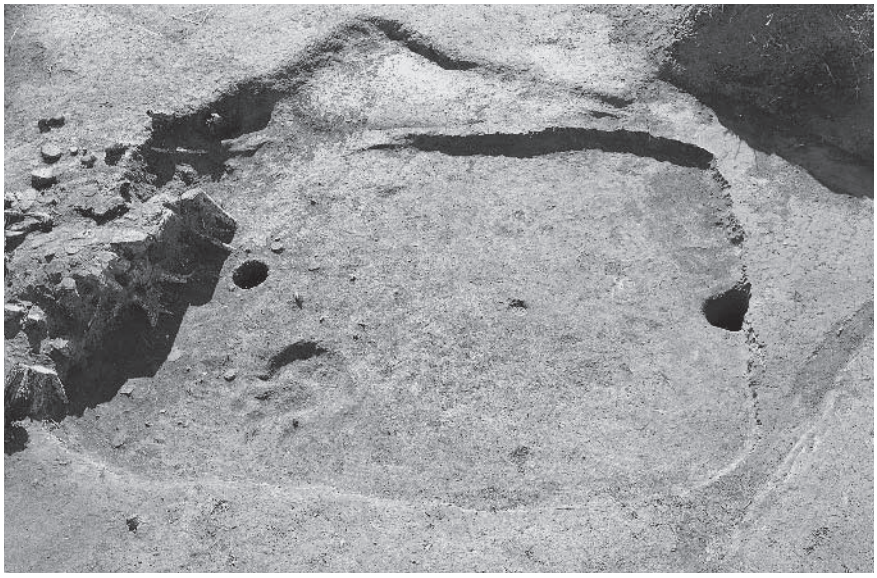


第21号住居跡
完掘状況
（東から）

第22号住居跡
遺物出土状況
（北から）

第22号住居跡
遺物出土状況
（西から）

第22号住居跡
完掘状況



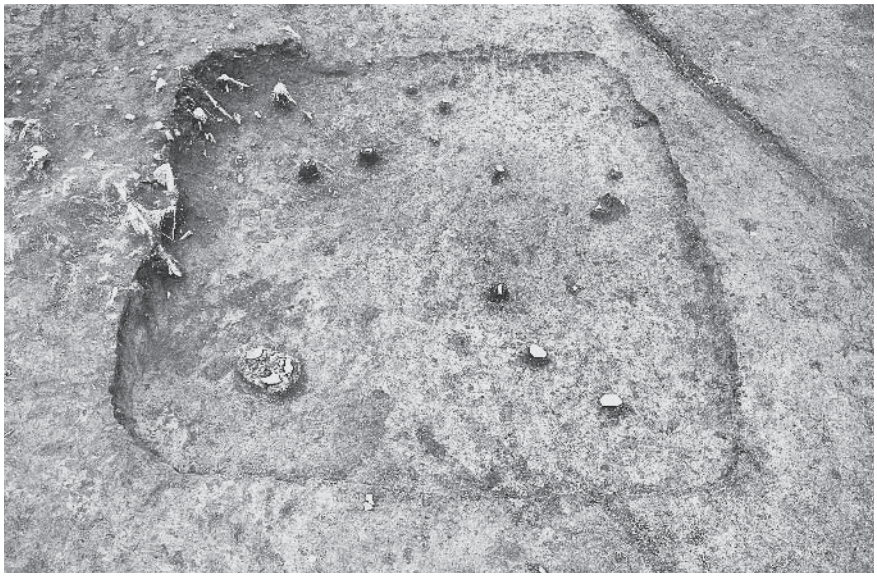
第23号住居跡
完掘状況
（北西から）

第24号住居跡
遺物出土状況
（南西から）

第24号住居跡
遺物出土状況
（東から）

第24号住居跡
完掘状況
（東から）

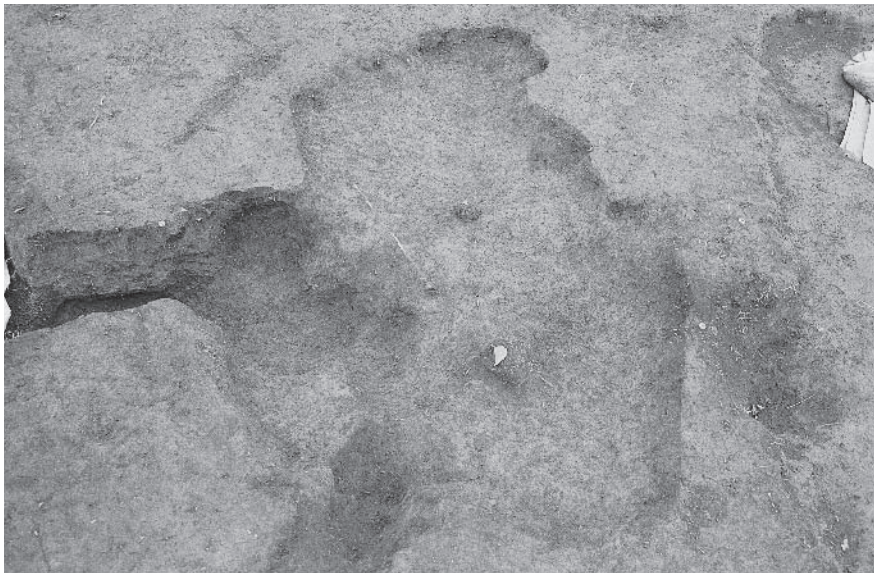
第28号住居跡
遺物出土状況
（北東から）



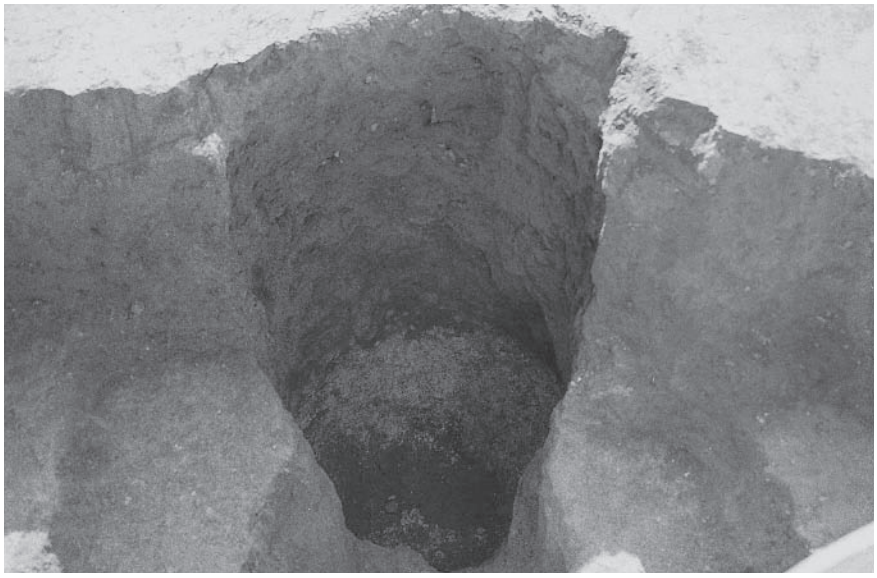
第28号住居跡
遺物出土状況
（東から）

第29号住居跡
遺物出土状況
（北西から）

第29号住居跡
完掘状況



第65号土坑
遺物出土状況



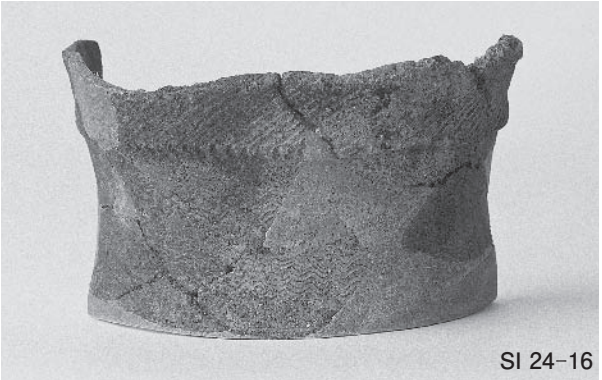
第１号井戸跡
完　掘　状　況

第１号溝跡
完　掘　状　況
（北西から）

第１号ピット群
完　掘　状　況

遺構外-21

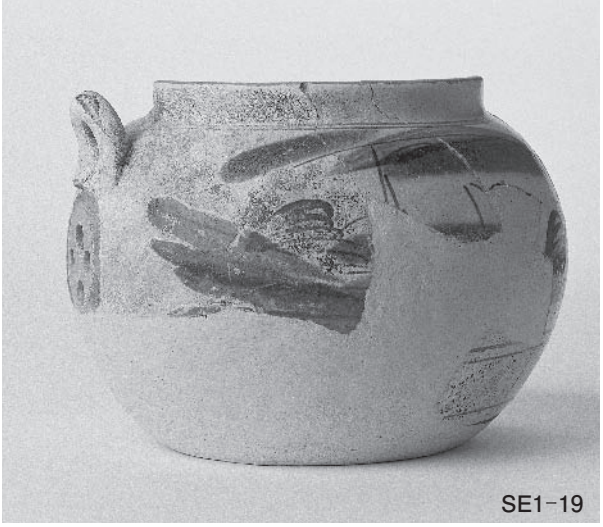
SI 28-17


SI 24-16

SI 17-10

SI 21-12

SI 21-13


SE1-19

SK28-2

第17·21·24·28号住居跡，第28号土坑，第１号井戸跡，遺構外出土遺物

SI 5-TP1

SI 25-TP5

SI 25-TP6

SI 25-TP7

SI 25-TP9

SI 26-TP16

SI 27-TP21

SI 31-TP24

SI 31-TP27

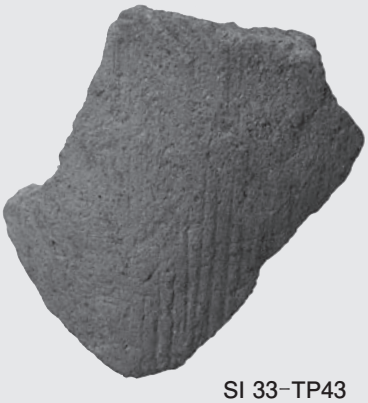
SI 33-TP32

SI 33-TP34

SI 33-TP36

SI 33-TP40

SI 33-TP42


SI 33-TP43

第5・25・26・27・31・33号住居跡出土遺物

SI 34-TP45

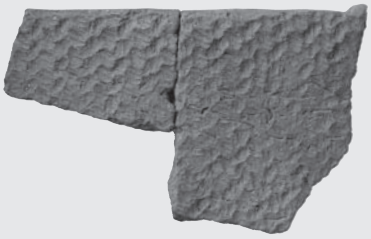
SI 34-TP46

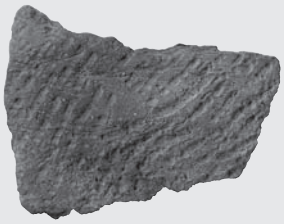
SI 34-TP47

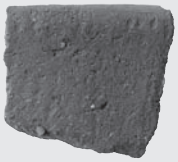
SI 34-TP48

SI 34-TP49

SI 34-TP50

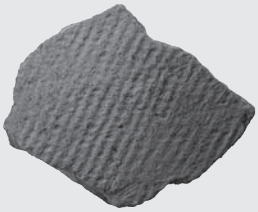

SI 35-TP51


SI 35-TP54


FP7-TP60

SK8-TP66

SK17-TP67


SK17-TP68

SK19-TP69

SK22-TP72

第34・35号住居跡，第７号炉穴，第８・17・19・22号土坑出土遺物

SK35-TP76

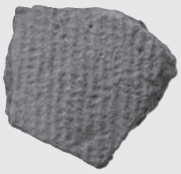
SK36-TP79

SK38-TP80

SK38-TP82

SK48-TP84

SK51-TP87


SK67-TP89

SK73-TP92

SK86-TP98

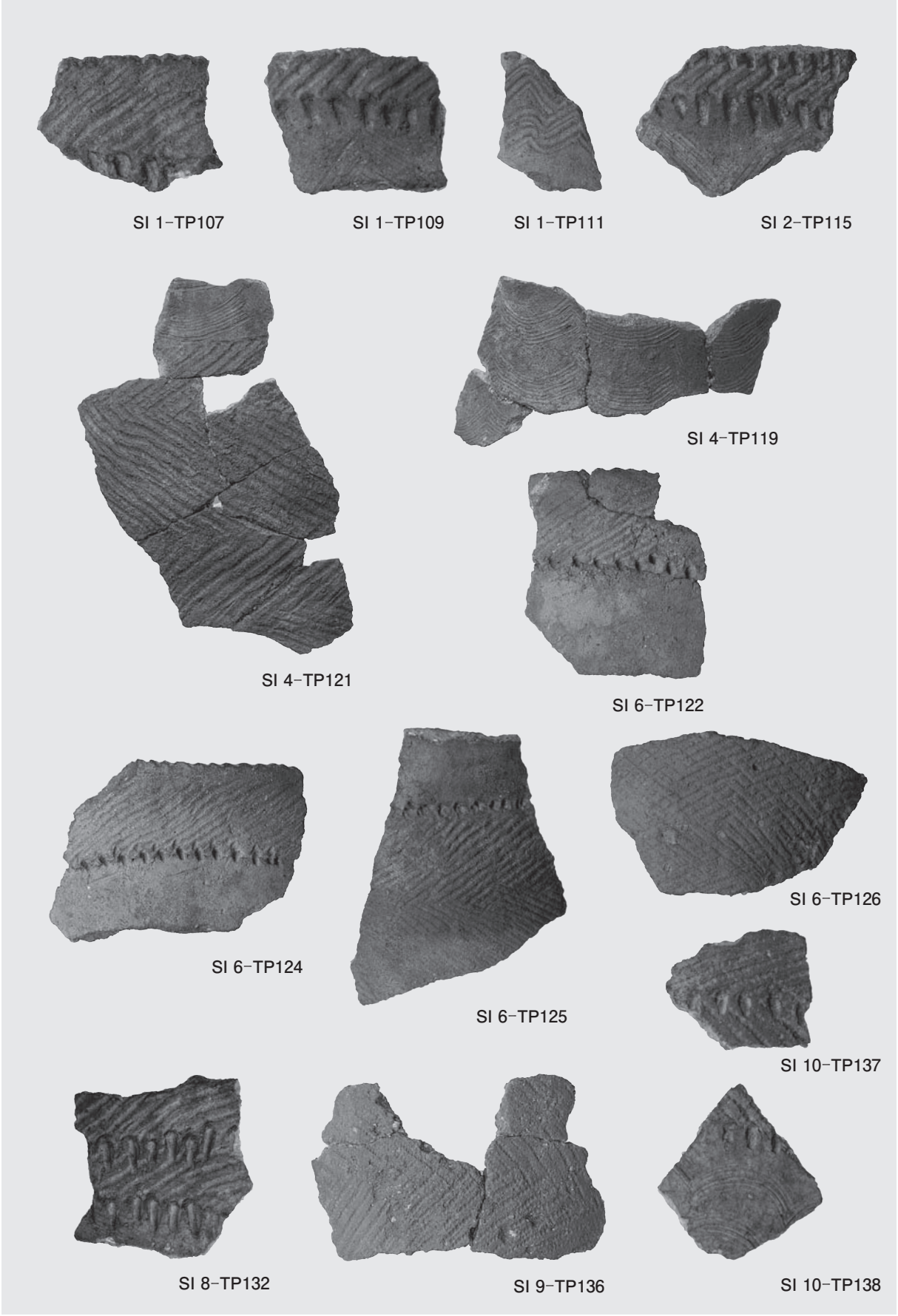
SK128-TP101

SK141-TP103

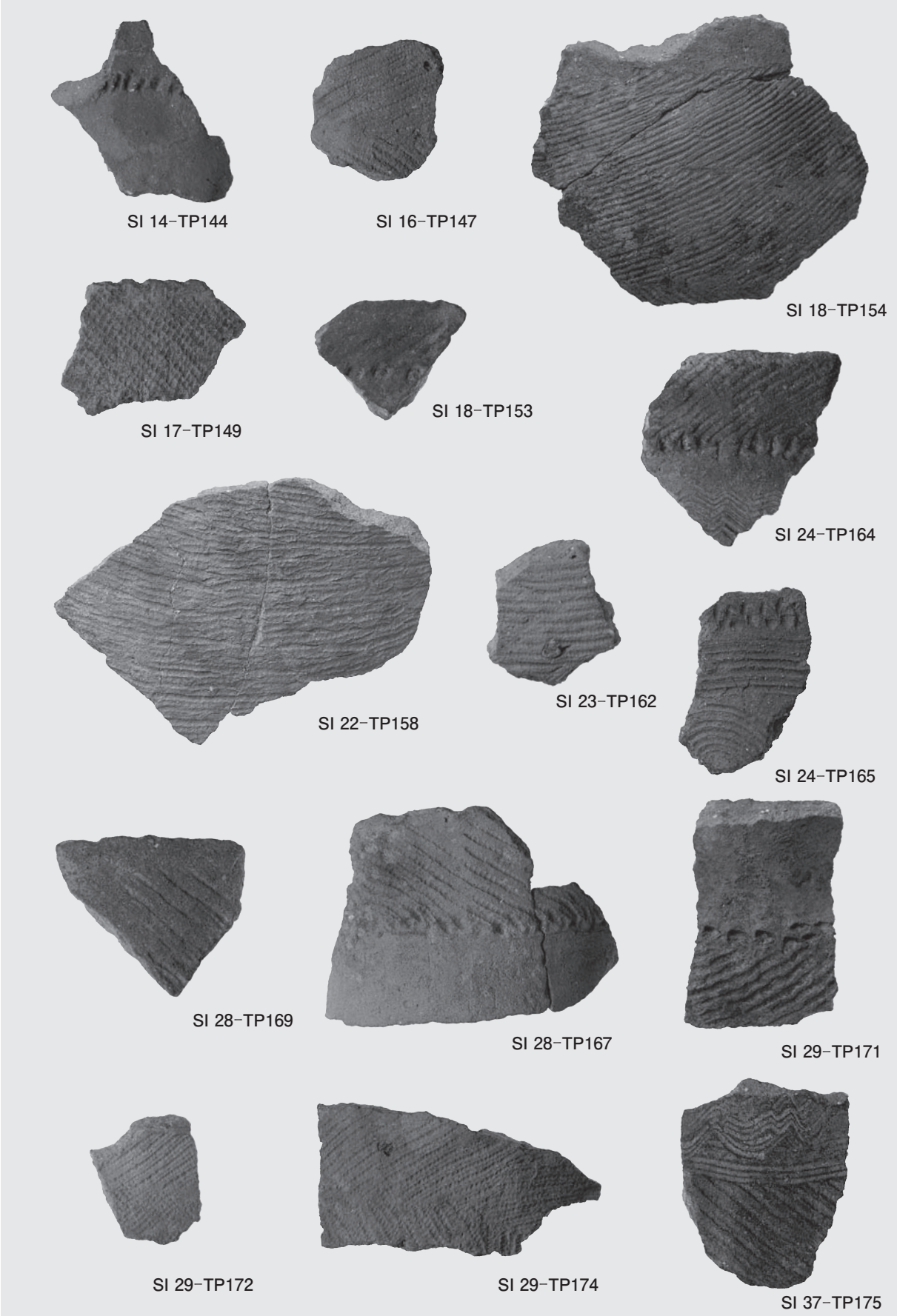
SK161-TP105

SK161-TP106

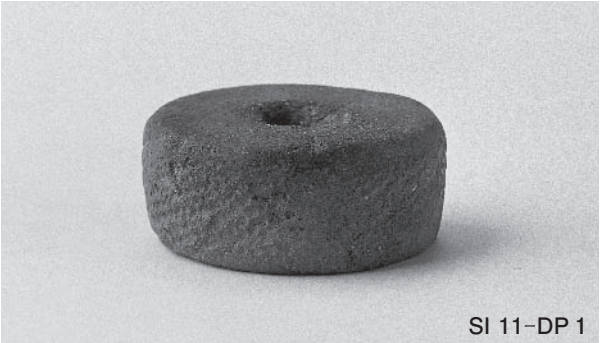
第35・36・38・48・51・67・73・86・128・141・161号土坑出土遺物

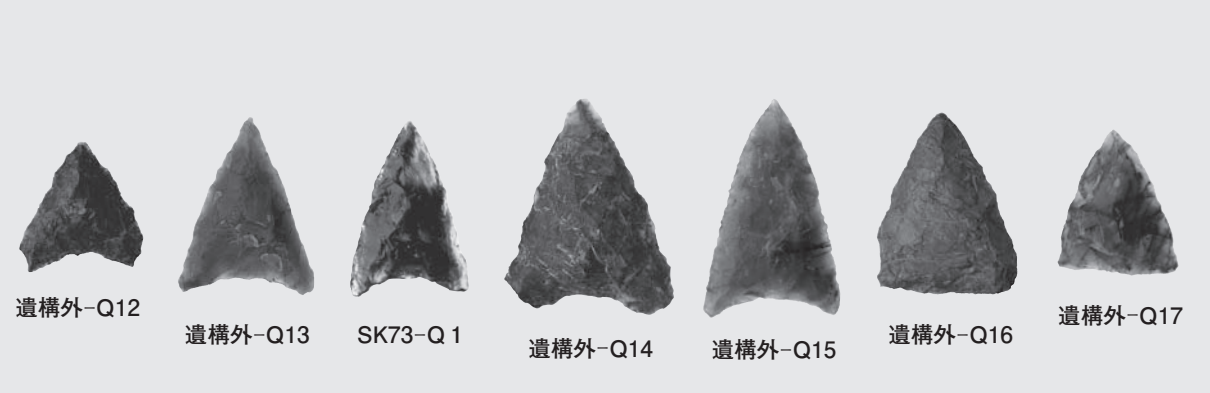


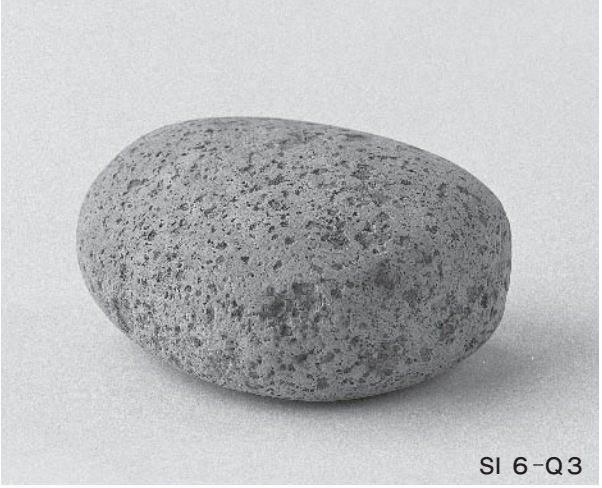
第１・２・４・６・８・９・10号住居跡出土遺物

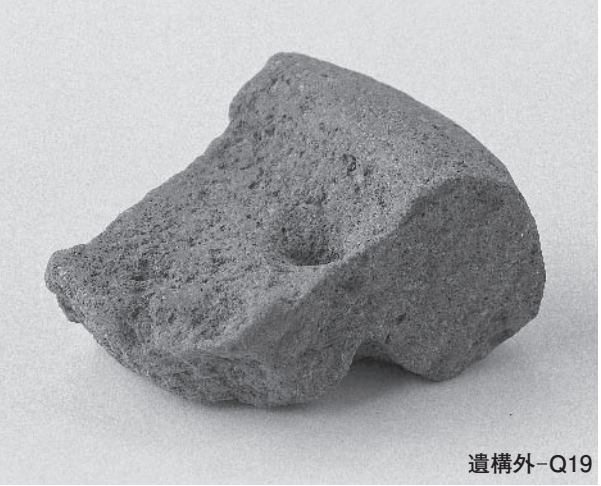


第14・16・17・18・22・23・24・28・29・37号住居跡出土遺物









第６・11・14・29号住居跡，第73号土坑，遺構外出土遺物

抄　　録

ふ り が な	ながいどいせきぐん
書　　名	長井戸遺跡群
副 書 名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第337集
著 者 名	鹿島直樹　前島直人
編 集 機 関	財団法人茨城県教育財団
所 在 地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　ＴＥＬ 029－225－6587
発 行 日	2011（平成23）年3月23日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
長井戸遺跡群（ながいどいせきぐん）	茨城県猿島郡境町大字長井戸（いばらきけん さしまぐん さかい まち おおあざ ながいど）1469番地の3	08546 ｜ 017	36度 7分 41秒	139度 47分 31秒	16 m	20090101 ～ 20090331 20090601 ～ 20090731	5,023 ㎡ 1,365 ㎡	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長井戸遺跡群	集落跡	縄文	竪穴住居跡　12軒 炉穴　7基 炉跡　4基 土坑　71基	縄文土器（深鉢・浅鉢）	
		弥生	竪穴住居跡　24軒	弥生土器(壺), 土製品(紡錘車)	
		古墳	土坑　1基	土師器（坩）	
	その他	時期不明	井戸跡　1基 土坑　71基 溝跡　3条 ピット群　9か所	陶器（土瓶), 石器･石製品（尖頭器・鏃・磨石・敲石・凹石）	

要約	当遺跡は，縄文時代，弥生時代にかけて集落が営まれていることが確認できた。縄文時代は早期・前期を中心に集落が営まれ，弥生時代後期にも再び集落が形成されている。特に県西地区の弥生時代後期の集落は調査資料が少ないため，良い資料になると思われる。

茨城県教育財団文化財調査報告第337集

長 井 戸 遺 跡 群

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成23（2011）年　3月17日　印刷
平成23（2011）年　3月23日　発行

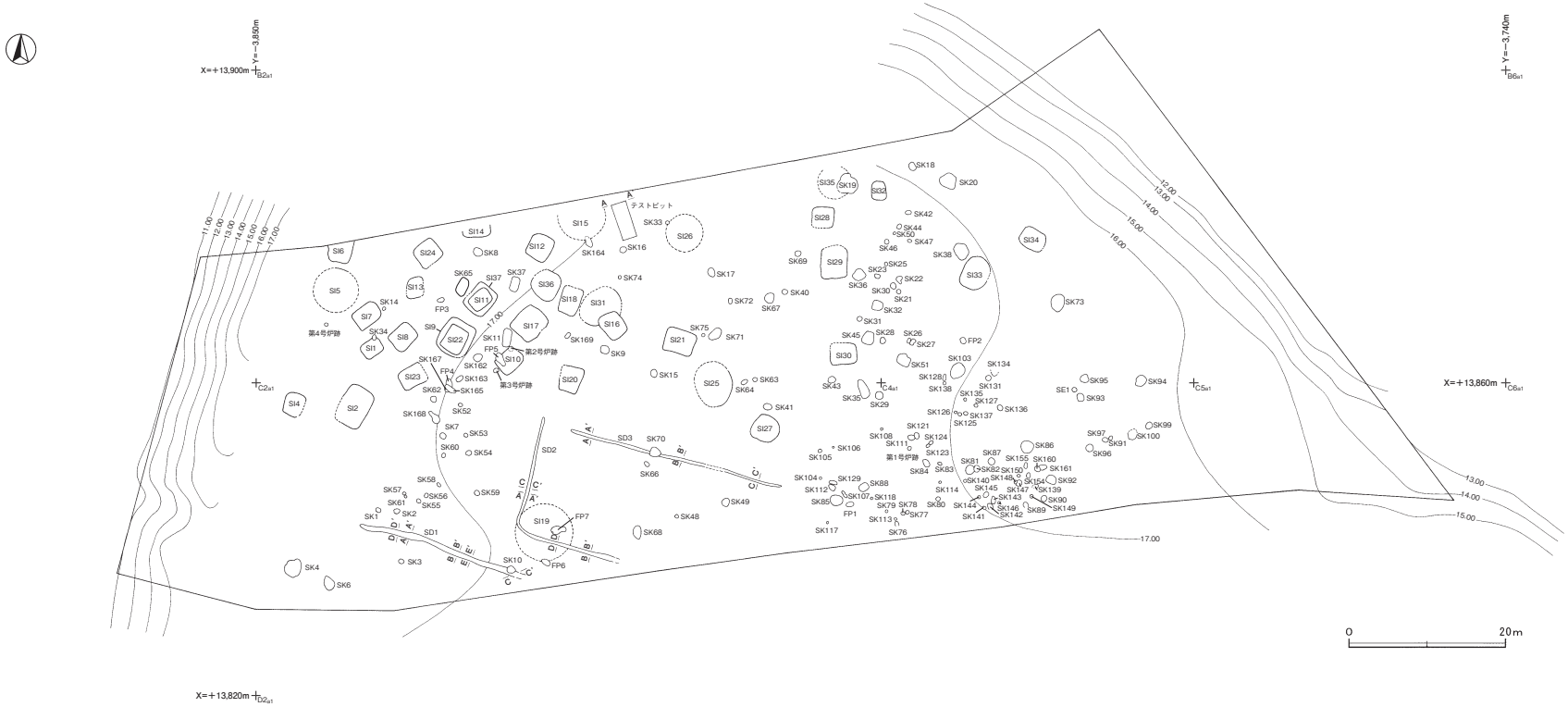
発行　財団法人茨城県教育財団

〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587

ＨＰ　http://www.ibaraki-maibun.org

印刷　八幡印刷株式会社

〒311－4152　茨城県水戸市河和田1丁目1704番12号
TEL　0120－23－1473



付図　長井戸遺跡群遺構全体図『茨城県教育財団文化財調査報告』第 337 集